

# 年報第29号の発刊にあたり

埼玉県立がんセンターは、埼玉県政施行100周年記念事業の一つとして昭和50年11月1日に埼玉県の中核的がん専門機関として開設され、爾来、最新最良のがん医療・がん研究の提供のため専念してまいりましたが、今年は、県民並びに関係各位のご支援のもとに、開設30周年を迎えることができました。去る11月19日には30周年記念事業が開催され、記念誌を発刊いたしましたので、この年報29号は例年通り、平成16年（2004年）4月から平成17年（2005年）3月までの1年間の活動の記録を掲載いたしました。

この30年間に、がんの医学・医療は急速な発展を遂げ、新しい理念や体制が生まれました。がん医療は、医師主導型から多専門職種によるチーム医療へと移り、患者さんのQOL（生命・生活の質）を重視して全人的で、安全・安心な医療の提供を求める時代となりました。また、がんは「遺伝子の異常によって起こる病気」、「生活習慣病」であることが認識され、がんの遺伝子医療、予防医学の黎明期を迎えたということが出来ます。一方、「敬老の日」にちなんで総務省より公表されましたように、65歳以上の高齢者が総人口の20%（5人に1人）に達し、10年後には4人に1人になるということです。がんは「国民病」として認識され、がん医療は多面性を持った社会的、経済的課題として国の政策に深く関わってまいりました。“がんの罹患率と死亡率の激減”を目指して平成16年にスタートした「第3次対がん10か年総合戦略」のもと、県並びに国のがん医療発展のため尽力していききたいと思います。

平成16年度も外来受診患者数は増加し、当センターに対する県民のニーズは増しております。入院患者の在院日数の短縮化、病床利用率の上昇、地域医療施設との連携強化などに努めてきましたが、依然として入院待機患者数を減らすことができません。老朽化したがんセンター施設を建て替えて整備する計画もスタートいたしましたので、新がんセンターの構想を立て、準備を進めて参りたいと思います。

病院では、安全で安心な医療サービスの提供に努めた年でした。2年計画でオーダーリングシステムを更新し、病院局の主導による医療安全管理体制の整備には平成16年度に医療安全管理室を設置し、平成17年度に専任リスクマネージャー、医療安全管理者を設置して活動を強化してきました。平成17年度から全面施行の個人情報保護法には個人情報管理者を指定し積極的に取り組んでおります。診療面では、平成17年に入り、1月に形成外科、4月に腫瘍診断・予防科を新設して20診療科とし、診療の質の向上を図っております。教育の面では、延べ5名のレジデント修了者を送り出し、県民を対象とした11月恒例の‘がんの集い'04’や厚生労働省関連の研修会・講習会等を開催してまいりました。

研究室では、平成17年度から「臨床腫瘍研究所」に改称され、がんの予防、診断、治療の3グループ体制にて臨床に直結したトランスレーショナル・リサーチを実践しております。また、産官学共同研究への参加、任期付研究員の採用等の新しい試みにより機能的な運営を心がけております。

最後に、平素より当センターの運営にご指導とご支援を賜っております医師会、県内医療機関、並びに関係各位に職員一同、感謝申し上げます。

平成17年秋

病院長 卯木 次郎

# 凡 例

- 1 本年報第29号は、平成16年4月から平成17年3月までの埼玉県立がんセンターの業務内容をまとめたものである。

総括編，研究編及び統計編の3編からなる。

- 2 本年報に用いた用語の示す内容は次のとおりである。

|               |                                                                     |
|---------------|---------------------------------------------------------------------|
| 初 診 患 者 数     | 外来における初診延患者数                                                        |
| 外 来 患 者 延 数   | 再診の患者延数（兼科はそれぞれ1人と数えた）＋初診患者数                                        |
| 1 日 平 均 患 者 数 | 外来・・・外来患者延数／実外来診療日数<br>入院・・・在院患者延数／暦日数                              |
| 診療科別外来患者数     | 各診療科で診療を受けた外来患者延数（兼科はそれぞれ1人と数えた。）                                   |
| 入 院 患 者 数     | 毎日の新入院患者数の合計で、同月内の再入院はそれぞれ1人と数えた。                                   |
| 退 院 患 者 数     | 毎日の退院患者数の合計（死亡退院を含む。）                                               |
| 在 院 患 者 延 数   | 午前0時現在で入院中の患者数＋外泊者数の合計                                              |
| 病 床 利 用 率     | $100 \times \text{在院患者数} / (\text{稼働床数} \times \text{年間稼働日数}) (\%)$ |
| 平 均 在 院 日 数   | 患者の通算在院日数の平均で、外泊日を含む。再入院の場合は別患者扱いとした。                               |
| 調 剤 件 数       | 処方箋により調剤を行った数（1処方の中の1R Pを1件とした。）                                    |
| 調 剤 剤 数       | 調剤件数にそれぞれの投与日数を乗じた数の合計数                                             |

# 第1章 概要

## 第1節 沿革

平成14年11月18日 日本医療機能評価機構の認定取得  
平成15年8月26日 地域がん診療拠点病院に指定される

### 1 設立の目的

近年の成人病の増加に伴い、悪性新生物（がん）による死亡の増加が目立ち、将来を考えた対策が必要とされるようになった昭和45年、県立医療機関設立準備室が発足し、がんの第三次医療機関を設立するという事で基本構想がつくられた。

その中には、がんの基礎的研究機能と医学図書館をもつこと、研修機能をもつこと、民間医療機関との相互協力体制を整備すること、がん対策行政とも関連の深い疫学部門を設置すること、及びコンピュータを積極的に導入することなどがうたわれている。

### 2 経過の概要

|             |                                 |
|-------------|---------------------------------|
| 昭和43年度      | 医療需給調査実施                        |
| 昭和45年5月1日   | 衛生部に県立医療機関設立準備室発足               |
| 昭和45年12月24日 | 建設地を伊奈町に決定                      |
| 昭和46年2月16日  | 建設委員会発足                         |
| 昭和46年5月13日  | 基本構想決定                          |
| 昭和46年12月30日 | 建設予定地買収完了                       |
| 昭和47年5月1日   | 土木部にがんセンター建設事務所設置               |
| 昭和47年10月30日 | 設計完了                            |
| 昭和47年11月4日  | 工事に着手                           |
| 昭和47年11月～   | 敷地内の埋蔵文化財発掘調査を実施                |
| 48年8月       |                                 |
| 昭和48年4月17日  | 起工式、本館工事着手                      |
| 昭和48年7月1日   | 衛生部の県立医療機関設立準備室を衛生部がんセンター準備室に改組 |
| 昭和50年4月1日   | 衛生部がんセンター準備室をがんセンター準備事務所に改組     |
| 昭和50年6月30日  | 本館完成                            |
| 昭和50年10月31日 | 外構および付属工事完成落成式                  |
| 昭和50年11月1日  | 開院200床中100床でオープン                |
| 昭和51年11月1日  | 50床増床して150床とする                  |
| 昭和52年4月1日   | 50床増床して200床とする                  |
| 昭和55年12月1日  | 増床検討委員会設置                       |
| 昭和57年2月1日   | 100床の新病棟増床基本構想決定                |
| 昭和58年10月15日 | 新病棟設計完了                         |
| 昭和59年1月25日  | 新病棟工事に着手                        |
| 昭和60年6月15日  | 新病棟完成                           |
| 昭和60年10月1日  | 50床増床して250床とする                  |
| 昭和61年4月1日   | 50床増床して300床とする                  |
| 平成4年4月20日   | センター内に本館改修検討委員会設置               |
| 平成5年5月11日   | 代替病棟建設検討委員会設置                   |
| 平成5年10月8日   | 代替病棟建設基本構想作成                    |
| 平成7年3月17日   | 代替病棟設計完了                        |
| 平成7年12月26日  | 代替病棟工事に着手                       |
| 平成9年8月31日   | 代替病棟完成                          |
| 平成10年10月1日  | 100床増床して400床とする                 |

## 第2節 施設

### 1 敷地及び建物

所在地は、埼玉県北足立郡伊奈町大字小室地内にあり、県中南部地区内に位置し、本県の中核的地域に属する。

敷地面積は122,228平方メートルで、この中には、埼玉県赤十字血液センター及び埼玉県立南高等看護学院の敷地も含まれるが、総面積の約半分は緑の山林で武蔵野の風情を残しており、極めて環境の良い所である。

この敷地では、縄文時代、古墳時代及び平安時代の集落並びに製鉄所跡等の埋蔵文化財が確認され、文化財保護法に基づき県教育局文化財保護課が中心となり昭和47年11月24日から発掘調査を開始し、昭和50年8月16日までの間に第1次調査から第4次調査を実施している。

なお、発掘調査終了後は、県立博物館において資料の整理及び報告書の作成が行われ、昭和54年10月埋蔵文化財発掘調査報告書が提出された。

本館は地下1階地上5階の鉄筋コンクリート造である。

地下には放射線治療、薬剤製剤、患者給食厨房、洗濯室、外来食堂、職員食堂等のサービス部門及び病理解剖、R I 実験室、動物飼育室等の研究部門を配置している。

1階には総合受付、会計窓口などの管理部門、及び外来診療、内視鏡、X線診断、R I 検査等患者の診療動線を考慮したワンフロアシステムの診療部門並びに研究部門を配置している。

2階には医局、図書館、臨床検査、臨床病理、電子顕微鏡、フォトセンター及び研究部門が配置されている。

3階には病棟、手術室、リハビリルーム、中央材料室及びI C Uが配置されている。

4階には病棟及び家族仮眠室、5階には病棟及びR a 治療を配置している。

3階から5階までの病棟施設は中央に上下の動線をまとめ、左右に看護単位を配置し、人の流れを左右に分離し、動線を単純化している。

各病棟はコア部分に看護関係諸室及び通路、病室はその周りを囲むように配置して効率化を図るとともに、左右病棟の通路をH型とし距離感を短くしている。

地下は一部オープンカットにより緩傾斜を付け、のり面に植栽するサンクガーデン方式とし、外部採光を取り入れ心理的にも地下室という感じのないようにしている。その他は自然勾配を利用し、地下であるが反対の西側から見れば地表面であり1階と全く同じに感じる。

研究部門については病院建物と一体であるが独立した地下1階地上2階のスペースを有し、各部門は努めて機能的に配置されている。

## 2 南館

昭和55年、当センターの入院待機患者が年々増加し、早急に対策をたてる必要に迫られ基礎調査を実施する一方、増床検討委員会を設置した。

昭和57年2月1日、本館の南側に100床の新病棟建設の基本構想を決定し、昭和59年1月25日工事に着手した。

新病棟は地下1階地上3階建ての鉄筋コンクリート造である。地下にはMRI、検査、研究、フィルム保管等の各室、1階にはリハビリ、医師室、会議室等の管理部門の各室、2階及び3階には病棟を配置している。

設備、外装等は本館と違和感のないよう配慮した。

なお、完成は昭和60年6月15日である。

東館の増築に伴い、新病棟は南館に名称変更した。

## 3 東館

本館の機器や設備の劣化進行が目立ち始めたので、平成2年、劣化診断調査を実施したところ、劣化が進行していたため、平成4年、本館改修検討委員会を設置し改修方法等を検討した。入院待機患者は年々増加して今後も増大傾向にあること、本館改修も必要であることから、新たに代

替病棟を建設して、一時的に仮病棟として使用し、本館病棟入院患者を一時移転してその間に本館改修することとした。

平成5年、代替病棟建設検討委員会を設置し代替病棟建設基本構想作成、平成6年、代替病棟設計が完了した。

平成7年12月、本館東側に、代替病棟工事着工、平成9年8月、完成した。

この建物は、地下1階地上6階建ての鉄骨鉄筋コンクリート造である。

2階を除く1階から6階までを代替病棟とした。

2階部分は看護管理室、研修室、実習室などがある。

また、屋上には庭園がある。

この代替病棟はその役割が終わると100床増床して新たな病棟として利用することとなった。

病棟の引越には、がんセンター内の各部門から代表を集め病棟移転実行ワーキンググループ委員会を設置し、引越しの段取りや各部との連絡調整し日程を決定した。当日は医師、看護部が中心となり、患者に主治医が同行し引越した。

平成10年10月、代替病棟は東館に名称変更し、1階を面会者受付及びデイケアセンター、3階から6階を病棟とした。

## 4 施設の概要

(1) 名称 埼玉県立がんセンター

(2) 所在地 埼玉県北足立郡伊奈町大字小室818番地

(3) 土地・建物 (公舎含む)

(単位㎡)

| 区 分       | 摘 要                         | 面積 (延面積) |
|-----------|-----------------------------|----------|
| 土 地       |                             | 125,509  |
|           | がんセンター等敷地                   | 122,228  |
|           | さいたま市所在公舎敷地 (仲町・常盤・東大宮)     | 3,281    |
| 建 物       |                             | 48,423   |
| 本 館       |                             | 34,352   |
| ①病 院      | R C造り 地上5階地下1階              | (23,619) |
| ②研 究 所    | R C造り 地上2階地下1階              | ( 2,682) |
| ③図 書 館    | 病院2階に設置                     | ( 874)   |
| ④共 用 部 門  | 通路、講堂、エネルギー棟                | ( 7,177) |
| 南 館       | R C造り 地上3階地下1階              | 5,701    |
| 東 館       | S R C造り地上6階地下1階             | 7,108    |
| 付 属 棟     | 車庫、排水処理施設等                  | 1,262    |
| 第1看護宿舎    | R C造り 4階建102室 (敷地内)         | 3,472    |
| 第2看護宿舎    | R C造り 3階建1 K30室 (敷地内)       | 890      |
| 第3看護宿舎    | R C造り 4階建1 K40室 (敷地内)       | 1,291    |
| 伊 奈 公 舎   | R C造り 4階建3 D K16戸 (敷地内)     | 938      |
| 仲 町 公 舎   | R C造り 2階建4 L D K1戸 (さいたま市)  | 130      |
| 常 盤 公 舎   | R C造り 3階建3 D K12戸 (さいたま市)   | 638      |
| 東 大 宮 公 舎 | R C造り 2階建4 L D K10戸 (さいたま市) | 1,170    |

## (4) 主要付属設備

| 設 備 名    | 設 備 機 器     | 摘 要                              |
|----------|-------------|----------------------------------|
| 空調設備     | 吸収式冷凍機      | 二重効用型840USRT, 750RUST, 120USRT×2 |
|          | パッケージ冷凍機    | コールドルーム用                         |
|          | パッケージエアコン   | 局所冷暖房                            |
|          | 蒸気ボイラー      | 灯油・ガス併用10T×1 灯油6T, 4, 2T         |
|          | 空調機         | エアハンドリングユニット                     |
|          | ファンコイルユニット  | 466台                             |
|          | 地下灯油タンク     | 20,000リットル×3                     |
| 給排水設備    | 受水槽         | 100m³×2基, 38m³×1基                |
|          | 高架水槽        | 30m³×2基, 20m³×2基, 7.5m³×1基       |
|          | 貯湯槽         |                                  |
| 消火設備     | 排水処理施設      | 生活排水, R I 処理                     |
|          | スプリンクラー設備   | ヘッド5,334個                        |
|          | 粉末消火設備      | ヘッド 138個                         |
|          | ハロン消火設備     | ヘッド 11個                          |
| 医療用ガス設備  | 消火栓         | 室内7, 屋外2                         |
|          | 液体酸素        | 最大貯蔵量 5 t                        |
|          | 酸素配管        | マニホールド24本, アウトレット391組            |
|          | 笑気ガス配管      | マニホールド16本, アウトレット16組             |
|          | 圧縮空気配管      | アウトレット90組                        |
|          | 窒素ガス配管      | マニホールド手動式 4 本立                   |
| 搬送設備     | 吸引配管        | レシーバータンク×2, アウトレット396組           |
|          | 気送管設備       | 7 系統, 51ステーション                   |
|          | バーチカル・コンベアー | 15ステーション                         |
|          | 中央集塵装置      | インフレッタ弁278個                      |
| 電気設備     | 受変電設備       | 3φ 3W 6,600V                     |
|          |             | 変圧器                              |
|          |             | 動力用 500KVA×6台, 300KVA×5台,        |
|          |             | 250KVA×1台, 200KVA×1台,            |
|          |             | 150KVA×1台, 75KVA×1台              |
|          |             | 電灯用 300KVA×2台, 200KVA×5台         |
|          |             | 150KVA×4台, 75KVA×1台              |
|          |             | 医療動力用 3φ 4W                      |
|          |             | 500KVA×1台, 150KVA×1台,            |
|          |             | 100KVA×2台, 20KVA×1台              |
|          | 自家発電設備      | 6,600V 500KVA×3台                 |
|          | 無停電電源装置     | 75KVA30分, 100KVA10分              |
|          | 蓄電池設備       | 54セル800AH, 150AH, 120AH          |
|          | 放送設備        | 出力600W                           |
| 昇降機設備    | ナース・コール     | 30回線×2, 60回線×12                  |
|          |             | 乗用2台, 寝台用8台, 人荷用2台               |
| 電話交換設備   |             | 配膳用3台, ダムウエーター3台                 |
| 火災報知機    |             | デジタル交換機                          |
| ガス漏れ警報装置 |             | P 型 1 級                          |
|          |             | 都市ガス用127回線                       |

## 5 備品設備

### 主要器械備品一覧 (1,000万円以上)

| No. | 品 名                     | 取得年度 | 設置部門   | No. | 品 名                 | 取得年度 | 設置部門    |
|-----|-------------------------|------|--------|-----|---------------------|------|---------|
| 1   | R a 手 術 用 X 線 装 置       | 50   | 放射線技術部 | 54  | 心 電 図 モ ニ タ ー       | 7    | 手 術 部   |
| 2   | 核医学用画像データ処理装置           | 57   | 〃      | 55  | 全 身 麻 酔 器           | 9    | 〃       |
| 3   | X 線 撮 影 装 置             | 60   | 〃      | 56  | 低 温 プ ラ ズ マ 滅 菌 装 置 | 9    | 〃       |
| 4   | 泌 尿 器 用 X 線 撮 影 装 置     | 61   | 〃      | 57  | 内視鏡手術セット(システムA)     | 10   | 〃       |
| 5   | 乳 房 撮 影 用 X 線 装 置       | 元    | 〃      | 58  | 手 術 台               | 10   | 〃       |
| 6   | C R 用 X 線 テ レ ビ 装 置     | 元    | 〃      | 59  | 全 身 麻 酔 器           | 10   | 〃       |
| 7   | X 線 テ レ ビ 装 置           | 2    | 〃      | 60  | 全 身 麻 酔 器           | 10   | 〃       |
| 8   | マ イ ク ロ ト ロ ン 装 置       | 3    | 〃      | 61  | 手 術 台               | 11   | 〃       |
| 9   | 放 射 線 治 療 位 置 決 装 置     | 4    | 〃      | 62  | 手 術 台               | 11   | 〃       |
| 10  | 頭 部 精 密 X 線 撮 影 装 置     | 4    | 〃      | 63  | 鏡視下手術器械種子テム(システムB)  | 13   | 〃       |
| 11  | 手 術 室 用 X 線 撮 影 装 置     | 5    | 〃      | 64  | 手 術 台               | 14   | 〃       |
| 12  | 放射線モニタリングシステム           | 5    | 〃      | 65  | 手 術 台               | 15   | 〃       |
| 13  | シンチレーションカメラ             | 5    | 〃      | 66  | 手 術 台 ( 万 能 型 )     | 16   | 〃       |
| 14  | F C R 画 像 管 理 シ ス テ ム   | 6    | 〃      | 67  | 内 視 鏡 下 手 術 シ ス テ ム | 16   | 〃       |
| 15  | 磁気共鳴画像診断装置              | 6    | 〃      | 68  | 自動アンプル払い出し装置        | 8    | 薬 剤 部   |
| 16  | X 線 C T 診 断 装 置         | 7    | 〃      | 69  | コンタクトレーザー装置         | 8    | 内視鏡検査室  |
| 17  | 放射線診断業務管理システム           | 8    | 〃      | 70  | X 線 テ レ ビ 装 置       | 9    | 〃       |
| 18  | 腔内照射装置用X線シュミレータ         | 8    | 〃      | 71  | 超 音 波 内 視 鏡 診 断 装 置 | 13   | 〃       |
| 19  | DR組み合せX線テレビ装置           | 8    | 〃      | 72  | 内視鏡ファイリングシステム       | 16   | 〃       |
| 20  | 医 療 用 直 線 加 速 装 置       | 8    | 〃      | 73  | 歯 科 用 ユ ニ ッ ト       | 10   | 口腔外科外来  |
| 21  | 密 封 小 線 源 治 療 装 置       | 8    | 〃      | 74  | 深 部 治 療 用 X 線 装 置   | 53   | 病 理     |
| 22  | 胸 部 撮 影 装 置             | 9    | 〃      | 75  | 蛍 光 顕 微 鏡           | 6    | 染色体分析室  |
| 23  | シンチレーションカメラ総合システム       | 10   | 〃      | 76  | 血 液 成 分 分 離 装 置     | 7    | 集学治療計画室 |
| 24  | 乳 房 撮 影 装 置             | 13   | 〃      | 77  | 酸化エチレングス滅菌装置        | 9    | 看 護 部   |
| 25  | 血 管 撮 影 装 置             | 13   | 〃      | 78  | 自動洗浄除染乾燥システム        | 9    | 〃       |
| 26  | X線CT診断装置(16列)           | 14   | 〃      | 79  | 高 圧 蒸 気 滅 菌 装 置     | 9    | 〃       |
| 27  | リニアック装置(L1)             | 14   | 〃      | 80  | D N A シ ー ク エ ン サ ー | 9    | 遺伝子診断室  |
| 28  | 前立腺治療アプリケーション支援機器       | 15   | 〃      | 81  | RI/化学発光イメージ解析システム   | 9    | 〃       |
| 29  | 前立腺治療計画装置システム           | 15   | 〃      | 82  | 薬剤/物品管理システム         | 10   | 病 院     |
| 30  | 胸 部 撮 影 装 置 C R         | 16   | 〃      | 83  | 院内コミュニケーションシステム     | 10   | 〃       |
| 31  | 電 子 顕 微 鏡               | 50   | 検査技術部  | 84  | 看 護 シ ス テ ム         | 10   | 〃       |
| 32  | 分 離 用 超 遠 心 機           | 50   | 〃      | 85  | 放 射 線 情 報 シ ス テ ム   | 10   | 〃       |
| 33  | 細 胞 自 動 解 析 装 置         | 元    | 〃      | 86  | TVカンファレンスシステム       | 10   | 〃       |
| 34  | 全 自 動 E I A 装 置         | 2    | 〃      | 87  | 病 理 シ ス テ ム         | 10   | 〃       |
| 35  | 自 動 細 菌 検 査 装 置         | 3    | 〃      | 88  | 内 視 鏡 シ ス テ ム       | 10   | 〃       |
| 36  | 電 子 顕 微 鏡               | 3    | 〃      | 89  | 画像ネットワークシステム        | 10   | 〃       |
| 37  | 超 音 波 診 断 装 置           | 6    | 〃      | 90  | オーダリングシステム          | 10   | 〃       |
| 38  | X 線 血 液 照 射 装 置         | 7    | 〃      | 91  | 医療情報システム(ハード)       | 16   | 〃       |
| 39  | 臨床検査処理情報システム            | 7    | 〃      | 92  | 走 査 電 子 顕 微 鏡       | 57   | 研 究 室   |
| 40  | 全 自 動 免 疫 測 定 装 置       | 8    | 〃      | 93  | 高 圧 蒸 気 滅 菌 装 置     | 62   | 〃       |
| 41  | 超 音 波 診 断 装 置           | 9    | 〃      | 94  | ラ ッ ク ワ ッ シ ャ ー     | 63   | 〃       |
| 42  | 染 色 体 自 動 分 析 装 置       | 9    | 〃      | 95  | バイオイメーリアナライザー       | 元    | 〃       |
| 43  | 自動染色封入システム              | 10   | 〃      | 96  | 自動細胞分取解析装置          | 2    | 〃       |
| 44  | 生 化 学 自 動 分 析 装 置       | 10   | 〃      | 97  | 共焦点方式レーザー走査型蛍光顕微鏡   | 3    | 〃       |
| 45  | 超 音 波 診 断 装 置           | 11   | 〃      | 98  | D N A シ ー ケ ン サ ー   | 5    | 〃       |
| 46  | 全 自 動 免 疫 測 定 装 置       | 11   | 〃      | 99  | 自 動 細 胞 解 析 装 置     | 6    | 〃       |
| 47  | 超 音 波 診 断 装 置           | 12   | 〃      | 100 | D N A シ ー ケ ン サ ー   | 7    | 〃       |
| 48  | 全 自 動 肺 機 能 測 定 装 置     | 14   | 〃      | 101 | レーザーマイクロダイセクションシステム | 10   | 〃       |
| 49  | 超 音 波 診 断 装 置           | 15   | 〃      | 102 | E O ガ ス 滅 菌 機       | 62   | 事 務 局   |
| 50  | 多 項 目 自 動 血 球 分 析 装 置   | 16   | 〃      | 103 | ドクターコールシステム         | 59   | 〃       |
| 51  | コントラバス・スタンド型手術顕微鏡       | 63   | 手 術 部  | 104 | 蒸 留 水 製 造 装 置       | 60   | 〃       |
| 52  | N d : Y A G レ ー ザ ー 装 置 | 4    | 〃      | 105 | X線フィルム保管システム        | 3    | 〃       |
| 53  | 超 音 波 細 胞 破 碎 装 置       | 7    | 〃      | 106 | カ ル テ 保 管 庫         | 10   | 〃       |

平成16年度購入した器械備品一覧

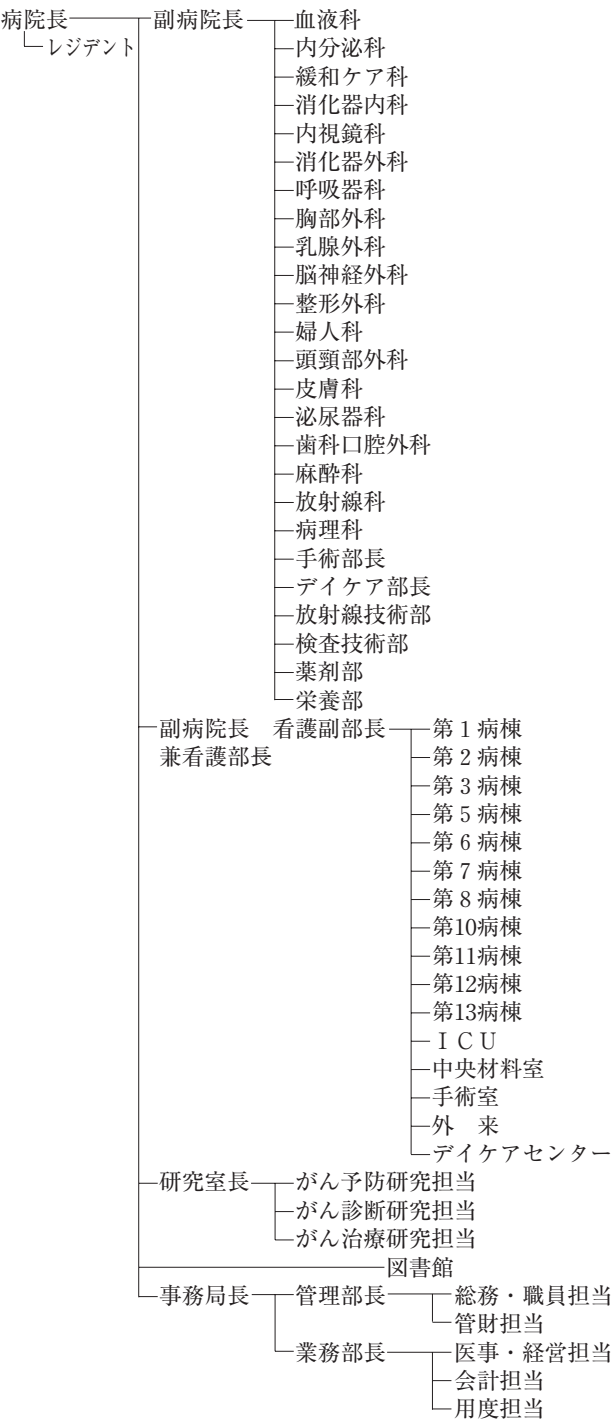
| 番号 | 品 名                  | 銘 柄 / 規 格 等                      | 数量 |
|----|----------------------|----------------------------------|----|
| 1  | 内視鏡ファイリングシステム        | オリンパス SOLEIMO                    | 1  |
| 2  | 電子内視鏡システム            | オリンパス EVIS-LUCERA                | 1  |
| 3  | 電子内視鏡システム            | FTS VP403                        | 1  |
| 4  | 上部消化管汎用ビデオスコープ       | オリンパス GIF-H260                   | 5  |
| 5  | 下部消化管汎用ビデオスコープ       | FTS EC-450ZW5/M                  | 2  |
| 6  | 上部消化管光学拡大スコープ        | FTS EG-450ZW5                    | 1  |
| 7  | 内視鏡洗浄消毒装置            | オリンパス OER                        | 2  |
| 8  | ガストロビデオスコープ          | オリンパス GIF-Q240                   | 1  |
| 9  | 超音波診断装置(病棟用)         | GE LOGIQ Book                    | 1  |
| 10 | ベッドサイドモニター           | 日本光電 BSM-2401                    | 1  |
| 11 | 超音波診断装置              | 持田メディカル ソノビスターC3000              | 1  |
| 12 | ビデオ鼻咽喉スコープ           | ペンタックス VNL-1130                  | 1  |
| 13 | 歯科用ユニット              | ヨシダ エクシーデef                      | 1  |
| 14 | 手術台(万能型)             | マッケ 1150                         | 1  |
| 15 | 手術台(透視型)             | マッケ 1150                         | 1  |
| 16 | 无影灯                  | マッケ ハナウルクス2005                   | 1  |
| 17 | 内視鏡下手術システム           | ストルツ                             | 1  |
| 18 | 電気メス                 | タイコヘルスジャパン FORCE FX-8CA          | 1  |
| 19 | 内視鏡洗浄消毒装置            | オリンパス OER-2                      | 1  |
| 20 | 超音波診断装置              | 日立メディコ EUB-6500特型                | 1  |
| 21 | 鼻咽喉内視鏡システム           | オリンパス VISERA                     | 1  |
| 22 | 放射線業務管理システム          | 日本電気                             | 1  |
| 23 | 落射蛍光顕微鏡              | オリンパス BX51-34-FL-1               | 1  |
| 24 | 胸部撮影装置               | 富士フイルム VELOCITYU                 | 1  |
| 25 | 手術用ポータブルX線装置         | 日立 シリウス130HP                     | 1  |
| 26 | 多項目自動血球分析装置          | シスメックス XE-AlphaN                 | 1  |
| 27 | 全自動尿分析装置             | アークレイ AX-4280                    | 1  |
| 28 | 純水製造装置               | 日本ミリポア EQA-3S                    | 1  |
| 29 | 全自動散薬分包調剤システム        | トーショー IO-9090TPD                 | 1  |
| 30 | 温冷配膳車                | 松下電工 デリカート CD1324P-SGC           | 1  |
| 31 | バイオアナライザシステム         | 日本カンタム・デザイン                      | 1  |
| 32 | カルテ保管庫               | クマヒラ スカイファイル100                  | 1  |
| 33 | 医療情報システムハードウェア       | 日本電気                             | 1  |
| 34 | 気管支ファイバースコープ         | オリンパス BF-1T60                    | 1  |
| 35 | 気管支ファイバースコープ         | オリンパス BF-XP60                    | 1  |
| 36 | 薬袋印字装置               | トーショー FX-5Ⅱ                      | 1  |
| 37 | 採尿・蓄尿比重測定装置          | フクダ電子 ウロエース5130                  | 1  |
| 38 | ラジオアイソトープドーズキャリブレーター | アロカ IGC-7                        | 1  |
| 39 | 診療器具滅菌保管システム         | アスカメディカル ホルステリ20型                | 1  |
| 40 | 治療計画装置               | 千代田テクノル ISIS QA-1                | 1  |
| 41 | 気管支ビデオシステム           | オリンパス EVIS-LUCERA                | 1  |
| 42 | マクロ画像装置              | オリンパス DXC-390                    | 1  |
| 43 | ラジオ波凝固装置             | センチュリーエムティアイ Cool-Tip RF         | 1  |
| 44 | 耳鼻咽喉科電子内視鏡システム       | FTS EXP-2201                     | 1  |
| 45 | 低周波治療装置              | ミナト医科学 マックスカインMK-120G            | 1  |
| 46 | 生物顕微鏡                | ニコン 80iE-31                      | 1  |
| 47 | デジタルマイクロスコープ         | ニコン CoolScope                    | 1  |
| 48 | 除細動器                 | 日本光電 TEC-7631                    | 1  |
| 49 | 救急ストレッチャー            | アトムメディカル RO-5310                 | 1  |
| 50 | ラリノマイクローサージャリー器械     | ストルツ/永島医科                        | 1  |
| 51 | キューサー用ハンドピース         | タイコヘルスジャパン CUSA Excel-23KH z     | 1  |
| 52 | 医用写真撮影装置             | 杉浦研究所 MPS-7FD                    | 1  |
| 53 | 電動式デルマトーム            | ビーブランエースクラップ GA643               | 1  |
| 54 | 手術用開創器システム           | マンソン オムニトラクト                     | 1  |
| 55 | 液体窒素冷凍手術装置           | ヤヨイ CRY-AC                       | 1  |
| 56 | マリスバイポーラ凝固切開装置       | ジョンソン・エンド・ジョンソン CMC-Ⅲ            | 1  |
| 57 | 下顎骨再建用器械システム         | シンセス コンパクト2.4ユニロック               | 1  |
| 58 | 駒井式CT定位脳手術装置         | 瑞穂医科工業社                          | 1  |
| 59 | ガンマサーベイメーター          | タイコヘルスケアジャパン NAVIGATOR GPSシステム   | 1  |
| 60 | 眼科用エコー               | トーマー UD-1000                     | 1  |
| 61 | 放射線機器ネットワークシステム      | GE GEネット                         | 1  |
| 62 | 採血・採尿支援システム          | テクノメディカ                          | 1  |
| 63 | 遠心機                  | 日本ケンドロ RC-5C Plus                | 1  |
| 64 | 患者データ管理システム          | エーディーインストルメンツジャパン PowerLab ML785 | 1  |

第3節 組織

1 機構

昭和48年7月1日、衛生部がんセンター準備室が設置され、昭和50年4月1日がんセンター準備事務所に改組。同年11月1日から開院の運びとなった。開院当初は、事務局、病院及び研究所の3部門であったが、昭和52年4月1日に図書館が設置され、現在に至っている。

平成16年度機構図



2 人事

平成16年度在職者名簿（17. 3. 31現在）は巻末に掲載

平成16年度給料表別職員数

|        |     |
|--------|-----|
| 一般事務職  | 23名 |
| 医療職（一） | 68  |
| 医療職（二） | 74  |
| 医療職（三） | 312 |
| がん研究職  | 13  |
| 技能職    | 19  |
| その他※   | 9   |
| 計      | 518 |

※その他（医療社会事業、機械、電気、物理、自動車運転、司書）

職員別現員数

| 職 種       | 病院長 | 事務局 | 病院  | 研究所 | 図書館 | 合 計 |
|-----------|-----|-----|-----|-----|-----|-----|
| 事務 { 事務   |     | 23  |     |     |     | 23  |
| 職員 { 技術職  |     | 3   |     |     |     | 3   |
| 医療社会事業職   |     | 3   |     |     |     | 3   |
| 社会福祉主事    |     |     |     |     |     |     |
| 医 師       | 1   |     | 63  | 1   |     | 65  |
| 歯 科 医 師   |     |     | 3   |     |     | 3   |
| 理 学 療 法 士 |     |     | 2   |     |     | 2   |
| 放 射 線 技 師 |     |     | 19  |     |     | 19  |
| 臨床検査技師    |     |     | 36  |     |     | 36  |
| 衛生検査技師    |     |     | 1   |     |     | 1   |
| 臨床工学技士    |     |     | 1   |     |     | 1   |
| 栄 養 士     |     |     | 3   |     |     | 3   |
| 薬 剤 師     |     |     | 12  |     |     | 12  |
| 看 護 師     |     |     | 312 |     |     | 312 |
| が ん 研 究 職 |     |     |     | 13  |     | 13  |
| 司 書       |     |     |     |     | 2   | 2   |
| 物 理 職     |     |     | 1   |     |     | 1   |
| 自動車運転士    |     |     |     |     |     |     |
| 調 理       |     |     | 8   |     |     | 8   |
| 看 護 助 手   |     |     | 7   |     |     | 7   |
| その他の技能職員  |     |     | 3   | 1   |     | 4   |
| 計         | 1   | 29  | 471 | 15  | 2   | 518 |

（17. 3. 31現在）

## 第2章 管 理 業 務

### 第1節 会計業務

#### 1 予算・決算

平成16年度の収益的収入・支出における収入は、予算額100  
に対し100.1、支出は予算額100に対し97.9の執行だった。

資本的収入・支出における収入は、予算額100に対し100、  
支出は予算額100に対し97.6の執行だった。

#### (1) 収益的収入及び支出

〔収入〕

(単位：円)

| 区 分         | 予 算 額          | 決 算 額          | 予算に対する決算額の増減  |
|-------------|----------------|----------------|---------------|
| 病 院 事 業 収 益 | 11,713,465,000 | 11,722,296,494 | 8,831,494     |
| 医 業 収 益     | 9,255,073,000  | 9,552,194,314  | 297,121,314   |
| 医 業 外 収 益   | 2,458,392,000  | 2,170,102,180  | △ 288,289,820 |

〔支出〕

(単位：円)

| 区 分         | 予 算 額          | 決 算 額          | 不 用 額        |
|-------------|----------------|----------------|--------------|
| 病 院 事 業 費 用 | 11,109,681,000 | 10,875,793,723 | 233,887,277  |
| 医 業 費 用     | 10,834,782,000 | 10,581,077,733 | 253,704,267  |
| 医 業 外 費 用   | 274,899,000    | 294,715,990    | △ 19,816,990 |

#### (2) 資本的収入及び支出

〔収入〕

(単位：円)

| 区 分         | 予 算 額       | 決 算 額       | 予算に対する決算額の増減 |
|-------------|-------------|-------------|--------------|
| 資 本 的 収 入   | 241,145,000 | 241,144,474 | △ 526        |
| 他 会 計 負 担 金 | 241,145,000 | 241,144,474 | △ 526        |

〔支出〕

(単位：円)

| 区 分         | 予 算 額         | 決 算 額         | 不 用 額      |
|-------------|---------------|---------------|------------|
| 資 本 的 支 出   | 1,140,710,000 | 1,113,603,394 | 27,106,606 |
| 建 設 改 良 費   | 575,421,000   | 553,089,447   | 22,331,553 |
| 開 発 費       | 83,000,000    | 78,225,000    | 4,775,000  |
| 企 業 債 償 還 金 | 482,289,000   | 482,288,947   | 53         |

## 第2節 図書館業務

### 1 蔵書数（2005年3月31日現在）

| 資料区分          | 蔵書冊数    | 前年度比      |
|---------------|---------|-----------|
| 単行本（継続刊行物を含む） | 16,041冊 | +504冊     |
| 製本雑誌（製本冊数）    | 27,065冊 | +702冊     |
| 受入雑誌数（タイトル数）  |         |           |
| 洋雑誌           | 173誌    | - 2 + 4 誌 |
| 和雑誌           | 123誌    | + 4 誌     |
|               | 計296誌   |           |

### 2 資料運用

#### 2.1 外部図書館との資料相互利用

外部図書館への依頼（所蔵外文献外部手配）件数

（2004年4月1日～2005年3月31日 括弧内の数字は前年度）

| 研究職          | 医師           | 技師           |              | 事務       | 外部<br>(学生等)  | 合計             |
|--------------|--------------|--------------|--------------|----------|--------------|----------------|
|              |              | 看護師          | 検査・放射線・リハ・栄養 |          |              |                |
| 229<br>(408) | 592<br>(737) | 430<br>(286) | 42<br>(111)  | 6<br>(0) | 298<br>(139) | 1597<br>(1681) |

外部図書館から当館への依頼受付件数（2004年4月1日～2005年3月31日）

|                   | 件数（括弧内は前年度件数） |
|-------------------|---------------|
| 県内機関 循環器・呼吸器病センター | 133 (174)     |
| 小児医療センター          | 213 (100)     |
| 総合リハビリテーションセンター   | 43 (78)       |
| さいたま赤十字病院         | 76 (68)       |
| 上尾中央病院            | 55 (54)       |
| 済生会栗橋病院           | 32 (37)       |
| 川口医療センター          | 34 (37)       |
| さいたま協同病院          | 7 (0)         |
| 県立大学              | 12 (17)       |
| 衛生研究所             | 0 (13)        |
| その他（社会保険病院など）     | 26 (0)        |
| 県外機関 日本医学図書館協会加盟館 | 56 (35)       |
| その他               | 11 (8)        |
| 個人                | 6 (5)         |
| 計                 | 704 (626)     |

#### 2.2 資料貸出

貸出件数（2004年4月1日～2005年3月31日）

|     | 研究員 | 医師  | 技師  |         | 実習生 | 事務 | 外部  | 計   | 前年度末比 |
|-----|-----|-----|-----|---------|-----|----|-----|-----|-------|
|     |     |     | 看護師 | 検査・放射線等 |     |    |     |     |       |
| 単行本 | 68  | 131 | 268 | 54      | 17  | 20 | 191 | 750 | +202  |
| 雑誌  | 130 | 51  | 98  | 79      | 1   | 6  | 43  | 408 | + 67  |

### 3 文献情報サービス

#### 3.1 サービス環境

電子版・Web版情報源の導入状況は以下のとおり。  
EBM情報源を整備した。

Web版：国内文献情報（医学中央雑誌，JOIS-JDream），Cochrane Library，電子版基本書（Cecil内科，Nelson小児科，Sabiston外科，Youman脳外科，Infectious Disease）

CD版：Current Protocolsシリーズ，Journal Citation Report，UpToDate，今日の診療，他多数（紙版よりCD版を優先）。

いずれも図書館員は検索の代行，操作説明・支援の要求に随時対応しているが，利用者の直接操作を基本としている。

#### 3.2 文献情報検索代行

利用者の依頼を受けて図書館員が上記のデータベースを使って行う検索の代行。

文献情報検索代行件数（2004年4月1日～2005年3月31日 括弧内は前年度）

| 研究員 | 医師  | 看護   | 技師  | 事務  | 外部   | 計     |
|-----|-----|------|-----|-----|------|-------|
| 0   | 7   | 51   | 2   | 0   | 3    | 63    |
| (0) | (8) | (78) | (3) | (0) | (14) | (103) |

#### 3.3 定期的文献情報配布サービス

Current Contents データから個人ごとの検索条件に一致する最新文献情報を提供するサービスで，サービス申し込み者は平成17年3月末日現在5人と1グ

ループ。Current Contents情報はPubMedのデータより数ヶ月早く，利用者は少ないがサービスの継続が要望されている。

### 4 図書館協力業務

#### 4.1 埼玉医療関連情報ネットワーク協議会関連事業

県内の主に病院図書室をメンバーとした図書館間相

互協力事業。所蔵資料合同目録を毎年更新し，資料の相互利用を図っている。

#### 4.2 日本医学図書館協会関連事業

日常的協力事業として文献相互利用事業，定例的協力事業として重複雑誌交換事業がある。前者は上記の所蔵外文献の外部手配等に関わるサービスの基盤となっている。後者は当図書館に重複して所蔵して

いる雑誌巻号を提供し，欠落している巻号を全国の協会会員図書館から寄贈していただく相互的事业。昨年度は約500冊を約50館に提供し，14冊を10館から受領した。

### 5 その他の業務

#### 5.1 入院患者のための図書サービス

図書館を事務的窓口としてボランティア主体で運営。各病棟に書架を配置し，図書を定期交換。

#### 5.2 スライド出力の代行

完成原稿を受け取り，フィルム出力後フォトセンターに送付している。依頼される件数はプロジェクタの普及により激減した。機械の故障時点で廃止の予定。

#### 5.3 Selected Papers

センターの英文研究業績集 Vol.25,2003を600部を作成し，内外関係機関に配布。

## 第3章 病院業務

### 第1節 概要

病院の診療は、血液科、内分泌科、緩和ケア科、呼吸器科、消化器内科（旧称：消化器科）、内視鏡科、胸部外科、乳腺外科、脳神経外科、消化器外科（旧称：腹部外科）、整形外科、頭頸部外科（旧称：耳鼻咽喉科）、歯科口腔外科、泌尿器科、皮膚科、婦人科、形成外科、眼科、麻酔科、放射線科および病理科の計21科と、手術部、デイケア部、放射線技術部および検査技術部の計4部により行われている。病院は、これら21科4部に薬剤部、看護部、栄養部と研究室の3部1室が加わって構成されている。

平成16年度も一昨年度と同様に、『目標による行政運営』を指標として病院業務を運営した。「唯命を惜しむ」をがんセンターの基本理念に、患者中心の医療、経営改善、および高度先進がん専門病院としての機能の向上をめざし、地域医療連携の推進に努力した。

平成11年6月より導入されたオーダーリングシステムは、平成12年11月から注射オーダーが追加され診療業務に定着し、外来、病棟両分野における患者中心の医療推進のための重要な役割を担った。

平成14年11月18日に日本医療機能評価機構認定病院に指定され、全職員一丸となって患者中心の医療を推進させてきたが、全国の高度がん医療機関の拠点の一つとして、平成16年8月26日に「地域がん診療拠点病院」に指定された。

外来業務においては、オーダーリングシステムによる診療時間予約制の実施、診療待ち時間・検査予約時間の短縮に努め、平成12年9月より導入した院外処方箋の全面発行も定着し、医薬分業を徹底させた。外来処置室では救急患者の迅速な対応に努め、デイケアセンターでは多くの患者のがん治療（化学療法）を通院で継続できる体制を推進し、がん患者の療養生活の質を高めるとともに、在院日数および入院待機日数の短縮を果たした。

病棟業務においては、オーダーリングシステムの導入により、計画的な看護、円滑な物品の運用、迅速な会計処理が行われるようになった。医薬分業推進の結果、外来処方に関連する業務の減少がもたらされ、薬剤師による入院患者への服薬指導が積極的に行われ成果を挙げている。各診療科においては、インフォームドコンセントに基づいた患者中心の診療を励行し、患者のクオリティ・オブ・ライフを十分に配慮した高度がん医療の提供と各部署の連携業務の円滑化に努めた。

各種委員会については、病院機能評価委員会活動の一環として見直しを行ない、病院運営関連9、医療向上関連14、安全/衛生関連9、外部連携広報関連4、設備機械関連3、研修その他7の計46の委員会とし、事務局、研究室との連携のもとに定期的活動を展開した。また、近年、安全医療管理の重要性が認識されていることから、平成16年3月に医療安全管理委員会設置検討会を発足させ、次年度の活動体制について協議した。

主な活動を挙げると、経営改善ワーキング委員会は平成12年5月以来、定期的に開催し経営改善に実績を上げた。病棟運営委員会では医師、看護師が病棟における診療活動の改善に資する諸問題の解決に積極的に取り組んだ。治験事務室委員会は平成12年4月に設置された治験事務室における治験関連事務手続きおよび新GCPに基づく治験業務の適正運用にあたった。医療事故対策委員会は毎月の定期集会において報告事例毎に医療事故防止の具体策について検討した。院内感染対策委員会は、毎月の開催を通してMRSAを含めたすべての院内感染防止に取り組んだ。医療情報システム委員会はオーダーリングシステム、院内ネットワークの導入、稼働後も構築の改善を行った。ホームページ運営委員会は平成12年6月に設置され、埼玉県がんセンターのホームページを開設し運営にあたっている。クリニカルパス推進委員会は平成13年2月にクリニカルパス運用マニュアルを作成し、以後、承認を得たクリニカルパスは29項目となり、指示表、経過記録の一部として活用され、カルテと共に病歴に保管されている。

医師研修協力体制に関しては、平成12年7月にレジデント研修医制度が発足し、今年度は8名のレジデントが3年間の研修を受けており、2名が研修を修了した（通算修了者3名）。本制度の円滑な運営のためレジデント制度運営委員会が活動し、研修カリキュラムの充実に努めている。また、今年度から、新医師臨床研修制度に伴う臨床研修病院群として参加し、群馬大学医学部附属病院および埼玉医科大学附属病院の協力型臨床研修病院となり、臨床研修管理委員会を設けて研修体制を整えてきた。

職員の教育、研修に関しては、職員教育研修委員会、生涯教育委員会が各職種ごとに医局セミナー、カンファレンス、看護研究会、合同セミナー（生涯教育セミナー、臨床部科・研究室合同セミナー）を定期的に開催し職員の質的な向上に努めた。テレビ会議運営委員会は、がん診療施設情報ネットワークシステム（国立がんセンターを中心とする全国のがん専門診療施設を結ぶネットワークシステム）の発信するテレビ会議を運営した。テレビ会議は多地点合同メディカルカンファレンス、コメディカルカンファレンス、消化器イメージカンファレンス、病理カンファレンス等があり、がん診療の最新情報に関する意見交換と検討が行われた。

地域医療連携推進委員会は、埼玉県医師会とはメディカルネットワーク（MAN）を、地元医師会とは北足立郡医師会メディカルネットワーク（KMN）を通して、病病・病診連携における協力関係を推進している。

ボランティア委員会は、がん患者の快適な療養生活の援助を目的として平成8年3月に発足し、外来・入院患者に対するボランティア活動を受入れ、円滑な運営にあたっている。

## 第2節 診断および治療業務

### 1 外来患者の状況

平成16年度の外来患者延べ数は、190,624人、初診患者数は、11,473人で対前年比はそれぞれ+3.8%、+7.6%であった。また、一日平均外来患者数は784人であった。当センターは紹介型病院であり、紹介率は56.3%であった。平成10年10月より病床は400床となり、緊急入院が可能になり、入院患者待機期間の短縮、在院日数の短縮に努めている。一方、外来部門では、デイケアセンターにおけるがん患者の通院治療が増加し、デイケアセンターの円滑、効率的運営を図ることができた。なお、各診療科別の平成16年度の外来患者数統計は118頁を参照されたい。

### 2 入院患者の状況

平成16年度の入院患者延べ数は、131,822人で、一日平均入院患者数は361人、病床利用率は90.3%であった。入院患者の平均在院日数は15.9日で、前年度より入院日数は0.9日短縮した。これは、平均在院日数において、前年度同様、各診療科が努力したことによる。

なお、月別、病棟別、診療科別の入院患者数統計は121頁を参照されたい。

### 3 デイケアセンター業務

平成10年10月、東館1階に開設されたデイケアセンターでは、通院治療と在宅療法支援を行っている。平成16年度の通院治療患者数は11,797人であり、そのうち9,277人が化学療法を受けている。化学療法を受けた患者数は年々増加しており、平成14年度の1.1倍となっている。在宅療養支援は主に看護相談室が行っている。看護相談室の相談患者数は、3,947人であり、当院と他病院・診療所との連携や訪問看護ステーションとの連携を152件成立させた。これらの業務は患者の生活の質の向上、入院期間の短縮、外来化学療法加算により経営改善などに役立っている。

平成14年度より、外来・デイケア部門会議を月1回開催し、両部門の業務改善に取り組んでいる。構成員は、デイケア部長（副病院長）・デイケア医長・外来・デイケアの看護師、薬剤師、臨床検査技師、放射線技師、内科系医師（デイケア医長）、外科系医師、事務担当職員である。その中で、通院患者のサービス向上に向けての改善策の検討や各部門で発生したさまざまな問題を解決している。

### 4 放射線診療業務

放射線技術部は、放射線診断、放射線治療、R I 検査の3セクションで構成されている。

放射線診断は、CT、MRI、各種X線撮影、超音波検査等を行っている。CT検査は相変わず増加の傾向を示し、2.3%（13,591件から13,909件へ）の増加となった。MRI検査は、今年度も4.6%（3,475件から3,635件へ）増、超音波検査は乳腺を中心に8.9%（4,114件から4,480件）の増となり、X線撮影の総件数は5.6%（55,048件から58,137件へ）の増加

となった。消化器検査のみが昨年に引き続き9.8%（4,411件から3,980件へ）の減少となった。

放射線治療においては、体外照射件数は前年比5.1%（43,515件から45,740件へ）増加し、総計においては3.8%（50,948件から52,873件へ）の増加となっている。ライナックが更新され高精度照射が増加した反面、密封小線源照射においては減少が見られる。

R I 検査では、体外計測部門が3.1%（3,777件から3,894件へ）増であった。これはR I 検査のほとんどを占める骨シンチの伸びがそのままの値となっている。

平成17年度に、MRI装置とマイクロトロンが更新され、現在およそ30日間あるMRI検査や放射線治療の待ち日数は、大幅に改善されるものと期待される。

### 5 手術室および特定集中治療室業務

外科的治療の中核として手術室および特定集中治療室（ICU）の効率的運用と設備充実に努めている。

手術室では、平成11年度当初より手術室の7室稼働を開始し、他に開創照射専用の地下手術室、4床の手術回復室を擁する。手術室の効率的運用のため週間手術予定表を作成することにより、手術件数の少ない日は待機患者の多い科に積極的に働きかけ、手術件数を増やすようにして、経営改善に努力している。

平成16年度の手術室における総手術件数は2,729件であった。1ヵ月平均227件の手術が行われている。年齢別では60歳台31%、50歳台24.5%に最も多く、ついで70歳台19%、40歳代11%であり、80歳以上の高齢者は4.5%もあり、60歳以上の高齢者は55%と全症例の半数以上で、年々増加している。麻酔件数は2,729件で、全身麻酔2,361件、86%を占め、次いで局所麻酔が279件、10%、伝達麻酔が89件、4%である。手術室利用件数の前年度比は1.07であった。局所麻酔を除いた手術時間は、2時間以内50%、2時間～4時間25%、4時間～6時間14%、6時間以上の長時間手術は11%であった。月別、年齢別、診療科別、および麻酔種目は手術件数一覧表に示した。

特定集中治療室（ICU）は8床で稼働しており、高齢者や術前合併症を有するリスクの高い手術患者、呼吸不全などの術後合併症患者などが入室している。入室期間の短縮化を徹底してベッドの効率的運用を図り、入院患者の需要に応えた。ICU感染個室は、MRSA（多剤耐性黄色ブドウ球菌）などの院内感染防止策の一環として平成6年9月5日に設置され、ICUにおける感染症の発生防止に顕著な効果を上げている。

平成16年度のICU利用件数は877件で、入室期間は、1週間以内794件、90.5%、8日以上2週間以内69件8%、15日以上14件1.5%である。利用件数は前年度と殆ど同じであった。ICUにおける月別、診療科別およびICU入室期間別の利用患者数は一覧表に示した。

在院期間の短縮化、病床占有率の増加にともない手術部門の需要の増大は必至であり、高度医療の提供、潤滑な運用のためには設備の充実が必要である。また麻酔科医は5人と少なく年間1人450件以上の麻酔を行っており、看護師の増員

とともに早急な検討が必要である。13年度から臨床工学技士が1名採用され、ME機器の保守点検、人工透析や幹細胞採取、骨髄採取なども行い、医師および看護師の負担は軽減されているが、1名のため本人の時間外勤務が多く増員の検討が必要である。病院機能評価の結果は、いくつかの指摘を受けたものの、まずまずの結果であった。これからも次の機能評価に向けて努力をしていきたい。

## 6 臨床検査業務

臨床検査部門は、一般検査・生化学検査・血液検査・細菌検査・血清検査・生理検査・輸血検査・病理検査・電子顕微鏡の9検査室と遺伝子検査に技師を派遣し総勢39名の職員と1名の非常勤職員で構成されている。

平成16年度の総検査件数は、1,301,649件で前年に比較し全体で平均6.1%の増加を示し平成13年から4年続けて増加傾向にある。詳細については統計編を参照して頂きたい。なかでも血清検査の9.3%、生化学検査の7.0%と増加傾向が目立つ。検査件数の増加の要因は、前年度と同様に平均在院日数の短縮及び病床利用率の上昇による患者増と思われる。血清検査室の増加は、感染症項目及び腫瘍マーカー（特にCA15-3、CA125、ST-439）の増加である。生化学検査は、各項目均等に増加している。輸血検査は、前年の22,404件から20,786件と7.3%減少した。減少した理由は、輸血の際の血液型の確認と血液照射の減少から輸血の適正使用が浸透してきたためと考えられる。生理検査は、平成8年度から9年連続増加傾向にある。10年前の検査件数17,400件と比較すると186.9%と著しい増加を示している。なかでも超音波検査の増加が著しい。患者一人に技師一人を必要とする生理検査は、現在の方法では限界にきているのが、患者サービスの低下にならないように努力していきたい。

平成14年度から開始した県立病院間の検体検査協力体制は、順調に推移している。小児医療センターからがんセンターへの依頼項目は、タクロリムス・シクロスポリン・HDL等21項目で前年度に比較し若干増加し5,494件であった。一方、当センターからの依頼件数は、甲状腺ホルモン・NSE等6項目で前年度に比較し17%増の4,541件であった。今後、病院間の検査依頼・報告システムを整備・充実させて、さらに協力体制を強化発展させていきたい。

平成16年度は、多項目血液自動分析装置を3県立病院で共同購入し経営改善に貢献すると共に迅速報告が可能な機器選定をおこなったことで患者サービスにも繋がった。今後も、県立病院間で機器・試薬の共同購入や機器リースを積極的に行うことで4県立病院の検査技術部の連携を更に深めていきたいと思う。

医療環境の変化に伴い、検査室のあり方も刻々と変化しています。我々検査技術部のスタッフは、病院を支える裏方の専門集団として、患者さん、医師、コメディカルスタッフすべての人たちの力になる努力を今後も引き続き行っていきたいと考えています。

## 7 病理検査業務

検査技術部病理検査部門における業務は病理組織診断用標

本作製、細胞診断用標本作製・スクリーニング、剖検介助・標本作製、標本・報告書の保存管理の4業務からなる。また、組織診断用標本作製は手術材料、生検材料、迅速材料について行っている。加えて研究補助業務も行っている。

病理診断は臨床医の治療方針を決定する根拠となることから、診断の正確さと迅速さが要求されている。したがって、その診断用標本作製においても正確で迅速に適切な標本の作製技術が要求される。細胞診断用標本作製・スクリーニングにおいても同様である。さらに近年、医療技術の進歩に伴う針生検検体や内視鏡的消化管粘膜切除検体の急増、組織と細胞診における術中迅速診断用検体の急増、遺伝子工学技術により作製される癌治療薬使用決定に関わる遺伝子検査導入などに対応する為に、より高度な標本作製技術と専門的知識が要求されている。一方では、剖検介助や手術材料の肉眼像の撮影、有害物質であるホルマリンを用いた固定と切出し作業、臓器整理など強靱な体力と精神力を必要とする業務も行っている。

平成16年度の業務件数は、病理組織検査11,872件（迅速診断2,433件）、細胞診検査9,157件、剖検31件（剖検率6%）である。組織検査の件数は前年度と比べ1,402件（迅速件数644件）の増加である。内訳は手術材料が100件の増加、生検材料が628件の増加である。特にここ数年の増加は著しく、平成13年度と比べると組織検査件数は1.26倍、特に迅速件数が2.00倍、生検材料件数が1.24倍で顕著に増加している。細胞診検査件数は9,157件（迅速細胞診断202件）である。平成4年度以降9,000件超の検体数が続いている。免疫組織化学的検査は7,266件、遺伝子検査は52件である。免疫・遺伝子検査件数は前年度比1.61倍である。

近年、近郊の病院の病理学的検査（組織診断、迅速診断）も積極的に受け入れており、地域医療の発展にも貢献している。

## 8 リハビリテーション業務

がんセンターリハビリテーション室では、1) 各外科手術患者に対する術前術後訓練・2) 重症末期患者のADL訓練、コンディショニング訓練・3) 二次性リンパ浮腫の専門治療の提供の3項目を柱に、がんセンターとしての特徴的なリハビリテーション業務を実施している。

本年度も、重症患者のリハビリテーション依頼および外来での二次性リンパ浮腫治療を希望する患者の来室が昨年度に比して増加がみられた。上肢のリンパ浮腫患者を対象にした乳腺外科リンパ浮腫外来を本年度から新設し、週一回術後早期から患者指導に重きを置いた独自のアプローチを開始した。整形外科手術件数の増加による整形外科患者のリハビリテーション件数と、新たに行っている血液科骨髄移植前後のコンディショニングの件数が昨年に比べ増加していることも本年度の特徴と言える。実施件数・依頼件数ともに昨年よりも増加しており、がん治療前後の機能・能力低下に対する特徴的な取り組みが本年度も行えたと思われる。

教育分野に関しては、専門学校東京医療学院理学療法学科の2年次評価実習生を受け入れ臨床指導を行った。また、栃木県立がんセンターから理学療法士の研修生を受け入れ、が

ん領域リハビリテーション及び二次性リンパ浮腫専門治療の指導を3ヶ月間に渡り行った。リンパ浮腫治療に関しては、県内の各訪問看護師の問い合わせに対し見学実習等を受け入れ年間5件の研修生を受け入れた。

## 第3節 薬剤業務

### 1 薬剤業務

薬剤業務は下記に示す業務から成っている。

- |           |                                                                |
|-----------|----------------------------------------------------------------|
| 1) 調剤室    | ① 入院及び外来の一般調剤業務<br>② 院外処方せんの発行業務                               |
| 2) 注射薬室   | ① 注射せんによる注射薬の払い出し業務<br>② 院内製剤等の払い出し業務                          |
| 3) 製剤室    | ① 院内製剤の調整業務<br>② 無菌製剤の調整業務                                     |
| 4) 医薬品情報室 | ① 医薬品等に関する情報の集積と伝達等の業務<br>② 薬剤管理指導業務<br>③ オーダリングシステムの管理業務      |
| 5) 薬品管理室  | ① 医薬品の在庫管理及び発注業務<br>② 適正供給管理及び統計処理業務                           |
| 6) 治験事務室  | ① 治験に係わる申請等の事務手続きに関する業務<br>② 治験薬の管理に関する業務<br>③ 臨床研究審査委員会に関する業務 |
| 7) その他    | ① 麻薬、向精神薬、毒薬の管理に関する業務<br>② 抗がん剤の混注業務<br>③ 薬剤委員会等各種委員会に関する業務    |

平成16年度の調剤実績

外来処方せんは、院内処方せん4,606枚（前年度5,979枚）、院外処方せん59,138枚（前年度56,689枚）で発行率は平均92.77%であった。

入院調剤は48,295枚（前年度48,843枚）、83,884件（前年度85,727件）であった。

注射せんは116,866枚（前年度115,155枚）、490,460件（前年度505,207件）であった。

麻薬注射せんは9,588枚（前年度89,095枚）、製剤等取扱数は9,692枚（前年度10,471枚）、161,918件（前年度172,973件）であった。

骨髄移植に伴う無菌室調整業務は、注射薬件数は182件であった。

抗がん剤混注件数は、外来で14,843件、病棟で2,156件であった。

薬剤管理指導業務は指導件数4,483件で、すべて算定した。

平成16年度の薬剤部業務の詳細は、統計編に示した。

### 2 薬剤委員会

定例会は7回開催し、承認された採用薬、削除薬の薬剤数は統計編に示した。その結果、当センターの採用医薬品数は、

内用薬 577、注射薬 589、外用薬 259の総数・1,426品目となった。

### 3 臨床研究審査委員会

本委員会は、受託研究（治験、市販後臨床試験、市販後調査等）のほかに臨床研究（厚生労働省がん助成金研究、他施設との共同研究、院内自主研究など）についても実施の可否等の審査を行っており、その事務局業務は薬剤部治験事務室で行っている。治験・市販後臨床試験については、GCPに則り変更事項及び有害事象等に関する審議も行っている。

平成16年度の委員会は5回開催したほか、治験・市販後臨床試験における軽微な変更事項については、随時、迅速審査も行った。

受託研究は、契約した件数が33件（治験14件、市販後臨床試験13件、市販後調査6件）であった。16年度は医療用具に関するものではなく、全て医薬品に関するものであった。

臨床研究は、27件を審査した。内訳は、国からの助成金研究6件、他施設との共同研究8件、その他共同研究1件、院内自主研究11件（うち看護研究8件）であった。なお、国からの助成金研究については、厚生労働省がん助成金研究6件（JCOG研究：3件、その他：3件）、厚生科学研究1件であった。

### 4 化学療法委員会

今年度の化学療法セミナーは、平成17年3月10日に「院内統一プロトコルについて」というテーマで実施した。具体的には、各診療科に対して事前に化学療法委員会ですとめた質問事項の回答を発表してもらい、それぞれについて参加者からの質疑応答の形式で進行了。参加人数は107名と関心の高さがうかがわれた。院内統一プロトコルを目指して活発な意見交換が行われ幾つか統一事項が決められたのは大きな成果であった。

### 5 薬学生の実習受入れ

病院における薬剤業務教育指導の一環として、各大学薬学生等の実習を受け入れている。平成16年度の状況は、大学4年生の4週間コース5名、大学院生の6ヶ月実習3名及び3ヶ月実習1名を受け入れた。

### 6 抗がん剤混合調整業務研修受け入れ

薬剤部での抗がん剤混合調整業務の重要性が高まり、各施設から薬剤師の研修要請が毎年きているが、今年度は、以下の施設が来院した。

社会保険群馬中央病院（1名）獨協越谷病院（1名）丸山記念病院（2名）さいたま赤十字病院（1名）さいたま市立病院（2名）本庄総合病院（2名）東京都立病院代表（4名）

#### 統計編

- 1 従来の資料
- 2 院外処方せんの発行状況
- 3 薬剤管理指導業務の実績

#### 4 抗がん剤混注の実績

## 第4節 看護業務

### 1 看護組織

看護部の組織は、副病院長兼看護部長（1名）、副部長（3名うち1名は兼務）を管理職として、その下に16の看護単位があり、それぞれは看護師長、副師長（4看護単位のみ）、主任看護師（各2名）、看護師、看護助手により構成されている。

看護部長は部内を総括し、副看護部長は看護部長の指揮のもとに看護業務の指導と教育をそれぞれ担当している。各看護単位では師長の指揮のもと、副師長、主任看護師をリーダーとし、入院、外来通院患者の看護にあたっている。休日、夜間においては日直、当直師長が看護部長の代理として看護部内の業務を総括している。

平成16年4月1日現在の看護部の定数は看護師310名（デイケアに2名増員され対前年度比+2名となる。ただし育児休業者の代替として7名分の過員採用がされ、4月1日の配置人員は317名）、看護助手7名（業者委託により前年より-1名）の計317名である。

### 2 看護単位

看護単位の内訳は、一般病棟7看護単位、特別病棟4看護単位（有料個室病棟2、緩和ケア病棟、無菌室治療病棟）、特定集中治療室、手術室、外来（放射線診断、放射線治療、内視鏡、外来処置室を含む）、デイケア（看護相談室含む）及び中央材料室である。

### 3 看護体制（夜間看護体制を含む）

病棟における看護職員数は、平成14年度の診療報酬改正から一般病棟Ⅰ群 入院基本料1、夜間勤務等看護加算1と2に準拠している。一般病棟Ⅰ群 入院基本料1の1看護単位当たりの看護職員数は患者2人に対し1人で、看護職員（看護師、准看護師、看護助手）全体に占める看護師の割合が70%以上とされている。さらに、夜間勤務等看護加算1の要件は、夜勤看護職員1人あたり患者数10人以下、平均夜勤時間数72時間以下であり、2は夜勤看護職員1人あたり患者数15人以下である。緩和ケア病棟については患者1.5人に対し看護師1人以上と複数夜勤が要件となっており、ICUについては常時看護師1人あたり患者数2人以下とされている。4月1日における実際の看護職員の配置と夜間看護体制は以下のとおりである。

病棟の看護方式はプライマリーナースング方式で、多くはモジュール型継続受持方式を採用している。

外来は各科受付4、内視鏡室、外来処置室および放射線診断、放射線治療の7グループ編成で、診療科毎に専門性が発揮できるよう看護師の配置を行っている。

デイケアは、通院治療チームと在宅療養支援チームからなっている。

手術室は平日は日勤、遅出勤務で対応し、週末、祝日、年末年始においてはオンコール体制をとっている。

| 看護単位  | 病床数 | 看護師数    | 看護助手数 | 夜勤体制    |
|-------|-----|---------|-------|---------|
| 1病棟   | 44  | 24      | 委託    | 準3、深3   |
| 2病棟   | 44  | 24      | 委託    | 準3、深3   |
| 3病棟   | 43  | 25+（1）  | 委託    | 準3、深3   |
| 5病棟   | 43  | 26      | 委託    | 準3、深3   |
| 6病棟   | 31  | 16      | 委託    | 準2、深2   |
| 7病棟   | 47  | 26      | 委託    | 準3～4、深3 |
| 8病棟   | 52  | 26      | 委託    | 準3～4、深3 |
| 10病棟  | 19  | 15      | 委託    | 準2、深2   |
| 11病棟  | 30  | 14+（1）  | 委託    | 準2、深2   |
| 12病棟  | 21  | 15      | 委託    | 準2、深2   |
| 13病棟  | 18  | 15+（1）  | 委託    | 準2、深2   |
| ICU   | 8   | 26      | 2     | 準4、深4   |
| 手術室   |     | 22      | 1+委託  |         |
| 中央材料室 |     | （兼務1）   | 1+委託  |         |
| 外来    |     | 12+（3）  | 2     | （当直）    |
| デイケア  |     | 7       |       | （当直）    |
| 部長室   |     | 3（1名再掲） |       |         |

上記の表の中で育児休業、産休取得中の者は除いてある。（ ）は臨時的任用者数

### 4 看護職員の人事

平成16年度4月1日現在の看護職員数は看護師317名、看護助手7名、計324名で、これには育児休業者13名、産休者8名が含まれている。平成16年度中に産休・育児休業を取得した職員は35名であった。常時現員数不足から、看護管理室では、病床利用率、入院数、看護度などのデータをもとにリリーフ体制を取っている。

平成16年度は新規採用者が33名（途中採用は4名）あり、退職者は42名（年度途中9名、年度末33名）であった。県立病院間の異動者は転出者18名、転入者17名であった。

平成16年度6月1日における看護師の平均年齢は31.6歳であり、看護師としての経験年数は9.8年、既婚率は45.4%となっている。

例年、4月と10月に職場の活性化、看護力の平準化、看護師の能力開発・活用を目的に院内異動を実施している。今年度の4月異動は師長1名、主任看護師3名、看護師14名であり、10月異動は看護師4名であった。なお看護助手については業者委託の関係で4月に2名の異動を組んだ。

### 5 管理・運営

看護部門の業務は、入院患者の看護、外来通院患者の看護業務、手術室、中央材料室などの中央サービス部門業務に分かれ、次に掲げる看護部の理念に基づき、それぞれの特殊性に応じ、かつ状況の変化に対応した管理・運営を看護部の理念に基づいて実施している。委員会活動も活発で今年度は重点目標1の達成のため、新たに「看護計画共有化推進委員会」と教育担当主任を中心とした「看護計画共有化推進担当者会議」を発足させ活動をした。さらにがん化学療法認定看護師が中心となり「看護部化学療法委員会」を立ち上げるなど重点目標達成に努めた。

## 看護部の理念

がんセンターの理念に基づき、患者の権利を尊重し、個々のニーズに応じた患者中心の質の高い看護を提供する。

この理念を受けて、平成16年度の看護部の方針と目標を以下のとおりとした。

## 方針

- 1 患者と家族のQOLを重視し、専門的な知識・技術に支えられた心のこもった看護を提供する。
- 2 患者と家族が十分な情報提供のもとに、自己決定できるよう支援する。
- 3 経営的視点を持ち、効率的な看護業務の実践に努める。
- 4 他職種専門性を尊重し、共働してがん医療の向上に貢献する。
- 5 がんセンターの職員としての自覚を持ち、豊かな人間性の涵養と自己のキャリア開発に努める。

## 重点目標

### I 患者主体の看護実践の推進

- 1 看護におけるインフォームド・コンセントの推進
  - ①患者・家族への十分な説明と自己決定への支援をする
  - ②患者との看護計画の共有化を推進する
- 2 開示にむけた看護記録内容の充実
  - ①看護がわかる看護記録に努める
  - ②のぞましい記録のあり方にむけた取り組み
- 3 専門性の高いがん看護の実践に努める
  - ①状況に応じた的確な看護判断と看護技術が提供できる
  - ②看護師個々のキャリア開発への取り組みを支援する
  - ③実践に役立つ看護研究に取り組む
- 4 患者サービス向上の推進
  - ①入院環境の整備に努める
  - ②接遇マナーの向上に努める
  - ③患者の声を看護に活かす努力をする

### II 安全な医療・看護の確保

- 1 医療安全推進委員会を中心とした事故防止対策の推進をする
  - ①インシデント・アクシデントレポートの分析とその対策
  - ②他施設の情報の共有化と有効活用を図る
  - ③安全管理を視点にした職場環境整備に努める
- 2 日常看護に必要な各種マニュアルの有効活用

### III 経営改善への取り組み

- 1 コスト意識を高く持つ
  - ①診療報酬請求漏れ対応に努める
- 2 医療費用の節減
  - ①診療材料の適性使用と適切な在庫管理
  - ②業務改善と時間外勤務削減に努める
- 3 病床利用率90% 平均在院日数17日以内の確保
  - ①各病棟ごとの目標値の設定
  - ②各病棟間や医師との連携によるスムーズな緊急入院対応に努める

## IV 職務環境整備

- 1 看護必要度調査の検討
- 2 リリーフ体制を堅持する
- 3 年休取得（11日／年）の平均化と連続休暇取得にむけ努力する

## 6 教育・研修・研究

看護職員の教育は、教育担当副部長が中心となり教育委員会で企画・実施している。

教育には、①組織の一員としての役割責任を自覚し、行動できる能力を養う。②プライマリーナースとして、人間性を尊重した患者中心の看護が実践できる能力を養う。③がん看護の専門的知識・技術を深め、看護の実践能力を高める。④科学的根拠に基づいた看護が提供できるよう、研究的態度を養う。⑤専門職業人として、キャリアアップの必要性を自覚し、主体的に学び続ける姿勢を養う。という5つの教育目標を掲げている。

教育の体系はクリニカルラダーに規定された臨床実践能力の到達レベルに応じた教育とがん看護専門研修の2つに大きく分けられている。院内教育は教育委員会が企画した集合教育と各看護単位での分散教育を実施している。その他、院外教育・研修についても看護協会関係をはじめとして各種の研修会に計画的・積極的に派遣している。

新人看護師の教育には従来どおりプリセプターシップを採用し、新人看護師のリアリティショックの予防と臨床看護実践能力の習得に効果を挙げている。

研究については、前年度に引き続き外部講師の指導を受け、質の高い研究を行うことで院外各種学会・研究会等に25題の演題を発表した。

## 7 実習および研修の受入れ

県立大学、県立大学短期大学部、県立高等看護学院、県立常盤女子高校の4校の実習を受け入れており、延べ週数は7部署で78週、延べ人数は2,017名であった。日本看護協会のホスピスケア認定看護師養成研修については、2名の研修生を受け入れた。

## 第5節 栄養業務

栄養業務は、患者の病状に応じて適正な食事を提供し、疾病の治癒あるいは病状の回復を促進するものである。このために、栄養の質と量をコントロールしながら、患者の嗜好・年齢・性別などを考慮し、患者ひとりひとりのニーズに応じた食事が提供できるよう努めている。

### 1 栄養管理

患者の入院生活の中で唯一の楽しみは食事であるといわれている。病院の食事は治療の一環という観点から、多少の制約・制限を伴うが、可能な限り、潤いのある「おいしい」食事になるよう努め、治療効果が上がる食事づくりを心がけている。

社会保険診療報酬の入院時食事療養〔Ⅰ〕の承認を受け栄

養業務を行っている。

給食は、当センターの「栄養・食事摂取管理基準（約束食事箋）」に基づいて提供した。食種は次のように分類されている。

#### （１）食種の分類

ア 一般食（常食・軟菜・５分菜・３分菜・流動菜と子供食・離乳食及び希望限定食）

疾病治療の補助手段として提供。

イ 特別治療食

（栄養成分コントロール食〔エネルギー・たんぱく質・脂質・塩分〕・潰瘍食・低残渣食・消化器５回食・ミキサー食・放治食・経管栄養・無菌食）

疾病治療の直接手段として用いられる食事。医師の発行する食事箋に基づいて調整し、提供。

ウ 検査食（ヨード禁食・注腸食）

患者の疾病状態や生理機能を検査するために、特別に調整し、提供。

エ その他（緩和ケア食）

患者の病状に応じ個別対応した食事を提供。

#### （２）給食数

平成16年度の患者給食状況は、総食数297,444食（１日平均815食）で、前年度対比は4.2%（12,925食）の減であった。

これを食種別に見ると、一般食が延べ233,361食（１日平均639食）前年度対比は4.8%（11,675食）の減、特別治療食は延べ63,612食（１日平均174食）で、前年度対比は1.5%（971食）の減、検査食は延べ471食（１日平均1食）で、前年度対比は37.2%（279食）の減であった。

## ２ 栄養食事指導

栄養食事指導は、外来・入院患者共に医師からの依頼に基づいて随時実施している。

患者とその家族に対して、食事療法の意義や疾病・食事について食事管理が実践できるよう、具体的にきめ細かな指導を行っている。

個別指導件数は延べ940人（入院697人・外来243人）で、前年度対比25.0%（188人）の増であった。

栄養食事指導の主な疾病内訳は、消化器術後721人（胃305人・大腸290人・食道108人・膵臓18人）、肝臓病35人、糖尿病34人、イレウス47人、腎臓病10人、その他（ミキサー食含む）77人である。無菌室入室予定者の面接指導は９人、緩和ケア食希望者の面接指導は７人であった。

集団指導は、看護部事業「がんを知って歩む会」への参加協力として２回・延べ29人及び、デイケアセンターに於いて１回・11人に実施した。

## ３ 栄養委員会

平成16年度は４回、下記の内容について審議した。

- ・ 栄養委員会規程の改正
- ・ 平成15年度業務報告
- ・ 選択メニューについて
- ・ 病棟盛り付けサービスについて
- ・ 温冷配膳車導入について

- ・ 誕生日メニューについて
- ・ 微量栄養素補助食品について
- ・ 特別指示の対応について
- ・ オード締め切り時間後の対応について

## ４ 学生実習の受入れ

臨床における栄養管理の実際を実地に訓練することを目的として、各大学・専門学校から実習生を受け入れている。平成16年度の状況は、十文字学園女子大学から２週２名であった。

## ５ その他

### 《選択メニュー》

平成16年11月から東館４病棟に新たに６病棟を加え、５病棟での実施を開始した。実施状況は、延べ3,188人で、前年度比90.0%（1,510人）の増であった。来年度、順次対象病棟を増やしていく予定。

### 《病棟盛り付け》

「温かいものをより温かく」提供するため、金曜日の麺及び選択メニューの麺提供時に病棟での盛り付けサービスを行った。専用の作務衣を着て盛り付けたが、「雰囲気が変わり、麺が温かく食べられる」と概ね好評を得た。東館病棟のみの実施であるが、順次対象病棟を増やしていく予定。

### 《誕生日メニュー》

平成16年11月から誕生日の方にメッセージカードとケーキ等の提供を開始し、概ね好評を得ている。

### 《温冷配膳車の導入》

食事を適温で配膳するため、温冷配膳車を12病棟に導入した。導入に伴い、作業手順の変更と専用のお盆・食器を新たに購入した。来年度、無菌・緩和ケア病棟に導入の予定。

### 《教育・研修》

ミーティング（毎朝・毎月定例）・部内研修（毎月定例）の実施、鴻巣保健所管内給食研究会への参加、自治体病院協議会研修会等の参加など、様々な機会を通じて職員の技術・意欲の向上を図っている。

### 《施設》

調理室用スポットクーラーを設置し、夏場の高温多湿となる作業環境の改善を図った。

## 第 6 節 院内がん登録業務

当センターでは、主として悪性新生物の疾患に関し必要な医療の提供を行うために、院内がん登録を昭和50年の開設以来実施している。がんの診断及び治療を行った全症例並びに良性腫瘍の症例について、医師が直接コンピュータに入力することにより、がん診療の実態把握に努めている。

平成16年1月1日から平成16年12月31日までの1年間の院

内がん新規登録症例数は2,661例（男1,424例・女1,237例）であり、前年に比べて166例（6.7%）の増加となった。

各臓器別の悪性新生物のうち、新規登録数の多いものは、乳がん478例、胃がん374例、肺がん350例、大腸がん272例、食道がん138例、子宮がん130例、悪性リンパ腫102例、肝臓がん72例、舌がん及び腭臓がんがそれぞれ56例の順であった。これらの疾患を昨年と比較すると、乳がんが26.8%増で最も増加した。続いて悪性リンパ腫21.4%、大腸がん12.4%、食道がん5.3%、胃がん3.0%増となった。また、その他の臓器は減少した。

なお、統計編に「院内がん登録新規登録件数」及び「部位別・性別患者相対生存率（5年相対生存率推移）」について掲載した。

## 第7節 医療社会事業業務

### 1 相談体制

昭和62年7月から平成2年3月まで、専任の医療社会事業職1名が非常勤で相談にあたっていたが、平成2年4月から平成10年3月まで常勤1名となり、平成10年4月から1名増員され常勤2名の複数体制となり、平成16年4月からは常勤2名、非常勤1名となった。組織上は事務局業務部医事経営担当内に所属している。

### 2 相談実績

平成16年4月より、ソーシャルワーカーが非常勤1名増加したため、全体数として相談件数は増加している。相談実人数は昨年度より570名（約41％）増加して1,964名、新規相談者は591名（約94.7％）増加して1,215名であった。相談延件数は、昨年度と比較して3,133件増加し5,668件となり、延べ件数は約2.2倍となっている。

ケース紹介経路は、患者・家族から直接の相談が1位を占め、次いで看護師からの紹介が2位、医師からの紹介が3位となった。院内からの新規紹介経路としては、オーダーリングシステムによる予約を主としているが、危機介入となることが多く、患者・家族からの直接的な相談が多くなっている。

### 3 相談内容

医療社会事業（ソーシャルワーク）は、疾病から派生する社会生活上の諸問題や心理的、社会的問題を抱えた患者と家族を対象としている。

業務の中心は個別的な援助（ケースワーク）であり、具体的な社会生活上の問題に対して既存の社会資源の紹介に留まらない問題が多い。個別相談のうち比率が高かったのは、昨年と同様に1位から「医療費の相談」、「退院の関係」、「心理・社会的援助」の順であった。

在院日数の短縮化に伴い、転院調整・在宅療養への援助については介入してから退院までの日が短く、相談延件数は減少したと思われるが、内容に関しては介護保険制度の活用と調整の業務が加わったため、複雑化している。実際は地域との関係機関との連携、協働が主であるので、地域活動と内容が重なっていることが多い。地域活動の件数が少ないのは、そ

## 第 8 節 診療材料等管理業務

診療材料等委員会は、診療材料等（診療材料、試薬）の採用について、その適否を審議し、診療材料等を適正かつ効率的に購入、使用及び管理することを目的とした委員会である。平成16年度は、7回の委員会を開催し、新規採用品目の適否の審議や削除品目の検討を行った。

また、診療材料等の物品管理については、物品管理センターにおいて、適正な物品の在庫管理を行うとともにディスプレイ診療材料、事務用消耗品、印刷物の一部を常備し、各部門からの物品請求に基づき、定期的に払い出しを行っている。

業務統計については、統計編に示した。

## 第4章 研 究 業 務

### 第1節 概要

研究室においては、がんの診断、治療、予防の3分野において臨床に役立つ研究を行うべくその具体的実行を推進している。研究室以外の各部門においては、がんの臨床研究を主体に進められている。また、研究室と臨床各部科が共同研究を行い、がんの予防、診断、治療に関して多くの研究成果をあげている。

遺伝子診断室において、がんの遺伝子診断に関する研究室と臨床各部科との共同研究が行われ、リンパ腫の遺伝子診断が実用化され、日常診断に役立っている。さらに、大腸癌の二次癌予知のための遺伝子診断の臨床応用も成果が得られている。

これらの研究は、当センターの予算の研究研修費に加え、文部科学省の科学研究費補助金、厚生労働省がん克服戦略研究事業による研究費、その他の研究助成費などからの交付により行われている。また、本年度も国内外の学会および学術論文などを通して当センターにおける研究が多数発表された。

10個の候補遺伝子サブセットを用いて乳癌のホルモン療法奏効性予測する系の開発， 2) K-ras遺伝子と結合して腫瘍増殖を抑制する可能性のあるRNAアプタマーの作製， 3) HGFに結合するDNAアプタマーの作製などが挙げられる。

研究費は，県からの研究研修費，文部科学省，厚生労働省，農林水産省等からの研究費，及び，その他民間の研究財団からの助成金を受けている。各研究者の研究評価会を「埼玉県立がんセンターの研究課題評価要綱」に基づいて，平成17年2月24日（木）に研究室カンファレンスルームで実施した。研究員全員がパワーポイントを使用して研究結果を口演し，質疑応答後，当センターの病院長，副病院長，研究室長の計3名と外部評価委員である千葉県がんセンター研究所長が評価を行った。評価結果を後日，本人に文書で知らせた。研究業績としては英文論文17報，和文総説13報を出版した。

研究室全体の行事として，毎週金曜日に当研究室研究員による研究成果発表会を行なっている。その他，不定期に外部講師による研究所セミナーや，研究室・病院合同セミナーを開催している。

## 第2節 研究室における活動と研究

研究室の組織は，1) がん診断研究担当，2) がん治療研究担当，3) がん予防研究担当の3部門で構成され，各担当はさらに2－3のグループから成っている。研究室は，室長1，研究員13，研究補助員1，嘱託1の16名の職員と，他大学などからの研究生および研究補助員など約15名，計30名で研究を実施している。その他に，病院と共同で遺伝子診断室を運営している。

研究は「将来のがん医療を担う」を基本理念として，成果を臨床に生かすという視点で実施している。研究は研究室内で独自に実施しているものと，当がんセンターの臨床各科や複数の大学，研究所，企業と共同して行っているものがある。主な共同研究としては，“埼玉県地域結集型共同研究事業の「高速分子進化による高機能バイオ分子の創出」に参加し，がんの診断薬，治療薬を開発する研究に携わっている。

各担当の研究テーマを以下に記します。

- 1) がん予防研究担当：a. 化学発がん物質の細胞内情報伝達の解析に基づく発がん予防の研究，b. 緑茶成分のがん予防機構の分子生物学的解析とピロリ菌による胃がん発生の予防法の開発
- 2) がん診断研究担当：a. 小児がん，白血病の染色体異常の発生機構に関する研究，b. 癌好発マウスJF1の癌発生機構，c. 乳癌に対するホルモン療法奏効性予測診断法の開発
- 3) がん治療研究担当：a. 癌細胞の抗癌剤への感受性を高める分化誘導剤の発見の研究，b. 機能性RNAやDNAを用いた癌の治療法や診断法の開発

今年度の臨床応用可能な代表的研究成果としては，1) 約

### 第3節 臨床各部門における研究

平成16年度の臨床各部門における研究および研究業績は、この年報の研究編第2章に記載してある。臨床各部門における研究は、医師、薬剤師、放射線技師、臨床検査技師、臨床病理技師、看護師、栄養士、MSWなど職種ごとの専門別の研究と、職種を超えた共同研究があり、部門によっては研究室との共同研究を行っている。本年度には、一般課題研究公募に対し39名の医師が応募（42課題）し、各研究課題に対して課題別研究費を配分した。研究成果は、年度末に院内で開催された課題別研究発表会で報告され、各課題に対し指導、評価を行った。また、厚生労働省のがん研究助成金や文部科学省の科学研究費による研究も行っており、厚生労働省がん克服戦略事業にも主任あるいは分担研究者として参加している。先進的ながん医療としては、がんの遺伝子診断および遺伝子治療に関する研究を継続して行っている。この他に、治験等の受託研究、公的な研究、他施設や企業との共同研究、院内における自主研究などを積極的に行っている。

また全国がん成人病センター協議会加盟施設として、全がん協が推進している院内がん登録と地域がん登録に積極的に協力している。さらに地域がん診療拠点病院として、地域のがん医療の均てん化を図るため病病、病診連携も緊密に行っている。訪問看護ステーションおよびMSWは、地域の医療機関と連携して在宅医療に積極的に取り組んでいる。一方、外来化学療法を行っているデイケアセンターは、わが国でも1～2位の症例数を数えており、その先進的なシステムの見学に各地の施設が来院している。

諸外国との国際交流も従来と同様であり、海外からの研究者も多く来院し、がんに対する共同研究も積極的に行っている。平成2年度に指定を受けた「がん疼痛治療とクオリテ

イ・オブ・ライフに関するWHO研究協力センター」の活動も継続して行っている。中国山西省腫瘍医院とは日中友好の交流を深めてきたが、本年度は研修医の受け入れはなかった。

このように当センターは、職員が一丸となってがんの克服を目指し、最先端の技術と設備を備えた環境のもとで、患者中心の医療を掲げ、がんの診断、治療、看護を積極的に実践している。

# 第1章 研究室関係

## 第1節 研究室における主要研究課題

| グループ名    | 課 題 名                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                   |
|----------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| がん予防研究担当 | <ol style="list-style-type: none"> <li>1 表皮組織におけるA h Rの分布様式と生理機能</li> <li>2 ダイオキシンの毒性発見メカニズムの解析</li> <li>3 <i>H.pylori</i>の新規分泌タンパク質Tip <math>\alpha</math>による胃発がん機構とがん予防に関する研究</li> <li>4 緑茶によるがん予防の研究</li> </ol>                                                                                                                                                      |
| がん診断研究担当 | <ol style="list-style-type: none"> <li>1 ウイルス腫瘍における染色体異常とIGF2インプリンティングの消失</li> <li>2 Wilmsにおける染色体異数性の発生機構</li> <li>3 自然発症疾患モデルマウスの発見と樹立</li> <li>4 大腸癌の比較プロテオーム解析</li> <li>5 JF1マウスにおける自然発症癌好発のメカニズム</li> <li>6 乳癌の間質細胞が制御するエストロゲンシグナルと予後因子との相関</li> </ol>                                                                                                              |
| がん治療研究担当 | <ol style="list-style-type: none"> <li>1 血清NM23蛋白質による予後診断とその生物学的基盤の解析</li> <li>2 HGFによる腫瘍細胞の浸潤を阻止するDNAアプタマーの創出</li> <li>3 HGF（肝細胞増殖因子）産生機構の解明とその制御</li> <li>4 新規分化誘導剤cotylenin Aによる抗癌活性の誘導とその作用機構の解析</li> <li>5 がん細胞と樹状細胞との融合細胞によるワクチン療法とCTL療法に向けて</li> <li>6 癌関連因子に対するアプタマー作成と診断・治療法の開発</li> <li>7 機能性RNAと治療デザイン</li> <li>8 大腸がんにおける新規KRAS遺伝子変異の機能解析とその臨床応用</li> </ol> |

## 第2節 研究課題および研究結果

### 1 がん予防研究担当

#### <研究課題>

表皮組織におけるAhRの分布様式と生理機能

#### <研究者氏名>

川尻 要, 生田統悟

病院：小林康人

#### <目的・成果>

##### 1) 損傷修復とAhR

皮膚組織でのAhR機能をさらに検討するため、創傷治癒の過程を正常なマウスとAhRノックアウトマウスで比較した。創傷治癒は表皮角化細胞の増殖、分化、運動等の基本的な性質のみならず、真皮組織や免疫細胞と表皮との調和された相互作用の中で進行するもので、AhR機能が多様な生物現象に投影されて観察されることが期待出来る。まず、胎生期から出生直後の正常マウスの皮膚を、抗AhR抗体を用いて免疫染色をおこなった結果、表皮の基底細胞や毛嚢組織が強く染色された。次に正常およびAhRノックアウトマウスの背部皮膚をデルマパンチで切除し、治癒過程を次第に小さくなる傷の面積として測定した。治癒過程は、免疫反応が盛んな初期、細胞増殖が盛んな中期、組織が再構築される後期に大別される。測定の結果、面積に統計的有意差が見られるのは初期であり、ノックアウトマウスの方

が速く傷が治ることがわかった。

##### 2) 毛胞形成とAhR

毛胞はプラコード形成から始まり、毛芽、毛杭の段階を経て形成される。AhRはマウス発生後期から表皮で発現が観察され、内毛根鞘、外毛根鞘、毛幹、毛母基など上皮性細胞由来の組織のみならず間充織細胞由来の毛乳頭にも発現していた。また、毛周期と連動して発現レベルとその局在性が変化していた。（日本学術振興会科学研究補助金基盤研究（B）（2）、科学技術振興機構SORST、日本学術振興会科学研究補助金若手研究（B）の交付を受けた。）

#### <今後の計画>

創傷治癒及び毛胞形成におけるAhRの機能を、培養細胞や組織レベルで解析する。

#### <研究課題>

ダイオキシンの毒性発現メカニズムの解析

#### <研究者氏名>

生田統悟, 川尻 要

#### <目的・成果>

ダイオキシンは催奇形性や生殖毒性の他に発がん性を持っているといわれており、これらの生物作用はAhR（Ah receptor）とARNT（AhR nuclear translocator）の仲介により引き起こされていると考えられている。近年、AhRノックアウトマウスを用いた実験から、AhRが発癌の過程で重要な役割をすることを示唆する結果が報告されている。

この研究はAhRの細胞内における作用機構を解析することにより、ダイオキシンの毒性発現機構を明らかにし、がん予防に寄与することを目的とする。

AhRは、bHLH-PAS familyに属する受容体型転写因子である。リガンドとなるダイオキシンなど環境中の変異原物質と結合して活性化されると、細胞質から核へ移行してARNT蛋白質と複合体を形成し、DNA上のxenobiotics response element (XRE) に結合して転写を調節する。細胞内では外来リガンドに依存しないAhR本来の役割があると考えられるが、これについては不明点が多い。昨年までに我々は、表皮角化細胞株HaCaTを低カルシウム培地 (SMEM) で培養すると、E-cadherinの発現様式の変化と並行してXRE依存的な転写が活性化されることを見出した。本研究はAhR/ARNTの標的遺伝子を解析することにより、AhRの細胞内における機能を明らかにすることを目的とした。組織形成やがんの浸潤・転移の過程にみられる上皮-間葉転換に関わるSlug遺伝子がXREコンセンサス配列をもつことに着目し、その転写調節について検討した。ヒトgenomic DNAから、Slugの転写調節領域をPCRで増幅した。ルシフェラーゼアッセイの結果から、Slugの転写はAhRに依存して活性化されることが示された。またAhR/ARNT複合体は、Slug開始コドンの上流約0.8kbに位置するXREに結合することがゲルシフトアッセイやChIPアッセイから示された。次にHaCaT細胞でSlugのmRNA量を、RT-PCRにより調べた結果、外来リガンドであるメチルコラントレンまたはSMEMによる刺激で、Slug mRNA量は増加した。これらよりヒトSlugの転写は、AhR/ARNT/XRE複合体により活性化されることが示唆された。(日本学術振興会科学研究補助金基盤研究 (B) (2), 科学技術振興機構SORST, 日本学術振興会科学研究補助金若手研究 (B) の交付を受けた。)

#### <今後の計画>

遺伝子工学的な手法を用いて、ケラチノサイトのAhR発現を増加または低下させ、細胞に現れる変化を細胞間接着や細胞運動に着目して解析する。

#### <研究課題>

**H. pyloriの新規分泌タンパク質Tip  $\alpha$  による胃発がん機構とがん予防に関する研究**

#### <研究者氏名>

菅沼雅美

病院：山口研成

#### <目的・成果>

胃がんは依然として男女ともに日本で最も多く、その予防は重要な課題である。H. pyloriの感染が胃がんの発症に深く関わっていることから、H. pyloriの除菌が、胃がんの予防に有効であると考えられている。しかし、抗生物質耐性菌の増加による除菌率の低下や出血性大腸炎などの副作用が次の問題となってきた。H. pyloriによる発がん機構の解明は、除菌とは異なる新しいがん予防法の確立に役立つと考える。

私どもは、H. pyloriの発がん因子としてNF- $\kappa$ B活性化因子であるTNF- $\alpha$  inducing protein (Tip  $\alpha$ ) を見出した。Tip  $\alpha$  はNF- $\kappa$ Bの活性化を介して、TNF- $\alpha$  を強力に誘導し、

発がんを促進することを証明した。Tip  $\alpha$  遺伝子は、cagPAI領域外にコードされる遺伝子であり、その遺伝子産物は19kDaのタンパク質であり、発がん因子として知られているCagAとは全く異なる。Tip  $\alpha$  は、胃がん、胃炎、胃潰瘍の患者から分離した臨床分離株から38kDaの2量体として分泌され、その活性には、N末端側のシステインを介した2量体の形成が重要である。すなわち、N末側の6アミノ酸(2つのシステインを含む)を欠失したdel-Tip  $\alpha$  は、2量体を形成せず、NF- $\kappa$ Bの活性化と発がん性も示さなかった。また、Tip  $\alpha$  はTypeIV分泌システムを介さずに、胃上皮細胞に取り込まれることを見出した。Tip  $\alpha$  の2量体形成を阻害するN-acetylcysteine (NAC) は、Tip  $\alpha$  の細胞内への取込みを抑制してTNF- $\alpha$  遺伝子発現を抑制することを見出した。NACは、肺がん予防の臨床試験に用いられているがん予防物質であり、毒性がないので胃がんの予防にも応用できると期待される。

(文部科学省科学研究費補助金特定領域研究 (C) (2) の交付を受けた。)

#### <今後の計画>

Tip  $\alpha$  のレセプターを明らかにし、その発がん機構の研究を進める。更に、臨床分離株のTip  $\alpha$  産生量やシークエンスの違いと胃炎や胃がんなどの病態との関連を明らかにする。Tip  $\alpha$  の活性抑制を指標に、より強力な抑制物質を検索する。

#### <研究課題>

**緑茶によるがん予防の研究**

#### <研究者氏名>

菅沼雅美

#### <目的・成果>

緑茶は、がん予防飲み物という新しいカテゴリーに含まれ、誰もが実施できる実用的ながん予防法である。これまでの研究から、1日10杯分の緑茶飲用をがん予防有効量と考え、埼玉農林総合研究センター、茶業特産研究所と共同で低カフェイン緑茶エキス粒 (GTE) を開発し、個人個人の関心と意識に基づく原発がんの予防を進めている。

緑茶のがん予防成分であるEGCGをがん予防薬と併用すると相乗予防効果を示すことを私どもは見出した。緑茶は標的臓器が幅広く、毒性がないので、がん予防薬の副作用を軽減して予防効果を強めるcombination cancer prevention「併用がん予防」に役立つと注目されている。緑茶を基盤とする効果的な「併用がん予防法」を開発して、がん治療後の二次原発がんや再発予防に応用することを目的としている。これまで、EGCGとsulindacの併用処理は、肺がん細胞PC-9のアポトーシスを相乗的に誘導し、GADD153とp21<sup>WAF1</sup>遺伝子を強く発現亢進することを報告した。今回、これら遺伝子の重要性を検討するため、特異的COX-2阻害剤であるcelecoxibを用いてEGCGとの併用効果とその作用機構を検討した。EGCGとcelecoxibの併用は、GADD153遺伝子とタンパク質の発現を強力に誘導し、PC-9細胞のアポトーシスを強力に誘導した。Celecoxib単独、あるいは、EGCG単独処理では、いずれも誘導されなかった。一方、EGCGとcelecoxibの併用処理は、p21<sup>WAF1</sup>とGADD45遺伝子の発現を亢進しなかった。

GADD153は、EGCGとがん予防薬との併用によって特異的に誘導され、相乗的アポトーシスを誘導していると考えられる。次に、GADD153遺伝子の発現機構を検討し、EGCGとcelecoxibの併用処理は、ERK1/2とp38 MAPKを活性化することを見出した。ERK1/2特異的阻害剤は、GADD153遺伝子の発現を抑制して相乗的アポトーシスの誘導を阻害した。しかし、p38MAPK特異的阻害剤は、いずれも抑制しなかった。すなわち、EGCGとcelecoxibの併用は、ERKシグナルカスケードを介してGADD153遺伝子を高発現し、肺がん細胞のアポトーシスを強力に誘導すると理解される。GADD153の発現亢進は、EGCGを基盤とする「併用がん予防」の重要な分子機構であり、新しいがん予防機構であると考えられる。

(文部科学省科学研究費補助金特定領域研究 (C) (2) の交付を受けた。)

#### <今後の計画>

肺がんの予防に役立てるため、緑茶とがん予防薬との併用による効果的ながん予防法を開発する。GADD153の重要性を*in vivo*で検討する。

## 2 がん診断研究担当

#### <研究課題>

ウイルス腫瘍における染色体異常とIGF2インプリンティングの消失

#### <研究者氏名>

金子安比古, 春田雅之, 渡辺直樹\*, 菅原和華\*  
(\*研修生)

#### <目的・成果>

ウイルス腫瘍は代表的な小児の腎腫瘍である。その原因遺伝子としてWT1が単離されたが、WT1異常はこの腫瘍の15~20%にみられるに過ぎない。この腫瘍にはIGF2のインプリンティングの消失 (LOI) やIGF2のヘテロ接合性消失 (LOH) によりIGF2が過剰発現することが知られている。IGF2は父性発現する胎児期の増殖因子であり、LOIやLOHによりIGF2が過剰発現し、その結果、細胞が異常増殖すると考えられている。

ウイルス腫瘍44例を、IGF2のLOIを示す7例、IGF2のLOHを示す12例、IGF2の正常インプリンティングを示す (ROI) 17例、WT1異常を示す8例に分類した。また、44例について染色体およびcomparative genomic hybridization (CGH) 分析を実施し、4例以上にみられた共通する染色体異常と上記4群との関係を調べた。WT1異常群の平均染色体異常数は他3群に比較して少なかった。LOI群では、3つの染色体異常11q-, +12, 16q-の頻度が他群に比較して高かった。IGF2を過剰発現させる機構としてIGF2のLOI, LOHおよび11トリソミーによる父性IGF2の重複が考えられる。しかしながら、11q-をもつ腫瘍では腫瘍化に関わる癌抑制遺伝子が11qに位置するので、11トリソミー化は腫瘍に不利益をもたらす。そこでLOIによりIGF2の過剰発現を来すと推測される。+12型腫瘍においても、11q-腫瘍と同様な理由でIGF2のLOIが生じると考えられる。16qにはインシュレーター蛋白をコードするCTCFが位置しており、16q-によりイ

ンシュレーター蛋白量が減少するため母性IGF2のインプリントがはずれ、LOIが発生すると考えられている。今回の研究によりウイルス腫瘍におけるIGF2のLOIと染色体異常の関係が明らかになった。

#### <今後の計画>

今回の研究でIGF2の正常インプリンティングを示す (ROI) 群については、遺伝子・染色体異常の特徴が明らかではない。これらを明らかにしたい。

#### <研究課題>

Wilmsにおける染色体異数性の発生機構

#### <研究者氏名>

春田雅之, 金子安比古

#### <目的・成果>

遺伝子のプロモーター領域であるCpG islandのメチル化 (エピジェネティックな修飾) は遺伝子発現の抑制を誘導する。近年、様々な腫瘍にて多数のがん抑制遺伝子のCpG islandのメチル化による発現消失が報告されている。細胞周期チェックポイントの異常は細胞増殖や染色体不安定性を引き起こし、腫瘍化の引き金になると考えられているが、細胞周期異常をきたす細胞周期チェックポイント遺伝子の変異はごくまれであることからメチル化による発現消失が関与していると考えられる。Wilms腫瘍は1万人に1人の割合で生じ、全小児固形腫瘍の6-8%を占める腎腫瘍で予後良好群と不良群に分けられるが、その生物学的特徴は未解明な部分が多い。Wilms腫瘍の30%は染色体数が50異常に増加する高2倍性核型群を示し、原因遺伝子であるWT1に異常が認められない。Wilms腫瘍発生機序および染色体異数性と細胞周期チェックポイント (特にM期制御遺伝子) 異常との相関をメチル化および蛋白定量を用い解析した。これまでの研究よりDNAメチル化によるがん抑制遺伝子の発現異常は比較的早期に生じることから早期診断に、また、予後との相関が示唆されている遺伝子が報告されていることから予後診断にも本研究が活用できる可能性がある。

がん抑制遺伝子RASSF1Aは、様々な腫瘍においてプロモーター領域であるCpG islandのメチル化が高頻度に報告されており、メチル化とRASSF1Aの発現抑制との関連がpromoter assayや多くの細胞株で示されている。さらにRASSF1Aの発現が抑制されている細胞株に脱メチル化剤を投与すると、発現の再活性化およびコロニー形成能の低下がみられる。RASSF1Aの発現抑制が中心体異常や紡錘糸異常そしてM期進行を促進することが報告されており、これらのことからRASSF1A遺伝子のプロモーター領域のメチル化はその発現を抑制し、染色体異数性の原因になりえる。また、スピンドルチェックポイント遺伝子BUBR1の突然変異および発現消失により、染色体異数性を示す腫瘍形成が報告されている。しかし、BUBR1に関しては発現消失とCpG islandのメチル化との相関は未だはっきりしていない。そこでRASSF1Aに関してはCpG islandのメチル化を、またBUBR1はタンパクの発現を解析したところ、高2倍性核型群のWilms腫瘍では20例中19例 (95%)、非高2倍性核型群67例中38例 (56.7%) にメチル化を認めた (P=0.0016)。また、高

2 倍性核型群ではBUBR1のタンパク量は非高 2 倍性核型群の半分以下であった。調べた検体においてBUBR1の変異は認めなかった。このことは、エピジェネティックな異常が染色体異数性と関与していることを示す。

#### <今後の計画>

RASSF1AではCpG islandのメチル化がタンパク量低下の原因であることを確認する。また、BUB1Rに関してはpromoter assayを行い、メチル化により発現が制御されていることを確認した後、CpG islandのメチル化を調べる。また、BUB1、MAD2などの他のスピンドルチェックポイント遺伝子に関してもエピジェネティックな異常を調べ、染色体異数性を示すWilms腫瘍でゲノムワイドなメチル化が起きているのかどうか解析する。また、それらが予後と関与するのかも調べる。

#### <研究課題>

##### 自然発症疾患モデルマウスの発見と樹立

#### <研究者氏名>

松島芳文

#### <目的・成果>

##### 1. エンドセリンB型受容体 (*Ednrb*) 変異マウスJF1と自然発症癌

日本産愛玩用マウス由来の近交系であるJF1マウスは、俗にパンダマウスともいわれ、特異なコートカラーを呈するが、その原因はエンドセリン受容体遺伝子の変異に起因する。最近、松島はJF1マウスに種々の自然発症癌が高頻度に発症することに気付いた。それは、乳癌、耳下腺・顎下腺癌などであり、そのうち顎下腺癌、乳癌由来の癌を同系のJF1マウスに移植した結果、強い増殖能を示し、継代可能であった。またそのうち顎下腺癌細胞の培養系は渡辺によって樹立された。

一方、ヒトでは近年、エンドセリン受容体の発現低下と前立腺癌悪性化との関係が知られるようになり、本分子を標的とする創薬研究も開始されている。しかし、マウスではエンドセリンおよびエンドセリンB型受容体の変異マウスが数系統報告されているものの、それらはエンドセリンあるいはエンドセリンB型受容体遺伝子の変異に起因する巨大結腸症(Hirschsprung病)の為に幼若死し、癌研究には適していない。しかし、幸いJF1マウスは例外的に巨大結腸症を発症せず、生存期間は正常マウスと変わらない。従ってJF1マウスはエンドセリンと発癌との関係を考察する唯一のモデルといえる。JF1マウスと垂種レベルで同一である日本産マウスから樹立した近交系KORマウス、およびJF1マウスと同様に*Ednrb*変異マウスであるワールデンブルグ症候群4型(WS4)マウスなどを用い、*Ednrb*と発癌の関係を明らかにする。

##### 2. アトピー性皮膚炎マウス(NADマウス)

遺伝性の湿疹に、痒みと高IgE血症をともなうアトピー性皮膚炎様マウスを発見し、原因遺伝子の染色体マッピング情報からポジショナルクローニングに成功した。遺伝的背景の異なる4系統コンジェニックアトピー性皮膚炎マウスモデルを作出中である。特許申請中。なお本研究に対して

文部科学省より科学研究費萌芽研究および基盤研究Bの研究助成を受けた。

#### 新規2型糖尿病マウス

床敷きの異常な水濡れに気付いたことから発見した糖尿病マウスは種々の検索結果から、2型糖尿病であることを明らかにし、新規2型糖尿病モデルマウスの樹立に向け、継代を開始した。特許出願中。

##### 4. 乳児型神経軸索ジストロフィーマウス(INADマウス)

歩行異常マウスを発見し、種々の検索結果から乳児型神経軸索ジストロフィーのモデルマウスであることを提唱し、モデル系統樹立と原因遺伝子のファインマッピングに成功した。なお本研究に対して川野小児医学奨学財団より研究助成を受けた。

##### 5. 自然発症アポE欠損高脂血症マウス(SHLマウス)

被毛の異常から発見したアポE欠損高脂血症マウスを用い、農林水産省委託研究「高脂血症マウスを用いた循環器系保持食品成分の解明」を行った。なお、4系統のSHLコンジェニックマウスは日本エスエルシーから販売されており、新しい疾患モデルとして実用化された。特許取得済み。なお本研究に対して農林水産省農林水産技術プロジェクトから研究助成を受けた。

#### <今後の計画>

- 1) *Ednrb*遺伝子変異と自然発症癌との関係を明らかにする。
- 2) 自然発症変異マウスについて、ヒト疾患との共通性と有用性を見出し、新規疾患モデル動物の樹立と実用化を目指す。

#### <研究課題>

##### 大腸癌の比較プロテオーム解析

#### <研究者氏名>

渡辺潤子

#### <目的・成果>

大腸癌症例の予後を大きく左右する転移に注目し、大腸癌進行に伴い発現増強あるいは減少するタンパクを網羅的に検出、転移に関連する因子を同定し臨床に役立てることを目的として、大腸腺癌原発巣と肝転移巣における全タンパクの発現様式を比較プロテオーム解析により検討した。現在までに、候補タンパクとしてアポリポタンパクA-I(Apo A-I)等を同定、その発現増強を確認(免疫組織化学・RT-PCR法)、転移を伴う大腸がんにおけるApo A-Iの発現は統計学的に有意に高いことを報告している。

大腸がん原発巣と肝転移巣に発現するタンパクを各々二次元電気泳動、染色した後、画像解析ソフトを用いて泳動パターンを比較した。画像解析の結果、大腸がん原発巣と肝転移巣それぞれに特異的に発現増強するタンパクのスポットを複数確認することが出来た。これらのスポットを質量分析法(MALDI-TOF/MS)により同定した結果、熱ショックプロテイン、分子シャペロンや細胞骨格を構成するタンパク等の分子であった。

これらのタンパクはアポトーシス、シグナル伝達や転写活性の調節を機能として持つ、あるいは細胞周期にも関係することから、大腸がん進行に関与すると思われる、新しい診断マ

ーカーや医薬品の標的となる可能性がある。

#### <今後の計画>

例数を増やし、またその発現増強を免疫組織化学的に検討し、統計学的な検討を加えていく必要がある。

#### <研究課題>

##### JF1マウスにおける自然発症癌好発のメカニズム

#### <研究者氏名>

渡辺潤子

#### <目的・成果>

JF1は日本産野生マウス (*Mus musculus molosinus*) に由来する近交系のマウスであり、頭部と臀部以外は白色の被毛で覆われる特徴的な毛色を呈する。この毛色異常はエンドセリンBレセプター (*Ednrb*) 遺伝子の突然変異に起因している。*Ednrb*は神経堤細胞の分化・移動に深く関与しており、ヒトにおいてもその機能欠損により色素細胞の欠損、巨大結腸症、難聴等が引き起こされている。また、前立腺癌、鼻咽頭癌等において*Ednrb*遺伝子上流の転写調節領域にメチル化が起きていることも報告されている。

私達は*Ednrb*遺伝子に変異を持つJF1マウスが唾液腺癌、乳癌など種々の自然発症癌を好発する系統であることを発見し報告している。また、発症した癌の一部を培養系に移す事に成功している。そこで、この株化培養細胞を用いて*Ednrb*遺伝子変異と自然発症癌を好発するメカニズムの関連性について検討を開始した。

この株化培養細胞を用いて *Ednrb*遺伝子のメチル化状態とタンパク発現の関連性をRT-PCR 法により検討したところ、脱メチル化剤処理によりその発現が認められ、メチル化による発現調節が行なわれていることが示唆された。

#### <今後の計画>

株化培養細胞を用いて *ednrb* の発現と DNAメチル化との関連性をさらに詳細に検討する。自然発症癌の株化培養細胞を新たに樹立、同時に癌化した細胞の一部を用いて染色体の異常についても確認し、癌発症のメカニズムを検討する。

#### <研究課題>

##### 乳癌の間質細胞が制御するエストロゲンシグナルと予後因子との関関

#### <研究者氏名>

山口ゆり

病院：末益公人、武井寛幸

#### <目的・成果>

代表的なホルモン依存性癌である乳癌は閉経後においても高率に発症するがその要因として組織内での局所的なエストロゲン産生が知られている。また、エストロゲン生合成の律速酵素であるアロマターゼが腫瘍周辺の脂肪間質細胞において高く発現すること、新規の乳癌治療薬として開発されたアロマターゼ阻害剤が乳癌のホルモン療法において高い奏効性を示すことが報告された。しかし、その奏効性を予測する明確な指標は未だない。本研究は乳癌細胞と間質細胞の相互作用に基づくエストロゲンシグナルを解析

する系の確立を目指しホルモン療法の奏効性予測への応用を目的とした。

はじめに、エストロゲン受容体結合配列に蛍光発光蛋白質GFPをつないだ遺伝子 (ERE-GFP) をヒト乳癌細胞MCF-7に安定導入した細胞株を樹立し、エストロゲンシグナルのレポーター細胞を作製した。この細胞を乳癌組織より単離した脂肪間質細胞と共生培養し、誘導されるエストロゲン受容体活性をGFPの発現で定量した。GFPの発現はEGFなどの増殖因子によるリン酸化を介したエストロゲン受容体の活性化によっても誘導されるが本系はこれらを含めた包括的なエストロゲン受容体活性の解析を可能にした。この系を用いて個々の症例について解析した結果、GFPの発現で示されるエストロゲンシグナルの強さ、種々のアロマターゼ阻害剤に対する感受性は多様であり、間質細胞の機能はそれぞれの症例において異なることが示唆された。しかし、間質細胞におけるアロマターゼ遺伝子の発現レベルとエストロゲン受容体活性に相関はなかった。つぎに、臨床病理学的な因子との相関を解析した結果、GFPの発現誘導の高い症例は閉経前より閉経後に多く認められることが判明した。この結果は局所的なエストロゲン産生が閉経後に発症する乳癌の主な要因であることと一致する。また、Gradeが進むにつれて脂肪間質細胞によるエストロゲン受容体活性は有意に低下し、低分化の乳癌では癌細胞が自立的に増殖している可能性が示唆された。GFPの定量的簡便化も進めている。

#### <今後の計画>

脂肪間質細胞の機能が症例によって異なる機構を明らかにするとともにその他の細胞も含めた乳癌の微少環境におけるエストロゲンシグナル制御機構を解析する。

### 3 がん治療研究担当

#### <研究課題>

##### 血清NM23蛋白質による予後診断とその生物学的基盤の解析

#### <研究者氏名>

角 純子、粕壁 隆、本間良夫、金子安比古

#### <目的・成果>

白血病や悪性リンパ腫では血液中に高濃度のNM23蛋白質が検出できる。血清NM23蛋白質高値症例は生存期間が短く、血清NM23蛋白質レベルは両疾患の生存率における予後因子となる。本研究は、NM23遺伝子の発現制御および機能解明、臨床的意義の解析、遺伝子診断への応用、さらにはNM23を分子標的とした新しい治療法の開発を目的としている。

(1) 血清NM23蛋白質による予後診断法を応用できる固形腫瘍を広く検索する目的で、今年度はNM23遺伝子の高発現が予後良好因子となることが報告されている乳癌について検討した。413例の術前血清のNM23蛋白質を測定したが、高値症例をほとんど見出せなかった。この予後診断法は乳癌には応用できないと判断した(乳腺外科、内分泌科、病理科との共同研究)。

(2) 血清NM23蛋白質の予後因子活性の生物学的基盤を解明するため、NM23蛋白質の正常および白血病末梢血単核細胞の増殖・生存に対する効果を検討した。NM23蛋白質を処理した正常末梢血単核細胞に誘導される遺伝子/蛋白質の発

現をcDNA microarrayやProtein array等を用いて包括的に解析した。腫瘍の悪性化に関与すると報告されている多くの炎症性サイトカインが誘導されることが判明した。一方、初代培養の白血病末梢血単核細胞（14症例）について同様の解析を行ったところ、11症例の白血病細胞の増殖・生存がNM23蛋白質により顕著に促進された。現在この増殖促進機構を解析中である。（日本学術振興会科学研究補助金基盤研究（C）、厚生労働省厚生科学研究費補助金の交付を受けた。）

#### <今後の計画>

（1）血清NM23蛋白質の測定による予後診断法を適応できる腫瘍は、白血病、悪性リンパ腫、小細胞肺癌、神経芽腫。適応できない腫瘍は、肺腺癌、扁平上皮肺癌、そして乳癌となった。さらに適応範囲を検索するために、NM23遺伝子の高発現が報告されている婦人科悪性腫瘍および膵臓癌について順次測定し、臨床的意義を包括的に検討する予定である。

（2）腫瘍細胞が血中に分泌したNM23分子をメディエーターとして、直接および間接的（単球を介して）に腫瘍細胞の増殖・生存を支持することを証明できれば、血清NM23蛋白質が予後不良因子となる生物学的基盤が明らかになると期待される。さらに、血清NM23やその腫瘍増殖促進活性を標的とした治療法の開発へ発展させたい。

#### <研究課題>

**HGFによる膵癌細胞の浸潤を阻止するDNAアプタマーの創出**

#### <研究者氏名>

富田幹夫、齋藤 武\*

（\*客員研究員）

#### <目的・成果>

癌の征圧には早期発見と転移の抑制が重要である。血管新生を誘導するサイトカインVEGFに対する阻害剤が転移性大腸癌の治療に有効であることが、最近、証明された。別のサイトカインHGF（肝細胞増殖因子）は血管新生促進作用や癌細胞に対する運動促進作用によって、癌細胞の転移を促進する。さらに、HGFは、乳癌や膀胱癌、肺癌など種々の癌の予後を診断できる血中腫瘍マーカーになると報告されている。昨年度から、HGFに特異的に結合し、その生物活性を阻害するDNAアプタマーの作製を試み、その創出に成功した。

アプタマーは種々の標的分子に特異的に結合するDNAやRNA分子であり、高速分子進化法（SELEX, Systematic Evolution of Ligands by EXponential enrichment）によって作製される。60塩基がランダムな配列から構成される一本鎖DNAライブラリーからHGFと結合するDNAをゲルシフト法で選別した。我々が作製したアプタマーは、グアニンカルテット構造またはヘアピンループ構造を形成する2群に分類された。これらの構造がHGFとの結合に必須であることを、塩基置換による二次構造形成阻害によって確認した。この2種類のDNAはHGFとの結合に対して互いに拮抗するので、HGFの同一部位に結合すると推測される。これらの

DNAはHGFと構造が類似しているMSP（マクロファージ刺激タンパク）やプラスミンと結合しないので、結合の特異性が高い。膵癌細胞にHGFを加えて20時間培養すると、細胞間の接着が消失して細胞が分散、移動する。HGFと同時にアプタマーを添加すると癌細胞の分散や移動、浸潤が阻止された。このアプタマーはHGFによる血管内皮細胞の管腔形成も阻害するので、血管新生阻害効果が期待される。このアプタマーは、癌の進行度や悪性度（予後）の診断のためのDNAチップの作製に応用できる。治療薬としては血中での安定性をさらに改善する必要がある。（埼玉県地域結集型共同研究事業から研究助成を受けた。）

#### <今後の計画>

HGFと特異的に、かつ異なる部位に結合するDNAアプタマーを、さらに作製し、血中HGFのアッセイ系を確立する。種々の腫瘍マーカーに対するDNAアプタマーを作製し、がん診断用アプタマーチップの検討をする。

#### <研究課題>

**HGF（肝細胞増殖因子）産生機構の解明とその制御**

#### <研究者氏名>

富田幹夫

#### <目的・成果>

IL-6やLIF（白血病抑制因子）などのサイトカインのシグナル伝達分子として発見されたStat3は、がん治療の新しい標的分子として注目されている。我々はStat3によって活性化される、がん悪性化遺伝子を探索し、新規がん治療標的分子を発見することを目標に研究を行っている。悪性黒色腫細胞SEKIにおけるHGFの発現が、オートクリンLIFによるStat3の活性化に依存していることを最近、明らかにした。HGFは血管新生促進作用や癌細胞に対する運動促進作用によって、癌細胞の転移を促進する。したがって、HGFの産生を阻止する物質やHGFの活性を阻害する物質は癌細胞の転移を抑制することが期待される。通常、体内では繊維芽細胞によってHGFが産生される。今年度は、正常繊維芽細胞におけるHGF産生機構と、生薬成分クルクミンのHGF産生に対する効果を解析した。

ヒト初代培養皮膚繊維芽細胞とヒト肺由来繊維芽細胞（MRC-5）におけるサイトカインmRNAの発現をリアルタイムRT-PCR法で測定した。これらの繊維芽細胞はHGF mRNAを高発現していた。さらに、皮膚繊維芽細胞はIL-6 mRNAを、MRC-5細胞はIL-6とLIFのmRNAを高発現していた。これらの細胞の培養液には、293細胞のStat3を活性化するサイトカインが分泌されていた。次にHGF産生におけるStat3の役割を解析した。これらの繊維芽細胞では不活性型Stat3の遺伝子導入が困難であった。そこで、Stat3活性を阻害することが最近報告された、クルクミンの効果を調べた。初めに、クルクミンによってStat3活性が阻害されることを確認した。MRC-5細胞とSEKI細胞におけるHGFとLIFのmRNAがクルクミンによって顕著に抑制されたが、対照のGAPDH mRNAは変動しなかった。以上の結果は、繊維芽細胞においてもHGFの発現にIL-6やLIFのオートクリンとStat3の活性化が重要であることを示唆する。これまで培養

繊維芽細胞を用いてHGFの産生機構が調べられているが、IL-6を添加した場合に、HGFの産生に影響がないと報告されている。これは、細胞がすでにIL-6を分泌していることによって、IL-6の作用が認められなかったと推察される。多くの癌細胞がIL-6やLIFを分泌しているので、体内では癌細胞が間質の繊維芽細胞を刺激してHGFの産生を促進すると推測される。また、Stat3の活性を阻害するクルクルミンは、癌の転移を抑制する可能性がある。

#### <今後の計画>

抗体やsiRNAによって、IL-6やLIFの活性を阻害した場合に、HGFの産生が抑制されることを確認する。

#### <研究課題>

新規分化誘導剤cotylenin Aによる抗癌活性の誘導とその作用機構の解析

#### <研究者氏名>

粕壁 隆, 角 純子, 本間良夫, 松縄 学\*, 石井由起\* (\*研修生)

#### <目的・成果>

Cotylenin Aは白血病細胞の分化を強力に誘導する新規分化誘導剤である。さらに、cotylenin Aは白血病細胞を移植したSCIDマウスにおいて延命効果を示した。また、rapamycinも白血病細胞の分化を顕著に誘導することを見出している。私たちはこのような白血病細胞の分化誘導剤が固形癌に対しても有効な抗癌作用を示すことができるかどうかを検討している。私たちはこれまでに、cotylenin Aがrapamycinとの併用で相乗的に乳癌細胞MCF-7の増殖を抑制することを見出している。そこで、本年度は、cotylenin Aとrapamycinの併用によるMCF-7細胞増殖抑制のさらなる詳細な検討とその増殖抑制の作用機構を検討した。さらに、MCF-7細胞移植したヌードマウスで延命効果を示すかどうかにも検討した。その結果、この細胞増殖抑制効果は、殺細胞効果ではなくG1 arrestへの誘導であることを明らかにした。この細胞増殖抑制効果はcotylenin Aの処理時間を最初の24時間に限定した場合にも見られた。細胞増殖抑制に重要な遺伝子であるp53, p21Cip1, p27Kip1, およびサイクリンDの遺伝子発現は殆ど変化しなかった。しかし、cDNA microarrayを用いて網羅的に遺伝子発現を検討した結果、cotylenin Aとrapamycinを併用処理したMCF-7細胞では、未処理の細胞に比して、3倍以上発現が増加していた遺伝子は41個あり、逆に、3分の1以下に発現が低下した遺伝子は13個あった。これらの中には、cell cycleに重要なサイクリン等が含まれていることが判った。さらに、cotylenin Aとrapamycinの併用処理はMCF-7細胞を移植したヌードマウスで顕著な延命効果を示すことを明らかにした。(文部科学省科学研究費補助金特定領域研究(2)の交付を受けた。)

#### <今後の計画>

cotylenin Aとrapamycinによる乳癌細胞の増殖抑制の作用機序をさらに解明するために、cDNA microarray解析で顕著な発現の変動が確認された遺伝子に対するsiRNAを作成して検討する。

#### <研究課題>

がん細胞と樹状細胞との融合細胞によるワクチン療法とCTL療法に向けて

#### <研究者氏名>

原 栄一

#### <目的・成果>

外科摘出された手術材料を患者さん自身の治療に有効に利用することをめざし、がん細胞と樹状細胞との融合細胞を用いたワクチン療法とその結果として末梢血中のがん細胞特異的なT細胞前駆体の増加に基づきCTL療法の臨床応用を検討している。

##### 1. 自己がん細胞株の樹立

大腸がんの原発巣(105例)、肝転移巣(10例)、肺転移巣(1例)、リンパ節転移巣(15例)の培養を試み、14例、8例、1例、3例の細胞株を樹立した。

##### 2. 自己がん細胞の培養への自己血清の意義

従来、培地の血清成分としてFCSを使用してきたが、BSE等の安全を考慮し、自己血清の自己がん細胞の生育への影響を検討した。FCSは、自己血清に比較して、がん細胞のディッシュへの接着能、増殖能に優れ、がん細胞株の樹立には適していた。しかし、短期培養したがん細胞を治療に利用する際には、自己血清は安全性の面から有用である。

##### 3. 自己がん細胞株のHLA Class I とがん抗原の発現

がんの免疫療法で、がん細胞のHLA Class Iの発現は、重要な問題である。樹立したがん細胞のHLA Class Iの発現をFACS解析すると、ほとんどのがん細胞株で発現が認められるが、発現量は細胞株により異なっていた。また、がん抗原であるMUC-1とCEAの発現も細胞株により異なっていた。樹立されたがん細胞株のこれらの性質に関してのパネルを作製している。

##### 4. CTLのallo がん細胞に対する細胞障害活性

自己がん細胞と樹状細胞との融合細胞で誘導されたCTLは、自己がん細胞に対する細胞障害活性を示すばかりでなく、HLA Class I A locus (A-2, A-24) がsemi-match し、共通のがん抗原を発現したallo がん細胞に対しても示した。このことは、がん細胞株が樹立できなかった患者さんに対して、CTL活性が評価可能になる。

#### <今後の計画>

1. 自己がん細胞と樹状細胞との融合細胞によるワクチン療法の今までの臨床研究で、卵巣癌、乳癌、脳腫瘍で効果が認められるが、メラノーマ、大腸癌において有効例が少ない。しかし、ワクチンにより、末梢血中のがん細胞特異的なT細胞前駆体は増加しているため、CTL療法を組み合わせることで治療効果を高めることをめざす。

2. 大腸がんの転移巣からの細胞株の樹立の成功率は、50%であるが、原発巣からは10%に過ぎず、多くの患者さんは、自己のがん細胞を利用できない。Alloがん細胞と自己の樹状細胞との融合細胞を活用してCTLを誘導することを in vitro で検討する。

#### <研究課題>

癌関連因子に対するアプタマー作製と診断・治療法の開発

#### <研究者氏名>

神津知子, 赤木 究, 田中陽一郎\*

(\*客員研究員)

#### <目的・成果>

本研究は試験管内人工進化法 (SELEX) により取得した癌関連因子に結合するRNA分子を用いた新規の癌治療薬及び癌診断法の創製を目的とする。癌マーカータンパク質、血中タンパク質のうち、造血器系、消化器系の癌に特異的なタンパク質に対してシステムティックにSELEXを行い、特異的に結合するRNAアプタマーを作製する。本年度は、KRASアプタマーについて、in vitroでのファルネシル化阻害およびRASと相互作用するRAFタンパク質との結合阻害効果を調べたが、高い阻害効果は得られなかった。KRASアプタマーには (U)CCAAGCAC (AC) というコンセンサス配列が存在したため、これを繰り返したRNA, GGG (CCAAGCAC) × 5 および GGG (UCCAAGCACAC) × 4 について結合能を調べたところ、GGG (UCCAAGCACAC) × 4 が、最も高い結合能を持つ6-26アプタマーよりも高い結合能を持っていることがわかった。

白血病の染色体転座により精製した融合遺伝子産物を特異的に認識するRNAアプタマーを作製している。全長のリコンビナント蛋白質を得ることが困難であったことから、個々のドメインごとにアプタマーを作製する方針に切り替えた。二つのドメインに結合するアプタマーをそれぞれ取得し、その特性を調べた。Kd値は最も結合能の高いアプタマーで  $1 \times 10^{-9}$  のオーダーとなった。

(厚生労働省厚生科学研究費による交付を受けた。)

#### <今後の計画>

癌に関連するサイトカインやそのレセプターを標的としてSELEXを行い、アプタマーを取得する。

#### <研究課題>

##### 機能性RNAと治療デザイン

#### <研究者氏名>

神津知子

#### <目的・成果>

本研究は、機能性RNAの作用機序を分子レベルで理解し、それを応用することで新たな治療戦略を探ることを目的とし、哺乳動物細胞を用いて二本鎖RNAによるRNA interference (RNAi)、およびRNAiとリンクすることが知られるmicroRNAによる遺伝子発現調節機構を解析する。RNAiとmicroRNA相互の関連を明らかにすることにより、哺乳動物における転写後遺伝子サイレンシングの機序を明らかにし、RNAiを遺伝子のepigenetic knockdown法として確立する。

RNAiは、疾患の遺伝子治療に有用であると期待されている。しかし、最近標的外の遺伝子発現を抑えるなどのRNAiの注意すべき問題点が明らかになってきた。我々は白血病融合遺伝子の特異的にノックダウンするsiRNAを作製したが、正常の遺伝子の一部も標的として認識されることを見いだした。そこで本年度はこれを回避する改良を試みた。t (8;21) 染色体転座により生じるAML1-MTG8融合遺伝子の

mRNA上の融合点を含む21-merのAM2 siRNAは、AML1に由来する9ヌクレオチドとMTG8に由来する12ヌクレオチドを標的とする。正常のAML1とは67%、正常のMTG8aとは62%の相同性をもつが、MTG8bでは76%で、GUペアを考慮すると86%の相同性となる。実際に、HEL細胞で発現する内在性のMTG8bはAM2 siRNAによって発現が抑えられた。AML1とMTG8aは影響を受けなかった。そこでMTG8bを認識しないよう標的部位の変更や、塩基置換した変異体siRNAを作製し、標的RNAの切断活性を調べた。変異体の多くは特異性が落ちる傾向であったが、特に効率の上昇した分子も得られた。したがって、siRNAは、より特異的でより効果的になるように、一部変更して活性を改善することが可能である。一方、白血病細胞株HL60のTPAによる単球/マクロファージ分化系を用いて、分化の過程でのmicroRNAの発現量の変動を調べた結果、分化に伴って増加する群は分化の後期で上昇すること、減少する群は、一旦初期に上昇した後減少する群あるいは再度上昇した後に減少する群の2群に分類できた。(文部科学省科学研究費補助金による交付を受けた。)

#### <今後の計画>

更にRNAiを用いてAML1-MTG8のノックダウン細胞を樹立し、AML1-MTG8の機能を解析する。白血病細胞での分化誘導におけるmiRNAの発現パターンを解析する。また、造血細胞分化におけるmicroRNAの機能を解析する。

#### <研究課題>

##### 大腸がんにおける新規KRAS遺伝子変異の機能解析とその臨床応用

#### <研究者氏名>

赤木 究, 内堀亮介\*, 神津知子, 田中陽一郎#

(\*研修生) (#客員研究員)

#### <目的・成果>

KRAS遺伝子の変異はがんの約3分の1に認め、変異部位もコドン12, 13, 61に集中している。これらの変異はがん化を引き起こす活性を有しているが、その分子メカニズムについては不明な点も多い。今回私たちは原発性大腸がんにおけるKRAS遺伝子の変異解析を行い、新規の変異を3例の大腸がんより見いだした。この変異が、がん化を引き起こす活性を有するかどうか検討し、変異KRAS遺伝子のがん化における分子メカニズムの解明を試みた。

変異DNAをシーケンシングにて塩基配列を決定した結果、codon19のTTT (Leu) がTTG (Phe) に置換していた。正常組織にはこの変異が認められなかったことより、癌細胞における体細胞変異であることが確認された。臨床病理学的には1例がstage IのS状結腸がん、2例がstage IVの回盲部がん及び横行結腸がんであり、これまでのKRASの変異と同様、比較的早期のがんにも変異が認められた。このコドン19に変異を持つKRASのcDNAを発現ベクターに組み込み、NIH3T3へ遺伝子導入した。これらの形質転換細胞は、親株及び野生型KRAS遺伝子導入3T3細胞に比べ、低血清培地中で高い増殖能を有し、軟寒天培地におけるコロニー形成能では足場非依存性増殖を示した。ヌードマウスへの移植実験でも、造腫瘍能を有し移植可能であった。また、生化学的にも、

野生型KRASに比べ、コドン19に変異を持つKRASでは、GTPと結合した活性型のRASタンパク質が多く存在していた。このことより、コドン12の変異と同様、がん化能を有する新しいKRASの変異であることを突き止めた。

#### <今後の計画>

この変異が肺癌など他のがんでも認められるか検証する。また、これらの知見をもとに、診断・治療への応用を試みる。

### 第3節 研究業績

#### 1 英語論文

| 氏 名                                     | 題 名                                                                                                                                                                                         | 誌 (書) 名                                                                                     |  |
|-----------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------|--|
| Ikuta, T<br>Kobayashi, Y<br>Kawajiri, K | Cell density regulates intracellular localization of aryl hydrocarbon receptor.                                                                                                             | J. Biol. Chem.<br>279:19209-19216, 2004                                                     |  |
| Ikuta, T<br>Kobayashi, Y<br>Kawajiri, K | Cell density dependent AhR redistribution in HaCaT cells.                                                                                                                                   | 15thInternational Symposium on Microsomes and Drug Oxidations, MEDIMOND S.r.l pp83-86, 2004 |  |
| Ikuta, T<br>Kobayashi, Y<br>Kawajiri, K | Phosphorylation of nuclear localization signal inhibits the ligand-dependent nuclear import of aryl hydrocarbon receptor.                                                                   | Biochem. Biophys. Res. Commun.<br>317:545-550, 2004                                         |  |
| Kawajiri, K<br>Ikuta, T                 | Regulation of nucleo-cytoplasmic transport of the aryl hydrocarbon receptor.                                                                                                                | J. Health Sci.<br>50:215-219, 2004                                                          |  |
| (Fujiki, H)<br>Suganuma, M<br>他 5 名     | Carcinogenic potential of tobacco tar-resistant <i>Staphylococcus aureus</i> in buccal cavity.                                                                                              | J. Cancer. Res. Clin. Oncol.<br>130:301-305, 2004                                           |  |
| Suganuma, M<br>他 6 名                    | New tumor necrosis factor- $\alpha$ -inducing protein released from <i>Helicobacter pylori</i> for gastric cancer progression.                                                              | J. Cancer. Res. Clin. Oncol.<br>131:305-313, 2005                                           |  |
| (Fujiki, H)<br>Suganuma, M<br>他 2 名     | Cancer prevention with green tea polyphenols for the general population, and for patients following cancer treatment.                                                                       | Current Cancer Therapy Rev.<br>1:109-114, 2005                                              |  |
| (Yuki, Y)<br>Kaneko, Y<br>他 5 名         | Identification of a novel fusion gene in a pre-B acute lymphoblastic leukemia with t(1;19)(q23;p13).                                                                                        | Cancer Sci, 95:503-507, 2004                                                                |  |
| (Zhang, Y)<br>Kaneko, Y<br>他12名         | Characterization of genomic breakpoints in MLL and CBP in leukemia patients with t(11;16).                                                                                                  | Genes Chromosomes Cancer,<br>41:257-265, 2004                                               |  |
| Namiki, T<br>Kaneko, Y<br>他 5 名         | Genomic alterations in primary cutaneous melanomas detected by metaphase comparative genomic hybridization with laser capture or manual microdissection: 6p gains may predict poor outcome. | Cancer Genet. Cytogenet.157:<br>1-11, 2005                                                  |  |
| Matsushima, Y<br>他 6 名                  | A new mouse model for Infantile Neuroaxonal Dystrophy, in ad mouse, maps to mouse Chromosome 1.                                                                                             | Mammalian Genome 16:73-78,<br>2005                                                          |  |

| 氏 名                                                      | 題 名                                                                                                                                                                  | 誌 (書) 名                                                                                                                                                      |  |
|----------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--|
| (Ide,T)<br>Matsushima, Y<br>他 3 名                        | Effect of n-3 fatty acids on serum lipid levels and hepatic fatty acid metabolism in BALB/c.KOR- Apoe ( <i>shl</i> ) mice deficient in apolipoprotein E expression.  | J. Nutr. Biochem.<br>15:169-178, 2004                                                                                                                        |  |
| Inoue,A<br>Yamaguchi, Y<br>他 3 名                         | Transcription factor EGR3 is involved in the estrogen-signaling pathway in breast cancer cells.                                                                      | J. Mol. Endocrinol.<br>32:649-661, 2004                                                                                                                      |  |
| (Niitu, N)<br>Okabe-Kado, J<br>Honma, Y<br>他 5 名         | Clinical significance of intracytoplasmic nm23-H1 expression in diffuse large B-cell lymphoma.                                                                       | Clin Cancer Res.<br>10:2482-2490, 2004                                                                                                                       |  |
| Tomida, M<br>Saito, T                                    | Stat3 activity stimulates HGF expression.                                                                                                                            | Proceedings of the 5th Joint Meeting of the International Cytokine Society and the International Society for Interferon and Cytokine Research, 113-116, 2004 |  |
| Ishii, Y<br>Honma, Y<br>他 2 名                            | Induction of differentiation of human myeloid leukemia cells by jasmonates, plant hormones.                                                                          | Leukemia<br>18:1413-1419, 2004                                                                                                                               |  |
| Ishii, Y<br>Kasukabe, T<br>Honma, Y                      | Induction of CCAAT/enhancer binding protein- $\delta$ by cytokinins, but not by retinoic acid, during granulocytic differentiation of human myeloid leukaemia cells. | Br. J. Haematol.<br>128:540-547, 2005                                                                                                                        |  |
| Kasashima, K<br>Kozu, T<br>他 1 名                         | Altered expression profiles of microRNAs during TPA-induced differentiation of HL-60 cells.                                                                          | Biochem Biophys Res Commun<br>322:403-410, 2004                                                                                                              |  |
| Kasashima, K<br>Sakota, E<br>Kozu, T                     | Discrimination of target by siRNA; Designing of AML1-MTG8 fusion mRNA-specific siRNA sequences.                                                                      | Biochimie<br>86:713-721, 2004                                                                                                                                |  |
| Kozu, T<br>Fukuyama, T<br>Akagi, K<br>Kaneko, Y<br>他 1 名 | MYND-less splice variants of AML1-MTG8 are expressed in leukemia with t(8;21) .                                                                                      | Genes Chrom. Cancer<br>43:45-53, 2005                                                                                                                        |  |
| (Aoki, M)<br>Akagi, K                                    | A full genome scan for gastric cancer.                                                                                                                               | J Med. Genet.<br>42, 83-87, 2005                                                                                                                             |  |

| 氏 名                                                                                      | 題 名                                                                                                               | 誌 (書) 名                                                       |  |
|------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------|--|
| Ishikubo, T<br>Nishimura, Y<br>Yamaguchi, K<br>Arai, Y<br>Tanaka, Y<br>Akagi, K<br>他 3 名 | The clinical features of rectal cancers with high-frequency microsatellite instability (MSI-H) in Japanese males. | Cancer Lett.<br>216, 55-62, 2004                              |  |
| (Yagura, T)<br>Yamaguchi, K<br>Akagi, K<br>他 6 名                                         | Identification and allelic frequencies of novel polymorphism in human ku70 gene.                                  | Kwansei Gakuin Univ.<br>Natural Sci. Review,<br>9, 17-21 2004 |  |

## 2 邦文文献

| 氏 名                             | 題 名                                                       | 誌 (書) 名                                                                         | 形 式 |
|---------------------------------|-----------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------|-----|
| ( 藤 木 博 太 )<br>菅 沼 雅 美<br>他 1 名 | 緑茶飲用による再発がんの予防対策                                          | 総合臨床<br>53:2261-2266, 2004                                                      | 総説  |
| ( 藤 木 博 太 )<br>菅 沼 雅 美          | 癌の予防法 -生活習慣病態対策-                                          | Gerontology<br>16:41-45, 2004                                                   | 総説  |
| 菅 沼 雅 美<br>藤 木 博 太              | 緑茶 -実用的ながん予防物質-                                           | 最新医学<br>59:20-27, 2004                                                          |     |
| 菅 沼 雅 美<br>古 賀 好 一              | 緑茶のがん予防効果                                                 | 食品と容器<br>46:82-87, 2005                                                         |     |
| 金 子 安 比 古                       | 骨軟部腫瘍の染色体転座・融合遺伝子                                         | 日本医事新報<br>4185:92-94, 2004                                                      |     |
| 金 子 安 比 古                       | 白血病とその類縁疾患, 固形腫瘍の染色体検査・<br>遺伝子検査                          | 金原出版臨床検査法提要第32<br>版<br>1215-1231, 2005                                          | 総説  |
| 松 島 芳 文                         | 自然突然変異                                                    | モデル動物の作製と維持,<br>pp.110-119 森脇和郎, 山村研<br>一, 米川博通 編,<br>(株) エル・アイ・シー,<br>東京, 2004 | 総説  |
| 松 島 芳 文                         | 自然発症高脂血症マウス (spontaneously<br>hyperlipidemic mouse : SHL) | モデル動物の作製と維持,<br>pp573-581 森脇和郎, 山村研<br>一, 米川博通 編,<br>(株) エル・アイ・シー,<br>東京, 2004  | 総説  |
| 松 島 芳 文                         | 自然発症高脂血症マウス<br>(spontaneously hyperlipidemic mouse :SHL)  | LABIO21, 17, 24-8, 2004                                                         | 総説  |
| 山 口 ゆ り                         | 内分泌腫瘍と腫瘍増殖因子                                              | 日本臨床<br>62:871-876, 2004                                                        |     |
| 山 口 ゆ り<br>富 田 幹 夫              | 分化促進因子 (D 因子) / 白血病抑制因子 (LIF)                             | 「細胞の増殖と成長因子 II」<br>井出利憲編, pp278-292, 2004<br>廣川書店                               |     |
| 神 津 知 子                         | ゲノム RNA 医工学と白血病                                           | 実験医学<br>22, pp2427-2434, 2004<br>羊土社                                            |     |
| 渡 辺 潤 子                         | 卵巣癌の治療<br>遺伝子発見と予後                                        | 日本臨床<br>62:578-581, 2004                                                        |     |

### 3 学会・研究会発表

| 氏 名                                     | 題 名                                                                                                                                                      | 学会等名称 (年月, 場所)                                                                                         |  |
|-----------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------|--|
| 生 田 統 悟<br>川 尻 要                        | 表皮角化細胞におけるAhR/ARNT の標的遺伝子                                                                                                                                | 第27回日本分子生物学会年会<br>(16. 12 神戸)                                                                          |  |
| Ikuta, T<br>Kobayashi, Y<br>Kawajiri, K | Cell density regulates intracellular localization of aryl hydrocarbon receptor                                                                           | 15th International Symposium on Microsomes and Drug Oxidations<br>(Mainz, Germany Jul. 2004)           |  |
| Suganuma, M<br>他 3 名                    | Green tea as cancer preventive beverage: development and mechanisms of action                                                                            | Antioxidant Meeting “Roles of Antioxidants in Health and Diseases”<br>(Khon Kaen, Thailand, Feb. 2005) |  |
| Suganuma, M<br>他 3 名                    | Gastric cancer prevention based on new molecular target of <i>Helicobacter pylori</i> : tumor necrosis factor- $\alpha$ inducing protein (Tip $\alpha$ ) | Takeo Wada Cancer Research Symposium<br>(Khon Kaen, Thailand, Feb. 2005)                               |  |
| Suganuma, M<br>他 3 名                    | Tea research for cancer prevention                                                                                                                       | Tea Research for Health and Prevention of Diseases<br>(Chiang Mai, Thailand, Feb. 2005)                |  |
| 菅 沼 雅 美<br>他 4 名                        | <i>H. pylori</i> の新規分泌蛋白質Tipによる発がん機構とがん予防                                                                                                                | 第10回日本ヘリコバクター学会<br>(16. 7 東京)                                                                          |  |
| 菅 沼 雅 美<br>山 口 研 成<br>他 3 名             | N-Acetylcysteineによる <i>H. pylori</i> 発がん因子Tipの2量体形成阻害を介する新しいがん予防機構                                                                                       | 第63回日本癌学会総会<br>(16. 9 福岡)                                                                              |  |
| ( 井 上 喜 美 子 )<br>菅 沼 雅 美<br>他 7 名       | 新規レチノイド誘導体, Ratinobenzoic acidsを用いたがん予防リード化合物の検索                                                                                                         | 第63回日本癌学会総会<br>(16. 9 福岡)                                                                              |  |
| ( 田 崎 絵 美 )<br>菅 沼 雅 美<br>他 3 名         | Tyrosine kinase阻害作用をもつ2つの化合物, IRESSAと緑茶カテキンEGCGによる増強効果                                                                                                   | 第63回日本癌学会総会<br>(16. 9 福岡)                                                                              |  |
| ( 田 邊 昭 寿 )<br>菅 沼 雅 美<br>他 3 名         | 緑茶カテキン頻回処理によるアポトーシス関連遺伝子GADD153の発現亢進                                                                                                                     | 第63回日本癌学会総会<br>(16. 9 福岡)                                                                              |  |
| ( 西 谷 典 子 )<br>菅 沼 雅 美<br>他 7 名         | 気管支及び口腔内より分離された細菌によるTNF- $\alpha$ の発現亢進とタバコによるがん化との関連                                                                                                    | 第63回日本癌学会総会<br>(16. 9 福岡)                                                                              |  |

| 氏 名                                                                                         | 題 名                                             | 学会等名称（年月，場所）                        |  |
|---------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------|-------------------------------------|--|
| （ 木 口 薫 ）<br>菅 沼 雅 美<br>他 4 名                                                               | 胆嚢癌モデルマウスを使ったチロシンキナーゼ阻害剤，COX-2阻害剤，EGCGの癌抑制効果の検討 | 第63回日本癌学会総会<br>（16. 9 福岡）           |  |
| （ 井 上 喜 美 子 ）<br>菅 沼 雅 美<br>他 7 名                                                           | 新規retinoids誘導体によるがん予防活性                         | 第15回日本レチノイド研究会<br>学術集会（16. 11 東京）   |  |
| 渡 辺 直 樹<br>小 林 泰 文<br>金 子 安 比 古<br>他 5 名                                                    | WT 1 異常を示さず12トリソミーを伴う高 2 倍性群はウィルムス腫瘍の新しいサブグループか | 第63回日本癌学会総会<br>（16. 9 福岡）           |  |
| 渡 辺 直 樹<br>金 子 安 比 古<br>他 2 名                                                               | 神経芽腫のploidy異常と中心体異常                             | 第49回人類遺伝学セミナー<br>（15. 9 東京）         |  |
| 渡 辺 直 樹<br>金 子 安 比 古<br>他10名                                                                | 12トリソミーを伴う高 2 倍性ウィルムス腫瘍の生物学的特徴                  | 第20回日本小児がん学会<br>（16. 11 東京）         |  |
| 金 子 安 比 古                                                                                   | 造血器腫瘍・小児腫瘍の染色体異常                                | 第 8 回北海道染色体・遺伝子<br>検査同好会（16. 11 札幌） |  |
| 松 島 芳 文                                                                                     | 新規 2 型糖尿病マウスの発見                                 | 第20回日本疾患モデル学会総会<br>（16. 11 京都）      |  |
| 渡 辺 潤 子<br>赤 木 究<br>黒 住 昌 史<br>小 林 康 人<br>田 中 洋 一<br>坂 本 裕 彦<br>西 村 洋 治<br>網 倉 克 己<br>他 2 名 | 大腸がん転移に伴って発現増強するタンパクの比較プロテオーム解析                 | 第63日本癌学会総会<br>（16. 9 福岡）            |  |
| 山 口 ゆ り<br>武 井 寛 幸<br>末 益 公 人<br>黒 住 昌 史<br>他 2 名                                           | 乳癌における間質細胞の特性と予後因子との相関                          | ホルモンと癌研究会<br>（16. 7 大阪）             |  |
| 山 口 ゆ り<br>武 井 寛 幸<br>末 益 公 人<br>小 林 康 人<br>黒 住 昌 史<br>他 2 名                                | 間質細胞による乳癌のエストロゲンシグナルの制御機構および予後因子との相関            | 第63日本癌学会総会<br>（16. 9 福岡）            |  |

| 氏 名                                    | 題 名                                                                                                                  | 学会等名称（年月，場所）                                                                                                                                                       |  |
|----------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--|
| （ 林 慎 一 ）<br>山 口 ゆ り                   | 乳がんの内分泌治療効果予測を目指した基礎研究                                                                                               | 第63日本癌学会総会<br>(16. 9 福岡)                                                                                                                                           |  |
| 角 純 子<br>金 子 安 比 古<br>他 2 名            | 血清NM23蛋白質による腫瘍の予後診断とその生物学的基盤の解析                                                                                      | 第63回日本癌学会総会<br>(16. 9 福岡)                                                                                                                                          |  |
| （ 新 津 望 ）<br>角 純 子<br>本 間 良 夫<br>他 2 名 | 細胞質内nm23-H1陽性の末梢性T細胞リンパ腫患者の予後は不良である                                                                                  | 第63回日本癌学会総会<br>(16. 9 福岡)                                                                                                                                          |  |
| 角 純 子<br>金 子 安 比 古                     | 血清NM23蛋白質による神経芽腫の予後診断                                                                                                | 第 5 回神経芽腫基礎研究会<br>(16. 9 東京)                                                                                                                                       |  |
| 富 田 幹 夫                                | クルクミンによるSTAT3の不活化とHGF遺伝子発現の抑制                                                                                        | 第63回日本癌学会総会<br>(16. 9 福岡)                                                                                                                                          |  |
| Tomida, M<br>Saito, T.                 | Hepatocyte growth factor gene is transcriptionally activated by leukemia inhibitory factor through the STAT3 pathway | The 5th Joint Meeting of the International Cytokine Society and the International Society for Interferon and Cytokine Research, San Juan, (Puerto Rico, Oct. 2004) |  |
| 富 田 幹 夫                                | 高速分子進化による癌の診断薬・治療薬の開発                                                                                                | 埼玉県地域結集型共同研究事業「高速分子進化による高機能分子の創出」(17. 3 埼玉)                                                                                                                        |  |
| 粕 壁 隆<br>本 間 良 夫<br>他 2 名              | 新規分化誘導剤cotylenin Aとrapamycinの併用による乳癌細胞増殖抑制機構の解析                                                                      | 第63回日本癌学会総会<br>(16. 9 福岡)                                                                                                                                          |  |
| 本 間 良 夫<br>粕 壁 隆<br>他 3 名              | 新規分化誘導剤cotylenin Aとinterferon-alphaの併用療法の卵巣癌への応用                                                                     | 第63回日本癌学会総会<br>(16. 9 福岡)                                                                                                                                          |  |
| 粕 壁 隆<br>本 間 良 夫<br>石 井 由 起            | 急性骨髄性白血病（AML）細胞の分化誘導に伴うMmTRA1b/リン脂質scrambrase 1の発現誘導とその臨床的意義                                                         | 第 8 回がん分子標的治療研究会総会<br>(16. 5 鹿児島)                                                                                                                                  |  |
| 石 井 由 起<br>粕 壁 隆<br>本 間 良 夫            | 植物ホルモン・サイトカイニンによるヒト白血病細胞の分化におけるS100P発現誘導                                                                             | 第 8 回がん分子標的治療研究会総会<br>(16. 5 鹿児島)                                                                                                                                  |  |

| 氏 名                                                                   | 題 名                                                                                                                       | 学会等名称（年月，場所）                                                                                    |  |
|-----------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------|--|
| 松 縄 学<br>石 井 由 起<br>柏 壁 隆<br>本 間 良 夫<br>他 3 名                         | 新規分化誘導剤cotylenin Aによる白血病細胞の<br>分化誘導におけるTGF- $\beta$ の関与                                                                   | 第66回日本血液学会総会<br>(16. 9 京都)                                                                      |  |
| 原 栄 一<br>他 4 名                                                        | 免疫治療をめざしたヒト大腸がんの初代培養にお<br>ける自己血清の意義                                                                                       | 第63回日本癌学会総会<br>(16. 9 福岡)                                                                       |  |
| (小井戸 薫 雄)<br>原 栄 一<br>他 7 名                                           | 転移性大腸癌と自己樹状細胞の融合細胞を用いた<br>腫瘍抗原特異的なCD4,CD8 T cellの誘導                                                                       |                                                                                                 |  |
| Shigeo Koido,<br>Eiichi Hara<br>他10名                                  | DC/allogeneic colorectal cancer fusion cells<br>induce colorectal cancer-specific polyclonal CTL<br>responses in patients | 96th AACR Annual Meeting<br>(2005 April, Anaheim, California, )                                 |  |
| 笠 嶋 克 巳<br>神 津 知 子<br>他 1 名                                           | HL-60細胞の分化過程で発現が変動する<br>microRNAのカタログ化                                                                                    | 第 6 回日本RNA学会年会<br>(16. 8 熊本)                                                                    |  |
| 神 津 知 子<br>赤 木 究                                                      | siRNAと標的外RNAとの相同性とサイレンシン<br>グ効率                                                                                           | 第63回日本癌学会総会<br>(16. 9 福岡)                                                                       |  |
| Kozu, T<br>Kasashima, K<br>Sakota, E<br>他 1 名                         | Genome RNA technology and leukemia                                                                                        | 第27回日本分子生物学会年会<br>(16. 12 神戸)                                                                   |  |
| 田 中 陽 一 郎<br>赤 木 究<br>神 津 知 子<br>他 3 名                                | KRASのC末端を標的としたRNAアプタマー                                                                                                    | 第27回日本分子生物学会年会<br>(16. 12 神戸)                                                                   |  |
| Kozu, T<br>Kasashima, K<br>他 1 名                                      | Variation of microRNAs during TPA-induced<br>differentiation of HL-60 cells                                               | Keystone symposium<br>“Diverse roles of RNA in<br>gene regulation”<br>(16. 1 Breckenridge, USA) |  |
| Kozu, T                                                               | RNA Biotechnology and Leukemia                                                                                            | 日米ワークショップ「RNA治<br>療」(16. 2 ベセスダ, 米国)                                                            |  |
| 赤 木 究<br>石 窪 力<br>新 井 吉 子<br>山 口 研 成<br>小 林 照 忠<br>西 村 洋 治<br>田 中 洋 一 | MSI陽性直腸癌の特徴                                                                                                               | 第10回 家族性腫瘍研究会学術<br>集会<br>(16. 6 東京)                                                             |  |

| 氏 名                         | 題 名                                    | 学会等名称（年月，場所）                    |  |
|-----------------------------|----------------------------------------|---------------------------------|--|
| 赤 木 究                       | ECA（electrochemical Array）を用いた遺伝子検査    | 第10回 家族性腫瘍研究会学術集会<br>（16. 6 東京） |  |
| 赤 木 究<br>山 口 研 成<br>神 津 知 子 | 原発性大腸がんに認めた新規KRAS遺伝子変異の解析              | 第63回日本癌学会総会<br>（16. 9 福岡）       |  |
| 下 條 誉 幸<br>山 口 研 成<br>赤 木 究 | Methylation specific LAMP（MS-LAMP）法の開発 | 第63回日本癌学会総会<br>（16. 9 福岡）       |  |

## 第4節 研究室セミナー

### 招待講師セミナー

| 年 月 日      | 演 題                                         | 演 者     | 演者所属                                              |
|------------|---------------------------------------------|---------|---------------------------------------------------|
| H16. 5. 11 | 核－細胞質間蛋白質輸送と生命機能                            | 米 田 悦 啓 | 大阪大学大学院生命機能研究科細胞ネットワーク講座 /大阪大学大学院医学系研究科機能形態学講座 教授 |
| H16. 11. 5 | ポストゲノム時代におけるRNA研究                           | 渡 辺 公 綱 | (独)産総研・生物情報解析研究センター                               |
| H17. 1. 14 | 臨床応用を迎えるエピジェネティクス                           | 牛 島 俊 和 | 国立がんセンター研究所発がん研究部 部長                              |
| H17. 2. 25 | SOCS遺伝子による炎症と発癌の制御                          | 吉 村 昭 彦 | 九州大学生体防御医学研究所免疫制御学分野 教授                           |
| H17. 3. 2  | ミトコンドリアによる細胞機能調節<br>－ミトコンドリアの生合成と形態制御の分子機構－ | 三 原 勝 芳 | 九州大学大学院医学研究院 教授                                   |
| H17. 3. 26 | ゲノムアレイを用いた胃癌ゲノム異常の解析                        | 新 井 康 仁 | 国立がんセンター研究所 ゲノム構造解析プロジェクト                         |

## 第5節 その他の研究活動

### 1 文部科学省科学研究費補助金研究

| 年 月 日                | 研 究 課 題                                   | 研 究 者                              | 備 考        |
|----------------------|-------------------------------------------|------------------------------------|------------|
| H16.4.1～<br>H17.3.31 | ダイオキシン受容体の細胞内情報伝達と生理機能の解析                 | 研究代表者<br>川 尻 要                     | 基盤研究 (B)   |
| H16.4.1～<br>H17.3.31 | Ah レセプター機能の調節メカニズム                        | 研究代表者<br>生 田 統 悟                   | 若手研究 (B)   |
| H16.4.1～<br>H17.3.31 | 我が国で発見された新規アトピー性皮膚炎マウスの疾患モデル系統樹立と原因遺伝子の解明 | 研究代表者<br>松 島 芳 文                   | 萌芽研究       |
| H16.4.1～<br>H17.3.31 | 新発見アトピー性皮膚炎マウスの疾患モデル化と責任遺伝子のポジショナルクローニング  | 研究代表者<br>松 島 芳 文                   | 基盤研究 (B)   |
| H16.4.1～<br>H17.3.31 | 血清NM23蛋白質のサイトカイン様新機能の解析                   | 研究代表者<br>角 純 子                     | 基盤研究 (C)   |
| H16.4.1～<br>H17.3.31 | 分化誘導剤の作用機構の解析と治療効果の検討                     | 研究代表者<br>本 間 良 夫<br>研究分担者<br>粕 壁 隆 | 特定領域研究 (2) |
| H16.4.1～<br>H17.3.31 | 機能性RNAと治療デザイン                             | 研究代表者<br>神 津 知 子                   | 特定領域研究 (2) |

## 2 厚生労働省厚生科学研究費補助金研究

| 年 月 日                | 研 究 課 題                            | 研 究 者                                    | 備 考                                                                  |
|----------------------|------------------------------------|------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------|
| H16.4.1～<br>H17.3.31 | 発がん過程における遺伝子発現とがんの化学予防研究の総括        | 分担研究者<br>菅 沼 雅 美                         | 特定領域研究（C）<br>（研究代表者 中地敬）<br>の班員として研究                                 |
| H16.4.1～<br>H17.3.31 | マスキング症例の生物学的特性解析-予後改善効果の期待できる腫瘍の選別 | 分担研究者<br>金 子 安 比 古                       | 「登録症例に基づく神経芽細胞腫マスキングの効果判定と医療体制の確立に関する研究」（代表研究者 檜山英三の班員として研究）         |
| H16.4.1～<br>H17.3.31 | ウイルス腫瘍の分子細胞遺伝学的診断                  | 主任研究者<br>金 子 安 比 古                       | 第3次対がん総合戦略研究事業                                                       |
| H16.4.1～<br>H17.3.31 | 腫瘍細胞の産生する物質による免疫担当細胞への作用と癌の予後      | 主任研究者<br>金 子 安 比 古<br>分 担 研 究 者<br>角 純 子 | がん克服戦略事業                                                             |
| H16.4.1～<br>H17.3.31 | 癌関連因子に対するアプタマー作製と診断・治療法の開発         | 研究代表者<br>神 津 知 子<br>研 究 分 担 者<br>赤 木 究   | 医薬品副作用被害救済・研究振興調査機構<br>保健医療分野における<br>基礎研究推進事業<br>（総括研究代表者 中村義一）の分担研究 |

## 3 科学技術振興機構（JST）

| 年 月 日               | 研 究 課 題                     | 研 究 者            | 備 考                                            |
|---------------------|-----------------------------|------------------|------------------------------------------------|
| H16.4.1～<br>17.3.31 | 細胞内局在に基づくAhRの生理的機能の解明       | 研究分担者<br>川 尻 要   | 戦略的創造研究推進事業継続研究（SORST）<br>（研究代表者・藤井義明）の班員として研究 |
| H16.4.1～<br>17.3.31 | がん治療の標的として有用なサイトカインの機能解析と創薬 | 研究代表者<br>富 田 幹 夫 | 埼玉県地域結集型共同研究事業（研究統括・伏見譲）の分担研究                  |

#### 4 その他の助成金

| 年 月 日               | 演 題                                             | 氏 名              | 備 考                       |
|---------------------|-------------------------------------------------|------------------|---------------------------|
| H16.4.1～<br>17.3.31 | 高脂血症マウスを用いた循環器系保持食品成分の解明                        | 研究代表者<br>松 島 芳 文 | 農林水産省農林水産技術会議委託プロジェクト振興財団 |
| H16.4.1～<br>17.3.31 | 新規に発見した乳児型神経軸索ジストロフィーマウスの疾患モデル樹立と責任遺伝子の染色体マッピング | 研究代表者<br>松 島 芳 文 | (財)川野小児医学奨学財団研究助成         |

#### 5 研究所によるがん啓蒙活動（主として一般県民を対象とした講演）

|            | 演 題             | 氏 名     | 備 考         |
|------------|-----------------|---------|-------------|
| H.16.6.17  | がんの予防           | 菅 沼 雅 美 | いきがい大学東松山学園 |
| H.16.7.8   | 埼玉から世界へ狭山茶でがん予防 | 菅 沼 雅 美 | 生物文化誌学会     |
| H.17.2.17  | がんの予防           | 菅 沼 雅 美 | いきがい大学伊奈学園  |
| H.16.10.30 | がんになりやすい体質と生活   | 赤 木 究   | 東洋大学市民大学講座  |

#### 6 特許の出願・申請・取得および実施状況

| 年 月 日               | 発 明 の 名 称                              | 発 明 者            | 状 況       |
|---------------------|----------------------------------------|------------------|-----------|
| H16.4.1～<br>17.3.31 | 自然発生アポE欠損高脂血症マウス<br>(特許第3174280号)      | 松 島 芳 文          | 特許実施中     |
| H16.4.1～<br>17.3.31 | 自然発症アトピー性皮膚炎マウス<br>(特許出願2002-273447)   | 松 島 芳 文          | 特許出願中（国内） |
| H16.7.23            | 自然発症2型糖尿病マウス<br>(特許出願2004-215927)      | 松 島 芳 文          | 特許出願（国内）  |
| H16.11.30           | HGFに特異的に結合するアプタマー<br>(特許出願2004-345885) | 富 田 幹 夫<br>齋 藤 武 | 特許出願（国内）  |

## 第2章 病院関係

### 第1節 病院における主要研究課題

| 診療科名  | 課 題 名                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                            | 頁  |
|-------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----|
| 血液科   | 1 造血幹細胞移植の適応基準の検討<br>2 FISH法、real-time PCR法を用いた慢性骨髄性白血病患者の治療効果のモニタリングの研究<br>3 難治性多発性骨髄腫に対するサリドマイドの効果と安全性の検討                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                      | 45 |
| 内分泌科  | 1 乳がんに対する薬物療法の研究<br>2 ホルモン感受性閉経後乳がんに対するエキセメスタン術前ホルモン療法の多施設共同による第II相臨床試験：埼玉乳がん臨床研究グループ（SBCCSG 03）                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                 | 46 |
| 呼吸器科  | 1 進行非小細胞肺癌に対するドセタキセルとカルボプラチンによる隔週併用化学療法の臨床第II相試験                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                 | 47 |
| 消化器外科 | 1 食道癌の悪性度の評価とその臨床応用：食道癌におけるelongation factor-1 delta mRNA発現の臨床的意義<br>2 肝胆膵がんの手術および補助療法による予後改善の試み<br>胃癌肝転移に対する治療の検討<br>3 厚生労働省がん研究助成金13-23『胆膵がんに対する術中放射線療法の有効性評価に関する多施設共同研究』（木下班）：治癒切除膵がんに対する術中照射療法の有効性評価のための多施設共同第3相比較試験<br>4 大腸癌の自然史<br>5 大腸癌術後の肝肺転移再発診断における腫瘍マーカー測定の意義－血清CEA値の変動と免疫組織学的検討<br>6 胃癌手術後の空腸囊を用いた再建法の比較検討（特にQOLの向上を目指して）<br>7 MSI陽性大腸がんの臨床病理学的特徴に関する研究<br>8 早期胃癌に対するSentinel node navigation surgery の基礎研究<br>9 胃癌における遺伝子異常と臨床病理学検討 | 47 |
| 胸部外科  | 1 転移性肺腫瘍に対する外科治療の研究                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                              | 51 |
| 脳神経外科 | 1 がん疼痛治療と緩和ケアの普及に関する研究<br>2 脳腫瘍における神経機能温存に関する研究<br>3 転移性脳腫瘍に対する定位放射線治療                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                           | 51 |
| 婦人科   | 1 婦人科悪性腫瘍の診断に関する臨床細胞学的研究                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                         | 52 |
| 放射線科  | 1 高精度放射線治療の臨床応用（その2）<br>2 大腸癌の画像診断－CT colonographyによる大腸腫瘍の描出および大腸癌M P R像のCT値と病理組織所見との関連について－<br>3 $^{192}\text{Ir}$ 小線源による高線量率のremote afterloading brachytherapy<br>4 形態画像（CT）と機能画像（RI）との融合画像の有用性<br>5 SonArrayを使用した超音波ガイドによる前立腺位置照合の検討                                                                                                                                                                                                          | 53 |
| 頭頸部外科 | 1 頸部リンパ節転移の評価について<br>2 頸部郭清術における分割郭清の安全性の検討－洗浄細胞診を用いた検討－                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                         | 55 |
| 泌尿器科  | 1 経直腸超音波ガイド下系統的な前立腺針生検の検討                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                        | 55 |

| 診療科名 | 課 題 名                                                                                                                        | 頁  |
|------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----|
| 皮膚科  | 1 悪性黒色腫の診断、治療に関する臨床的研究<br>2 皮膚がんの病理、免疫組織学的検討                                                                                 | 56 |
| 口腔外科 | 1 口腔癌治療における歯牙および顎骨の機能保存に関する研究<br>2 早期舌癌の病態解明に関する研究<br>3 口腔癌に対する最小侵襲手術を加えた集学的治療の研究<br>-放射線とレーザー併用療法-                          | 56 |
| 乳腺外科 | 1 センチネルリンパ節生検による腋窩リンパ節郭清省略の予後に及ぼす影響<br>2 センチネルリンパ節転移陽性症例に対する腋窩非郭清＋腋窩照射の予後および有害事象に及ぼす影響<br>3 乳房温存療法後の乳房内再発症例のその後の予後に影響する因子の検討 | 57 |
| 病理科  | 1 乳癌における化学療法の効果予測因子に関する病理学的研究<br>2 悪性リンパ腫の病理学的研究<br>3 口腔癌の外科病理学的研究                                                           | 58 |

## 第2節 研究課題および研究結果

### 1 血液科

#### <研究課題>

#### 1 造血幹細胞移植の適応基準の検討

#### <研究者氏名>

血液科 柵木信男, 小林泰文, 久保田靖子

#### <目的、成果>

造血幹細胞移植 (SCT) は骨髓バンクや臍帯血バンクの運営が盛んになり比較的容易に非血縁の移植片が入手可能となったこと, および非骨髓破壊的前処置による移植法 (RIST) の開発により, 従来は適応外とされた疾患や高齢, 合併症を有する症例にも実施が可能となっている. 治療の選択肢が増えたことで移植片や前処置法の適応基準をより明確にするための検討を続けている. 本年度は慢性骨髄性白血病 (CML) について, 移植時の疾患の状態, 提供者の条件, 移植後の合併症, 移植片対宿主病 (GVHD) 等の要因と移植成績との関連について後方視的検討を行った.

1987年から2003年までに当院で同種・同系SCTを行った64例 (67回) のCML移植例を対象とした. 移植後100日までの死亡率は, 1987年から1995年までの移植例では42% (31例中13例) で, それ以降の移植例の17% (36例中6例) に比べ有意に高く ( $p=0.04$ ), 急性転化後の移植例も67% (9例中6例) と急転前の症例の22% (58例中13例) と比べ有意に高率だった ( $p=0.01$ ). 100日以上生存した48例について, 白血病の再発に関わる因子を探ったところ, 急性GVHDを合併しなかった例の再発率は58% (12例中7例) であったのに対し急性GVHDを発症した例では6% (36例中2例) と低率だった.

移植後100日までの死亡率は近年になり減少しており, 治療経験の蓄積が死亡率低減に寄与していると思われた. 急性転化後の移植例は早期に死亡することが多く, 移植適応かどうか慎重に判断する必要すべきである. 急性GVHDを合併しない例は明らかに再発しやすく, 何らかのGVHD誘導対策を追加する必要があると思われた.

#### <今後の計画>

他の疾患についても同様の解析を行う. CMLについてはImatinib投与の移植成績への影響について検討する.

#### <研究課題>

#### 2 FISH法, real-time PCR法を用いた慢性骨髄性白血病患者の治療効果のモニタリングの研究

#### <研究者氏名>

血液科 小林泰文, 久保田靖子, 柵木信男,  
研究室 金子安比古, 遺伝子研究室 赤木 究

#### <目的・成果>

慢性骨髄性白血病 (CML) は平均3~5年で急性転化をきたして死に至る病気であり, 同種骨髓移植が唯一の確立した治療をめざせる治療法である. 最近, チロシンキナーゼ阻害剤であるメシル酸イマチニブ (IM) が開発され, 高率にフィラデルフィア染色体の消失をもたらすことが示されてきたが, 長期の成績は明らかではない. 一方, 同種骨

髄移植でも10%近くに細胞遺伝的再発と呼ばれるフィラデルフィア染色体の再出現がみられる. これに対しドナーのリンパ球輸注の有効性が示されているが, 致死的な移植片対宿主病 (GVHD) をもたらすこともある. 治療効果を評価して最も適切な治療法を患者に提示することが必要と考えられる. IMを用いたCMLの治療効果を検証し, 効果判定法としての蛍光 in situ (FISH) 法の有用性について検討した. 症例は2001年12月から2003年12月の間に, IMを導入した慢性期CML22例で, 未治療例10例, 既治療例12例. 前治療の内訳は $\alpha$ -interferon 6例, ハイドレア 2例, 同種骨髓移植 3例, 急性転化後 1例であった. IMは1例を除き400mg/日より開始, 6例は300mg/日, 2例は600mg/日, 1例は800mg/日, 残りの12例は400mg/日で維持した. 1例は200mg/日で開始, 維持した. 同種骨髓移植後の3例を除いた19例のうち, IMを投与開始後6ヶ月以内に10例 (53%) にFISH法で細胞遺伝学的大寛解 (MCR) が得られたが, 1例は12ヶ月後に急転した. 6ヶ月以内にMCRが得られなかった9例のうち6例で1年以降にMCRが得られた. FISH法でMCR以上の効果が15例に得られ, さらに定量PCR法での3 log以上のBCR/ABLキメラ遺伝子mRNAの減少は6例にみられた. 1例を除いてそれはIM投与開始後6ヶ月以降に認められた.

同種骨髓移植後の症例1はドナーリンパ球輸注 (DLI) に反応見られなかったためIMを開始した. 開始後4ヶ月でCCRとなり, さらに3ヶ月後には定量PCR法でもBCR/ABLキメラ陰性となった. 症例2はIM開始後DLIを行った. GVHDは見られなかったが, IM開始後6ヶ月, DLI後5ヶ月後にCCRとなり, 定量PCR法でもBCR/ABLキメラ陰性となった. 症例3は慢性GVHDがみられていたためDLIは行わなかった. IM開始6ヶ月でCCRとなり, さらに6ヶ月後には定量PCR法でもBCR/ABLキメラ陰性となった. しかし, 慢性GVHD症状である関節痛がIMによって増強するため本人の希望でIMを中止したところ6ヶ月後にFISH法, 定量PCR法ともにBCR/ABLの再出現が確認された. 本人にこの結果を話した上IMを再開している.

#### <今後の計画>

FISH法はIM投与後早期の効果判定に特に有用であったので, さらに検討を続ける. それ以外の時期では, 定量PCR法の有用性が高いので, PCRを用いて検討する予定である.

#### <研究課題>

#### 3 難治性多発性骨髄腫に対するサリドマイドの効果と安全性の検討

#### <研究者氏名>

血液科 久保田靖子

#### <目的・成果>

サリドマイドは悲惨な薬害を起こした悪魔の薬であるとされている. この悲劇は実際には薬剤の承認の制度, 製薬会社, 使用した医師が引き起こしたものであった. 近年, がんやハンセン氏病などに有効であることが報告され, サリドマイドは復活した. なかでも難治性の多発性骨髄腫において約30%の奏効が得られることが報告され, 世界中の多

く多発性骨髄腫患者にサリドマイドが使用されている。また、米国、英国では承認が得られており、非常に厳しい管理のもと、サリドマイドが処方されている。日本においては、患者の強い希望により、医師の自己輸入により使用されているのが現状である。そこで、難治性多発性骨髄腫患者に対し、サイリドマイド単独あるいはステロイドなどとの併用療法を行い、その効果と安全性を検討した。

サリドマイドの使用に当たっては、文書による同意を取得し、医師の個人輸入として薬剤を購入した。本研究は倫理委員会での承認を得て行った。

21例の患者に使用し、13例が解析可能であった。治療効果はCR 0%, PR 7%, MR 38%であった。NCであっても貧血や痛みの軽減が認められた例もあった。有害事象はGrade 3の白血球減少を認めたが、休薬や減量により回復し、その他、眠気、便秘、皮診、末梢神経障害、頭痛などがみられたが、いずれもGrade 2までのもので、安全性は特に問題がないと考えられた。以上より、内服治療のため、外来での管理が可能であることも好都合で、サリドマイドは難治性多発性骨髄腫に有用であると考えられた。

#### <今後の計画>

日本でオーファンドラッグとして治験の予定であり、発病初期での使用や造血幹細胞移植後の再発などにも有効であることが注目されており、さらにより適切な使用法についての検討が必要であると考えられる。

## 2 内分泌科

### <研究課題>

#### 1 乳がんに対する薬物療法の研究

### <研究者氏名>

田部井敏夫 井上賢一

### <目的・成果>

術前化学療法は、現在では標準的治療と考えられている。その利点は、down stagingにより温存手術が可能となる、使用した抗がん剤の効果が組織学的に判定できる、早期から起こっている乳がんの微小転移を防止することできる、などである。当科では、主に局所進行乳がんに対し、1992年4月からEpi-ADM 60-70mg/m<sup>2</sup>+CPA 600-700mg/m<sup>2</sup>を3週毎に3回、1998年1月からTaxotere 60mg/m<sup>2</sup>を3週毎に3回、1999年7月からADM 40mg/m<sup>2</sup>+Taxotere 60mg/m<sup>2</sup>を3週毎に4回、2003年4月からはADM 60mg/m<sup>2</sup>+CPA 600mg/m<sup>2</sup>を3週毎に4回、引き続きTaxotere 70mg/m<sup>2</sup>を3週毎に4回のプロトコルで術前化学療法を施行しており、臨床的效果、組織学的効果やKi67による細胞増殖能の変化を検討している。またHER2が過剰発現している症例に対しては、多施設共同試験(JECBC02)としてハーセプチンとTaxotere併用による術前療法を施行している。ホルモン感受性のある閉経後乳がんに対しては、Exemestaneによる術前ホルモン療法を多施設共同試験(SBCCSG03)として行っている。

再発乳がんは、治癒を得ることは難しく10年以上の長期生存例は10%以下である(当科の成績:7.6%)。主な治療は、内分泌療法、化学療法、放射線療法や分子標的治療である

が、QOLの改善や症状緩和を図りながら生存期間の延長を目指すことが目標となる。標準的な治療(CMF, CAF, AC, CEF)に無効となった症例に対しては、Taxol 毎週投与(80mg/m<sup>2</sup>を3週連続点滴静注, 1週休薬), Taxotere投与(70mg/m<sup>2</sup>を3週毎に点滴静注)やNavelbine 毎週投与(25mg/m<sup>2</sup>を2週連続点滴静注)を行っている。ホルモン耐性の進行・再発乳がんに対しては、標準的治療法であるAC(ADM 40mg/m<sup>2</sup>+CPA 500mg/m<sup>2</sup>)とTaxotere(60mg/m<sup>2</sup>)との投与順序に関する比較試験(JCOG9802)が終了し、Taxotereの一次治療薬としての妥当性が示された。HER2が過剰発現している再発症例に対しては、実地医療としてハーセプチン単独またはTaxol, Navelbineの毎週投与やTaxotere 3週毎との併用を行っている。また標準的治療のない炎症性乳がんに対しては、多施設共同試験(SBCCSG04)として、ADM 60mg/m<sup>2</sup>+CPA 600mg/m<sup>2</sup>を3週毎に4回、引き続きTaxol 毎週投与(80mg/m<sup>2</sup>を3週連続点滴静注, 1週休薬)を4回行い、その後に放射線治療を追加する化学・放射線療法を行っている。当科で治療した進行・再発乳がん1257例の50%生存期間は、約26ヶ月(Kaplan-Meier法)である。

### <今後の計画>

HER2陽性の症例に対し、術前化学療法としてハーセプチンとTaxol 毎週投与を検討中である。

### <研究課題>

#### 2 ホルモン感受性閉経後乳がんに対するエキセメスタン術前ホルモン療法の多施設共同による第II相臨床試験: 埼玉乳がん臨床研究グループ(SBCCSG 03)

### <研究者氏名>

田部井敏夫

井上賢一

### <目的・成果>

【背景】ホルモン感受性のある乳がんに対し、ホルモン療法を術前に行い、乳房温存を目指す臨床試験の結果が報告され注目されている。埼玉乳がん臨床研究グループはホルモン感受性閉経後乳がんに対するエキセメスタン術前ホルモン療法の多施設共同による第II相臨床試験を計画した(SBCCSG 03)。

【目的】閉経後・ホルモン受容体陽性の乳がん患者を対象に、エキセメスタンの術前補助療法における病理学的奏効率を検討する。また副次的な目的として、臨床的抗腫瘍効果、乳房温存率、有害事象についても検討を行う。

【適格基準】原発巣が組織学的に浸潤性乳がんと診断された女性で、閉経後、臨床的に腫瘍径3cm以上で手術可能、T2またはT3またはT4b, N0~N2, M0, 原発巣において免疫組織染色でERまたはPRが陽性、PSが0~1, 本人より文書による同意が得られた症例とした。予定症例数は40例。

【治療】エキセメスタン25mgを16週間継続服用する。触診、マンモグラフィ、超音波検査にて腫瘍径を測定後、手術を行い、病理学的効果を判定する。

【結果】2003年7月より登録開始され2004年11月までに44例の登録を終了した。年齢は48歳から88歳、平均63歳であっ

た。臨床的奏功率は、54%であった温存手術率は、91%であった有害事象は、G1中心であった。患者の都合で手術拒否例が7例見られた。病理学的効果は、Grade3は0例、Grade2は4例、Grade1bは9例、Grade1aは20例であった。

#### <今後の計画>

更に奏功症例を検討し、術前ホルモン療法の適応を確立していくclinical trialを計画する。

### 3 呼吸器科

#### <研究課題>

#### 1 進行非小細胞肺癌に対するドセタキセルとカルボプラチンによる隔週併用化学療法の臨床第II相試験

#### <研究者氏名>

呼吸器科 酒井 洋，米田修一，駒形浩史，栗本太嗣，須藤淳子，山部啓太郎

#### <目的・成果>

【目的】 進行非小細胞肺癌に対するドセタキセル（DOC）とカルボプラチン（CBDCA）による隔週併用化学療法の有効性と安全性を決定する。

Primary endpoint：奏効率，安全性の評価

Secondary endpoint：奏効期間

安全性に関する評価項目は、全例を対象に有害事象（自他覚所見及び臨床検査値異常変動）の発現率，重症度とする。

【対象と方法】 対象は切除及び根治照射不能なIIIB期またはIV期非小細胞肺癌初回治療例。年齢75才未満，PS 0～1，臓器機能が保たれ，患者本人から同意が得られた症例。DOC40 mg/m<sup>2</sup>とCBDCA（AUC=3）を2週毎に各1時間で点滴静注し，原則として4サイクル（2コース）以上投与を行う。治療期間は，4週毎に行われる腫瘍の再評価に基づいて決定する。

予定登録数：40例，登録期間：2年，追跡期間：登録終了後1年

試験参加施設：埼玉県立がんセンター呼吸器科，東邦大学呼吸器内科

研究期間：2004.11.01～2006.10.31

【結果】 2004年11月に臨床研究審査委員会で承認され，2004年12月より登録が開始されている。

#### <今後の計画>

目標症例数まで登録を続ける予定。

### 4 消化器外科

#### <研究課題>

#### 1 食道癌の悪性度の評価とその臨床応用：食道癌におけるelongation factor-1 delta mRNA発現の臨床的意義

#### <研究者氏名>

田中洋一，川島吉之，吉川朱実（消化器外科）

黒住昌史（病理科），赤木 究（遺伝子研究室）

真船健一（東京大学胃・食道外科）

田久保海誉（東京都老人総合研究所臨床病理部門）

森 正樹，三森功士，小川和彦（九州大学生体防御医学研究所腫瘍外科）

#### <目的・成果>

【背景】 elongation factor-1（EF-1）deltaはEF-1のサブユニットで，mRNA翻訳の伸長ステップに関与するタンパク質複合体である。最近では発癌性変化に相関すると考えられてきた。しかしながら，食道癌を含む悪性腫瘍におけるEF-1 delta mRNA発現の臨床的意義に関する報告はなかった。

【目的】 食道の癌組織および正常組織におけるEF-1 delta mRNA発現定量測定し，食道癌の臨床病理学的パラメータとの関連を検討した。

【対象と方法】 治療的切除を受けた52例の食道癌患者の切除標本から，食道癌部と食道非癌部の組織を採取し検体とした。RT-PCR法を用いて，EF-1 delta mRNA発現を定量解析した。

【結果】 対応する非癌部と比べ癌部におけるEF-1 delta mRNAの過剰発現は52例中38例（73%）に認められた。癌組織におけるEF-1 delta mRNA発現量の平均値は，非癌組織に比べ有意に高値であった（ $P<0.01$ ）。EF-1 delta mRNAの高発現は，リンパ節転移と相関し（ $P<0.05$ ），進行度と相関した（ $P<0.05$ ）。さらに，EF-1 delta mRNA高発現群の原病生存率は，低発現群より有意に劣っていた（5年生存率：23% vs 54%  $P<0.05$ ）。

【結語】 EF-1 delta mRNA発現は非癌部に比べ癌部で有意に高値であり，EF-1 delta mRNAの過剰発現は，リンパ節転移，進行度，予後と相関することが示された。

#### <今後の計画>

食道癌の予後に関連する遺伝子の探索を引き続き行い，有力な遺伝子数個に絞り込んで予後の推定・治療法の選択などに供する。

#### <研究課題>

#### 2 肝胆膵がんの手術および補助療法による予後改善の試み 胃癌肝転移に対する治療の検討

#### <研究者氏名>

坂本裕彦（消化器外科）

#### <目的・成果>

【目的】 胃癌肝転移の手術症例の解析から手術適応，今後の方向性につき検討する。

【方法】 1990年より2004年までに当院で経験した41名のべ56回の肝切除例の術後生存率，無再発生存率を検討した。転移の時期，転移個数，組織型による比較を行った。

【結果】 41例の組織型はtub1，tub2，por，pap，ecc，GISTそれぞれ3，18，3，2，4，5例であった。初回肝切除例全体の生存率は1年77.9%，2年56.9%，3年29.9%，5年29.9%で，無再発率は6ヶ月59.7%，1年30.5%，2年21.3%，5年21.3%であった。GIST症例を除いた同時性14例，異時性22例の比較では，同時性例は最長生存が35.3ヶ月であるのに対して，異時性は3年以降の死亡が無く，5年生存率34%であった。全ての再発は16.9ヶ月以内に起こった。単発と多発の比較では3年以上生存はGISTの1例を除き全て単発例であった。組織型では分化型が良い傾向を認めたが，porにも3年生存例を認めた。

【考察】 肝切除例の再発，死亡の時間経過をみると，腺癌の

場合、再発例は約半数が6ヶ月以内に再発し、全例2年以内に再発、3年以内に死亡した。逆に、2年以降には再発を認めず、また、3年以降の死亡も認めていない。

2年無再発例は治癒の可能性が高いと考えられる。

異時性、単発、高分化型の胃癌肝転移が手術適応であることは明らかだが、低分化腺癌の肝切除後39ヶ月の無再発生存例（治癒の可能性が高い）が出たことから、小数例の検討ではあるが、高分化型以外も切除適応と考える。この適応から外れるものは全て3年以内に再発死亡した。延命効果について化学療法との比較試験が必要であろう。また、他家よりネオアジュバント化療後切除長期生存例の報告があり、注目に値する。

GISTについて、グリベックが有効な場合、長期生存があるが、グリベックが無効となった場合に肝切除に意義があるか否かは今後検討を要する。

【結論】異時単発性胃癌肝転移は5生率51.1%と良い手術適応である。それ以外の腺癌では長期無再発生存は得られておらず、化学療法との比較試験が望まれる。ネオアジュバント化療後の切除も考慮に値する。GISTはグリベックによる薬効が期待できること、さらに新薬も開発されつつあることなどから、別個に今後の検討を要する。

#### <今後の計画>

研究結果を第60回日本消化器外科学会（2005. 7. 21）で発表した。他施設の発表、会場での討論から、同時性肝転移例、複数転移例でも長期生存例があることが判った。手術適応を拙速に縮小せぬよう更に症例の蓄積と検討を継続する予定である。

#### <研究課題>

### 3 厚生労働省がん研究助成金13-23『胆膵がんに対する術中放射線療法の有効性評価に関する多施設共同研究』（木下班）：治癒切除膵がんに対する術中照射療法の有効性評価のための多施設共同第3比較試験

#### <研究者氏名>

坂本裕彦、網倉克己（消化器外科）、楳本智子（放射線科）

#### <目的・成果>

膵がんは消化器癌の中で最も予後不良である。治癒は外科的切除によってのみ得られているが、実際には進行癌が多く、切除成績も不良である。治癒切除例に対する術中放射線療法は20年の歴史がありながら有効性に未だ賛否両論あり定説がない。これは治癒切除可能な症例が少ないため、有効性を統計的に検討することが困難なことに由来すると考えられる。そこで、木下班で多施設共同研究として以下の様に第3比較試験を行なうこととした。

根治切除可能通常型膵がん（通常型とは浸潤型膵管癌のうち粘液嚢胞腺癌、膵管内乳頭腺癌由来の浸潤癌を除いたもの）に対する補助療法としての術中放射線療法の効果を評価する。Primary endpointは生存期間、Secondary endpointは画像診断上の2年局所制御率とし、術中放射線療法の意義を比較検討する。（多施設共同中央登録臨床第3相試験）

本班研究発足時より班員として参加し、当院倫理審査委

員会の承認も受け平成14年12月より症例の登録を開始した。

#### <今後の計画>

症例登録中であり、今後も各施設と共同で規定の症例数を満たし、治癒切除膵がんに対する術中照射療法の有効性評価として世界標準となる研究をめざす。2005年に中間解析を行う予定である。

#### <研究課題>

### 4 大腸癌の自然史

#### <研究者氏名>

西村洋治（消化器外科）

#### <目的・成果>

【目的】大腸早期癌が進行癌に至る経過を注腸像で遡及した検討は多くない。これらを検討することは大腸癌の自然史を知るのに貴重であるとともに、見逃しを防止するために貴重である。今回89例を集めることができたので検討した。

【対象】1998年9月から2005年1月までの6年間に当科で手術した929例の初発大腸癌のうち注腸による遡及法で大腸癌の自然史を検討できたのは89例9.6%であった。89例の内訳は男性42例、女性47例で、平均年齢は62.1才であった。

【結果】癌の占居部位は上行結腸30例、S状結腸24例、直腸16例、横行結腸8例、盲腸7例、下行結腸4例で、右半結腸が51%を占め、母集団より多かった。放置された病変と、治療時の病変の組み合わせでは、早期癌から早期癌が33例、早期癌から進行癌が41例、小型進行癌から大型進行癌が14例であった。早期癌から早期癌として発見された33例の平均遡及期間は25.2ヶ月で、早期癌から進行癌として発見された41例の平均遡及期間は30.0ヶ月で、小型進行癌から大型進行癌として発見された14例では12.6ヶ月であった。遡及症例のstage分布は母集団のそれと変わらなかった。切除時の組織形で分類すると、高分化腺癌で発見された症例は大半が早期癌で、m癌として発見された症例の遡及期間は平均23.4ヶ月で、sm癌として発見されたものでは36.8ヶ月であった。中分化腺癌で発見された症例は大半が進行癌で、深達度とは相関なく、遡及期間は平均24.9ヶ月であった。腫瘍最大径の増大率と遡及期間の分布図を作成すると、増大率と遡及期間は良く相関するが、中分化腺癌は高分化腺癌より増大率が小さい傾向があった。中分化腺癌では腫瘍最大径とリンパ節転移度の間に相関はなかった。

【結論】右半結腸に見逃し例が多かった。高分化腺癌では2年まではm癌として存在し、その後sm癌になるものと想定された。中分化腺癌では平均2年で早期癌から進行癌に、小型進行癌からは平均1年で大型進行癌になるものと想定された。中分化腺癌の方が高分化腺癌より増大速度が大きかった。

#### <今後の計画>

さらに症例数を増やし、上記結論が正しいことを確認するとともに、正しい大腸検査が行われ、見逃し症例が減るよう、啓発活動を行ってゆきたい。

#### <研究課題>

### 5 大腸癌術後の肝肺転移再発診断における腫瘍マーカー測

## 定の意義—血清CEA値の変動と免疫組織学的検討

### <研究者氏名>

網倉克己, 坂本裕彦, 八岡利昌, 川島吉之, 西村洋治, 田中洋一 (消化器外科)

### <目的・成果>

【目的】大腸癌切除術後の異時性肝転移切除例の5年生存率39.5%, 肺転移切除例の3年生存率40.3%と転移巣切除により長期予後が期待できるが, 肺転移単独では腫瘍マーカーの変動が認められない症例も多く, 再発の早期診断を困難としている. 再発診断における腫瘍マーカー測定の意義につき考察した.

【方法】1991年1月から2003年12月までの大腸癌術後異時性肝転移切除例76例, 肺転移切除例52例の転移巣切除前後の血清CEA値の推移につき検討した. CEAは5.0ng/ml以上を陽性とした. また, 肺転移再発時CEA陽性例8例, CEA陰性例6例において原発巣, 転移巣のCEA発現を免疫組織学的に検討した.

【結果】原発巣切除前のCEA陽性率は肝転移切除例51%, 肺転移切除例65%. 再発診断時のCEA陽性は肝転移切除例76例中58例 (76.3%, 肝転移単独では58例中42例; 72.4%, 局所再発を伴う症例16例), 肺転移切除例52例中18例 (34.6%, 肺転移単独41例中7例; 17.1%) と肺転移単独では陰性例が多く, 陽性例18例中12例 (66.7%) は局所再発, 脳, リンパ節転移などの他部位の再発を伴い, 陰性例に比較して有意に予後不良であった ( $p=0.0191$ ). 肝転移の5例 (7%), 肺転移の12例 (27%) は全経過中陰性であった. 肝転移切除術後に肺転移をきたした6症例は肝転移術前陽性, 肺転移術前陰性のHeterogeneityの性質を思わせる経過であった. 切除標本の免疫組織学的検討では, 肺転移巣は原発巣, 肝転移巣に比較して, CEA陽性例8例中3例, CEA陰性例6例全例でCEA発現は低く, CEA陽性例8例中6例, CEA陰性例全例に中心壊死を伴い, 腫瘍の大きさの割にCEA陽性癌細胞が少ない傾向にあった.

【まとめ】肺転移再発時には腫瘍マーカー陰性例が多く, 大腸癌術後は定期的な胸部CTによるフォローアップが必要であると思われる.

### <研究課題>

## 6 胃癌手術後の空腸嚢を用いた再建法の比較検討 (特にQOLの向上を目指して)

### <研究者氏名>

川島吉之, 田中洋一, 山田達也, 吉川朱実 (消化器外科)

### <目的・成果>

胃全摘後食物貯留能付加を目的に2重空腸嚢を作成してRoux-Y吻合を行っている. しかし, 貯留能に相反する食物排出遅延が問題となる事を経験しこの再建法の臨床上的の問題点を検討した.

【対象】1998年1月から2002年3月まで, 胃癌で胃全摘後に空腸嚢Roux-Y再建を行った症例は61例で, そのうち, 根治度C4例, 転院等の追跡不能5例, 術後1年未満5例を除いた根治度A,B 47例を対象とした. 臨床上的の問題点, 体重減少, ダンピング, 消化管通過障害症状 (つかえ感, 逆流,

空腸嚢拡張, イレウス) や術後肺炎の発生等について検討した.

【結果】胃癌の背景因子はstage Ia, Ib, II, IIIa, IIIb, IVが各14, 11, 13, 7, 1, 1例, 平均年齢62.7 (45~82) 歳, 男女比は29:18であった. 術後平均追跡期間39.8 (16.1~60.0) ヶ月であった. ダンピング, つかえ感, 逆流, 空腸嚢拡張, イレウス, 術後肺炎をみると各4, 13, 8, 2, 10, 4例で, つかえ感がもっとも高頻度13/47例 (27.7%) で, ついで術後肺炎が10/47例 (21.3%), 逆流8/47 (17.0%) であった. ①つかえ感と術後肺炎について検討した. つかえ感の症状発現は1~18ヶ月にみられ, うち1年以内9例 (69.2%) であった. つかえ感のみられた13例中術後肺炎を来したのは5例 (38.5%) であった. 一方術後肺炎10例からみると発症時期は1~38ヶ月にみられ, うち1年以内5例 (50%) であった. 術後肺炎の5例 (50%) にはつかえ感が認められていた. ②年齢とつかえ感, 術後肺炎との関連を検討した. 59歳未満, 60~69歳, 70~79歳, 80歳以上は各19, 19, 8, 3例で, つかえ感は各5, 3, 3, 2例で頻度でみると26.3, 15.8, 37.5, 66.7%, 術後肺炎は3, 3, 1, 2例で頻度は15.8, 15.8, 12.5, 66.7%であった. 80歳以上での発生頻度が高かったが79歳以下では同様の頻度であった. ③つかえ感と関連が考えられるイレウス, 空腸嚢拡張につき検討した. 発生頻度は全症例からみてイレウス4/47例 (8.5%), 空腸嚢拡張2/47 (4.2%) と低かった. つかえ感との関連はイレウス4例中1例 (25%), 空腸嚢拡張2例中1例 (50%) につかえ感がみられ, イレウスとつかえ感の関連性が低かった. ④3番目に頻度の高かった逆流症状例をみるとつかえ感や術後肺炎と関連した症例はなかった. ⑤10kg以上の体重減少は18例 (38.3%) でつかえ感, 術後肺炎, 逆流症例は各4, 5, 3例みられた. 頻度でみるとつかえ感4/13 (30.8%), 術後肺炎5/10 (50%), 逆流3/8 (37.5%) であった.

【まとめ】空腸嚢Roux-Y吻合ではつかえ感が28%, 術後肺炎が21%にみられ, 肺炎の2人に1人はつかえ感があった. また, 年齢からみると80歳以上の高齢者はつかえ感, 術後肺炎の頻度が高く, 空腸嚢Roux-Y再建は術後つかえ感のある症例の肺炎発生に注意を要すると思われた.

### <今後の計画>

H17年も引き続きX線造影検査やSitzmarksを用いて消化管運動機能 (食事内容の貯留停滞や排出時間等) の検索を予定している. QOLの向上を目指してよりよい再建法を工夫模索したい. また, 術後肺炎等の合併症予防も検討してゆきたい.

### <研究課題>

## 7 MSI陽性大腸がんの臨床病理学的特徴に関する研究

### <研究者氏名>

八岡利昌, 西村洋治, 田中洋一, 赤木 究, 石窪 力

### <目的・成果>

MSI陽性大腸がんの臨床病理学的特徴を明らかにすることによりHNPCCの診療への応用を試みる目的で検討を始めたが, これまでのHNPCC診断基準に合致しない症例でもMSI-

Hの症例が多くみられた。その原因として加齢や環境変化によるhMLH1のメチル化によるMSI異常が示唆された。

#### <今後の計画>

BAT25, BAT26などのmononucleotide異常が, hMLH1およびhMSH2などの蛋白レベルの異常とどの程度相関するかを調べ, BAT25, BAT26, hMLH1, hMSH2を指標とした日常的な大腸癌遺伝子診断に応用したい。

#### <研究課題>

### 8 早期胃癌に対するSentinel node navigation surgery の基礎研究

#### <研究者氏名>

吉川朱実, 川島吉之, 田中洋一 (消化器外科)

#### <目的・成果>

【背景と目的】 癌原発巣からのリンパ流を直接受けるリンパ節がsentinel node (以下SN) である。1990年代に入って悪性黒色腫および乳癌においてSNの検出が試みられ, SNを同定しそこに転移がないことを確認することによってリンパ節郭清を縮小できることが確認され臨床に応用されている。しかしその他の癌種に関してはSNという概念の妥当性が検証されていないのが現状である。

本研究は早期胃癌患者に対してindocyanine green (以下ICG) を用いて同定されたgreen node (以下GN) をSNとみなし, GNの術中迅速病理診断でリンパ節転移が陰性の場合に縮小手術 (リンパ節郭清を行わない胃局所切除) を行うことが妥当であるかどうかを評価することを目的とした。

【方法】 内視鏡切除の対象とならないcT1N0, 腫瘍径4 cm以下の早期胃癌症例に対し, インフォームドコンセントを得たうえで, 病変位置の漿膜下層に ICG 0.5%溶液 5 mlを病変を取り囲むように分注し, GNを同定して摘出した。その後, 胃癌治療ガイドラインにしたがった標準治療としての系統的リンパ節郭清をとまなう胃切除術を施行し, GNおよびGN以外のリンパ節について病理組織学的に転移の有無を検討した。組織学的リンパ節転移 (GNおよびGN以外の摘出リンパ節を含む) 陽性例のうちGN転移診断が陰性となる患者の割合 (偽陰性率) を検討した。

【結果】 昨年度までの研究では, 15症例を対象とし, GN同定率は93%, 平均GN数は1.7個, 偽陰性率が13% (2例) であった。本年度, さらに3症例に対してこの研究を施行した。いずれの症例でもGNは同定可能であった。3症例ともGNおよびGN以外のリンパ節ともに病理組織学的転移陰性 (pN0) であった。

#### <今後の計画>

【考察と今後の計画】 SN生検にもとづいた胃局所切除が可能となるならば多くの早期胃癌患者の手術侵襲を軽減し, 臓器機能を温存することが可能となる。しかし早期胃癌患者に今日標準的に行われている系統的リンパ節郭清をとまなう胃切除術の遠隔成績は極めて良好であり, 他病死を除いた5年生存率はM癌で99%, SM癌で96%である。したがってSN診断にもとづいてあやまってリンパ節転移陰性とされ転移リンパ節が切除されずに取り残されることは許されない。早期胃癌のリンパ節転移は20%以下であり, SN生検の

妥当性を示す偽陰性割合を検証するためには方法論を統一した多数例での検討が必要である。2004年6月からJCOG0302多施設共同研究の登録が開始された。同共同研究の予定登録数は1550例である。当院ではこれまでの症例でICGの注入, GNの検出に関する手技的な安定は得られた。今後, JCOGの多施設共同研究に参加することによりSN生検の臨床応用の妥当性を検討していく。

#### <研究課題>

### 9 胃癌における遺伝子異常と臨床病理学検討

#### <研究者氏名>

山田達也, 田中洋一, 川島吉之 (消化器外科), 赤木 究 (遺伝子診断室)

#### <目的・成果>

【背景と目的】 遺伝子レベルでの癌の病態が解明されるとともに, 一部の癌では, 分子標的医薬の登場などに代表されるように, それらの知見が臨床応用されるに至った。一方, 欧米で低頻度な癌 (胃癌など) については研究が進んでおらず, 知見は少ない。欧米で少なく日本で多い胃癌について, 遺伝子レベルでの病態の検討は, 独自性の高い価値ある研究となる。さらに, 日本では平成12年の厚生省通達以降, 遺伝子解析研究の同意書のある検体以外は, 遺伝子解析研究に使用できない。それ以前に収集された検体は, 同意書を取り直さない限り, 基本的に使用できない。そこで今回, 新たに胃癌手術症例から新鮮凍結検体を採取・蓄積し, 遺伝子解析研究を行った。PIK3CA遺伝子はphosphatidylinositol 3-kinase (PI3K) のcatalytic subunitをコードし, 大腸癌などで高頻度な遺伝子変異が報告され, 新規候補癌抑制遺伝子として注目されている。しかし, 胃癌におけるその変異の頻度は明らかでない。そこで今回, PIK3CA遺伝子の変異を解析の対象とした。また, 変異例で, Microsatellite instability (MSI) との関連が報告されていることから, 同時にMSI解析を行った。

【対象】 当科で胃癌切除手術を受け, 術前に遺伝子解析研究の同意の得られた40症例を対象とした。正常組織の混入を防ぐため, 確実に癌部のみを採取できる進行癌症例を選択した。

【方法】 a) 新鮮凍結検体の採取: 手術後速やかに, 切除標本から病理診断に影響のない部位で癌部および非癌部の新鮮検体を採取, 直ちに液体窒素で凍結, ディープフリーザーに保存した。b) DNAの抽出: 標準的なフェノール・クロロホルム法で高分子DNAを抽出した。c) PIK3CA遺伝子変異の検討: 大腸癌などで遺伝子変異が高頻度に報告されているExon9 と Exon20 を増幅する Primer を設定した。蛍光オートシーケンサーを用いたPCR-SSCP法で変異を検索し, Direct Sequence法で変異を確認した。d) Microsatellite Instability解析: Bethesda Guidelineに準拠した。標準的な5つのmicrosatellite marker (D2S123, D5S346, D17S250, BAT25, BAT26) を用いてゲノムのPCR増幅を行い, 蛍光オートシーケンサーで泳動を行って, 不安定性の判定を行った。

【結果】 a) 検体の収集, DNAの抽出: 胃癌症例40例から新

鮮凍結検体を採取した。うち19例から、高分子DNAを抽出した。b) PIK3CA遺伝子変異の検討：PCR-SSCP法による検索で、19例中3例において腫瘍のみで異なった泳動度を示すbandがみられた。それらは、PIK3CA遺伝子変異を有する大腸癌細胞株でみられたbandと同様であった。いずれもExon 20であった。現在、Direct Sequence法で変異を確認している。c) Microsatellite Instability解析：19例にいずれもMSIを認めなかった (Microsatellite Stable; MSS)。

【結語】胃癌手術症例より、新鮮凍結検体を採取、保存し、DNA抽出を行った。新規候補癌抑制遺伝子PIK3CA遺伝子について遺伝子変異解析研究を行った。

#### <今後の計画>

今後も同様に遺伝子変異解析を継続し、臨床データとの関連を検討する予定である。

## 5 胸部外科

### <研究課題>

#### 1 転移性肺腫瘍に対する外科治療の研究

#### <研究者氏名>

胸部外科 秋山博彦, 西村仁志, 木下裕康, 中島由貴

#### <目的・成果>

転移性肺腫瘍に対する外科治療は、1) 全身状態が手術に耐えうること、2) 原発巣がコントロールされていること、3) 肺以外に転移巣が見られないこと、また、肺以外に転移巣があっても何らかの治療法にてコントロールされていること、4) 転移巣の完全切除が可能であること、を満たす場合に適応とされる。近年、胸部手術の安全性も確立され、手術例の蓄積により原発臓器別による手術療法の意義も検討が進んでいる。しかしながら、手術療法がどのような症例群に対してより有効であるかは明確ではなく、おおまかに言うと完全切除が可能な場合が手術適応とされているのが現状である。

本研究は腫瘍マーカー、臨床経過などを含めた様々な因子を検討し、外科治療の適応を判定する際の指標を明確にすることを目的とする。

また、転移性肺腫瘍研究会に症例を登録することにより、他施設とあわせての研究も進めている。

#### <今後の計画>

原発臓器別の予後因子の解析、手術術式について (胸腔鏡手術か開胸手術か)、再発・転移形式について等の検討を進める。

## 6 脳神経外科

### <研究課題>

#### 1 がん疼痛治療と緩和ケアの普及に関する研究

#### <研究者氏名>

脳神経外科 卯木次郎 楳本清史 早瀬宣明 石黒早苗

麻酔科 布施嘉亮

看護部 向田良子

薬剤部 細谷和良

#### <目的・成果>

がんは地球規模で増加しており、がん患者発生数は2,000

年に年間1,000万人であり、2020年には年間15,000万人と予測されている。WHOは、がん患者の1/3は予防により発病を防止し、1/3は早期発見により治療に導くことができるが、残り1/3は治療が望めず、がん疼痛治療を始めとする緩和ケアが患者のQOLを高める唯一の医療オプションと考えている。

当センターは、1982年10月にWHO癌疼痛救済計画への協力要請を受けてこの計画の策定に参画し、WHO方式がん疼痛治療法と緩和ケアの普及・教育のため、国内はもとより地球規模で活動を展開した。その功績により、1990年6月1日に当センター脳神経外科が「がん疼痛治療とクオリティ・オブ・ライフに関するWHO研究協力センター」に指定され、以後、すべてのがん患者を心身両面の苦痛から解放することを目指し、国内・国外の学会や研究会等での発表、世界のWHO研究協力センターとの協同研究、WHO西太平洋地域を中心とした発展途上国の専門家に対する技術援助などの活動を継続してきた。

平成16年度の主な成果は次の通りである。

1) 厚生労働省、国際協力機構、国際厚生事業団共催による「平成16年度麻薬行政官研修」の協力：がんセンターにおいて、がん疼痛治療における麻薬使用の実際と医療用麻薬の管理のあり方についての教育を行った (海外7カ国から参加)。

2) 「末期患者QOL推進講習会」を厚生省、がん研究振興財団との共催のもとにさいたま市で開催した。

3) 「埼玉末期がんケア研究会」を2回開催し、地域医療従事者と共に実地臨床検討を行った。

5) 平成7年度からテキサス大学MDアンダーソンがんセンター内科所在の「支持的がんケアに関するWHO研究協力センター」 (所長: Prof. Cleeland, CS) とともに、がん疼痛評価法として世界で広く活用されている簡易疼痛調査表 (Brief Pain Inventory) 日本語版 (BPI-J) を開発し、がん疼痛治療普及のため無償提供し、全国で利用されている。

### <研究課題>

#### 2 脳腫瘍治療における神経機能温存に関する研究

#### <研究者氏名>

脳神経外科 楳本清史, 早瀬宣昭, 卯木次郎

#### <目的・成果>

われわれは、治療に難渋してきた2種類の悪性原発性脳腫瘍に対し、新たな化学療法を導入した。グリオーマの1型である乏突起膠腫に対するPCV (Procarbazine, CCNU, Vincristine) 療法 (症例1) と中枢神経系原発悪性リンパ腫 (Primary CNS Lymphoma: PCNSL) に対する大量MTX療法 (症例2) である。

最近、PCV療法の感受性が染色体1番短腕 (1p) のLOHと相関することが明らかになった。症例1は62歳男性、左前頭葉原発悪性乏突起膠腫の患者で、これまで13年間に3回の摘出術、50Gy局所照射、ガンマナイフ、MCNU/CBDCA化学療法を行っていたが、再発を繰り返していた。3回目の摘出術後、腫瘍組織の1p lossを確認した後、PCV療法を開始した。2004年4月よりPCV療法を開始したところ、CRが

得られ、臨床症状も改善した。その後、8コースまで行い、良好なPSを維持していたが、PCV療法開始約10ヵ月後、腫瘍再発が明らかとなったため、新規化学療法（テモゾロマイド）を検討中である。さらに、現在、神経膠芽腫に対しても、3例にPCV療法を施行中である。

PCNSLは、大脳深部白質に好発するため、摘出は困難で、全身の悪性リンパ腫に対して標準的に行われている化学療法の有効性は低いとされていた。従来は、ステロイドに対する反応性から臨床的に診断した後、放射線治療が行われていた。著明な放射線効果が得られるものの、早期に脳内に再発し、median survivalは約12ヶ月と治療が困難であった。症例2は71歳男性、放射線治療後再発腫瘍に対し、大量MTX療法を3コース施行し、著明な腫瘍縮小効果を認め、残存した腫瘍に対し、ガンマナイフを施行し7ヶ月のdisease free intervalが得られた。PCNS症例としてさらに、2例（73歳女性、52歳男性）が追加され、おのおの、現在まで、9および7ヶ月の寛解が得られている。現時点でわれわれは、PCNSLに対して、まず、開頭ないし定位脳手術により、病理組織診断を確定し、大量MTX療法を可能な限り3コースまで施行し、全脳照射を行うことを基本と考えている。

#### <今後の計画>

神経膠腫手術例におけるlp lossの検索をルーチン化する。PCV療法、大量MTX療法ともにさらに症例を集積し最善の治療法について検討していく予定である。

### 3 転移性脳腫瘍に対する定位放射線治療

#### <研究者氏名>

脳神経外科 早瀬宣昭 楳本清史 卯木次郎

#### <目的・成果>

定位放射線治療とは放射線を病変の形状に正確に一致させて集中照射し、周辺正常組織を温存して病変のみを治療する放射線治療の方法である。マイクロマルチリーフコリメーター（MMLC）を用いることにより病変形状に合わせた形状の照射野を作成することができる。

転移性脳腫瘍に対するMMLCを使用した定位放射線治療の有効性を検討した。対象は'03年6月から'04年12月までに治療した58例：原発部位は肺癌45例、大腸癌3例、乳癌4例、甲状腺癌1例、卵巣癌1例、原発不明癌1例、精巣癌1例、胃癌1例、耳下腺癌1例。治療個数は118病変：平均1.9部位/症例、最大5部位。Direx社MMLC装置をVarian社直線加速器に外付けして使用した。GTVの3mm外側をPTVとし、PTV全体を90%線量曲線で覆うように治療計画した。

1回10-14Gy、10-12門の静的多門照射で、おおむね3日間連続で総線量38-42Gy投与した。

すべての例で腫瘍縮小ないし消失を認めた。後に4病変で再増大し、局所制御率は96.6%であった。'05年3月までの観察期間中、新たな脳転移は12例で出現、6例で定位放射線治療、6例は対症療法を行った。癌性髄膜炎は3例に生じ、1例で放射線治療、2例は対症療法を行った。58例中、47例が生存、19例が死亡、うち8例が脳以外の癌の進行による原病死、2例が突然死、6例は脳転移、3例が癌

性髄膜炎による死亡であった。観察期間における50%生存期間は7.7ヶ月であった。

考察：定位放射線治療による脳転移局所制御は良好であった。原病変の進行、新病変、癌性髄膜炎の出現が予後規定因子と考えられた。

#### <今後の方針>

症例を重ねるとともに、分割照射と一回照射による生物学的効果の違いを検討する予定である。また、原発性脳腫瘍（悪性神経膠腫）に対する定位放射線治療の効果についても検討する予定である。

## 7 婦人科

### <研究課題>

#### 1 婦人科悪性腫瘍の診断に関する臨床細胞学的研究

#### <研究者氏名>

婦人科 高橋道子

#### <目的・成果>

婦人科悪性腫瘍のうち、子宮頸部腺癌や子宮体部腺癌などの腺癌病変の細胞診断基準は、いまだはっきりとは確立されていない。またこれら腺癌病変の早期病変の細胞診断についても不明確な点が多く、細胞診が初期病変の診断のために十分に役立っているとはいえない。

子宮体部の早期癌の細胞像については、最近3年間に経験した粘膜内限局癌10例と、複雑型異型内膜増殖症8例と、筋層浸潤1/3未満の内膜癌26例とを比較し細胞標本の引き始め、引き終わりと中央部でしらべ、以下のような結果を得た。

1 粘膜内限局癌では、内膜細胞診で正常内膜細胞が80%と高頻度に認められこれは複雑型異型増殖症とはほぼ同率であった。しかし、背景の腫瘍壊死は半数に認められ異型増殖症では、1例のみに認められたのに比べ高率である。なお正常内膜細胞は筋層浸潤癌においては30%と低頻度にしかみられなかった。

2 腺系異型細胞は集塊をなして出現し、その最外層からの核突出は、粘膜内限局癌で60%の症例に、複雑型異型内膜増殖症では25%の症例のみにみられ、筋層浸潤癌では69%で認められ、これらは内膜病変を鑑別する時に重要な所見であると思われた。

3 核の大小不同や核縁肥厚などの核所見も注目されるが、これは体癌分化度によってもやや異なる。特に異型内膜増殖症と分化度（G1）膜癌の鑑別診断については難しい。核所見の異常は粘膜内限局癌で半数にみられ筋層浸潤癌で多く、異型内膜増殖症で少ない。

4 核の重積性は癌筋層浸潤で92%、粘膜内限局癌で70%認められた。これらの核中心距離をmicroanalyzerで調べた。平均して筋層浸潤癌で小さく、粘膜内限局癌でやや長い。

5 粘膜内限局癌の細胞診断は6例陽性、3例疑陽性、1例陰性である。1.5cm以下の病巣で陰性等がおきやすい。また筋腫などの存在も影響することがある。

#### <今後の計画>

これらの研究をすすめて、特に数値的にも初期腺癌の特徴を把握したい。

## 8 放射線科

### <研究課題>

#### 1 高精度放射線治療の臨床応用（その2）

### <研究者氏名>

放射線科 齊藤吉弘, 楮本智子, 齋藤淳一

放射線技術部 水野秀之

### <目的・成果>

【目的】肺癌に対する定位照射および前立腺癌の3次元原体照射およびIMRT（強度変調放射線治療）による早期および晩期有害事象、初期照射効果について報告し、これら治療の適応症例、今後の問題点、将来展望について考察した。

【対象および治療法】1 2003年6月から2005年1月までに原発性および転移性肺癌患者12例に対し、定位照射を施行した。内訳は、原発性肺癌5例、転移性肺癌7例である（尿管癌1例、胸腺癌1例、食道癌2例、結腸癌2例、口腔癌1例）。総線量は48Gy-50Gyで、治療期間は4-5日間である。2 前立腺癌に対する3次元原体照射およびIMRT（強度変調放射線治療）は、2003年8月から2005年1月までに91例に施行しており、内訳は、3次元原体照射87例（術後再発9例）、IMRT4例である。総線量は、3次元原体照射で70-74Gyで、IMRTでは、D95を74Gy以上として治療を施行した。

【結果】1 肺癌の初期照射効果は全例において良好であった。早期有害事象は2例にみられ、1例は、嘔吐、他の1例は、一過性の発熱であった。晩期有害事象は、放射線肺臓炎が2例にみられ、1例はステロイド剤を投与し、軽快したが、他の1例は、重篤な放射線肺臓炎で死亡した。この症例は、両肺野の腫瘍に同時に照射を施行した症例であった。2 3次元原体照射の短期間の有害事象は、Grade 1の直腸出血が3例にみられている。局所再発は、3例にPSAの再上昇がみられ、ホルモン療法が再開されている。IMRTの早期有害事象は排尿および排便時痛、頻尿であり、3次元原体照射の場合と差異はみられていない。

【結語】肺定位照射の適応例は、腫瘍径4cm以下が望ましく、4-5cmの場合は、後日にみられる肺臓炎に注意する必要がある。多発性の場合は、2個までが限界で、同時照射は避けるべきである。呼吸性移動に対する工夫は、現時点の方法では不十分であり、改良が必要である。今後は、PTVの設定、線量計算法の問題、QAに考慮して治療計画を検討すべきであり、線量増加、治療期間の短縮について模索する予定である。前立腺癌の放射線治療は、位置移動の検証が重要であり、現在施行している超音波ガイドによる検証システムを全例に適用していく必要がある。またPTVの設定、線量増加、QAについても検討していく必要がある。今後は、治療効果と晩期有害事象の検討が必要である。また小線源治療との棲み分けも考慮しなくてはならない。

### <今後の計画>

来年度は、肺定位照射、IMRTによる前立腺癌治療の症例数を増加させること、前立腺癌に対する小線源治療を開始すること、頭頸部領域のIMRT治療を開始することなどが課題である。

### <研究課題>

## 2 大腸癌の画像診断—CT colonographyによる大腸腫瘍の描出および大腸癌MPR像のCT値と病理組織所見との関連について—

### <研究者氏名>

放射線科 野津 聡, 市川聡裕, 栃木佳宏

放射線技術部 腰塚慎二, 上田規靖, 青木良介, 田中 宏

### <目的・成果>

【検討1】大腸腫瘍42病変を対象として、CT colonography像（仮想内視鏡像、MPR像、展開像、仮想注腸像およびShaded Surface display (SSD)）を評価。評価方法は5人の検査担当医師および技師が各々別個に各画像の所見を病変同定不可1点、同定困難2点、同定可能3点、内視鏡像と同等4点、内視鏡以上に有用5点と数量的に評価。対象の内訳は大腸進行癌24病変、早期癌10病変、腺腫8病変。評価の平均点で比較すると、SSDは3.90であり仮想内視鏡像の3.52よりも病変描出に優れていた。表面型5病変中2例は仮想内視鏡像で2点以下であったが、SSDでは4点であった。一方、SSDでは表面型で2点以下の病変はなかったが、有茎性腫瘍の1つが2点以下であった。以上から大腸病変の同定には、SSDを作成し、注意深く観察した後、同定された病変および存在が疑わしい部位に対し、仮想内視鏡像、MPR像を追加すべきと考えられた。

【検討2】大腸癌31病変を対象とし、単純および造影CT検査におけるMPR像CT値の有用性を検討。検討は手術時の組織型、深達度、リンパ管侵襲、静脈侵襲の程度と病変のCT値との関連である。推計学的検討には、Scheffeの多変量分散分析および判別分析を用いた。

【結果】病理組織所見とCT値との関係のうち多変量分散分析で有意差を認めたものは以下であった。1. 組織型：単純像および造影像における腫瘍の最大CT値と平均値CT値との差。2. 深達度別：単純像における腫瘍最大CT値、単純像における腫瘍の最大CT値と平均値CT値との差。3. リンパ管侵襲：単純像および造影像における腫瘍の最大CT値、造影像における腫瘍の最大CT値および腫瘍の最大CT値と平均値CT値との差。4. 静脈侵襲：単純像および造影像における腫瘍の最大CT値および単純像における腫瘍の最大CT値、単純像における腫瘍の最大CT値と平均値CT値との差。また、判別分析の結果、組織型（高分化か否か）、静脈侵襲の程度（v1以下とv2以上）に関しては単純像における腫瘍の最大CT値と平均値CT値との差を用いた判別式、深達度の程度（sm1までとそれ以深）およびリンパ管侵襲の有無に関しては造影像における腫瘍の最大CT値を用いた判別式において正判別率70%以上を示した。【結語】大腸癌MPR像のCT値は単純像および造影像とも病理組織所見と相関があり、腫瘍の進展を予測する上で有効な検査法になる可能性がある。

### <今後の計画>

CT colonographyによる多断面再構成（MPR）法においてdynamic studyによる大腸癌のCT値の変化を把握し、造影の有用性および臨床像との関連を検討する。

### <研究課題>

#### 3 192Ir 小線源による高線量率のremote afterloading

## brachytherapy

### <研究者氏名>

放射線科 楮本智子, 齊藤吉弘, 齊藤淳一  
放射線技術部 佐藤恭二, 松田幸広, 原田昭夫, 山入端薫,  
水野秀之

### <目的・成果>

小線源組織内照射は従来からある4次元放射線治療とも言え、直線加速器による定位放射線治療が可能となってきた現在でも、病変のtargeting、動きに対してtrackingしえるという点が大きな特徴である。舌扁平上皮癌に対する適応では、本年度も低線量率組織内照射との治療成績を比較した。腫瘍辺縁部へのPTV (planning treatment volume) 線源評価点の導入とともに、晩期有害事象で問題となる下顎骨辺縁部に相当して評価点をおき、対応する線量を評価した。生物学的等価線量として下顎骨障害の閾値を想定したが、諸家の報告とはほぼ一致した。さらに晩期障害を低減すべく、線量分割方法を変更して、臨床研究を継続予定である。

婦人科領域での子宮腔内照射には当施設主導の多施設共同研究で開発した最適化RALSプログラムを使用してきた。今年度、I II期子宮頸部癌に対する放射線単独療法が多施設共同研究にも参画したが、<sup>192</sup>Ir線源用に独自に改変した最適化RALSプログラムを使用することが許容されたレジメンとなっており、当施設の従来からの良好な成績が反映されることが期待される。

### <研究課題>

#### 4 形態画像 (CT) と機能画像 (RI) との融合画像の有用性

### <研究者氏名>

放射線科 市川聡裕, 栃木佳宏, 野津 聡, 齊藤吉弘

### <目的・成果>

近年の画像診断装置の進歩はめざましくCTでは撮像装置の高速化および撮像範囲の拡大が著明で全身のスキャンも簡便に行えるようになった。当院でも16列マルチスライスCTが導入され、癌の全身検索に非常に有用となっている。これに対して核医学検査についてはFDG-PETの保険適応やPET-CTの開発が現在の話題となっているが当院では導入されておらず依然として骨シンチ、<sup>67</sup>GaシンチがRI検査のほとんどとなっている。これらのシンチについては有用性についてはこれまでさまざまな報告がなされているが、さらなる検査精度の向上を目指してCT画像との融合画像の作成を試みた。方法としてはPACS画像からビットマップデータとして書き出し、Mac上でphotoshopのレイヤー機能を用いて簡易融合画像の作製を行った。方法としては簡単であるが大まかな集積部位の特定、視覚的な評価としてはある程度の画像が得られた。

一般的に核医学画像については特異性は高いものの分解能の低さが問題となることが多い。また形態情報に乏しいこともその診断の問題となることがある。CTとの重ね合わせを行うことによりこれらの問題の解消が得られ、診断精度の向上が見込まれる。しかしながら視覚的な重ね合わせ

では精度に限界があり、SPECT-CTやPET-CTの導入が望ましいと考えられる。

### <今後の課題>

画像重ね合わせについては位置情報の同定の問題を解消するためCTとRIの同時に撮像可能なハイブリッド装置の導入が望ましい。また定量化のためには処理ソフトウェアの開発も必要と考えられる。症例を選んで今後有用性の検討をする必要がある。

### <研究課題>

#### 5 SonArrayを使用した超音波ガイドによる前立腺位置照合の検討

### <研究者氏名>

放射線科 齊藤淳一, 楮本智子, 齊藤吉弘

### <目的・成果>

前立腺癌に対する放射線治療においては、高線量を局所に集中することで治療成績の向上および周囲臓器への被曝の低減が図られているが、前立腺の位置は膀胱や直腸の充満の状況によって移動することが知られている。前立腺の日々の移動や患者間での差異を検討し、放射線治療精度の向上を図る目的で超音波画像を利用した位置照合システムの使用を開始した。使用装置は赤外線カメラと三次元超音波再構成画像装置を組み合わせた位置照合システム、SonArray (Zmed社) である。放射線治療室内に設置された赤外線カメラで赤外線発光装置の付いたエコープローブの位置や角度および取得画像の情報をリアルタイムにモニタリングすることのできるシステムであり、CT画像を元に作成した治療計画・体輪郭情報と日々の照射直前に腹部体表からえられた超音波三次元画像を重ね合わせることでアイソセンターの偏位を算出し、前立腺の前後、左右、頭尾方向の偏位・回転を検証した。

臨床使用に先立って簡易的なファントムを自作しシステムの精度を検討したところ、いずれの方向も誤差0.5mm以内であることが確認できた。臨床使用開始から現在までに24症例に対し、計365回のセットアップを施行している。画像の収集および偏位の照合は5分から10分前後で可能であり、365回中、360回 (98.6%) でCT輪郭との対比が可能な画像がえられた。確認されたアイソセンターの偏位は最大14mmであった。偏位の平均値でみると前後方向 $1.3 \pm 3.3$ mm、左右方向 $0.6 \pm 1.8$ mm、頭尾方向 $-1.7 \pm 3.1$ mmであり、前後・頭尾方向の偏位がやや大きく、背側、足側への偏位が目立つ傾向であった。5mm以上の偏位がみられた割合は前後方向で29%、左右方向6%、頭尾方向21%であった。超音波画像の画質に影響を与える因子として、患者の体格、腸管内ガスの存在、膀胱容量、前立腺と膀胱との位置関係などが考えられた。このシステムにより前立腺の移動を非侵襲的に観察することが可能であり、放射線治療精度を高めていくために有用であると考えられた。

### <今後の計画>

SonArrayによってえられた偏位の情報を実際の治療に反映させ、高精度な放射線治療をおこなっていくためにセットアップ精度のさらなる向上を目指し、システムのQAにつ

いて引き続いて検証し、症例を集積するとともに画質や再現性向上のための努力を続けていく予定である。

## 9 頭頸部外科

### <研究課題>

#### 1 頸部リンパ節転移の評価について

### <研究者氏名>

頭頸部外科：西 嶋 渡，鈴木政美，有泉陽介

臨床病理部：小林康人

### <目的・成果>

ここ数年、頸部リンパ節転移の微細構造を調べている。頭頸部癌では一般に、原発の非制御よりも、頸部リンパ節転移の非生御が、予後を決定する場合が多い。従って、頸部リンパ節をいかに制御するかが問題となる。頸部リンパ節転移の評価には、加療前のリンパ節転移の評価（以下N病期、）と、手術後に得られるリンパ節転移個数（以下p N病期）とがある。この両方で通常は予後を決定するのであるが、実際の臨床の現場ではこれだけでは説明しきれない状況に出くわすことが多い。例えば、同じ病期でも喉頭癌と下咽頭癌とでは頸部郭清後の頸部床部の再発率が異なるからである。我々の経験では喉頭癌の6%に対して下咽頭癌では26%に及ぶ。その違いについて今回は検討を行った。対象は4例の下咽頭癌N2B症例と1例の喉頭癌N2B症例である。根本的頸部郭清術後に、献体を内頸静脈に直行する方向で5ミクロンの連続切片を作製し、検鏡にて微細リンパ査閱転移を調べた。その結果、N病期やp N病期では到底引っかからない1ミリ以下の微細リンパ節転移が下咽頭癌に多く認められた。すなわち、下咽頭癌ではN2B以上の症例では転移リンパ節間に、微細なリンパ節転移が多く、通常のp N検査では見落としてしまうと考えられる微細なリンパ節転移が4症例で計11個認められた。一方喉頭癌では1個であった。

このことは、下咽頭癌では頸部郭清に際し細胞レベルでは微細な転移を取り残す可能性が高いことが示唆された。今後症例数を増やして検討したい。

### <研究課題>

#### 2 頸部郭清術における分割郭清の安全性の検討ー洗浄細胞診を用いた検討ー

### <研究者>

頭頸部外科 鈴木政美，西 嶋 渡，神山亮介，松峯 元

病理科 出雲俊之，黒住昌史

### <目的・成果>

周囲組織に癒着のない頸部リンパ節転移に対して、当科では分割郭清方式の頸部郭清術を基本としており、en block方式の立場からは、癌細胞の播種の危惧を抱かれる。これまでの研究で、転移性リンパ節が認められた場合でもリンパ節の被膜を損傷しなければ、分割郭清方式でも癌細胞の播種の危険性がそれほど高くないことを病理組織学的に示唆し、治療成績もen bloc方式と差がないことを報告してきた。

今回の研究では、分割郭清方式の術後の術野を洗浄し、

洗浄液を細胞診に提出して実際に癌細胞の播種がないかを検討するのが目的である。本研究は昨年度からの継続研究であり、術後1年以上経過した症例の結果もあわせて報告する。

結果は舌癌5例（扁平上皮癌）、喉頭癌2例（扁平上皮癌）、中咽頭癌例（扁平上皮癌）、甲状腺癌3例（乳頭癌）、鼻副鼻腔癌例（小細胞癌）、上顎洞癌例（扁平上皮癌）、耳下腺癌例（唾液腺導管癌）の頸部リンパ節転移の計14例に胸鎖乳突筋、内頸静脈、副神経、頸神経をすべて温存する分割郭清を施行した。病理学的に確認されたリンパ節転移の数は1～10個であったが、全例で洗浄液中に癌細胞は認めなかった。また、術後1年以上経過した舌癌3例（そのうち2例は放射線治療60Gyを追加）、喉頭癌1例（放射線治療60Gyを追加）、甲状腺癌3例の計7例では、郭清領域内に再発は認めていない。

### <まとめ>

周囲組織に癒着のない頸部リンパ節転移に対しては、分割郭清方式の頸部郭清術でも問題なく、機能温存に有利な本術式の有用性は高いと現時点では考えられる。

## 10 泌尿器科

### <研究課題>

#### 1 経直腸超音波ガイド下系統的前立腺針生検の検討

### <研究者氏名>

泌尿器科 東 四雄，福田博志，石岡淳一郎

### <目的・成果>

【目的】前立腺癌の病理学的診断に超音波ガイド下の系統的針生検は不可欠である。系統的生検は多くの施設では短期入院のもと、麻酔下で行っているが、我々は諸種の制約から基本的に外来通院の無麻酔下に6ヶ所生検を行っている。希望者およびさらに精密な生検が必要と判断した例については、入院で仙骨硬膜外麻酔下に多ヶ所生検を行う。最近、検出率をあげるために多ヶ所生検を行う施設が主流になっているが、我々の外来無麻酔方式では最低限要求される6ヶ所生検が限界である。このような背景の元、当院で行っている外来・無麻酔・6ヶ所生検による癌検出率と安全性を検討することにより、今後の生検法の方角性を考えたい。

【対象と方法】1999年6月から2004年12月までに約550例に施行した。このうち病理組織が判明している511例について以下の項目を検討する。

1) PSA値と癌検出率の関係。可能な例についてはPSA Free/Total ratio (F/T比) についても同様の検討を行う。

2) 系統的針生検部位別の癌検出率。

3) 前立腺全摘術を行った例については、生検での検出部位と組織学的な比較。

4) 外来通院生検における安全性。

このうち、今年度は1)について検討した。

【結果】511例のうち初回生検は438例、うち繰り返し生検2回の例数が55例、3回目、4回目がそれぞれ14、4例である。これらtotalでの癌検出率は46.4%であった。初回生検での癌検出率は49.1%、2回目生検での癌検出率は30.9%、3回目生検では28.6%であった。初回生検でPSAが判明してい

る247例中、いわゆるgray zoneのPSA値4以上10未満例は85例、うち16例（18.8%）に癌が検出された。この癌検出率18.8%という成績は、諸家の報告による多カ所生検の成績に比してやや低い数値である。この結果が、6ヶ所生検の限界、すなわち6ヶ所生検では偽陰性が多いことを示しているかどうかはまだ結論を出せない。

初回生検でPSAのF/T比が判明している148例中癌が検出された63例の平均F/T比は0.097であった。F/T比0.1未満症例での癌検出率は62.3%で、0.1以上症例の癌検出率28.7%に比べ明らかに差がみられた。今後ともF/T比0.1未満の症例ではより積極的に生検を行う必要があると考えられる。

#### <今後の計画>

今後症例を積み重ねることにより、外来・無麻酔・6ヶ所生検と入院・麻酔下多ヶ所生検の成績を比較検討するとともに、上記検討項目を実行したい。

## 11 皮膚科

### <研究課題>

#### 1 悪性黒色腫の診断、治療に関する臨床的研究

##### <研究者氏名>

皮膚科 石川雅士

病院研究所 赤木 究、原 栄一

##### <目的・成果>

進行期の悪性黒色腫は通常の化学療法、放射線治療に抵抗性である。我々は悪性黒色腫の予後およびQOLの改善のため、さまざまな角度から臨床的研究を重ねている。1) 適切なリンパ節郭清の方法として、sentinel node biopsyの確立を試みてきた。2) 脳外科の協力の下に脳転移への $\gamma$ -knife治療を行ってきた。3) 悪性黒色腫ではBRAF遺伝子の変異をみることがある。腫瘍マーカー的な臨床的应用が可能か研究を行っている。当院では9症例中4例が腫瘍部にBRAF遺伝子の変異があったが、現在、再発、転移はなく血漿中のBRAF変異はなかった。

##### <今後の計画>

BRAF遺伝子の有用性を検討する。

### <研究課題>

#### 2 皮膚がんの病理、免疫組織学的検討

##### <研究者氏名>

皮膚科 石川雅士

病理部 出雲俊之

##### <目的・成果>

皮膚がんの診断とその予後判定の精度を高めるためには、その病理像を正確に捉える必要がある。我々は免疫組織学、電子顕微鏡などを併用して、皮膚がんの鑑別や再分類、予後の関連などを検討している。1) 各種癌特異抗原による免疫組織学的検討；HMB-45、CD34、GCDPF-15、Mic-2など。2) 抗サイトケラチン抗体による免疫組織学的検討；AE1/AE3、インボルクリン、CAM5.2、Ks20.8など。3) 皮膚がんの増殖関連遺伝子の発現；PCNA、P-53、Bcl-2など。

## 12 口腔外科

### <研究課題>

#### 1 口腔癌治療における歯牙および顎骨の機能保存に関する研究

##### <研究者氏名>

口腔外科：岡部貞夫、八木原一博、松木繁男

##### <目的・成果>

口腔癌治療においては、治療後に生じる歯牙および顎骨の欠損が口腔機能の著しい障害を来とし、患者のQOL向上の大きな妨げになる。これまで治療後の歯牙および顎骨の欠損を予測し、人工物による欠損補填「顎顔面補綴」とマイクロサージェリーを用いた大型遊離皮弁と種々の下顎骨再建法の工夫など外科的欠損補填「再建手術」の両面から顎口腔機能の保存・回復を目指してきた。平成7年度からは、吸収性人工材料である乳酸カルシウムより成るPLLAメッシュトレーと腸骨碎片骨髄（PCBM）による新しい下顎骨再建法を多施設共同で治験を開始したが、症例の集積が難しく、13年度で中断していたが、今年度途中から再開できた。

今年は、手術後に下唇内翻を伴う補綴難症例を検討して問題点を明らかにした。検討した症例は、1987年～2004年の間で手術後に下唇内翻を認めた35例の内、補綴し得た12症例と途中補綴不能となった4症例である。

顎補綴装着を困難にする要因は、1) 口腔内形態として、顎堤の再建様式、舌の形態、口腔前庭の有無、粘膜・皮弁の状態、残存歯。2) 流涎の程度。3) 嚥下様式。4) 義歯への理解度。5) 義歯装着経験の有無、などがあげられた。

##### <今後の計画>

1. 歯科用インプラントは、このような補綴難症例に対して一つの解決の手段として期待できる。

かねて懸案となっていたが、今年度9月に県議会の承認を得た。次いで、12月当センターの倫理審査委員会、1月外来デイクア小委員会、診療情報管理委員会において承認を得て、実地診療を開始できる体制が整った。

2. PLLAメッシュトレーと腸骨碎片骨髄（PCBM）による下顎骨再建法について見極めて症例の集積を行っていく。

3. 顎顔面補綴の要望は大きく、さらに症例を蓄積、補綴物の形態機能の評価を行っていく。

### <研究課題>

#### 2 早期舌癌の病態解明に関する研究

##### <研究者氏名>

口腔外科：岡部 貞夫、八木原一博、中山竜司

病理科： 出雲俊之

##### <目的・成果>

舌癌においてもようやく早期癌症例が集積されてきている。早期癌の病態解明により、より犠牲の少ない治療法の確立が期待できる。われわれは、早期舌癌局所切除症例をretrospectiveに検討することにより、上皮性異形成dysplasiaの中に前癌状態としての腫瘍性病変＝扁平上皮内腫瘍squamous intraepithelial neoplasm (SIN) があること

を解明した。そこで、舌粘膜SINの病態の特徴を明らかにする目的で、1994年4月～2001年3月までに、当科で局所切除したT1-2舌扁平上皮癌症例のうち、切除断端Ca（-）かつdysplasia（+）で経過観察中に浸潤癌に進展した症例28例を舌粘膜SINとして検討した。これらは組織形態学的に、全層置換型（WHOによるCIS）と表層分化型に分け、後者はさらに萎縮型と肥厚型に分けられた。全層置換型は3例と少なかった。一方、表層分化萎縮型は7例であったが、表層分化肥厚型は18例と最も多かった。浸潤癌へと進展するまでの期間は、全層置換型は平均6.6か月と最も短く、表層分化萎縮型は14.6か月であり、表層分化肥厚型は46.5か月と最も長かった。舌粘膜SINは3型で病態に特徴を認めた。

多施設共同研究により、T1-2舌扁平上皮癌症例は、臨床的に、表在型、外向型、内向型に分ける有用性を明らかにした。

#### <今後の計画>

1. 舌粘膜SINの診断・確立には、症例の蓄積が必要である。
2. 表層分化肥厚型舌粘膜SINを、臨床的に判別する手段としてヨード染色を行っているが、十分とは言えないので他の方法との組み合わせを検討していく。
3. 舌粘膜SINと診断できた場合の処置法としては、犠牲を最小限にするため、粘膜切除+植皮が推奨できるが、追跡が必要である。

#### <研究課題>

### 3 口腔癌に対する最小侵襲手術を加えた集学的治療の研究—放射線とレーザー併用療法—

#### <研究者氏名>

口腔外科：八木原一博，岡部貞夫

放射線科：齊藤吉弘，楳本智子，齊藤淳一

#### <目的・成果>

目的：口腔は顔の下1/3を含め複雑な構造からなり、摂食、会話などQOLに大きな影響を及ぼす器官である。口腔癌の治療においては形態的温存が望まれる。そこで、治療体系の中に腫瘍を減量する（reduction surgery）という概念を推奨したい。口腔癌、とくに頬粘膜扁平上皮癌における最小侵襲治療としての外照射+レーザー蒸散術同時併用療法の長期予後について検討した。

対象：1985年～2003年までに埼玉県立がんセンター口腔外科で根治治療として本療法を施行した頬粘膜扁平上皮癌一次症例60例。本法の適応は1）病理組織学的により高分化であること、2）臨床的に表在性または外向性の発育様式を呈することである。T分類はT1：6例、T2：33例、T3：15例、T4：6例、原発腫瘍の重部位は固有頬粘膜：39例、口唇粘膜：13例、臼後部：8例、臨床発育様式は表在型：18例、外向型：32例、内向型：10例であった。

方法：40Gy前後（2Gy/回）の外照射とCO<sub>2</sub>あるいはNd:YAG LASERによる蒸散術（減量手術）を1～4回施行した。

結果：局所制御率は70.0%（42/60）で、T分類別ではT1：83.3%、T2：66.7%、T3：60.0%、原発巣別では口唇粘膜：76.9%、固有頬粘膜：71.8%、臼後部：50%、臨床発育様式

別では外向型：81.2%、表在型：77.8%、内向型：20.0%であった。5年累積生存率（原病生存率）は78.3%、10年類生存率は74.6%であった。

成果：頬粘膜癌に対する審美性、機能の温存を目的とした本療法は、症例を選択すれば長期経過観察において根治療法の一つとして期待できることが示唆された。また、保存的治療である本療法は、口腔癌に対する最小侵襲治療の一手段となりうることが示唆された。

#### <今後の計画>

これまでの研究結果に加え、本療法における治療効果と生検材料、手術材料の病理組織学的所見との関連性を確認する。

さらに症例数を重ね、本治療法が最小侵襲治療の一手段になりうるか検討する。

## 13 乳腺外科

#### <研究課題>

### 1 センチネルリンパ節生検による腋窩リンパ節郭清省略の予後に及ぼす影響

#### <研究者名>

乳腺外科 武井寛幸，末益公人，二宮 淳，堀井吉雄，吉田 美穂，萩原靖崇

病理科 黒住昌史

放射線科 楳本智子，齊藤吉弘

#### <目的・成果>

昨年度の研究を継続し、センチネルリンパ節生検による術中迅速病理検査でセンチネルリンパ節転移陰性と診断され、腋窩郭清が省略された症例の予後を検討し、センチネルリンパ節生検による腋窩郭清省略の予後に及ぼす影響を検討した。

1999年1月～2004年12月にセンチネルリンパ節生検が施行された臨床的リンパ節転移陰性原発性乳癌で、センチネルリンパ節が同定され、術中迅速病理検査でセンチネルリンパ節転移陰性と診断され、腋窩リンパ節郭清が省略された症例は959例であった。このうち、永久標本で転移陽性と診断された症例（迅速病理診断偽陰性例）は83例（8.7%）であった。観察期間中央値は48か月（8～80か月）で、腋窩リンパ節再発が5例（0.5%）（うち1例は胸筋間リンパ節）に認められた（再発までの期間は9～23月）。さらに、縦隔または鎖骨上リンパ節初再発が6例（0.6%）、遠隔臓器再発が14例（1.5%）、局所再発が13例（1.4%）に認められた。迅速病理診断偽陰性例からは肺転移再発が2例認められたが、腋窩再発はなかった。

腋窩郭清省略後の腋窩リンパ節再発率は0.5%と低く、センチネルリンパ節生検の術中迅速病理検査で転移陰性と診断されれば、腋窩郭清の省略が可能であると考えられた。ただし、多くの症例で術後補助療法（ホルモン療法、化学療法、放射線療法）が行われており、これら治療の効果が考慮されなければならない。

#### <今後の計画>

腋窩非郭清症例をさらに増やし同様の検討を行う。

#### <研究課題>

### 2 センチネルリンパ節転移陽性症例に対する腋窩非郭清＋腋窩照射の予後および有害事象に及ぼす影響

#### <研究者名>

乳腺外科 武井寛幸，末益公人，二宮 淳，堀井吉雄，吉田美穂，萩原靖崇

病理科 黒住昌史

放射線科 楮本智子，斉藤吉弘

内分泌科 井上賢一，田部井敏夫

#### <目的・成果>

センチネルリンパ節転移陽性乳癌のうち、腋窩リンパ節転移個数3個以下と推測される症例に対して、腋窩非郭清＋腋窩照射を施行し、その有効性、有害事象を検討した。本研究は当センターIRBでの承認を受け、2004年10月から開始された。対象は、術前の触診、超音波検査で腋窩リンパ節転移陰性の診断が得られ、術中迅速病理検査において、センチネルリンパ節を含む2個以上のリンパ節が摘出され、このうちセンチネルリンパ節1個のみ転移陽性の症例（この条件を満たす症例は転移個数3個以下と推測される）で、術前に文書にて同意が得られたものである。腋窩郭清を行わず、術後に腋窩照射（50Gy）を施行する。Primary endpointは腋窩再発率、Secondary endpointは術後上肢浮腫、知覚異常、放射線性肺炎の発生率、健存率、生存率である。2005年3月までに25例が登録された。2005年8月時点で腋窩再発は1例も認められていない。また、1例に放射線性肺炎が認められた。

#### <今後の計画>

2年間で40例の登録を予定していたが、登録ペースは速く、1年間で40例以上になる見込みである。今後、症例数をさらに増やし、本治療の有効性を検討する。

#### <研究課題>

### 3 乳房温存療法後の乳房内再発症例のその後の予後に影響する因子の検討

#### <研究者名>

乳腺外科 末益公人，武井寛幸，二宮 淳，堀井吉雄，吉田美穂，萩原靖崇

内分泌科 井上賢一，田部井敏夫

病理科 黒住昌史

#### <目的・成果>

1991～2004年に乳房温存療法が施行された1933例（IV期、術前治療、両側乳癌症例を除外）を対象とした。観察期間中央値48（2～175）か月で乳房内再発は40例（2.1%）に認められた。再発までの期間の中央値は31（6～136）か月であった。多変量解析にて、乳房内再発へ影響を及ぼす因子は、初回手術時の切除断端陽性・陰性および乳房照射の有無が有意な因子であったが、年齢、腫瘍径、リンパ節転移、ホルモンレセプター、全身治療の有無は有意な因子ではなかった。

乳房内再発パターンを「真の再発」と「第二癌」に分類し、乳房内再発後の乳房手術術式を「再部分切除」、「乳房切除」、「手術不能」に分類した。乳房内再発腫瘍が「第二

癌」の症例または乳房部分切除により腫瘍の完全切除が可能な症例ではその後の遠隔再発のリスクが低い傾向を示した。一方、乳房内再発が「真の再発」、乳房切除術が必要だった症例または手術不能症例ではその後の遠隔再発のリスクが高かった。初回手術時の年齢、腫瘍径、リンパ節転移、エストロゲンレセプター、乳房照射および全身治療の有無、乳房内再発までの期間は乳房内再発後の遠隔再発の危険因子ではなかった。

#### <今後の計画>

乳房温存療法施行症例の増加に伴い、低率ではあるものの乳房内再発症例も必然的に増加することが予想される。今後も乳房内再発症例に対して、再発腫瘍の臨床病理学的特徴と乳房内再発パターンを分析し、個々の症例に最適と思われる治療を施行し、その後のフォローを行っていく方針である。

## 14 病理科

#### <研究課題>

### 1 乳癌における化学療法の効果予測因子に関する病理学的研究

#### <研究者氏名>

病理科 黒住昌史

内分泌科 井上賢一，田部井敏夫

乳腺外科 二宮 淳，堀井吉雄，武井寛幸，末益公人

#### <目的・成果>

乳癌における化学療法の効果予測因子を追究するために、HER2（癌増殖因子）過剰発現を呈する転移性乳癌に対するドセタキセル（タキサン系抗癌剤）とトラスツズマブ（HER2モノクローナル抗体）併用療法の臨床的治療効果と種々の生物学的因子の発現との関係について免疫組織化学的検討を行った。対象はHER2過剰発現を呈する転移性乳癌39例（東日本の6がんセンター）であり、ドセタキセル70 mg/m<sup>2</sup>（3週間隔）とトラスツズマブ4 mg/m<sup>2</sup> → 2 mg/m<sup>2</sup>（1週間隔）の併用療法を行い、抗腫瘍効果を検討した。39症例の臨床的效果はCR 6例、PR 22例、SD 7例、PD 1例、NE 3例であり、抗腫瘍効果は71.8%であった。次にこれらの症例のうち原発巣の病理標本を得られた24症例について免疫組織化学的検討を行った。免疫染色は、HER2、ER（estrogen receptor）、PgR（progesterone receptor）、Ki-67（分裂能を示す因子）、p53（癌抑制遺伝子）について施行し、治療効果と染色状況との関係について検討を行った。24症例の臨床的效果はCR 4例、PR 14例、SD 5例、PD 1例であり、抗腫瘍効果は75%であった。HER2はいずれもScore 3の症例であるが、染色面積が50%以上と未満では奏効率に差はなかった。p53の染色性と奏効率との間には関連性はなかった。ERの発現と奏効率との間には関連性はなかったが、PgRでは陰性（78.9%）の方が高い奏効率を示す傾向があった。一方、Ki-67では陽性例の奏効率は81.8%であり、陰性例には奏効例はなかった。以上の結果から、HER2陽性例については、Ki-67の発現がドセタキセル＋トラスツズマブ併用療法の有用な効果予測因子になる可能性が示唆された。

#### <今後の課題>

免疫組織化学的なマーカー発現状況のパターンと種々の抗

癌剤の治療効果との関係について検討する予定である。

#### <研究課題>

### 2 悪性リンパ腫の病理学的研究

#### <研究者氏名>

出雲俊之（病理科）

柵木信夫，小林泰文（血液科）

赤木 究（研究所）

#### <目的・成果>

悪性リンパ腫のWHO分類（2001）は，単なる亜型分類ではなく，発生進展機序の異なる疾患分類を指向した分類であることから，各臓器・組織の特性が明らかになり易い。1984年から2003年までの20年間に於ける当施設（ATL非感染地域）の悪性リンパ腫症例1066例をWHO分類により再診断し，頭頸部発症の641例（60%）について臨床病理学的に検索して，日本人頭頸部悪性リンパ腫の特性を検討した。

頭頸部悪性リンパ腫は，リンパ節性344例（54%），節外性297例（46%）で，節外性リンパ腫の発症部位は，中咽頭（160例），鼻腔・副鼻腔（42），上咽頭（31），唾液腺（21），甲状腺（13），以下歯肉，眼，頬粘膜，舌，喉頭，口唇であった。Hodgkinリンパ腫は34例（5%），NHLは607例（95%）で，NHLの細胞由来は，B細胞性465例，T/NK細胞性133例で約3：1であるが，発生組織によりその割合は大きく異なる。唾液腺，甲状腺，眼，口腔喉頭粘膜では13：1，中咽頭では8：1とB細胞性が高頻に多いが，鼻腔上咽頭では1：1とT/NK細胞性の割合が高い。B細胞性ではDLBL，FL，MZBL，T/NK細胞性ではPTL，NK/T-L，AIBTLの病型が多いが，各組織特異的な発症特性が認められた。

頭頸部悪性リンパ腫の特性は，複雑な構成組織に由来する多彩な病型にあり，部位特性に基づく病型の発生が認められた。各病型の病因・病態に基づく，より緻密な経過観察や治療法の選択が求められる。

#### <今後の計画>

頭頸部は，悪性リンパ腫の好発部位であるが，特に日本人に多いT/NK細胞性リンパ腫が好発する領域である。T/NK細胞リンパ腫の分類は，未だ組織発生学的分類にも達していない組織型分類が多く，根本的な再構築が予想される。分子病理学的検索データを集積し，発生進展分子機序による次世代分類構築を目指したい。

#### <研究課題>

### 3 口腔癌の外科病理学的研究

#### <研究者氏名>

病理科 出雲俊之

口腔外科 岡部貞夫，八木原一博

レジデント 中山龍司

#### <目的・成果>

口腔癌を扱ういろいろな立場の人が，共通の認識を持って治療・研究を進めるためには，基本的な考え方や具体的な取扱い方法の標準化が必要である。多岐に亘る外科病理学的課題について，多施設共同研究を進めているが，その一部を「舌癌取扱い指針」ワーキング・グループ案（第1

版）としてまとめた。本指針作成の目的は，画像情報を含む臨床所見，手術所見，病理所見を共通の基準で検索し，詳細な病態を把握すると共に，多施設の個々の症例から有用な医学情報を集積し，口腔癌の診断・治療・研究発展に資することにある。

舌癌をT因子（UICC）により，Tis癌，初期癌（T1-2），進行癌（T3-4）に分け，消化管癌取扱い規約に準じて，臨床病理学的に有用な亜型分類を検討した。各分類は普遍性・再現性が高い単純な分類で，分けることに意味のあることを必要条件とした。各亜型において，画像所見，肉眼所見，病理組織所見および臨床病態の特性を明らかにするべく臨床病理学的に検索した。

Tis舌癌では，臨床的な病変の認識にヨード生体染色法の有用性を示し，また，WHOにより定義されたCIS（全層置換型）以外の組織像（表層分化萎縮型，表層分化肥厚型）を示す扁平上皮内腫瘍があることを明らかにした。各亜型については，病理組織学および分子病理学的診断基準を示し，それぞれ肉眼像や病態が異なる臨床病理学的に有用な亜型分類である可能性を示唆した。

初期舌癌（T1-2）では，癌の発育様式による亜型分類，表在（0）型，外向（1）型，内向（2，3，4）型が，局所再発，リンパ節転移，遠隔転移，予後と有意に相関することを多数の症例検索（2245症例）から明らかにした。内向型については，4型に相当するスキラス舌癌の存在を明らかにし，細分類を今後の検討課題として指摘した。

進行癌（T3-4）では，分けることに意味のある有用な肉眼型は認められないことから，亜型分類はせずに隣接臓器への浸潤を主体に検索することとした。

#### <今後の計画>

日本口腔腫瘍学会学術委員会「口腔癌取扱い指針」ワーキング・グループにおいて舌癌の試案をまとめ，学会ホームページおよび学会誌に掲載した。関連他学会および各位の御意見を伺い，改訂，改版を重ねていく予定である。現在「下顎歯肉癌取扱い指針」作成の準備中である。

## 第3節 研究業績

### 1 原著論文

| 氏 名                                                              | 所 属                   | 題 名                                                                                                                                                                                 | 誌 (書) 名                                     | 形 式 |
|------------------------------------------------------------------|-----------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------|-----|
| Tanimoto TE.<br>Maseki N.<br>他18名                                | 九州大学<br>血液科           | Comparative analysis of clinical outcomes after allogeneic bone marrow transplantation versus peripheral blood stem cell transplantation from a related donor in Japanese patients. | Br. J. Haematol. 125: 480-493, 2004         | 原 著 |
| 田 部 井 敏 夫                                                        | 内分泌科                  | 術前ホルモン療法の適応・利点・問題点                                                                                                                                                                  | 別冊・医学のあゆみ 311-314, 2004                     | 原 著 |
| 田 部 井 敏 夫                                                        | 内分泌科                  | 乳癌告知後のケア                                                                                                                                                                            | 乳癌診療二頁の秘訣 308-309, 2004                     | 原 著 |
| 田 部 井 敏 夫<br>井 上 賢 一                                             | 内分泌科                  | 新規抗癌剤・カペシタビンの副作用の特性と対策                                                                                                                                                              | 乳癌の臨床 19 (3) : 239-244, 2004                | 原 著 |
| Kawada K.<br>Inoue K.                                            | 癌研究会附属病院<br>内分泌科      | A multicenter and open label clinical trial of zoledronic Acid 4mg in patients with Hypercalcemia of Malignancy.                                                                    | Jpn J Clin Oncol 35 (1) : 28-33, 2005       | 原 著 |
| Ichinose Y.<br>Sakai H.<br>他 5 名                                 | 九州がんセンター<br>呼吸器科      | S-1 plus Cisplatin combination chemotherapy in patients with advanced non-small cell lung cancer : A multi-institutional phase II trial                                             | Clinical Cancer Research 10:7860-7864, 2004 | 原 著 |
| 有 馬 美 和 子<br>多 田 正 弘                                             | 消化器内科                 | 食道癌の超音波内視鏡診断                                                                                                                                                                        | 消化器内視鏡 16: 371-373, 2004                    | 原 著 |
| 有 馬 美 和 子<br>多 田 正 弘                                             | 消化器内科                 | 食道・縦隔疾患に対する超音波内視鏡下穿刺生検法の適応と成績                                                                                                                                                       | Gastroenterol Endosc 46:1094-1101, 2004     | 原 著 |
| 有 馬 美 和 子<br>多 田 正 弘<br>田 中 洋 一<br>竹 下 勇 太 郎<br>黒 住 昌 史<br>他 1 名 | 消化器内科<br>消化器外科<br>病理科 | 消化管の平滑筋腫瘍，神経性腫瘍，GISTの診断と治療 1) 食道                                                                                                                                                    | 胃と腸 39: 539-551, 2004                       | 原 著 |
| 有 馬 美 和 子<br>多 田 正 弘                                             | 消化器内科                 | 高周波数細径超音波プローブによる食道表在癌の深達度を誤認させる要因と画像の特徴                                                                                                                                             | 胃と腸 39:901-913, 2004                        | 原 著 |
| 有 馬 美 和 子<br>多 田 正 弘<br>他 1 名                                    | 消化器内科                 | 表在型Barrett食道癌の超音波内視鏡診断                                                                                                                                                              | 胃と腸 39:1259-1273, 2004                      | 原 著 |

| 氏 名                                                                                                                                                 | 所 属   | 題 名                                                                                                            | 誌 (書) 名                                              | 形 式 |
|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------|-----|
| 有馬美和子<br>多田正弘<br>他1名                                                                                                                                | 消化器内科 | 胃癌の発見と診断（範囲・組織型・深達度）—陥凹型早期胃癌を中心に—                                                                              | 消化器内視鏡 16:<br>1743-1753, 2004                        | 原 著 |
| 多田正弘<br>有馬美和子<br>石窪 力                                                                                                                               | 消化器内科 | 蛍光観察：内視鏡ハイテク機器・先端技術                                                                                            | 消化器内視鏡 17 (6):<br>727-731, 2005                      | 原 著 |
| 井田和徳<br>多田正弘<br>他10名                                                                                                                                | 消化器内科 | 早期胃癌内視鏡治療の多施設共同研究                                                                                              | Gastroenterology46<br>(11): 2448-2456, 2004          | 原 著 |
| Ida K.<br>Tada M.<br>Et.al                                                                                                                          | 消化器内科 | Multicentre Collaborative Prospective Study of Endoscopic Treatment of Early Gastric Cancer                    | Digestive Endoscopy16:<br>295-302, 2004              | 原 著 |
| Ishikubo T.<br>Nishimura Y.<br>Yamaguchi K.<br>Udompun<br>Khansuwan<br>Arai Y.<br>Kobayashi T.<br>Ohkura Y.<br>Hshiguti Y.<br>Tanaka Y.<br>Akagi K. | 消化器内科 | The clinical features of rectal cancers with high-frequency microsatellite instability (MSI) in Japanese males | Cancer Letter 216:<br>55-62, 2004                    | 原 著 |
| Ishikubo T.<br>Gohara S.<br>Furukawa T.<br>Aihara H.<br>Takei S.<br>Tada M.                                                                         | 消化器内科 | Superior mesenteric artery syndorome, caused by maintaining anteflexion posture - a case report                | Jichi Medical School<br>Journal 27:<br>155-160, 2004 | 原 著 |
| Ishikubo T.<br>Furukawa T.<br>Aihara H.<br>Gohara S.<br>Takei S.<br>Shuto C.<br>Arima M.<br>Tada M.                                                 | 消化器内科 | Colocutaneous fistula as a complication of percutaneous endoscopic gastrostomy                                 | Jichi Medical School<br>Journal 27:<br>161-165, 2004 | 原 著 |
| 川島吉之<br>田中洋一<br>竹下勇太郎<br>坂本裕彦<br>西村洋治<br>網倉克己                                                                                                       | 消化器外科 | 胃全摘後空腸パウチRoux-Y再建の評価                                                                                           | 埼玉県会誌<br>39 (4): 442-446, 2005                       | 原 著 |

| 氏 名                                                                                  | 所 属                           | 題 名                                                                                                                                                | 誌 (書) 名                                | 形 式 |
|--------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------|-----|
| 小林 照 忠<br>山 田 達 也<br>戸 塚 統<br>伊 藤 嘉 智<br>渡 部 裕 志<br>右 田 隆 之<br>内 田 健 二               | 右田病院<br>上尾甦生病院                |                                                                                                                                                    |                                        |     |
| Kakinuma N.<br>Yamada T.<br>他 6 名                                                    | 群馬大学<br>消化器外科                 | Cloning of novel LERGU mRNAs in GPR30 3' untranslated region and detection of 2 bp-deletion polymorphism in gastric cancer                         | Cancer Sci 96: 191-6, 2005             | 原 著 |
| Ohwada S.<br>Kawashima Y.<br>他 9 名                                                   | 群馬大学<br>消化器外科                 | Intraoperative massive pulmonary tumor embolism from clear cell sarcoma in the retroperitoneum: Successful treatment using cardio-pulmonary bypass | Hepato-Gastroenterol 51: 987-989, 2004 | 原 著 |
| Yatsuoka T.<br>Furukawa T.<br>他 2 名                                                  | 消化器外科<br>東北大学                 | TU12B1-TY, a novel gene in the region at 12q22-q23.1 frequently deleted in pancreatic cancer, shows reduced expression in pancreatic cancer cells. | Oncol Rep.12: 1263-8, 2004             | 原 著 |
| Yamanaka S.<br>Yatsuoka T.<br>他 5 名                                                  | 東北大学<br>消化器外科                 | Chromosome 12, frequently deleted in human pancreatic cancer, may encode a tumor-suppressor gene that suppresses angiogenesis.                     | Lab Invest 84: 1339-51, 2004           | 原 著 |
| Sunamura M.<br>Yatsuoka T.<br>他12名                                                   | 東北大学分子病理<br>消化器外科             | The role of chromosome 18 abnormalities in the progression of pancreatic adenocarcinoma.                                                           | Pancreas. 28: 311-6, 2004              | 原 著 |
| Hiroi H.<br>Yokota H.<br>他 6 名                                                       | 東京大学<br>婦人科                   | Differences in serum bisphenol a concentrations in premenopausal normal women and women with endometrial hyperplasia.                              | Endocr J. 51 (6): 595-600, 2004        | 原 著 |
| 喜 納 奈 緒<br>藤 村 正 樹<br>白 井 貴 子<br>白 水 健 士                                             | 婦人科                           | 婦人科悪性腫瘍における吸引細胞診の有用性の検討                                                                                                                            | 日本臨床細胞学会誌(44) 1: 1-5, 2005             | 原 著 |
| Oda K.<br>Okada S.<br>Nei T.<br>Shirai T.<br>Takahashi M.<br>Shiromizu K.<br>Sano Y. | 婦人科<br><br><br><br>婦人科<br>病理科 | Cytodiagnostic problems in uterine sarcoma<br>Analysis According to a Novel Classification of Tumor Growth Types                                   | Acta Cytologica48 (2): 181-186, 2004   | 原 著 |

| 氏 名                                                          | 所 属                     | 題 名                                                                                                                                                       | 誌 (書) 名                                      | 形 式 |
|--------------------------------------------------------------|-------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------|-----|
| 野 津 聡<br>市 川 聡 裕<br>岡 安 克 彦<br>中 島 哲 男                       | 放射線科                    | CTおよび大腸X線検査による胃癌腹膜<br>播腫の診断                                                                                                                               | 日本医学放射線学会誌<br>64 (5): 284-287, 2004          | 原 著 |
| 野 津 聡<br>腰 塚 慎 二<br>西 村 洋 治                                  | 放射線科<br>放射線技術部<br>消化器外科 | 大腸癌切除後局所再発の診断                                                                                                                                             | 日本大腸検査学会雑誌<br>21 (1): 35-39, 2004            | 原 著 |
| Chinen K.<br>Kazumoto T.<br>他 3 名                            | 杏林大学<br>放射線科            | Pulmonary tumor thrombotic<br>microangiopathy caused by a gastric<br>expressing vascular endothelial growth<br>factor and tissue factor.                  | Pathology International<br>55: 27-31, 2005   | 原 著 |
| 西 寫 渡                                                        | 頭頸部外科                   | 鼻腔乳頭腫Inverted Papillomaに対する<br>治療経験                                                                                                                       | 日本鼻科学会43:121-123,<br>2004                    | 原 著 |
| 神 山 亮 介<br>堀 圭 二 朗<br>白 倉 聡<br>鈴木 政 美<br>西 寫 渡               | 頭頸部外科                   | 上皮小体嚢胞の 1 症例                                                                                                                                              | 埼玉県医学会誌39:402-<br>404, 2004                  | 原 著 |
| 松 峯 元<br>本 田 隆 司<br>西 寫 渡                                    | 形成外科<br>形成外科<br>頭頸部外科   | 遊離組織移植による頭頸部癌切除後再建<br>の術後合併症の検討                                                                                                                           | 日形会誌25:739-745,<br>2005                      | 原 著 |
| Kurebayashi J.<br>Kurosumi M.<br>他 6 名                       | 川崎医大<br>病理科             | Significance of serum tumor markers<br>in monitoring advanced breast cancer<br>patients treated with systemic therapy:<br>a prospective study.            | Breast Cancer 11:<br>389-95, 2004            | 原 著 |
| Tsuda H.<br>Kurosumi M.<br>他 2 名                             | 防衛医大<br>病理科             | Reproducible immunohistochemical<br>criteria based on multiple raters'<br>judgments for expression of thymidine<br>phosphorylase in breast cancer tissue. | Breast Cancer Res<br>Treat. 86: 215-23, 2004 | 原 著 |
| 江 良 英 人<br>佐 野 裕 作<br>松 井 武 寿<br>永 宗 恵 子<br>黒 住 昌 史<br>他 1 名 | 検査技術部<br><br><br>病理科    | 経内視鏡的穿刺吸引細胞診により得られ<br>た異所性腺組織（迷入腺）の 1 例                                                                                                                   | 日臨細胞埼玉会誌<br>22: 51-53, 2004                  | 原 著 |
| 岩 田 敏 弘                                                      | 検査技術部                   | 尿沈渣における異型細胞検出の意義                                                                                                                                          | 第 5 回中日学術シンポジ<br>ウム講演習<br>83-86, 2004        | 原 著 |
| 佐 藤 真 吾                                                      | 循環器・呼吸器<br>病センター        | 携帯型電話伝送式イベントレコーダーの<br>基礎的検討                                                                                                                               | 第 5 回中日学術シンポジ<br>ウム講演習                       | 原 著 |

| 氏 名                                                            | 所 属                            | 題 名                                                                                                                                 | 誌 (書) 名                                             | 形 式 |
|----------------------------------------------------------------|--------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------|-----|
| 岩 田 敏 弘<br>他 2 名                                               | 検査技術部                          |                                                                                                                                     | 149-152, 2004                                       |     |
| 家 城 正 和<br>他 4 名                                               | 検査技術部<br>循環器・呼吸器<br>病センター      | 超音波流量センサーを用いたスパイロメ<br>ータの基礎的検討                                                                                                      | 第5回中日学術シンポジ<br>ウム講演習<br>93-95, 2004                 | 原 著 |
| 山 浦 久<br>岩 田 敏 弘<br>他 6 名                                      | さいたま市立病院<br>検査技術部              | 埼玉県医師会コントロールサーベイの歩<br>み                                                                                                             | 医学検査vol.54 No.3<br>239-247                          | 原 著 |
| Kobayashi Y.<br>Nisimura H.<br>他 6 名                           | 検査技術部<br>胸部外科                  | Molecular markers for<br>reinforcement of histological<br>subclassification of<br>neuroendocrine lung tumors                        | Cancer Sci 95:<br>334-341, 2004                     | 原 著 |
| Ikuta T.<br>Kawajiri K.<br>Kobayashi Y.                        | 研究室<br>研究室<br>検査技術部            | Cell density regulates<br>intracellular localization of<br>aryl hydrocarbon receptor                                                | J Biol Chem 279:<br>19209-19216, 2004               | 原 著 |
| Ikuta T.<br>Kawajiri K.<br>Kobayashi Y.                        | 研究室<br>研究室<br>検査技術部            | Phosphorylation of nuclear<br>localization signal inhibits<br>the ligand-dependent nuclear<br>import of aryl hydrocarbon receptor   | Biochem Biophys Res<br>Commun 317:<br>545-550, 2004 | 原 著 |
| Yosida N.<br>Nakachi K.<br>Suemasu K.<br>Kobayashi Y.<br>他 7 名 | 防衛医科大学<br>病理科<br>乳腺外科<br>検査技術部 | Prediction of prognosis of<br>estrogen receptor-positive<br>breast cancer with combination<br>of selected estrogen- regulated genes | Cancer Sci 95:<br>496-502, 2004                     | 原 著 |
| 細 谷 な ぎ さ<br>石 川 雅 士<br>米 田 修 一<br>小 林 国 彦<br>酒 井 洋<br>駒 方 浩 史 | 皮膚科<br><br>呼吸器科                | ゲフィニチブ（イレッサ®）による皮膚<br>症状                                                                                                            | 皮膚科の臨床46:1871-<br>1873, 2004                        | 原 著 |
| 八 木 原 一 博<br>岡 部 貞 夫<br>野 地 秀 彦<br>中 山 竜 司                     | 口腔外科                           | 経皮経食道胃管挿入術（PTEG）による<br>口腔癌経口摂取不良患者に対する長期栄<br>養管理                                                                                    | 口腔腫瘍 16（1）:27-33,<br>2004                           | 原 著 |
| 八 木 原 一 博<br>岡 部 貞 夫<br>中 山 竜 司                                | 口腔外科                           | 口腔癌に対する新経口抗悪性腫瘍剤TS-<br>1 の使用経験                                                                                                      | 歯薬療法 23（1）:9-16,<br>2004                            | 原 著 |
| 八 木 原 一 博<br>岡 部 貞 夫<br>中 山 竜 司                                | 口腔外科                           | 口腔癌への新経皮吸収性癌疼痛治療剤フ<br>ェンタニルパッチの使用経験                                                                                                 | 歯薬療法 23（1）:17-23,<br>2004                           | 原 著 |

| 氏 名                       | 所 属          | 題 名                                           | 誌 (書) 名                      | 形 式 |
|---------------------------|--------------|-----------------------------------------------|------------------------------|-----|
| 大 関 悟<br>岡 部 貞 夫<br>他 8 名 | 福岡歯大<br>口腔外科 | アンケート調査よりみた下顎歯肉癌治療<br>の現在と問題点                 | 口腔腫瘍 16 (4):183-<br>191,2004 | 原 著 |
| 余 宮 きのみ<br>松 尾 直 樹        | 緩和ケア科        | 「ミダゾラムの鎮痛補助薬としての有用<br>性－がん性疼痛における少量持続投与<br>法」 | 死の臨床vol.27 No.1,<br>2004     | 原 著 |

## 2 総説 著書 その他

| 氏 名                             | 所 属   | 題 名                        | 誌 (書) 名                                                                          | 形 式   |
|---------------------------------|-------|----------------------------|----------------------------------------------------------------------------------|-------|
| 駒 形 浩 史<br>米 田 修 一              | 呼吸器科  | 臨床検査, 診断に用いる腫瘍マーカー :<br>肺癌 | 癌と化学療法<br>31 (10) : 1609-1613, 2004                                              | 総 説   |
| 駒 形 浩 史<br>酒 井 洋                | 呼吸器科  | 外来化学療法の実際と問題点              | Pharma Medica<br>23 (3) : 35-39, 2005                                            | 総 説   |
| 酒 井 洋                           | 呼吸器科  | 急性肺障害・間質性肺炎の早期発症例          | 肺がん治療症例集 分子<br>標的治療薬ゲフィチニ<br>ブ, 田村友秀編, 医薬ジ<br>ャーナル社, 69-71, 2004                 | 分担執筆  |
| 酒 井 洋                           | 呼吸器科  | 心筋障害および浮腫とその対策             | がん化学療法の有害反応<br>対策ハンドブック 第 4<br>版, 先端医学社, 216-<br>227, 2004                       | 分担執筆  |
| 米 田 修 一                         | 呼吸器科  | 癌性疼痛                       | 今日の治療と看護.水島<br>裕, 黒川 清編, 南江堂,<br>33-35, 2004                                     | 分担執筆  |
| 米 田 修 一                         | 呼吸器科  | 肺癌                         | 今日の治療と看護.水島<br>裕, 黒川 清編, 南江堂,<br>358-363, 2004                                   | 分担執筆  |
| 米 田 修 一                         | 呼吸器科  | 扁平上皮癌                      | 画像でひもとく呼吸器疾<br>患診療へのアプローチ.<br>杉山幸比古編, 文光堂,<br>122-126, 2004                      | 分担執筆  |
| 米 田 修 一                         | 呼吸器科  | 肺癌の治療                      | 診断と治療<br>93 (2): 259-264, 2005                                                   | 総 説   |
| 米 田 修 一                         | 呼吸器科  | 肺癌診療の新しい流れ                 | 成人病と生活習慣病<br>35 (3): 245-255, 2005                                               | 座 談 会 |
| 野 口 行 雄                         | 呼吸器科  | 日本における高齢者感染症の疫学            | 化学療法の領域<br>20 (S-1): 10-18, 2004.                                                | 総 説   |
| 有 馬 美 和 子<br>多 田 正 弘            | 消化器内科 | 食道癌の超音波内視鏡診断               | 消化器内視鏡NOW 田<br>尻久雄, 松井敏幸, 藤田<br>直孝, 北野正剛編. 日本<br>メディカルセンター 東<br>京, pp28-32, 2004 | 分担執筆  |
| 有 馬 美 和 子<br>多 田 正 弘<br>有 馬 秀 明 | 消化器内科 | 拡大内視鏡による表在食道癌の微細血管<br>診断   | 消化管拡大内視鏡診断の<br>実際<br>田尻久雄, 田中信治編.                                                | 分担執筆  |

| 氏 名                           | 所 属   | 題 名                          | 誌 (書) 名                                                           | 形 式  |
|-------------------------------|-------|------------------------------|-------------------------------------------------------------------|------|
| 石 窪 力<br>有 馬 美 和 子<br>多 田 正 弘 | 消化器内科 | 血管透見像の限局性消失は表面型腫瘍            | 金原出版, 東京, pp42-50, 2004<br><br>消化器内視鏡 16:<br>1074-1075, 2004.12.3 | 総 説  |
| 有 馬 美 和 子                     | 消化器内科 | 内視鏡による食道進展診断のポイント            | Knack & Pitfalls 胃外科の要点と盲点 幕内雅敏, 荒井邦佳編. 文光堂, 東京, pp70-74, 2003    | 分担執筆 |
| 有 馬 美 和 子                     | 消化器内科 | 食道癌                          | プライマリー・ケア医のための消化器疾患アプローチ 吉原正治, 茶山一彰編. 南江堂, 東京, pp100-105, 2003    | 分担執筆 |
| 有 馬 美 和 子                     | 消化器内科 | 食道表在癌の内視鏡診断                  | 食道外科の要点と盲点 幕内博康編. 文光堂, 東京, pp48-53, 2003                          | 分担執筆 |
| 有 馬 美 和 子                     | 消化器内科 | 良性食道腫瘍                       | 気管食道科学会用語集. 2003                                                  | 分担執筆 |
| 有 馬 美 和 子                     | 消化器内科 | 食道疾患に対する超音波内視鏡診断             | 消化器病セミナー92 消化管超音波診断—最近の進歩 中村哲也, 寺野彰編. へるす出版, 東京, pp91-106, 2003   | 分担執筆 |
| 有 馬 美 和 子                     | 消化器内科 | 超音波内視鏡下穿刺生検によるリンパ節転移診断       | 超音波内視鏡Up to Now 村田洋子, 峯徹哉編. メジカルビュー社, 東京, pp68-71, 2004           | 分担執筆 |
| 西 蔭 渡                         | 頭頸部外科 | 頭頸部癌において, 喉頭の合併切除が行われる背景について | 癌克服への道 真興交易(株)医事出版部, 東京, pp193-202, 2005                          | 総 説  |
| 神 山 亮 介<br>西 蔭 渡              | 頭頸部外科 | 喉頭癌の理解                       | クリニカルスタディ 26 (3):44-49, 2005                                      | 総 説  |
| 内 山 睦                         | 麻酔科   | 緩和ケア②麻酔科医の立場から               | 小林国彦 (監修) 肺癌治療における緩和医療—外来化学療法から在宅医療まで— 協和企画 pp12-13, 2004         | 分担執筆 |

| 氏 名                           | 所 属         | 題 名                                  | 誌 (書) 名                                                              | 形 式  |
|-------------------------------|-------------|--------------------------------------|----------------------------------------------------------------------|------|
| 内 山 睦                         | 麻酔科         | がんの痛みに期待した治療効果がないとき－３：麻酔科医にいつ、何を求めるか | 平成16年度末期医療患者のQOL推進講習会テキスト pp54-67, 2005                              | テキスト |
| 武 井 寛 幸<br>末 益 公 人<br>黒 住 昌 史 | 乳腺外科<br>病理科 | 乳がんにおけるセンチネルリンパ節生検（腋窩非郭清）の予後に及ぼす影響   | 血液・腫瘍科 48（5）：554-560, 2004                                           | 総 説  |
| 武 井 寛 幸<br>末 益 公 人            | 乳腺外科        | センチネルリンパ節生検（２）－正診率                   | 伊藤良則，戸井雅和（編）別冊・医学の歩み，乳腺疾患-state of arts 医歯薬出版株式会社 東京，pp141-143, 2004 | 総 説  |
| 末 益 公 人                       | 乳腺外科        | 適応外症例に対する整容性を考慮した乳房温存療法の実際           | 光山昌珠（編）乳癌診療二頁の秘訣 金原出版 東京，pp172-173, 2004                             | 分担執筆 |
| 末 益 公 人                       | 乳腺外科        | センチネルリンパ節生検における色素法単独とRI併用法の長所と短所     | 霞 富士雄（編）乳癌診断のコツと落とし穴 Pitfalls&Knack 中山書店 東京，pp176-177, 2004          | 分担執筆 |
| 武 井 寛 幸                       | 乳腺外科        | ハルステッド理論からセンチネルリンパ節生検へ               | 光山昌珠（編）乳癌診療二頁の秘訣 金原出版 東京，pp134-135, 2004                             | 分担執筆 |
| 武 井 寛 幸                       | 乳腺外科        | 第４章，乳癌の臨床                            | 石栗一男（編）マンモグラフィ技術編 医療科学社 東京，pp31-43, 2004                             | 分担執筆 |
| 武 井 寛 幸                       | 乳腺外科        | 乳腺部分切除＋センチネルリンパ節生検の理想的展開法            | 霞 富士雄（編）乳癌治療のコツと落とし穴 Pitfalls&Knack 中山書店 東京，pp84-85, 2004            | 分担執筆 |
| 武 井 寛 幸                       | 乳腺外科        | 乳房温存手術における乳腺授動術                      | 霞 富士雄（編）乳癌治療のコツと落とし穴 Pitfalls&Knack 中山書店 東京，pp96-97, 2004            | 分担執筆 |
| 余 宮 きのみ                       | 緩和ケア科       | 第9回緩和医療学会ポスターセッション                   | 日本緩和医療学会NL pp87-88, Vol 9, 2004                                      | 総 説  |
| 余 宮 きのみ                       | 緩和ケア科       | がん性疼痛におけるイフェンプロジルの使い方                | 今日の治療 pp980-982, Vol12.No9, 2004                                     | 総 説  |

| 氏 名       | 所 属   | 題 名                                                                                                                                                                         | 誌 (書) 名                                              | 形 式   |
|-----------|-------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------|-------|
| 余 宮 き の み | 緩和ケア科 | 緩和ケアを推進するためには専門家の後方支援が必要である                                                                                                                                                 | 痛みの治療pp1-4, No16, 2004                               | 総 説   |
| 余 宮 き の み | 緩和ケア科 | ホスピスでの痛みの治療                                                                                                                                                                 | CANCER PAINフォーラム<br>pp47-49, Vol3.No3, 2004          | 総 説   |
| 余 宮 き の み | 緩和ケア科 | 痛みのコントロールとQOL                                                                                                                                                               | ファルマシアpp203-208, Vol41.No3, 2005                     | 総 説   |
| 余 宮 き の み | 緩和ケア科 | 緩和ケア:緩和治療専門医の立場から                                                                                                                                                           | Pulmonary Oncology Review<br>pp10-11, 2004           | 総 説   |
| 余 宮 き の み | 緩和ケア科 | 病棟医による在宅医療支援                                                                                                                                                                | オピオイドによる疼痛緩和<br>pp8-12, No.10, 2005                  | 総 説   |
| 松 尾 直 樹   | 緩和ケア科 | 患者が医学的根拠のない治療を望むとき                                                                                                                                                          | ギア・チェンジ 緩和医療を学ぶ二十一会 医学書院                             | 分担執筆  |
| 黒 住 昌 史   | 病理科   | Significance of histopathological evaluation in primary therapy for breast cancer. Recent trends in primary modality with pathological complete response (pCR) as endpoint. | Breast Cancer 11: 139-147, 2004                      | 総 説   |
| 黒 住 昌 史   | 病理科   | マンモグラフィ読影に必要な乳腺画像・病理アトラス                                                                                                                                                    | 学際企画,東京,pp1-115, 2004                                | 単 行 本 |
| 黒 住 昌 史   | 病理科   | 乳房の解剖と生理                                                                                                                                                                    | マンモグラフィ技術編, 医療科学社, 東京, pp13-17, 2004                 | 分担執筆  |
| 黒 住 昌 史   | 病理科   | 女性化乳房 今日の乳腺疾患の内分泌学と臨床                                                                                                                                                       | ホルモンと臨床 52: 1-6, 2004                                | 総 説   |
| 黒 住 昌 史   | 病理科   | 乳癌におけるホルモンレセプター状況の免疫組織化学的判定                                                                                                                                                 | 乳癌診断のコツと落とし穴, 中山書店, 東京, pp166-167, 2004              | 分担執筆  |
| 黒 住 昌 史   | 病理科   | 乳癌における生検標本の病理診断                                                                                                                                                             | 乳癌診断のコツと落とし穴, 中山書店, 東京, pp134-135, 2004              | 分担執筆  |
| 黒 住 昌 史   | 病理科   | ホルモンレセプター測定法                                                                                                                                                                | IHC法によるホルモンレセプター判定の正しい知識, リノ・メディカル社, 東京, pp6-7, 2004 | 分担執筆  |

| 氏 名                                                 | 所 属                      | 題 名                                                                                                                     | 学会等名称 (年月, 場所)                               | 発表形式  |
|-----------------------------------------------------|--------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------|-------|
| 黒 住 昌 史                                             | 病理科                      | 乳癌におけるセンチネルリンパ節生検<br>病理診断                                                                                               | 病理と臨床 22: 448-454,<br>2004                   | 総 説   |
| 黒 住 昌 史                                             | 病理科                      | マンモグラフィ検診発見・乳癌の特徴<br>病理からみた特徴                                                                                           | 臨床画像 20: 738-745,<br>2004                    | 総 説   |
| 黒 住 昌 史                                             | 病理科                      | ER, PgR状況とHER2過剰発現の免疫組<br>織化学的判定のコツ                                                                                     | 乳癌診療二頁の秘訣, 金<br>原出版, 東京, pp218-<br>219, 2004 | 分担執筆  |
| 出 雲 俊 之<br>その他 9 名                                  | 病理科                      | 舌癌取扱い指針 ワーキング・グルー<br>プ案 (第 1 版)                                                                                         | 日本口腔腫瘍学会誌<br>17 (1): 13-85                   | 分担執筆  |
| 浜 田 勉<br>腰 塚 慎 二                                    | 社会保険中央総<br>合病院<br>放射線技術部 | 早期の残胃癌の特徴－診断のポイント                                                                                                       | 胃と腸 1021-1030, vol39.<br>No7, 2004           | 総 説   |
| 田 中 宏                                               | 放射線技術部                   | Senographe2000D(GEMS)のフルフィー<br>ルドデジタルマンモグラフィ (FFDM)<br>におけるハードコピーおよびCRT診断<br>(ソフトコピー) とフィルムスクリーン<br>マンモグラフィ (FSM) の比較検討 | 映像情報 vol37. No3,<br>2005                     | 総 説   |
| 岩 田 敏 弘                                             | 検査技術部                    | 尿潜血の病理と検査                                                                                                               | 埼玉県臨床検査技師会誌<br>vol51. No3, 189-192           | 総 説   |
| 吉 原 広 和                                             | リハビリ                     | 子宮全摘出術後の下肢リンパ浮腫と複合<br>的理学療法 (CDP)－埼玉県立がんセ<br>ンターの取り組みから－                                                                | 看護技術 メヂカルフレ<br>ンド社 2004年9月号                  | 総 説   |
| 吉 原 広 和                                             | リハビリ                     | 下肢の浮腫の管理法                                                                                                               | 月刊ナースデータ 日総<br>研出版 2005年 2 月号                | 総 説   |
| 中 山 秀 昭<br>細 谷 和 良                                  | 薬剤部                      | 抗がん剤調製のポイント                                                                                                             | 月刊薬事                                         | 総 説   |
| 中 山 秀 昭<br>細 谷 和 良                                  | 薬剤部                      | 埼玉県立がんセンターにおける抗がん剤<br>調製業務への取組                                                                                          | 薬事新法                                         | そ の 他 |
| 周 東 亜 希<br>富 田 康 代<br>土 橋 由 美 子<br>橋 元 環<br>久 保 良 子 | 看護部(手術室)                 | 手術室のクリニカルパス                                                                                                             | OPE nursing 19 (5):28-<br>30, 2004           | 総 説   |
| 吉 田 直 子<br>永 井 里 恵<br>赤 坂 和 美<br>藤 田 恵 美 子          | 看護部 (12W)                | 終末期における倫理的意思決定を考える<br>－看護師の巡視を拒否した事例を振り返<br>って－                                                                         | 死の臨床44 27 (2):<br>215, 2004                  | 総 説   |

| 氏 名                                                     | 所 属               | 題 名                                  | 学会等名称 (年月, 場所)                      | 発表形式 |
|---------------------------------------------------------|-------------------|--------------------------------------|-------------------------------------|------|
| 橋 本 裕 子<br>野 村 真 奈 美<br>工 藤 富 士 子<br>佐 藤 則 子<br>山 本 智 子 | 看護部 (7 W)         | 頭頸部がん看護に携わる看護師の意識調査<br>－失声患者のケアを通して－ | 第16回埼玉看護研究学会<br>集録: 69-72, 2004     | 総 説  |
| 芥 川 千 津                                                 | 看護部 (ディケア)        | 在宅酸素療法の実際                            | がん看護ケアのストラテ<br>ジー 4 -2: 12-13, 2004 | 総 説  |
| 前 原 み ゆ き                                               | 看護部 (11W)         | 化学療法を受ける再発乳がん患者の看護                   | がん看護ケアのストラテ<br>ジー 4 -1: 10-11, 2004 | 総 説  |
| 赤 坂 和 美<br>上 原 浩 子                                      | 看護部 (12W・<br>ICU) | 埼玉県立がんセンターにおける褥瘡発生<br>要因の現状          | 埼玉県看護研究会                            | 総 説  |
| 上 原 浩 子<br>赤 坂 和 美                                      | 看護部 (12W・<br>ICU) | 褥瘡発生要因と分析                            | 日本がん看護学会                            | 総 説  |
| 清 水 麻 美 子                                               | 看護部 (13W)         | ホスヒロスケア 8 症状マネジメントの実<br>際 I 痛み②      | 月刊ナーシング24 13:<br>2004               | 総 説  |
| 清 水 麻 美 子                                               | 看護部 (13W)         | がん患者の家族ケア, 終末期の家族ケア                  | がん看護 94: 2004                       | 総 説  |

### 3 学会・研究会発表

| 氏 名                                                                      | 所 属                                   | 題 名                                                                                        | 学会等名称 (年月, 場所)                                  | 発表形式        |
|--------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------|-------------|
| 小林 泰 文<br>久保田 靖子<br>柵 木 信 男<br>金子 安比古<br>栗原 正 人<br>新井 吉 子<br>赤 木 究       | 血液科<br><br>研究室<br>検査技術部<br><br>遺伝子検査室 | FISH法を用いてモニタリングしたメシ<br>ル酸イマチニブを用いた慢性骨髄性白血<br>病の治療成績                                        | 第66回日本血液学会総会<br>第46回臨床血液学会総会<br>合同総会 (16. 9 京都) | 一般演題        |
| 久保田 靖子<br>小林 泰 文<br>柵 木 信 男<br>金子 安比古                                    | 血液科<br><br>研究室                        | 骨髄非破壊的前処置を用いた造血器腫<br>瘍・再生不良性貧血に対する同種骨髄移<br>植の検討                                            | 第66回日本血液学会総会<br>第46回臨床血液学会総会<br>合同総会 (16. 9 京都) | 一般演題        |
| 田部 井 敏 夫<br>井 上 賢 一                                                      | 内分泌科                                  | 乳がん治療におけるタキサンの役割と位<br>置づけ                                                                  | 乳癌最新情報カンファラ<br>ンス (16. 7 和歌山)                   | 講 演         |
| 田部 井 敏 夫                                                                 | 内分泌科                                  | 乳がん治療の変遷                                                                                   | 第 1 回日本乳癌学会関東<br>地方会 (16.12 大宮)                 | 講 演         |
| 田部 井 敏 夫                                                                 | 内分泌科                                  | 乳がん治療-ホルモン療法                                                                               | 県民乳癌フォーラム<br>(17. 3 浦和)                         | 講 演         |
| 井 上 賢 一<br>田部 井 敏 夫<br>二 宮 淳<br>堀 井 吉 雄<br>武 井 寛 幸<br>末 益 公 人<br>黒 住 昌 史 | 内分泌科<br>乳腺外科<br><br>病理科               | 閉経前転移性乳癌においてGoserelinと<br>0 aromatase inhibitor併用療法が奏功し<br>た症例                             | 第35回 埼玉・群馬乳腺<br>疾患研究会 (16. 7 高崎)                | 講 演         |
| 井 上 賢 一<br>田部 井 敏 夫<br>武 井 寛 幸<br>末 益 公 人<br>黒 住 昌 史<br>他10名             | 内分泌科<br>乳腺外科<br>病理科                   | 進行再発乳がんに対するTrastuzumab<br>(Her) とPaclitaxel (TXL) 併用療法の<br>第Ⅱ相臨床試験 (SBCCSG-02)             | 第12回日本乳癌学会総会<br>(16. 6 北九州)                     | ワークシ<br>ョップ |
| 井 上 賢 一<br>田部 井 敏 夫<br>武 井 寛 幸                                           | 内分泌科<br>乳腺外科                          | ホルモン感受性閉経後乳がんに対するエ<br>キセメスタン術前ホルモン療法その他施設<br>共同による第Ⅱ相臨床試験：埼玉乳がん<br>臨床研究グループ<br>(SBCCSG-03) | 第42回癌治療学会総会<br>(16.10 京都)                       | 講 演         |
| 井 上 賢 一<br>田部 井 敏 夫<br>二 宮 淳<br>堀 井 吉 雄<br>武 井 寛 幸<br>末 益 公 人            | 内分泌科<br>乳腺外科                          | 免疫染色により骨転移巣が胃癌によるも<br>のと診断された異時性両側乳癌の1例                                                    | 第 1 回日本乳癌学会関東<br>地方会 (16.12 大宮)                 | 講 演         |

| 氏 名                                    | 所 属   | 題 名                                                                                                                                                                                  | 学会等名称 (年月, 場所)                                                                   | 発表形式        |
|----------------------------------------|-------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------|-------------|
| 下 岡 華 子<br>出 雲 俊 之<br>黒 住 昌 史          | 病理科   |                                                                                                                                                                                      |                                                                                  |             |
| 井 上 賢 一<br>田 部 井 敏 夫                   | 内分泌科  | 乳がん術後anthracycline療法による静脈炎および関連症状のアンケート調査                                                                                                                                            | 第 3 回日本臨床腫瘍学会<br>総会 (17. 3 横浜)                                                   | 講 演         |
| 駒 形 浩 史<br>米 田 修 一<br>酒 井 洋<br>磯 部 和 順 | 呼吸器科  | Breath alcohol concentrations in Japanese outpatients following paclitaxel or docetaxel infusion                                                                                     | 29th Annual Meeting of European Society for Medical Oncology (15.11 Vienna)      | 示 説         |
| Sakai H.<br>他 3 名                      | 呼吸器科  | Once weekly epoetin beta increases hemoglobin and improves quality of life in anemic cancer patients receiving chemotherapy: a randomized, double-blind, dose-finding study          | 41th Annual Meeting of American Society of Clinical Oncology (15. 6 New Orleans) | 紙上発表        |
| Sakai H.<br>他 2 名                      | 呼吸器科  | Once-weekly epoetin beta improves hemoglobin levels and quality of life in patients with chemotherapy-induced anemia: A randomized, double-blind, parallel-group, dose-finding study | 29th Annual Meeting of European Society for Medical Oncology (15.10 Vienna)      | 示 説         |
| 酒 井 洋                                  | 呼吸器科  | 進行再発非小細胞肺癌に対する化学療法現状と今後の展望について                                                                                                                                                       | 札幌がんセミナー (16. 2 札幌)                                                              | 講 演         |
| 酒 井 洋<br>他 2 名                         | 呼吸器科  | 化学療法に伴う貧血患者に対する Epoetin beta (EPO) の週 1 回投与による無作為割付二重盲検用量比較試験                                                                                                                        | 第 3 回日本臨床腫瘍学会<br>総会 (16. 3 横浜)                                                   | 示 説         |
| 野 口 行 雄                                | 呼吸器科  | ハリウッド映画にみる喫煙の歴史<br>－俳優の喫煙とその癌死－                                                                                                                                                      | 第36回埼玉呼吸器病研究会 (16. 9 さいたま)                                                       | 一般演題        |
| 野 口 行 雄                                | 呼吸器科  | 喫煙と癌に関する研究<br>－禁煙の効果が出やすい癌について－                                                                                                                                                      | 第37回埼玉呼吸器病研究会 (17. 3 さいたま)                                                       | 一般演題        |
| 野 口 行 雄                                | 呼吸器科  | 血液培養成績の解析                                                                                                                                                                            | 第 4 回埼玉難治性感染症研究会 (17. 2 さいたま)                                                    | 一般演題        |
| 有 馬 美 和 子                              | 消化器内科 | 早期食道癌の診断と内視鏡的粘膜切除術                                                                                                                                                                   | 第26回埼玉県消化器内視鏡講習会 (16. 4 大宮)                                                      | 講 演         |
| 有 馬 美 和 子<br>多 田 正 弘                   | 消化器内科 | EUSおよびEUS-FNABを併用した表在食道癌の治療法選択と再発診断に関する検討                                                                                                                                            | 第67回日本消化器内視鏡学会総会 (16. 5 京都)                                                      | ワークシ<br>ョップ |
| 有 馬 美 和 子<br>多 田 正 弘<br>他 1 名          | 消化器内科 | 拡大内視鏡による表在食道癌の微細血管像と病理組織像との相関性に関する検討                                                                                                                                                 | 第67回日本消化器内視鏡学会総会 (16. 5 京都)                                                      | シンポジ<br>ウム  |

| 氏 名                                                   | 所 属   | 題 名                                    | 学会等名称 (年月, 場所)                        | 発表形式       |
|-------------------------------------------------------|-------|----------------------------------------|---------------------------------------|------------|
| 有 馬 美 和 子                                             | 消化器内科 | 拡大内視鏡による微細血管像からみた表在食道癌の浸潤度診断           | 第51回食道色素研究会<br>(16. 6 東京)             | 基調講演       |
| 有 馬 美 和 子<br>多 田 正 弘                                  | 消化器内科 | 食道癌放射線化学療法後の局所遺残・再発に対するEMRの適応と限界       | 第58回日本食道学会学術集会 (16. 6 東京)             | ビデオワークショップ |
| 有 馬 美 和 子<br>多 田 正 弘                                  | 消化器内科 | 拡大内視鏡による微細血管像からみた表在食道癌の深達度診断           | 第58回日本食道学会学術集会 (16. 6 東京)             | シンポジウム     |
| 有 馬 美 和 子<br>多 田 正 弘<br>他1名                           | 消化器内科 | 食道表在癌の深達度診断における拡大内視鏡と細径超音波プローブの位置付け    | 第12回DDW-Japan 2004<br>(16.10 福岡)      | シンポジウム     |
| 有 馬 美 和 子<br>多 田 正 弘                                  | 消化器内科 | 表在食道癌に対するEMRの適応と限界                     | 第30回日本消化器内視鏡学会埼玉部会学術講演会<br>(16.11 浦和) | シンポジウム     |
| 有 馬 美 和 子                                             | 消化器内科 | 内視鏡医が病理医に期待するもの                        | 木曜会特別講演会<br>(16.11 池袋)                | シンポジウム     |
| 有 馬 美 和 子<br>多 田 正 弘<br>他1名                           | 消化器内科 | 拡大内視鏡による微細血管像からみた表在食道癌の発赤所見の成因         | 第52回食道色素研究会<br>(16.11 大阪)             | 一般演題       |
| 有 馬 美 和 子                                             | 消化器内科 | 食道癌の拡大内視鏡診断                            | 第1回拡大内視鏡研究会<br>(16.12 東京)             | 一般演題       |
| 有 馬 美 和 子                                             | 消化器内科 | 拡大内視鏡による食道表在癌の診断                       | 第73回京都胃腸勉強会<br>(16. 1 京都)             | 特別講演       |
| 有 馬 美 和 子                                             | 消化器内科 | 拡大内視鏡による微細血管像からみた表在食道癌の浸潤度診断           | 第1回日本消化管学会総会 EMAフォーラム<br>(17. 1 名古屋)  | 講 演        |
| 有 馬 美 和 子                                             | 消化器内科 | 食道・胃疾患の超音波内視鏡診断 (悪性疾患を中心に)             | 第16回日本消化器内視鏡学会 関東セミナー<br>(17. 1 東京)   | 講 演        |
| 石 窪 力<br>多 田 正 弘<br>有 馬 美 和 子<br>久 保 田 靖 子<br>味 岡 洋 一 | 消化器内科 | 大腸原発MALTリンパ腫の臨床経過および治療法に関する検討          | 第79回日本消化器内視鏡学会関東地方会<br>(16.12 東京)     | ワークショップ    |
| 多 田 正 弘<br>他4名                                        | 消化器内科 | Strip biopsyのデータベース: CM2 EMR全国調査に向けて   | 第76回日本胃癌学会総会<br>(16. 3 米子)            | ワークショップ    |
| 多 田 正 弘<br>有 馬 美 和 子                                  | 消化器内科 | 早期胃癌の自家蛍光診断: ワークショップ3: 非可視光内視鏡の現状と臨床応用 | 第67回日本消化器内視鏡学会総会 (16. 5 京都)           | ワークショップ    |

| 氏 名                               | 所 属   | 題 名                                                           | 学会等名称 (年月, 場所)                                    | 発表形式        |
|-----------------------------------|-------|---------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------|-------------|
| 山 田 麻 子                           |       | の展望                                                           |                                                   |             |
| 多 田 正 弘<br>有 馬 美 和 子<br>藤 野 喜 理 子 | 消化器内科 | 分割切除、遺残再発病変の予後に与える影響：パネルディスカッション3：早期胃癌に対するEMR－切開・剥離法VS非公開・剥離法 | 第67回日本消化器内視鏡学会総会 (16. 5 京都)                       | パネルディスカッション |
| 有 馬 美 和 子                         | 消化器内科 | 拡大内視鏡観察による表在食道病変の診断と意義                                        | 北海道大学光学医療診療部講演会 (15. 4 札幌)                        | 特別講演        |
| 有 馬 美 和 子                         | 消化器内科 | 食道癌の診断と治療                                                     | 第328回大阪胃研究会 (15. 5 大阪)                            | 特別講演        |
| 有 馬 美 和 子<br>多 田 正 弘              | 消化器内科 | 超音波内視鏡による食道癌の深達度・リンパ節転移診断の精度と治療法選択への応用                        | 第65回日本消化器内視鏡学会総会 (15. 5 福岡)                       | シンポジウム      |
| 有 馬 美 和 子                         | 消化器内科 | 症例から学ぶ診断・治療方針—早期食道癌                                           | 第65回日本消化器内視鏡学会総会 (15. 5 福岡)                       | 教育ビデオセッション  |
| 有 馬 美 和 子<br>多 田 正 弘<br>他1名       | 消化器内科 | 拡大内視鏡による微細血管像からみた表在食道癌診断の検討                                   | 第57回日本食道学会学術集会 (15. 6 京都)                         | パネルディスカッション |
| 有 馬 美 和 子<br>多 田 正 弘<br>他1名       | 消化器内科 | クリスタルバイオレット・ヨード二重染色法が診断に有用だったBarrett腺癌の1例                     | 第57回日本食道学会学術集会 (15. 6 京都)                         | パネルディスカッション |
| 有 馬 美 和 子                         | 消化器内科 | 食道表在癌の内視鏡診断と治療                                                | 第12回日本消化器病学会近畿支部教育講演会 (15. 7 大阪)                  | 講演          |
| 有 馬 美 和 子                         | 消化器内科 | 拡大内視鏡は食道癌の内視鏡診断をどう変えたか                                        | GI Frontiers Club in大阪 食道癌治療の最前線 (15. 7 大阪)       | 講演          |
| 有 馬 美 和 子                         | 消化器内科 | 食道癌の内視鏡的診断と治療                                                 | 第1回北多摩中央消化管内視鏡粘膜切除術セミナー (15. 7 立川)                | 特別講演        |
| 有 馬 美 和 子                         | 消化器内科 | 21世紀の拡大内視鏡—微細血管像からみた表在食道癌診断                                   | 第11回DDW-Japan 2003 (消化器病学会・消化器内視鏡学会合同) (15.10 大阪) | シンポジウム      |
| 有 馬 美 和 子                         | 消化器内科 | リンパ節転移診断能からみたm3,sm1食道癌に対するEMRの適応拡大                            | 第11回DDW-Japan 2003 (消化器内視鏡学会・消化器病学会合同) (15.10 大阪) | ワークショップ     |

| 氏 名                                                                                                                           | 所 属                               | 題 名                                                          | 学会等名称 (年月, 場所)                            | 発表形式 |
|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------|--------------------------------------------------------------|-------------------------------------------|------|
| 有 馬 美 和 子                                                                                                                     | 消化器内科                             | 表在食道癌の内視鏡診断と治療                                               | 第 1 回多摩消化器内視鏡<br>診断・治療研究会<br>(15.10 立川)   | 特別講演 |
| 有 馬 美 和 子                                                                                                                     | 消化器内科                             | 食道癌の内視鏡的診断と治療                                                | 第 3 回埼玉消化管カンフ<br>ァランス (15.11 埼玉)          | 特別講演 |
| 有 馬 美 和 子                                                                                                                     | 消化器内科                             | 名人に学ぼう「基本手技の熟練技」<br>EUS ①食道                                  | 第15回日本消化器内視鏡<br>学会甲信越支部セミナー<br>(15. 1 甲府) | 講 演  |
| 有 馬 美 和 子                                                                                                                     | 消化器内科                             | 食道癌の診断と治療－病理診断との接点<br>における問題点－                               | 第181回木曜会例会<br>(15. 3 池袋)                  | 講 演  |
| 有 馬 美 和 子                                                                                                                     | 消化器内科                             | 拡大内視鏡は表在食道癌の内視鏡診断を<br>どう変えたか？                                | 第 7 回横浜GI-Congress<br>(15. 3 横浜)          | 特別講演 |
| 有 馬 美 和 子                                                                                                                     | 消化器内科                             | 拡大内視鏡による食道表在癌の診断                                             | 第21回埼玉消化器疾患研<br>究会 (15. 3 大宮)             | 特別講演 |
| 網 倉 克 己<br>小 林 照 忠<br>川 島 吉 之<br>西 村 洋 治<br>坂 本 裕 彦<br>田 中 洋 一<br>秋 山 博 彦<br>西 村 仁 志                                          | 消化器外科<br><br><br><br><br><br>胸部外科 | 大腸癌切除術後の肝肺転移再発時におけ<br>る腫瘍マーカー測定の意味－血清 C E A<br>値の変動と免疫組織学的検討 | 第104回日本外科学会定<br>期学術集会 (16. 4 大阪)          | 一般演題 |
| 西 村 洋 治<br>八 岡 利 昌<br>伊 藤 嘉 智<br>渡 部 裕 志<br>小 峯 修<br>戸 塚 統<br>山 田 達 也<br>竹下 勇 太 郎<br>川 島 吉 之<br>網 倉 克 己<br>坂 本 裕 彦<br>田 中 洋 一 | 消化器外科                             | 大腸癌手術における小開腹 Sliding<br>window法の工夫                           | 第 2 回ミニラパ研究会<br>(16. 5 川越)                | 一般演題 |
| 川 島 吉 之<br>田 中 洋 一<br>竹下 勇 太 郎<br>山 田 達 也<br>戸 塚 統<br>小 峰 修<br>小 林 照 忠<br>網 倉 克 己                                             | 消化器外科                             | short segment Barrett食道を伴った低<br>分化食道腺癌の 1 例                  | 第58会日本食道学会<br>(16. 6 東京)                  | 一般演題 |

| 氏 名                                                                                                                                       | 所 属                                              | 題 名                                                                                                                                                                      | 学会等名称 (年月, 場所)                                                | 発表形式 |
|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------|------|
| 西 村 洋 治<br>坂 本 裕 彦<br>伊 藤 嘉 智<br>渡 部 裕 志<br>有 馬 美 和 子<br>黒 住 昌 史                                                                          | 消化器内科<br>病理科                                     |                                                                                                                                                                          |                                                               |      |
| 西 村 洋 治<br>八 岡 利 昌<br>伊 藤 嘉 智<br>渡 部 裕 志<br>小 峯 修<br>戸 塚 統<br>山 田 達 也<br>吉 川 朱 実<br>川 島 吉 之<br>網 倉 克 己<br>坂 本 裕 彦<br>田 中 洋 一              | 消化器外科                                            | 下部直腸癌根治手術における括約筋間切除による肛門括約筋温存術の22例                                                                                                                                       | 第61回大腸癌研究会<br>(16. 7 新潟)                                      | 一般演題 |
| Amikura K.<br>Sakamoto H.<br>Tanaka Y.                                                                                                    | 消化器外科                                            | Secondary leukemia induced by hepatic arterial infusion chemotherapy for liver metastasis of common bile duct carcinoma after pylorus-preserving pancreaticoduodenectomy | 11th International Association of Pancreatology<br>(16. 7 仙台) | 一般演題 |
| 網 倉 克 己<br>坂 本 裕 彦<br>小 林 照 忠<br>西 村 洋 治<br>田 中 洋 一<br>島 村 智 崇<br>山 口 研 成<br>多 田 正 弘<br>中 島 哲 夫                                           | 消化器外科<br><br><br><br><br>消化器内科<br><br><br>放射線科   | 大腸癌肝転移切除術後補助肝動注化学療法および非切除例に対する肝動注化学療法の効果                                                                                                                                 | 第59回日本消化器外科学会総会 (16. 7 鹿児島)                                   | 一般演題 |
| 川 島 吉 之<br>田 中 洋 一<br>竹 下 勇 太 郎<br>戸 塚 統<br>山 田 達 也<br>伊 藤 嘉 智<br>渡 部 裕 志<br>小 峰 修<br>小 林 照 忠<br>網 倉 克 己<br>西 村 洋 治<br>坂 本 裕 彦<br>黒 住 昌 史 | 消化器外科<br><br><br><br><br><br><br><br><br><br>病理科 | 残胃の癌の臨床病理と治療－58例の検討から－                                                                                                                                                   | 第59回日本消化器外科学会総会 (16. 7 鹿児島)                                   | 一般演題 |

| 氏 名                                                                                                                                       | 所 属                                  | 題 名                                                                      | 学会等名称 (年月, 場所)              | 発表形式        |
|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------|-----------------------------|-------------|
| 八 岡 利 昌<br>他 7 名                                                                                                                          | 消化器外科                                | 高度リンパ節転移陽性大腸癌に対する治療成績                                                    | 第59回日本消化器外科学会総会 (16. 7 鹿児島) | 一般演題        |
| 鶴 田 耕 二<br>八 岡 利 昌<br>他 5 名                                                                                                               | 東京都立駒込病院<br>消化器外科                    | 肝切除後の長期生存 (10年以上) を目指して－肝細胞癌術後長期成績からみた胆癌領域の血行遮断を先行した肝切除の意義               | 第59回日本消化器外科学会総会 (16. 7 鹿児島) | シンポジウム      |
| 八 岡 利 昌<br>西 村 洋 治<br>網 倉 克 己<br>坂 本 裕 彦<br>山 口 研 成<br>神 田 裕 三<br>田 中 洋 一<br>赤 木 究<br>石 窪 力<br>新 井 吉 子                                    | 消化器外科<br><br><br><br><br><br>遺伝子診断室  | MSI陽性直腸癌の臨床病理学的特徴                                                        | 第63回日本癌学会総会 (16. 9 博多)      | 一般演題        |
| 小 峯 修<br>網 倉 克 己<br>坂 本 裕 彦<br>西 村 洋 治<br>川 島 吉 之<br>八 岡 利 昌<br>田 中 洋 一<br>西 村 ゆ う<br>黒 住 昌 史                                             | 消化器外科<br><br><br><br><br>病理科         | 幽門輪温存脾頭十二指腸切除術後 2 年で挙上空腸に発生したGastrointestinal stromal tumor (GIST) の 1 例 | 第66回日本臨床外科学会総会 (16.10 盛岡)   | 一般演題        |
| 網 倉 克 己<br>八 岡 利 昌<br>川 島 吉 之<br>坂 本 裕 彦<br>田 中 洋 一                                                                                       | 消化器外科                                | 腸閉塞 (イレウス) の診断と治療の進歩<br>消化器癌の再発に伴う腸閉塞に対する外科治療                            | 第66回日本臨床外科学会総会 (16.10 盛岡)   | パネルディスカッション |
| 川 島 吉 之<br>田 中 洋 一<br>戸 塚 統 也<br>山 田 達 也<br>伊 藤 嘉 智<br>渡 部 裕 志<br>小 峯 修<br>吉 川 朱 美<br>八 岡 利 昌<br>網 倉 克 己<br>西 村 洋 治<br>坂 本 裕 彦<br>黒 住 昌 史 | 消化器外科<br><br><br><br><br><br><br>病理科 | 噴門側胃切除後に発生した残胃の癌の臨床病理                                                    | 第66回日本臨床外科学会総会 (16.10 盛岡)   | 一般演題        |

| 氏 名                                                                                                                                               | 所 属                                 | 題 名                                        | 学会等名称 (年月, 場所)                | 発表形式              |
|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------|--------------------------------------------|-------------------------------|-------------------|
| 八 岡 利 昌<br>西 村 洋 治<br>坂 本 裕 彦<br>網 倉 克 己<br>川 島 吉 之<br>吉 川 朱 美<br>田 中 洋 一<br>赤 木 究                                                                | 消化器外科<br><br><br><br><br><br>遺伝子診断室 | 大腸低分化腺癌と粘液癌の検討                             | 第66回日本臨床外科学会<br>総会 (16.10 盛岡) | 一般演題              |
| 伊 藤 嘉 智<br>小 林 照 忠<br>西 村 洋 治<br>坂 本 裕 彦<br>網 倉 克 己<br>川 島 吉 之<br>八 岡 利 昌<br>吉 川 朱 美<br>山 田 達 也<br>小 峯 修<br>戸 塚 統<br>渡 部 裕 志<br>田 中 洋 一           | 消化器外科                               | 直腸原発小細胞癌の一例                                | 第66回日本臨床外科学会<br>総会 (16.10 盛岡) | 一般演題              |
| 山 田 達 也<br>田 中 洋 一<br>西 村 洋 治<br>竹下 勇 太 郎<br>小 峯 修<br>川 島 吉 之<br>黒 住 昌 史<br>赤 木 究<br>伊 藤 嘉 智<br>戸 塚 統<br>渡 部 裕 志<br>小 林 照 忠<br>網 倉 克 己<br>坂 本 裕 彦 | 消化器外科                               | TS-1が著効した, 食道癌および肝転移<br>を伴った直腸癌の同時性重複癌の1症例 | 第42回日本癌治療学会総<br>会 (16.10 京都)  | 一般演題              |
| 田 中 洋 一<br>川 島 吉 之<br>吉 川 朱 美<br>伊 藤 嘉 智<br>渡 部 裕 志<br>戸 塚 統<br>小 峯 修<br>山 田 達 也<br>八 岡 利 昌<br>網 倉 克 己<br>西 村 洋 治<br>坂 本 裕 彦                      | 消化器外科                               | 胸部食道癌に対する鏡視下手術の治療成<br>績                    | 第42回日本癌治療学会総<br>会 (16.10 京都)  | ビデオシ<br>ンポジウ<br>ム |

| 氏 名                                                                                                                                                               | 所 属                                                           | 題 名                                                                                                                                                                    | 学会等名称 (年月, 場所)                                                                | 発表形式 |
|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------|------|
| 坂 本 裕 彦<br>網 倉 克 己<br>田 中 洋 一<br>西 村 洋 治<br>川 島 吉 之<br>八 岡 利 昌<br>吉 川 朱 実<br>山 田 達 也<br>小 峯 修<br>戸 塚 統                                                            | 消化器外科                                                         | 肝細胞癌腹膜転移に対する手術療法の意義と適応                                                                                                                                                 | 第42回日本癌治療学会総会 (16.10 京都)                                                      | 一般演題 |
| 八 岡 利 昌<br>西 村 洋 治<br>坂 本 裕 彦<br>網 倉 克 己<br>川 島 吉 之<br>吉 川 朱 実<br>田 中 洋 一<br>赤 木 究                                                                                | 消化器外科<br><br><br><br><br><br><br>遺伝子診断室                       | 若年性および高齢者大腸癌におけるマイクロナサテライト不安定性の解析                                                                                                                                      | 第59回日本大腸肛門病学会 (16.11 久留米)                                                     | 一般演題 |
| 川 島 吉 之<br>田 中 洋 一<br>山 田 達 也<br>伊 藤 嘉 智<br>岡 田 洋 次 郎<br>小 峯 修<br>戸 塚 統<br>吉 川 朱 実<br>八 岡 利 昌<br>網 倉 克 己<br>西 村 洋 治<br>坂 本 裕 彦<br>有 馬 美 和 子<br>多 田 正 弘<br>黒 住 昌 史 | 消化器外科<br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br>消化器内科<br>病理科 | Short segment Barrett食道 (SSBE) に発生した食道腺癌の1例                                                                                                                            | 第7回上部消化管疾患研究会 (16.11 さいたま)                                                    | 一般演題 |
| Amikura K.<br>Sakamoto H.<br>Yatsuoka T.<br>Nishimura Y.<br>Tanaka Y.<br>Shimamura T.<br>Yamaguchi K.<br>Tada M.                                                  | 消化器外科<br><br><br><br><br>消化器内科                                | The effect of hepatic arterial infusion chemotherapy for bilobar colorectal liver metastasis as adjuvant after hepatic resection and for unresectable liver metastasis | 19th World congress of International Society for Digestive Surgery (16.12 横浜) | 一般演題 |
| 岡 田 洋 次 郎<br>竹 下 勇 太 郎<br>南 部 弘 太 郎<br>伊 藤 嘉 智<br>戸 塚 統                                                                                                           | 消化器外科                                                         | FNABにより術前に確診し得た巨大食道GISTの1例                                                                                                                                             | 第22回埼玉県外科集談会 (16.12 さいたま)                                                     | 一般演題 |

| 氏 名                                                                                                                                                    | 所 属          | 題 名                               | 学会等名称 (年月, 場所)               | 発表形式 |
|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------|-----------------------------------|------------------------------|------|
| 小 峯 修<br>山 田 達 也<br>吉 川 朱 実<br>八 岡 利 昌<br>川 島 吉 之<br>網 倉 克 己<br>西 村 洋 治<br>坂 本 裕 彦<br>田 中 洋 一<br>有 馬 美 和 子<br>黒 住 昌 史                                  | 消化器内科<br>病理科 |                                   |                              |      |
| 小 峯 修<br>田 中 洋 一<br>戸 塚 統<br>坂 本 裕 彦<br>西 村 洋 治<br>網 倉 克 己<br>川 島 吉 之<br>八 岡 利 昌<br>吉 川 朱 実<br>山 田 達 也<br>伊 藤 嘉 智<br>岡 田 洋 次 郎                         | 消化器外科        | 右鎖骨下動脈起始異常を合併した食道癌<br>の1手術例       | 第795回外科集談会<br>(16.12 川越)     | 一般演題 |
| 戸 塚 統<br>川 島 吉 之<br>吉 川 朱 実<br>伊 藤 嘉 智<br>小 峯 修<br>山 田 達 也<br>岡 田 洋 次 郎<br>八 岡 利 昌<br>網 倉 克 己<br>西 村 洋 治<br>坂 本 裕 彦<br>田 中 洋 一<br>有 馬 美 和 子<br>黒 住 昌 史 | 消化器外科        | 上腹部の多臓器浸潤性転移巣から膵癌を<br>疑った食道表在癌の1例 | 第795回外科集談会<br>(16.12 川越)     | 一般演題 |
| 川 島 吉 之<br>田 中 洋 一<br>戸 塚 統<br>山 田 達 也<br>伊 藤 嘉 智<br>岡 田 洋 次 郎<br>小 峯 修<br>吉 川 朱 実<br>八 岡 利 昌<br>網 倉 克 己                                               | 消化器外科        | 初発胃癌および残胃の癌切除例の臨床病<br>理と治療        | 第42回埼玉県医学会総会<br>(17. 2 さいたま) | 一般演題 |

| 氏 名                                                                                                                                                  | 所 属                                                      | 題 名                                                                                    | 学会等名称 (年月, 場所)                                                           | 発表形式                |
|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------|---------------------|
| 西 村 洋 治<br>坂 本 裕 彦<br>黒 住 昌 史                                                                                                                        | 病理科                                                      |                                                                                        |                                                                          |                     |
| 小 峯 修<br>西 村 洋 治<br>岡 田 洋 次 郎<br>伊 藤 嘉 智<br>戸 塚 統<br>山 田 達 也<br>吉 川 朱 実<br>八 岡 利 昌<br>川 島 吉 之<br>網 倉 克 己<br>坂 本 裕 彦<br>田 中 洋 一<br>西 田 一 典<br>黒 住 昌 史 | 消化器外科<br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br>病理科 | 発生母地不明の骨盤内低分化腺癌の1例                                                                     | 第796回外科集談会<br>(17. 3 東京)                                                 | 一般演題                |
| Yatsuoka T.<br>Akagi K.<br>Nishimura Y.<br>Sakamoto H.<br>Amikura K.<br>Kawashima K.<br>Yoshikawa A.<br>Tanaka Y.                                    | 消化器外科                                                    | Clinicopathological features of colorectal poorly differentiated or mucinous carcinoma | 10th CONGRESS OF ASIAN FEDERATION OF COLOPROCTOLOGY<br>(17. 3 Singapore) | 一般演題                |
| 秋 山 博 彦<br>西 村 仁 志<br>他1名                                                                                                                            | 胸部外科                                                     | 胸腔鏡補助下に切除した嚢腫状奇静脈瘤の1例                                                                  | 第21回日本呼吸器外科学会総会 (17. 5 横浜)                                               | 一般ビデオ               |
| 木 下 裕 康<br>秋 山 博 彦<br>西 村 仁 志<br>出 雲 俊 之                                                                                                             | 胸部外科<br><br>病理科                                          | 胸腔鏡下縦隔リンパ節生検に合併した乳糜胸の1例                                                                | 第140回日本肺癌学会関東支部会 (17. 7 相模原)                                             | 一般口演                |
| 秋 山 博 彦<br>木 下 裕 康<br>西 村 仁 志<br>他1名                                                                                                                 | 胸部外科                                                     | 肺悪性腫瘍の疑いにて胸腔鏡下生検を行った肺野末梢腫瘍性病変の検討                                                       | 第45回日本肺癌学会総会 (17.10 横浜)                                                  | 示 説                 |
| 卯 木 次 郎                                                                                                                                              | 脳神経外科                                                    | がんの痛みをどのように解決するか                                                                       | 上尾市医師会学術講演会 (16. 6 上尾)                                                   | 教育講演                |
| 卯 木 次 郎                                                                                                                                              | 脳神経外科                                                    | Pain relief therapy through the oral administration of morphine and its requirement    | 平成16年度海外麻薬行政官研修 (厚生労働省、国際協力機構、国際厚生事業団) (16. 6 伊奈)                        | 講義と実地研修 (7か国の麻薬専門官) |

| 氏 名                                                 | 所 属         | 題 名                                                  | 学会等名称 (年月, 場所)           | 発表形式 |
|-----------------------------------------------------|-------------|------------------------------------------------------|--------------------------|------|
| 喜 納 奈 緒<br>藤 村 正 樹<br>白 井 貴 子<br>白 水 健 士            | 婦人科         | 子宮内膜に腺癌、子宮頸部筋層に未分化癌を認め子宮頸部病変の原発部位の診断に苦慮した1例          | 第36回日本婦人科腫瘍学会 (16. 7 広島) | 一般演題 |
| 後 藤 友 子<br>喜 納 奈 緒<br>白 井 貴 子<br>白 水 健 士            | 婦人科         | 子宮頸癌晩期再発症例の検討                                        | 第36回日本婦人科腫瘍学会 (16. 7 広島) | 一般演題 |
| 藤 村 正 樹<br>白 水 健 士<br>喜 納 奈 緒<br>高 橋 道 子            | 婦人科         | 卵巣がん手術：PAN郭清は予後に寄与するか？ - PAN郭清しない場合の再発、死亡パターンの検討     | 第36回日本婦人科腫瘍学会 (16. 7 広島) | 一般演題 |
| 白 井 貴 子<br>藤 村 正 樹<br>西 田 一 典                       | 婦人科<br>病理科  | 原発が胃の異所性腺癌と疑われた転移性卵巣癌の1例                             | 第36回日本婦人科腫瘍学会 (16. 7 広島) | 一般演題 |
| 喜 納 奈 緒<br>藤 村 正 樹<br>白 井 貴 子<br>横 田 治 重<br>白 水 健 士 | 婦人科         | 子宮体癌II期症例の手術療法に関する検討 - 全例に広汎子宮全摘術は必要か -              | 第42回日本癌治療学会 (16.10 京都)   | 一般演題 |
| 藤 村 正 樹<br>喜 納 奈 緒<br>高 橋 道 子<br>横 田 治 重            | 婦人科         | 当科における卵巣がん治療成績 - 卵巣がん不完全手術症例にdebulking surgeryは必要か - | 第42回日本癌治療学会 (16.10 京都)   | 一般演題 |
| 白 井 貴 子<br>喜 納 奈 緒<br>高 橋 道 子<br>横 田 治 重            | 婦人科         | 子宮体癌IIIc期における手術術式に関する検討                              | 第42回日本癌治療学会 (16.10 京都)   | 一般演題 |
| 足 立 克 之<br>八 杉 利 治<br>他5名                           | 婦人科<br>東京大学 | 放射線療法を主治療とした子宮頸癌症例について-局所制御・生命予後に影響する因子についての検討       | 第42回日本癌治療学会 (16.10 京都)   | 一般演題 |
| 高 橋 道 子<br>喜 納 奈 緒<br>横 田 治 重                       | 婦人科         | 子宮頸癌再発例におけるネダプラチンの使用経験                               | 第42回日本癌治療学会 (16.10 京都)   | 一般演題 |
| 横 田 治 重                                             | 婦人科         | 子宮体癌をめぐる最近の話題                                        | 埼玉県北部産婦人科研究会 (16.11 熊谷)  | 一般演題 |
| 白 井 貴 子<br>喜 納 奈 緒<br>高 橋 道 子<br>横 田 治 重            | 婦人科         | 当科における子宮体癌手術療法                                       | 第36回日本婦人科腫瘍学会 (16.12 東京) | 一般演題 |

| 氏 名                                                                              | 所 属                                  | 題 名                                                   | 学会等名称 (年月, 場所)              | 発表形式   |
|----------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------|-------------------------------------------------------|-----------------------------|--------|
| 斉 藤 吉 弘<br>楮 本 智 子<br>清 原 浩 樹<br>砂 倉 瑞 良<br>加 藤 真 吾<br>西 瀧 渡<br>鈴 木 正 美<br>白 倉 聡 | 放射線科<br><br><br><br>放医研<br>頭頸部外科     | T, N因子別の局所制御率, 非再発生存率からみた上咽頭癌の治療戦略                    | 第28回日本頭頸部腫瘍学会 (16. 6 福岡)    | 一般演題   |
| 斉 藤 吉 弘<br>楮 本 智 子<br>斉 藤 淳 一<br>市 川 聡 裕<br>清 原 浩 樹<br>砂 倉 瑞 良<br>水 野 秀 之        | 放射線科<br><br><br><br><br><br>放射線技術部   | C T simulatorによる治療計画と透視装置決めとの棲み分けについて                 | 第31回群馬放射線腫瘍研究会 (16. 9 桐生)   | 一般演題   |
| 斉 藤 吉 弘<br>楮 本 智 子<br>斉 藤 淳 一<br>砂 倉 瑞 良<br>本 戸 幹 人<br>西 瀧 渡                     | 放射線科<br><br><br><br>埼玉医大総合医<br>頭頸部外科 | T1-3, NO-1 下咽頭癌の再発様式からみた治療法の検討                        | 第32回群馬放射線腫瘍研究会 (17. 1 前橋)   | 一般演題   |
| 野 津 聡<br>岡 安 克 彦<br>市 川 聡 裕                                                      | 放射線科                                 | 大腸癌切除後吻合部再発の診断                                        | 第11回埼玉画像フォーラム (16. 7 大宮)    | 一般演題   |
| 野 津 聡<br>山 口 研 成<br>西 村 洋 治                                                      | 放射線科<br>消化器内科<br>消化器外科               | マルチスライスC Tを用いた大腸癌M P R像のC T値と病理組織所見との関連               | 第59回日本大腸肛門病学会総会 (16.11 久留米) | 一般演題   |
| 野 津 聡<br>腰 塚 慎 二<br>上 田 規 靖<br>西 村 洋 治                                           | 放射線科<br>放射線技術部<br><br>消化器外科          | C T colonography における大腸腫瘍の描出                          | 第22回日本大腸検査学会総会 (16.11 東京)   | シンポジウム |
| 野 津 聡                                                                            | 放射線科                                 | 内視鏡的大腸癌切除後の経過観察のあり方について                               | 第23回埼玉大腸疾患研究会 (17. 2 大宮)    | シンポジウム |
| 楮 本 智 子<br>斉 藤 吉 弘<br>清 原 浩 樹<br>岡 部 貞 夫<br>八 木 原 一 博<br>西 瀧 渡<br>他1名            | 放射線科<br><br><br>口腔外科<br><br>頭頸部外科    | 舌扁平上皮癌NO症例に対する組織内照射-低線量率L D R/高線量率H D R照射においての治療成績の検討 | 第28回日本頭頸部腫瘍学会 (16. 8 福岡)    | 一般演題   |
| 楮 本 智 子<br>斉 藤 吉 弘                                                               | 放射線科                                 | 舌癌に対する高線量率組織内照射の問題点と課題についての一考察                        | 第17回日本放射線腫瘍学会 (16.11 幕張)    | 一般演題   |

| 氏 名                                                                                                                                       | 所 属                | 題 名                                              | 学会等名称 (年月, 場所)                 | 発表形式 |
|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------|--------------------------------------------------|--------------------------------|------|
| 斉 藤 淳 一<br>水 野 秀 之<br>岡 部 貞 夫<br>八 木 原 一 博<br>他 3 名                                                                                       | 放射線技術部<br>口腔外科     |                                                  |                                |      |
| 斉 藤 淳 一<br>斉 藤 吉 弘<br>楮 本 智 子<br>佐 藤 恭 二<br>松 田 幸 広<br>原 田 昭 夫<br>清 宮 幸 雄<br>阿 部 靖<br>松 本 慎<br>村 田 孝 弘<br>小 川 原 佳 和<br>松 田 一 秀<br>水 野 秀 之 | 放射線科<br><br>放射線技術部 | SonArray を使用した前立腺位置照合システムの初期経験                   | 第31回群馬放射線腫瘍研究会 (16. 9 桐生)      | 一般演題 |
| 斉 藤 淳 一<br>斉 藤 吉 弘<br>楮 本 智 子                                                                                                             | 放射線科               | SonArray を使用した前立腺位置照合の初期経験                       | 第426回日本医学放射線学会関東地方会 (16.12 東京) | 一般演題 |
| 斉 藤 淳 一<br>斉 藤 吉 弘<br>楮 本 智 子<br>市 川 聡 裕<br>米 田 修<br>酒 井 洋                                                                                | 放射線科<br><br>呼吸器科   | Ⅲ期非小細胞肺癌の同時化学放射線療法における局所制御と予後との関係について            | 第32回群馬放射線腫瘍研究会 (17. 1 前橋)      | 一般演題 |
| 斉 藤 淳 一<br>斉 藤 吉 弘<br>楮 本 智 子<br>西 寫 渡<br>鈴木 正 美                                                                                          | 放射線科<br><br>頭頸部外科  | T1-3, NO下咽頭癌の再発様式からみた治療法の検討                      | 第 6 回埼玉放射線腫瘍研究会 (17. 3 大宮)     | 一般演題 |
| 西 寫 渡                                                                                                                                     | 頭頸部外科              | 臨床現場から診た鼻・副鼻腔癌の特徴－上顎洞癌と鼻腔癌、及び上顎洞癌と篩骨洞癌との違いを中心にして | 第43回日本鼻科学会 (16. 9 東京)          | 特別口演 |
| 西 寫 渡<br>鈴木 政 美<br>神山 亮 介<br>有 泉 陽 介                                                                                                      | 頭頸部外科              | 頸部リンパ節転移の微細構造                                    | 第42回埼玉県医学会総会 (17. 1 さいたま)      | 一般演題 |
| 鈴木 政 美<br>西 寫 渡<br>白 倉 聡<br>神山 亮 介                                                                                                        | 頭頸部外科              | 当科における耳下腺癌の治療とその成績について                           | 第28回日本頭頸部腫瘍学会 (16. 6 福岡)       | 一般演題 |

| 氏 名                                               | 所 属   | 題 名                           | 学会等名称 (年月, 場所)                                            | 発表形式       |
|---------------------------------------------------|-------|-------------------------------|-----------------------------------------------------------|------------|
| 堀 圭 二 朗<br>竹 生 田 勝 次<br>出 雲 俊 之                   | 病理科   |                               |                                                           |            |
| 鈴 木 政 美<br>西 舘 渡<br>白 倉 聡<br>神 山 亮 介              | 頭頸部外科 | 甲状腺機能低下症に伴う唾液腺症の 1 例          | 第88回日耳鼻埼玉県地方<br>部会 (16. 6 さいたま)                           | 一般演題       |
| 鈴 木 政 美<br>西 舘 渡<br>神 山 亮 介<br>有 泉 陽 介<br>萩 野 幸 治 | 頭頸部外科 | 喉頭血管腫の 2 症例                   | 第89回日耳鼻埼玉県地方<br>部会 (16.10 さいたま)                           | 一般演題       |
| 鈴 木 政 美<br>西 舘 渡<br>神 山 亮 介<br>有 泉 陽 介<br>萩 野 幸 治 | 頭頸部外科 | 喉頭血管腫の診断・治療                   | 御茶の水耳鼻咽喉科・頭<br>頸部外科研究会<br>(16.12 東京)                      | 一般演題       |
| 鈴 木 政 美                                           | 頭頸部外科 | 喉頭肉芽腫の対応と鑑別診断                 | 第 2 回Sonic Symposium<br>on Otolaryngology<br>(16. 7 さいたま) | シンポジ<br>ウム |
| 鈴 木 政 美                                           | 頭頸部外科 | 耳下腺腫瘍の術後合併症について               | 第3回Sonic Symposium<br>on Otolaryngology<br>(16.12 さいたま)   | シンポジ<br>ウム |
| 白 倉 聡<br>西 舘 渡<br>鈴 木 政 美<br>神 山 亮 介              | 頭頸部外科 | 当科における下咽頭癌手術症例（咽喉食<br>摘）の臨床統計 | 第105回日本耳鼻咽喉科<br>学会総会 (16. 5 広島)                           | 一般演題       |
| 白 倉 聡<br>西 舘 渡<br>鈴 木 政 美<br>神 山 亮 介<br>松 峯 元     | 頭頸部外科 | 鼻腔腺房細胞癌の 1 症例                 | 第88回日耳鼻埼玉県地方<br>部会 (16. 6 さいたま)                           | 一般演題       |
| 神 山 亮 介<br>白 倉 聡<br>松 峯 元<br>鈴 木 政 美<br>西 舘 渡     | 頭頸部外科 | 舌癌進行例 (stageIII, IV) の臨床統計    | 第28回日本頭頸部腫瘍学<br>会 (16. 6 福岡)                              | 一般演題       |
| 神 山 亮 介<br>白 倉 聡<br>鈴 木 政 美<br>西 舘 渡              | 頭頸部外科 | 甲状腺血管腫の 1 症例                  | 第88回日耳鼻埼玉県地方<br>部会 (16. 6 さいたま)                           | 一般演題       |

| 氏 名                                                                              | 所 属                       | 題 名                                          | 学会等名称 (年月, 場所)                        | 発表形式 |
|----------------------------------------------------------------------------------|---------------------------|----------------------------------------------|---------------------------------------|------|
| 神 山 亮 介<br>白 倉 聡<br>萩 野 幸 治<br>鈴 木 政 美<br>西 寫 渡                                  | 頭頸部外科                     | 涙嚢を原発とした悪性腫瘍の 1 症例                           | 第89回日耳鼻埼玉県地方<br>部会 (16.10 さいたま)       | 一般演題 |
| 有 泉 陽 介<br>西 寫 渡<br>鈴 木 政 美<br>神 山 亮 介<br>萩 野 幸 治                                | 頭頸部外科                     | 耳下部に生じた悪性黒色腫の 1 例                            | 第88回日耳鼻埼玉県地方<br>部会 (16. 6 さいたま)       | 一般演題 |
| 有 泉 陽 介<br>鈴 木 政 美<br>神 山 亮 介<br>松 峯 元<br>萩 野 幸 治<br>西 寫 渡<br>出 雲 俊 之<br>神 田 祐 三 | 頭頸部外科<br><br>病理科<br>消化器内科 | 喉頭疣状癌の 1 例                                   | 第38回埼玉県医学会総会<br>(17. 2 さいたま)          | 一般演題 |
| 萩 野 幸 治<br>西 寫 渡<br>鈴 木 政 美<br>神 山 亮 介<br>松 峯 元<br>有 泉 陽 介<br>神 田 祐 三            | 頭頸部外科<br><br>消化器内科        | 下咽頭に発生した類上皮肉芽腫の 1 例                          | 第38回埼玉県医学会総会<br>(17. 2 さいたま)          | 一般演題 |
| 石 岡 淳 一 郎<br>福 田 博 志<br>東 四 雄                                                    | 泌尿器科                      | 外陰部に広汎に浸潤し、全除精術を要し<br>た精巣悪性リンパ腫の 1 例         | 第37回日本泌尿器科学会<br>埼玉地方会<br>(16. 6 さいたま) | 一般演題 |
| 石 岡 淳 一 郎<br>福 田 博 志<br>東 四 雄                                                    | 泌尿器科                      | JCOGガイドラインに基づいたG-CSF使<br>用法の経験：安全性確認および問題点   | 第69回日本泌尿器科学会<br>東部総会<br>(16. 9 東京)    | 一般演題 |
| 福 田 博 志<br>石 岡 淳 一 郎<br>東 四 雄                                                    | 泌尿器科                      | HCG異常高値状態にて残存腫瘍摘出術<br>を施行しpCRであった精巣腫瘍の 1 例   | 第38回日本泌尿器科学会<br>埼玉地方会<br>(16.11 さいたま) | 一般演題 |
| 野 呂 彰<br>東 四 雄                                                                   | さいたま赤十字<br>泌尿器科           | 2002年埼玉県泌尿器科悪性腫瘍統計                           | 第38回日本泌尿器科学会<br>埼玉地方会<br>(16.11 さいたま) | 一般演題 |
| 石 岡 淳 一 郎<br>福 田 博 志<br>一 柳 暢 孝<br>東 四 雄<br>西 田 一 典                              | 泌尿器科<br><br>病理科           | ネオアジュバント化学療法により転移巣<br>の C R が得られた進行性陰茎癌の 1 例 | 第38回日本泌尿器科学会<br>埼玉地方会<br>(17. 2 さいたま) | 一般演題 |

| 氏 名                                                          | 所 属                                   | 題 名                                             | 学会等名称 (年月, 場所)                                                                         | 発表形式         |
|--------------------------------------------------------------|---------------------------------------|-------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------|--------------|
| 他 1 名                                                        |                                       |                                                 |                                                                                        |              |
| 石 川 雅 士<br>西 村 ゆ う<br>出 雲 俊 之                                | 皮膚科<br>病理科                            | 放射線治療後20年を経過して生じたと考<br>えたSpindle cell carcinoma | 第20回日本皮膚悪性腫瘍<br>学会 (16. 5 熊本)                                                          | 症例報告         |
| 佐 藤 哲 也<br>石 川 雅 士                                           | 皮膚科                                   | 尋常性乾癬患者に生じた有棘細胞癌                                | 第19回日本皮膚外科学会<br>(16. 8 東京)                                                             | 症例報告         |
| 佐 藤 哲 也<br>石 川 雅 士<br>西 村 ゆ う<br>出 雲 俊 之<br>松 峯 元<br>磯 野 伸 雄 | 皮膚科<br>病理科<br>頭頸部外科<br>東京女子医大<br>形成外科 | 下口唇に生じた有棘細胞癌                                    | 第68回日本皮膚科学会東<br>部支部学術大会<br>(16.10 新潟)                                                  | 症例報告         |
| 佐 藤 哲 也<br>石 川 雅 士<br>松 尾 直 樹<br>余 宮 きの み                    | 皮膚科<br>緩和ケア科                          | 神経根性疼痛に対し塩酸ケタミンが奏効<br>した有棘細胞癌                   | 第68回日本皮膚科学会東<br>京支部学術大会<br>(17. 2 東京)                                                  | 一般演題         |
| 都 木 秀 美<br>内 山 睦<br>多 胡 雅 夫<br>養 田 靖<br>布 施 嘉 亮              | 麻酔科                                   | 脊髄小脳変性症を合併する 3 症例の麻酔<br>経験                      | 第51回日本麻酔科学会学<br>術集会 (16. 5 名古屋)                                                        | 一般演題         |
| 内 山 睦                                                        | 麻酔科                                   | がんの痛みに期待した治療効果がないと<br>き－3：麻酔科医にいつ、何を求めるか        | 平成16年度 末期医療患<br>者の Q O L 推進講習会<br>“がん疼痛治療：期待し<br>た治療効果が得られない<br>ときの対策”<br>(17. 2 さいたま) | 教育講演         |
| 中 山 竜 司<br>岡 部 貞 夫<br>八 木 原 一 博<br>野 地 秀 彦<br>出 雲 俊 之        | 口腔外科<br>病理科                           | 顎下腺原発扁平上皮癌の 1 例                                 | 第18回東信頭頸部癌研究<br>会 (16. 4 佐久)                                                           | 症例検討         |
| 岡 部 貞 夫<br>大 関 悟                                             | 口腔外科<br>福岡歯大                          | 下顎歯肉癌の治療－標準化治療をめざし<br>て－                        | 第58回日本口腔科学会総<br>会 (16. 5 横浜)                                                           | モジュレ<br>ーター  |
| 八 木 原 一 博<br>岡 部 貞 夫                                         | 口腔外科                                  | 下顎歯肉癌の治療－放射線治療と手術療<br>法－                        | 第58回日本口腔科学会総<br>会 (16. 5 横浜)                                                           | ミニシン<br>ポジウム |
| 野 地 秀 彦<br>岡 部 貞 夫<br>八 木 原 一 博                              | 口腔外科                                  | T 1, T 2 舌癌の臨床発育様式から検索し<br>た予後の検討               | 第58回日本口腔科学会総<br>会 (16. 5 横浜)                                                           | 一般演題         |

| 氏 名                                                   | 所 属             | 題 名                                                                                                                             | 学会等名称 (年月, 場所)                                                                  | 発表形式 |
|-------------------------------------------------------|-----------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------|------|
| 中 山 竜 司<br>出 雲 俊 之                                    | 病理科             |                                                                                                                                 |                                                                                 |      |
| 八 木 原 一 博<br>岡 部 貞 夫<br>中 山 竜 司<br>出 雲 俊 之            | 口腔外科<br><br>病理科 | T 1, T 2 舌癌における局所切除症例の臨床病理学的検討 (第 2 報)<br>- dysplasia-carcinoma sequence癌とde novo癌における浸潤様式について -                                | 第58回日本口腔科学会総会 (16. 5 横浜)                                                        | 一般演題 |
| 中 山 竜 司<br>岡 部 貞 夫<br>八 木 原 一 博<br>野 地 秀 彦<br>出 雲 俊 之 | 口腔外科<br><br>病理科 | 臨床的に骨肉腫を疑った下顎骨 Adenosquamous carcinomaの 1 例                                                                                     | 第58回日本口腔科学会総会 (16. 5 横浜)                                                        | ポスター |
| 野 地 秀 彦<br>岡 部 貞 夫<br>八 木 原 一 博<br>中 山 竜 司<br>出 雲 俊 之 | 口腔外科<br><br>病理科 | 放射線外照射 + 化学療法 (DOC+CBDCA) + LASER減量術同時併用療法で制御できた皮膚進展型頬粘膜癌の 1 例                                                                  | 第28回日本頭頸部腫瘍学会総会 (16. 6 福岡)                                                      | ポスター |
| 野 地 秀 彦<br>岡 部 貞 夫<br>八 木 原 一 博<br>中 山 竜 司<br>出 雲 俊 之 | 口腔外科<br><br>病理科 | 舌扁平上皮内腫瘍 (SIN) の病理組織学的分類および臨床病態の評価                                                                                              | 第14回日本口腔粘膜学会総会 (16. 7 東京)                                                       | 一般演題 |
| 八 木 原 一 博<br>岡 部 貞 夫<br>中 山 竜 司<br>出 雲 俊 之            | 口腔外科<br><br>病理科 | 原発巣・頸部転移巣が制御され、心筋内を含む多発性筋肉内転移をきたした口腔癌の 2 例                                                                                      | 第19回東信頭頸部癌研究会 (16. 7 軽井沢)                                                       | 症例検討 |
| 八 木 原 一 博<br>岡 部 貞 夫<br>中 山 竜 司<br>出 雲 俊 之            | 口腔外科<br><br>病理科 | 口腔癌進行症例に対する放射線化学療法 (DOC・CDDP・5FU) 同時併用療法の検討                                                                                     | 第 4 回関東地区口腔腫瘍研究会 (16. 7 東京)                                                     | 一般演題 |
| 八 木 原 一 博<br>岡 部 貞 夫<br>出 雲 俊 之                       | 口腔外科<br><br>病理科 | 舌粘膜における dysplasia -carcinoma sequence癌とde novo癌                                                                                 | 第15回日本口腔病理学会総会 (16. 8 東京)                                                       | 一般演題 |
| 松 木 繁 男<br>岡 部 貞 夫<br>八 木 原 一 博<br>松 木 清 弘<br>野 沢 茂   | 口腔外科            | 術後下唇内翻症例の顎補綴における考察                                                                                                              | 第21回日本顎顔面補綴学会総会 (16. 8 福岡)                                                      | 一般演題 |
| Yagihara K.<br>Okabe S.<br>Nakayama R.<br>Izumo T.    | 口腔外科<br><br>病理科 | Evaluation of long term prognosis for combination therapy using irradiation and LASER vaporization for buccal mucosal carcinoma | 6th Asian Congress on Oral and Maxillofacial Surgery.<br>49th Annual Meeting of | 一般演題 |

| 氏 名                                                               | 所 属                     | 題 名                                                                                                  | 学会等名称 (年月, 場所)                                                                                                                                                                                                                            | 発表形式                |
|-------------------------------------------------------------------|-------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------|
| Nakayama R.<br>Okabe S.<br>Yagihara K.<br>Hidehiko N.<br>Izumo T. | 口腔外科<br><br><br><br>病理科 | An atypical case、histologically,<br>of epithelial-myoepithelial carcinoma of<br>the sublingual gland | Japanese Society of<br>Oral and Maxillofacial<br>Surgeons (16.10 幕張)<br><br>6th Asian Congress on<br>Oral and Maxillofacial<br>Surgery.<br>49th Annual Meeting of<br>Japanese Society of<br>Oral and Maxillofacial<br>Surgeons (16.10 幕張) | 一般演題                |
| 岡 部 貞 夫                                                           | 口腔外科                    | 各科領域のがん治療指針：口腔癌                                                                                      | 第42回日本癌治療学会総<br>会 (16. 9 京都)                                                                                                                                                                                                              | 特別企画<br>シンポ<br>追加発言 |
| 岡 部 貞 夫<br>八 木 原 一 博<br>野 地 秀 彦<br>中 山 竜 司<br>出 雲 俊 之             | 口腔外科<br><br><br><br>病理科 | 舌粘膜の上皮性異形成Epithelial<br>dysplasiaと扁平上皮内腫瘍Squamous<br>Intraepithelial Neoplasm<br>(SIN)               | 第42回日本癌治療学会総<br>会 (16. 9 京都)                                                                                                                                                                                                              | 示 説                 |
| 中 山 竜 司<br>岡 部 貞 夫<br>八 木 原 一 博<br>出 雲 俊 之                        | 口腔外科<br><br><br>病理科     | 急速な発育のみられた上顎平滑筋肉腫の<br>1 例                                                                            | 第20回東信頭頸部癌研究<br>会 (16.11 佐久)                                                                                                                                                                                                              | 症例検討                |
| 中 山 竜 司<br>岡 部 貞 夫<br>八 木 原 一 博<br>出 雲 俊 之<br>柳 下 寿 郎             | 口腔外科<br><br><br>病理科     | Hybrid carcinomaが疑われた口蓋原発<br>Epithelial-myoepithelial carcinomaの1例                                   | 第49回日本唾液腺学会<br>(16.12 東京)                                                                                                                                                                                                                 | 症例検討                |
| 岡 部 貞 夫                                                           | 口腔外科                    | 日本癌治療学会における「がん診療ガイ<br>ドライン委員会」と日本口腔腫瘍学会                                                              | 第23回日本口腔腫瘍学会<br>総会 (17. 2 東京)                                                                                                                                                                                                             | ワークシ<br>ョップ         |
| 八 木 原 一 博<br>岡 部 貞 夫<br>中 山 竜 司<br>出 雲 俊 之                        | 口腔外科<br><br><br>病理科     | 表在型舌癌・白板症における粘膜切除＋<br>植皮の検討                                                                          | 第23回日本口腔腫瘍学会<br>総会 (17. 2 東京)                                                                                                                                                                                                             | 一般演題                |
| 中 山 竜 司<br>岡 部 貞 夫<br>八 木 原 一 博<br>出 雲 俊 之                        | 口腔外科<br><br><br>病理科     | 有茎性腫瘤を呈した口底扁平上皮癌の1<br>例                                                                              | 第23回日本口腔腫瘍学会<br>総会 (17. 2 東京)                                                                                                                                                                                                             | 一般演題                |
| 八 木 原 一 博<br>岡 部 貞 夫<br>中 山 竜 司                                   | 口腔外科                    | 口腔癌患者に対するオピオイドローテー<br>ションの実際                                                                         | 第24回日本歯科薬物療法<br>学会 (17. 2 東京)                                                                                                                                                                                                             | 示 説                 |

| 氏 名                                                                       | 所 属                      | 題 名                                                                                       | 学会等名称 (年月, 場所)                                                | 発表形式       |
|---------------------------------------------------------------------------|--------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------|------------|
| 八 木 原 一 博<br>岡 部 貞 夫<br>中 山 竜 司<br>出 雲 俊 之<br>神 田 裕 三                     | 口腔外科<br><br>病理科<br>消化器内科 | PLLAメッシュトレー+腸骨海綿骨骨髓<br>で再建した下顎骨歯原性扁平上皮腫の1<br>例                                            | 第42回埼玉県医学会総会<br>(16. 1 浦和)                                    | 一般演題       |
| 中 山 竜 司<br>岡 部 貞 夫<br>八 木 原 一 博<br>出 雲 俊 之<br>神 田 裕 三                     | 口腔外科<br><br>病理科<br>消化器内科 | 舌に発生した巨大な紡錘細胞癌の1例                                                                         | 第42回埼玉県医学会総会<br>(16. 1 浦和)                                    | 一般演題       |
| 八 木 原 一 博<br>岡 部 貞 夫                                                      | 口腔外科                     | 口腔癌患者に対するオピオイドローテ<br>ーションとPTEGの適応                                                         | 第11回奈良県緩和医療研<br>究会 (17. 3 奈良)                                 | 一般演題       |
| 武 井 寛 幸<br>末 益 公 人<br>堀 井 吉 雄<br>二 宮 淳<br>上 村 万 里<br>黒 住 昌 史              | 乳腺外科<br><br>病理科          | 乳癌センチネルリンパ節生検単独治療の<br>妥当性とその条件                                                            | Sentinel node navigation<br>surgery研究会・第6回<br>学術集会 (16.11 埼玉) | シンポジ<br>ウム |
| 武 井 寛 幸<br>末 益 公 人<br>堀 井 吉 雄<br>二 宮 淳<br>黒 住 昌 史<br>井 上 賢 一<br>田 部 井 敏 夫 | 乳腺外科<br><br>病理科<br>内分泌科  | センチネルリンパ節転移陽性乳癌に対す<br>る腋窩郭清の意義                                                            | 第42回日本癌治療学会総<br>会 (16.11 京都)                                  | シンポジ<br>ウム |
| 二 宮 淳<br>末 益 公 人<br>武 井 寛 幸<br>堀 井 吉 雄<br>黒 住 昌 史                         | 乳腺外科<br><br>病理科          | 乳腺core needle biopsy診断難渋例にお<br>ける画像診断の有効性                                                 | 第14回日本乳癌検診学会<br>総会 (16.11 大阪)                                 | 一般演題       |
| 二 宮 淳<br>武 井 寛 幸<br>堀 井 吉 雄<br>末 益 公 人<br>黒 住 昌 史                         | 乳腺外科<br><br>病理科          | 乳癌におけるThymidylate synthase<br>(TS) とDihydropyrimidine<br>dehydrogenase (DPD) 発現の臨床的意<br>義 | 第42回日本癌治療学会総<br>会 (16.11 京都)                                  | 一般演題       |
| 武 井 寛 幸<br>末 益 公 人<br>堀 井 吉 雄<br>二 宮 淳<br>黒 住 昌 史<br>井 上 賢 一<br>田 部 井 敏 夫 | 乳腺外科<br><br>病理科<br>内分泌科  | 乳房温存療法後の局所再発とその対策                                                                         | 第12回日本乳癌学会総会<br>(16. 6 北九州)                                   | 一般演題       |

| 氏 名                                                                       | 所 属                                 | 題 名                                                                                        | 学会等名称 (年月, 場所)                   | 発表形式        |
|---------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------|-------------|
| 堀 井 吉 雄<br>武 井 寛 幸<br>二 宮 淳<br>末 益 公 人<br>黒 住 昌 史<br>井 上 賢 一<br>田 部 井 敏 夫 | 乳腺外科<br><br><br><br>病理科<br>内分泌科     | 乳癌センチネルリンパ節生検の術中迅速<br>診断偽陰性例の検討                                                            | 第12回日本乳癌学会総会<br>(16. 6 北九州)      | 一般演題        |
| 二 宮 淳<br>末 益 公 人<br>武 井 寛 幸<br>堀 井 吉 雄<br>井 上 賢 一<br>田 部 井 敏 夫<br>黒 住 昌 史 | 乳腺外科<br><br><br><br>内分泌科<br><br>病理科 | 乳癌core needle biopsy (CNB) におけ<br>る偽陰性症例の検討                                                | 第12回日本乳癌学会総会<br>(16. 6 北九州)      | 一般演題        |
| 堀 井 吉 雄<br>武 井 寛 幸<br>二 宮 淳<br>末 益 公 人<br>黒 住 昌 史<br>飯 野 佑 一<br>森 下 靖 雄   | 乳腺外科<br><br><br><br>病理科<br>群馬大学     | 乳癌におけるサーモグラフィの有用性：<br>病理学的因子及びdynamic MRI所見と<br>の関連性                                       | 第104回日本外科学会定<br>期学術集会 (16. 4 大阪) | 一般演題        |
| 二 宮 淳<br>武 井 寛 幸<br>堀 井 吉 雄<br>末 益 公 人<br>黒 住 昌 史<br>飯 野 佑 一<br>森 下 靖 雄   | 乳腺外科<br><br><br><br>病理科<br>群馬大学     | 乳癌におけるThymidylate synthase<br>(TS) と Dihydropyrimidine<br>dehydrogenase (DPD) 発現の臨床的意<br>義 | 第104回日本外科学会定<br>期学術集会 (16. 4 大阪) | 一般演題        |
| 武 井 寛 幸                                                                   | 乳腺外科                                | 教育講演「乳癌の術前診断におけるセン<br>チネルリンパ節生検のコツ」                                                        | 第 1 回日本乳癌学会関東<br>地方会 (16.12 大宮)  | 教育講演        |
| 二 宮 淳                                                                     | 乳腺外科                                | 教育講演「乳癌の術前診断における超音<br>波ガイド下針生検の位置づけ」                                                       | 第 1 回日本乳癌学会関東<br>地方会 (16.12 大宮)  | 教育講演        |
| 上 村 万 里<br>末 益 公 人<br>二 宮 淳<br>堀 井 吉 雄<br>武 井 寛 幸<br>下 岡 華 子<br>黒 住 昌 史   | 乳腺外科<br><br><br><br><br>病理科         | 乳癌 matrix-producing carcinomaの一<br>例                                                       | 第 1 回日本乳癌学会関東<br>地方会 (16.12 大宮)  | 一般演題        |
| 堀 井 吉 雄<br>武 井 寛 幸<br>二 宮 淳<br>上 村 万 里                                    | 乳腺外科                                | セッション1 ビデオセミナー「センチ<br>ネルリンパ節生検 (併用法) の手技」                                                  | 第13回埼玉乳がん懇話会<br>(16.11 大宮)       | ビデオセ<br>ミナー |

| 氏 名                                                          | 所 属           | 題 名                                                     | 学会等名称 (年月, 場所)                    | 発表形式           |
|--------------------------------------------------------------|---------------|---------------------------------------------------------|-----------------------------------|----------------|
| 末 益 公 人<br>黒 住 昌 史                                           | 病理科           |                                                         |                                   |                |
| 二 宮 淳<br>武 井 寛 幸<br>堀 井 吉 雄<br>上 村 万 里<br>末 益 公 人<br>黒 住 昌 史 | 乳腺外科          | セッション2 レクチャー&ディスカッション「色素・アイソトープ法併用によるセンチネルリンパ節生検」       | 第13回埼玉乳がん懇話会 (16.11 大宮)           | レクチャー&ディスカッション |
| 余 宮 きのみ<br>松 尾 直 樹                                           | 病理科           |                                                         |                                   |                |
| 余 宮 きのみ<br>松 尾 直 樹                                           | 緩和ケア科         | 当施設における疼痛治療の現況                                          | 第9回日本緩和医療学会総会 (16. 6 札幌)          | 一般演題           |
| 松 尾 直 樹<br>余 宮 きのみ                                           | 緩和ケア科         | 緩和ケア病棟における眠気とメチルフェニデートの使用                               | 第9回日本緩和医療学会総会 (16. 6 札幌)          | 一般演題           |
| 余 宮 きのみ                                                      | 緩和ケア科         | ホスピスでの痛みの治療 鎮痛方法の考え方と選択                                 | ペインクリニック学会 (16. 7 東京)             | ランチョセミナー       |
| 余 宮 きのみ                                                      | 緩和ケア科         | 鎮痛方法の考え方と選択 緩和ケア的視点に立って                                 | 癌治療学会 (16.10 京都)                  | 招待講演           |
| 余 宮 きのみ                                                      | 緩和ケア科         | がんの痛みの治療を考える                                            | がん疼痛治療特別シンポジウム (16.11 長崎)         | 一般演題           |
| 余 宮 きのみ                                                      | 緩和ケア科         | 鎮痛方法の選択                                                 | がん疼痛治療シンポジウム (16. 1 大宮)           | 一般演題           |
| 余 宮 きのみ                                                      | 緩和ケア科         | 緩和ケア医として心がけている事                                         | 第11回奈良県緩和医療研究会 (17. 3 奈良)         | 一般演題           |
| 松 尾 直 樹                                                      | 緩和ケア科         | がんの痛みに期待した治療効果がないとき                                     | 末期医療患者のQOL推進講習会 (16. 2 大宮)        | 一般演題           |
| 余 宮 きのみ                                                      | 緩和ケア科         | 消化器症状の症状緩和と援助技術                                         | 日本看護協会 認定看護師教育課程ホスピス学科 (16. 8 清瀬) | 一般演題           |
| 松 峯 元<br>本 田 隆 司<br>西 寫 渡<br>鈴木 政 美<br>神 山 亮 介               | 形成外科<br>頭頸部外科 | 当がんセンターにおける頭頸部再建症例の検討                                   | 日本マイクロサージャリー学会総会 (16. 11 熊本)      | 一般演題           |
| 松 峯 元<br>本 田 隆 司<br>西 寫 渡<br>鈴木 政 美<br>有 泉 陽 介<br>石 川 雅 士    | 形成外科<br>頭頸部外科 | 脂腺母斑から発生した<br>Syringocystadenocarcinoma<br>papilliferum | 埼玉県医学会 (17. 2 埼玉)                 | 一般演題           |

| 氏 名                          | 所 属             | 題 名                                                           | 学会等名称 (年月, 場所)                    | 発表形式        |
|------------------------------|-----------------|---------------------------------------------------------------|-----------------------------------|-------------|
| 出 雲 俊 之                      | 病理科             |                                                               |                                   |             |
| 黒 住 昌 史                      | 病理科             | 乳癌の病理と画像                                                      | 聖路加マンモグラフィ講習会 (16. 4 東京)          | 教育講演        |
| 黒 住 昌 史                      | 病理科             | マンモグラフィ像と病理像の対比－DCISを中心に－                                     | 第12回埼玉乳がん懇話会 (16. 5 大宮)           | シンポジウム      |
| 黒 住 昌 史                      | 病理科             | 乳癌におけるHER 2 過剰発現の病理学的検索の現状                                    | 第93回日本病理学会総会 (16. 6 札幌)           | セミナー        |
| 黒 住 昌 史                      | 病理科             | 乳癌におけるセンチネルリンパ節生検のコンセプトと病理学的検索の重要性                            | 第28回日本リンパ学会 (16. 6 富山)            | シンポジウム      |
| 黒 住 昌 史                      | 病理科             | 病理学的所見を重視した乳癌診療                                               | 第13回大阪乳腺疾患 (16.10 大阪)             | 教育講演        |
| 黒 住 昌 史                      | 病理科             | センチネルリンパ節生検における病理学的検索の重要性と問題点                                 | 第13回埼玉乳がん懇話会 (16.11 大宮)           | シンポジウム      |
| 黒 住 昌 史                      | 病理科             | 乳癌のX線写真と病理との対比                                                | 第22回神奈川乳房画像研究会 (16.12 横浜)         | 特別講演        |
| 黒 住 昌 史                      | 病理科             | 非浸潤性乳癌の病理像と画像                                                 | 第14回日本乳癌画像研究会 (17. 2 横浜)          | シンポジウム      |
| 黒 住 昌 史                      | 病理科             | 乳癌の術前療法における病理学的検索の重要性                                         | 乳がん化学内分泌療法研究会第 6 回学術集会 (17. 3 徳島) | 特別講演        |
| 岩 田 広 治<br>黒 住 昌 史<br>他14名   | 愛知がんセンター<br>病理科 | 原発乳癌に対するCEF followed by Docetaxel併用療法による術前化学療法<br>の多施設共同試験    | 第12回日本乳癌学会総会 (16. 6 小倉)           | ワークシ<br>ョップ |
| 梅 村 し の ぶ<br>黒 住 昌 史<br>他10名 | 東海大学<br>病理科     | 適切なホルモンレセプター研作に関する<br>研究－ホルモンレセプター検索方法,<br>材料の取り扱い, 判定基準について－ | 第12回日本乳癌学会総会 (16. 6 北九州)          | 班研究報<br>告   |
| 星 野 和 男<br>黒 住 昌 史<br>他 3 名  | 今井病院<br>病理科     | 乳腺血性乳頭分泌症例の検討.                                                | 第33回埼玉群馬乳腺疾患<br>研究会 (15. 7 高崎)    | 一般演題        |
| 星 野 和 男<br>黒 住 昌 史<br>他 3 名  | 今井病院<br>病理科     | 吐血血で発見された胃GISTの 1 症例                                          | 第102回栃木県臨床外科<br>集談会 (15. 7 宇都宮)   | 症例報告        |
| 星 野 和 男<br>黒 住 昌 史<br>他 2 名  | 今井病院<br>病理科     | Core Needle Biopsyで診断した乳腺<br>管状癌の 1 症例                        | 第11回日本乳癌学会総会 (15. 6 新潟)           | 症例報告        |

| 氏 名                             | 所 属           | 題 名                                                              | 学会等名称 (年月, 場所)                  | 発表形式        |
|---------------------------------|---------------|------------------------------------------------------------------|---------------------------------|-------------|
| 星 野 和 男<br>黒 住 昌 史<br>他 3 名     | 今井病院<br>病理科   | 術前診断が難しかった浸潤性小葉癌の1<br>症例                                         | 第23回栃木県乳腺疾患研<br>究会 (15.11 宇都宮)  | 症例報告        |
| 星 野 和 男<br>黒 住 昌 史<br>他 3 名     | 今井病院<br>病理科   | 術前CNBで診断できた乳腺IMPC<br>(Invasive micropapillary carcinoma)<br>の1症例 | 第34回埼玉群馬乳腺疾患<br>研究会 (15.11 大宮)  | 症例報告        |
| 星 野 和 男<br>黒 住 昌 史<br>他 1 名     | 今井病院<br>病理科   | 術前CNBで診断した乳腺Invasive<br>micropapillary carcinomaの1症例             | 第12回日本乳癌学会総会<br>(16. 6 北九州)     | 症例報告        |
| 星 野 和 男<br>黒 住 昌 史<br>他 3 名     | 今井病院<br>病理科   | 血性乳頭分泌を伴った粘液癌の1症例                                                | 第35回埼玉群馬乳腺疾患<br>研究会 (16. 7 高崎)  | 症例報告        |
| 星 野 和 男<br>黒 住 昌 史<br>他 3 名     | 今井病院<br>病理科   | 胃癌術後, 1年5ヵ月目に歩行障害を来<br>たし骨転移で発見された進行前立腺癌の<br>1症例                 | 第104回栃木県臨床外科<br>集談会 (16. 7 宇都宮) | 症例報告        |
| 星 野 和 男<br>黒 住 昌 史<br>他 3 名     | 今井病院<br>病理科   | 腫瘍内血腫形成を伴った局所進行乳癌の<br>1症例                                        | 第24回栃木県乳腺疾患研<br>究会 (16. 9 宇都宮)  | 症例報告        |
| 星 野 和 男<br>黒 住 昌 史<br>他 3 名     | 今井病院<br>病理科   | 血性乳頭分泌をともなった乳癌症例8例<br>の検討                                        | 第66回日本臨床外科学会<br>総会 (16.10 盛岡)   | 一般演題        |
| 星 野 和 男<br>黒 住 昌 史<br>他 4 名     | 今井病院<br>病理科   | 術前胃粘膜下腫瘍と診断されていた89歳<br>の食道扁平上皮癌の1症例                              | 第105回栃木県臨床外科<br>集談会 (16.11 宇都宮) | 症例報告        |
| 星 野 和 男<br>黒 住 昌 史<br>他 1 名     | 今井病院<br>病理科   | 乳腺Tubular adenomaの1症例                                            | 第1回日本乳癌学会関東<br>地方会 (16.12 大宮)   | 症例報告        |
| 出 雲 俊 之                         | 病理科           | 口腔癌取扱い指針                                                         | 第23回日本口腔腫瘍学<br>会 (17. 2 東京)     | 教育講演        |
| 篠 原 正 徳<br>出 雲 俊 之<br>他 8 名     | 熊本大学<br>病理科   | 舌癌取扱い指針ワーキンググループ案－<br>臨床・手術所見の記載－                                | 第23回日本口腔腫瘍学<br>会 (17. 2 東京)     | ワークシ<br>ョップ |
| 田 中 陽 一<br>出 雲 俊 之              | 東京歯科大学<br>病理科 | 舌癌取扱い指針ワーキンググループ案－<br>病理所見の記載－                                   | 第23回日本口腔腫瘍学<br>会 (17. 2 東京)     | ワークシ<br>ョップ |
| 出 雲 俊 之<br>岡 部 貞 夫<br>八 木 原 一 博 | 病理科<br>口腔外科   | 舌癌の臨床病理学的検索指針案                                                   | 第15回日本口腔病理学会<br>(16. 8 東京)      | 一般演題        |

| 氏 名                                                                                | 所 属                  | 題 名                                     | 学会等名称 (年月, 場所)                 | 発表形式         |
|------------------------------------------------------------------------------------|----------------------|-----------------------------------------|--------------------------------|--------------|
| 出 雲 俊 之                                                                            | 病理科                  | 頸部リンパ節病変                                | 第15回日本口腔病理学会<br>(16. 8 東京)     | 症例検討         |
| 出 雲 俊 之<br>西 嶋 渡<br>鈴 木 政 美<br>岡 部 貞 夫<br>八 木 原 一 博                                | 病理科<br>頭頸部外科<br>口腔外科 | WHO分類による頭頸部悪性リンパ腫<br>641症例の臨床病理学的検討     | 第28回日本頭頸部癌学会<br>(16. 6 福岡)     | ミニシン<br>ポジウム |
| 下 岡 華 子<br>黒 住 昌 史<br>二 宮 淳<br>堀 井 吉 雄<br>武 井 寛 幸<br>末 益 公 人                       | 病理科<br>乳腺外科          | 男子乳腺granular cell tumorの1例              | 第34回埼玉群馬乳腺疾患<br>研究会 (16. 7 高崎) | 症例報告         |
| 下 岡 華 子<br>黒 住 昌 史<br>上 村 万 里<br>二 宮 淳<br>堀 井 吉 雄<br>武 井 寛 幸<br>末 益 公 人<br>他1名     | 病理科<br>乳腺外科          | 男子乳腺granular cell tumorの1例              | 第1回日本乳癌学会関東<br>地方会 (16.12 大宮)  | 症例報告         |
| 河 野 誠 之<br>黒 住 昌 史<br>下 岡 華 子<br>上 村 万 里<br>二 宮 淳<br>堀 井 吉 雄<br>武 井 寛 幸<br>末 益 公 人 | 神戸大学<br>病理科<br>乳腺外科  | 乳がんの治療法選択におけるHER2, ホ<br>ルモンレセプター状況検索の意義 | 第13回埼玉乳がん懇話会<br>(16.11 大宮)     | 一般演題         |
| 河 野 誠 之<br>黒 住 昌 史<br>下 岡 華 子<br>上 村 万 里<br>二 宮 淳<br>堀 井 吉 雄<br>武 井 寛 幸<br>末 益 公 人 | 神戸大学<br>病理科<br>乳腺外科  | 乳腺matrix-producing carcinomaの一例         | 第1回乳癌学会関東地方<br>会 (16.12 大宮)    | 症例報告         |
| 河 野 誠 之<br>黒 住 昌 史<br>下 岡 華 子<br>上 村 万 里<br>二 宮 淳<br>堀 井 吉 雄<br>武 井 寛 幸            | 神戸大学<br>病理科<br>乳腺外科  | Gynecomastiaに関する免疫組織化学的<br>検討           | 第11回良性乳腺疾患研究<br>会 (17. 2 徳島)   | 一般演題         |

| 氏 名                                      | 所 属    | 題 名                                  | 学会等名称 (年月, 場所)                                      | 発表形式       |
|------------------------------------------|--------|--------------------------------------|-----------------------------------------------------|------------|
| 末 益 公 人                                  |        |                                      |                                                     |            |
| 諸 澄 邦 彦                                  | 放射線技術部 | 放射線防護の3原則とその実際                       | 放射線診療従事者教育訓練 (16. 4 神奈川)                            | 講 演        |
| 諸 澄 邦 彦                                  | 放射線技術部 | IVRにおける職業被ばくと医療被ばく                   | 平成16年度国公立大学<br>病院診療放射線技術者研<br>修会 (16. 6 東京)         | 講 演        |
| 諸 澄 邦 彦                                  | 放射線技術部 | 診療放射線規制法令の一元化と管理体制<br>の確立            | 第54回日本病院学会<br>(16. 7 神奈川)                           | シンポジ<br>ウム |
| 諸 澄 邦 彦                                  | 放射線技術部 | 新聞報道にみる放射線被ばくについて<br>－ 職業被ばくと医療被ばく － | 日本放射線技師会主催講<br>演会「安心できる放射線<br>診療のために」<br>(16. 7 東京) | 講 演        |
| 諸 澄 邦 彦                                  | 放射線技術部 | 放射線診療における職業被曝と医療被曝                   | 神奈川県CT研究会<br>(16. 7 神奈川)                            | 講 演        |
| 諸 澄 邦 彦                                  | 放射線技術部 | 医療現場に求められる法知識<br>－ 放射線障害防止法と医療法 －    | 放射線技師会認定講習会<br>(16. 8 福島)                           | 講 演        |
| 諸 澄 邦 彦                                  | 放射線技術部 | 放射線障害防止法改正の概要                        | 放射線技師会認定講習会<br>(16. 9 長野)                           | 講 演        |
| 諸 澄 邦 彦<br>林 行 俊<br>佐 藤 龍 一 郎<br>佐 藤 恭 二 | 放射線技術部 | ヨウ素125線源探査にスペクトロメータ<br>を使用した放射線管理の提案 | 第20回放射線技師総合学<br>術大会 (16.11 長崎)                      | 示説発表       |
| 諸 澄 邦 彦                                  | 放射線技術部 | 医療被ばく低減に向けての意識改革                     | 第20回放射線技師総合学<br>術大会 (16.11 長崎)                      | シンポジ<br>ウム |
| 諸 澄 邦 彦                                  | 放射線技術部 | 医療被ばくの標準化と科学的根拠                      | 結核予防会結核研究所平<br>成16年度「8 日間コース」<br>(16.11 東京)         | 講 演        |
| 諸 澄 邦 彦                                  | 放射線技術部 | 医療放射線監視「事例研究」                        | 国立保健医療科学院平成<br>16年度医療放射線監視コ<br>ース (16.11 東京)        | 講 演        |
| 諸 澄 邦 彦                                  | 放射線技術部 | 医療現場に求められる法知識<br>－ 放射線障害防止法と医療法 －    | 放射線技師会認定講習会<br>(16.11 埼玉)                           | 講 演        |
| 諸 澄 邦 彦                                  | 放射線技術部 | ICRP2005年勧告にみる「医療被ばく」<br>の考え方        | 日本放射線技師会主催講<br>演会「安心できる放射線<br>診療のために」<br>(17. 3 秋田) | 講 演        |

| 氏 名                         | 所 属                     | 題 名                                  | 学会等名称 (年月, 場所)                     | 発表形式        |
|-----------------------------|-------------------------|--------------------------------------|------------------------------------|-------------|
| 松 田 幸 広                     | 放射線技術部                  | 電離放射線施設における医療安全対策                    | 埼玉放射線師会認定講習会 (16.11 埼玉)            | 講 演         |
| 松 田 幸 広                     | 放射線技術部                  | 放射線治療計画C TにおけるC T値—電子密度変換用ファントムの精度検討 | 埼玉放射線治療技術研究会 (16.10 埼玉)            | 発 表         |
| 腰 塚 慎 二                     | 放射線技術部                  | 注腸X線検査撮影法と精度管理                       | 日本消化管画像研究会研修会 (16. 4 東京)           | 講 演         |
| 腰 塚 慎 二                     | 放射線技術部                  | 注腸X線検査撮影法                            | 日本放射線技師会生涯教育セミナー (16. 6 鈴鹿)        | 講 演         |
| 腰 塚 慎 二                     | 放射線技術部                  | 残胃の撮影法                               | 日本放射線技師会生涯教育セミナー (16. 6 鈴鹿)        | 講 演         |
| 腰 塚 慎 二                     | 放射線技術部                  | 下部消化管画像評価法                           | 日本放射線技師会生涯教育セミナー (16. 6 鈴鹿)        | 講 演         |
| 腰 塚 慎 二                     | 放射線技術部                  | 注腸X線検査における画像評価と病変描出                  | 富山県放射線技師会富山県消化管撮影研究会講演会 (16. 9 富山) | 講 演         |
| 腰 塚 慎 二                     | 放射線技術部                  | 注腸X線検査・画像評価法と精度管理                    | 日本消化管画像研究会研修会 (16.10 大阪)           | 講 演         |
| 腰 塚 慎 二<br>野 津 聡<br>西 村 洋 治 | 放射線技術部<br>放射線科<br>消化器外科 | 注腸X線検査の精度向上をめざして                     | 日本大腸検査学会総会 (16.11 東京)              | パネルディスカッション |
| 腰 塚 慎 二<br>野 津 聡<br>西 村 洋 治 | 放射線技術部<br>放射線科<br>消化器外科 | 注腸X線検査における背腹方向、および撮影数の検討             | 日本大腸検査学会総会 (16.11 東京)              | 一般演題        |
| 腰 塚 慎 二                     | 放射線技術部                  | 上部消化管画像評価法と精度管理                      | 栃木県放射線技師会栃木県消化管画像研究会 (16.11 宇都宮)   | 講 演         |
| 腰 塚 慎 二                     | 放射線技術部                  | 残胃の撮影法                               | 日本放射線技師会生涯教育セミナー (17. 1 鈴鹿)        | 講 演         |
| 腰 塚 慎 二                     | 放射線技術部                  | 読影レポートの作成                            | 日本放射線技師会生涯教育セミナー (17. 1 鈴鹿)        | 講 演         |
| 腰 塚 慎 二                     | 放射線技術部                  | 下部消化管画像評価法と精度管理                      | 日本放射線技師会生涯教育セミナー (17. 1 鈴鹿)        | 講 演         |
| 腰 塚 慎 二                     | 放射線技術部                  | 国民が求める認定技師                           | 日本消化器集団検診学会第37回放射線部会総会 (17. 1 東京)  | シンポジウム      |

| 氏 名     | 所 属    | 題 名                                | 学会等名称 (年月, 場所)                     | 発表形式   |
|---------|--------|------------------------------------|------------------------------------|--------|
| 腰 塚 慎 二 | 放射線技術部 | 消化管造影検査における画像所見のみかた                | 埼玉消化管画像研究会<br>(16. 6 伊奈)           | 講 演    |
| 田 中 宏   | 放射線技術部 | デジタルマンモグラフィの特性                     | 第2回マンモグラフィ画像研修講習会<br>(16. 5 大阪)    | 講 演    |
| 田 中 宏   | 放射線技術部 | マンモグラフィ応用撮影                        | マンモグラフィ検診従事者講習会 (16. 5 鈴鹿)         | 講 演    |
| 田 中 宏   | 放射線技術部 | デジタルマンモグラフィの特性                     | 第3回マンモグラフィ画像研修講習会<br>(16. 6 大阪)    | 講 演    |
| 田 中 宏   | 放射線技術部 | マンモグラフィ応用撮影                        | マンモグラフィ検診従事者講習会 (16. 8 鈴鹿)         | 講 演    |
| 田 中 宏   | 放射線技術部 | デジタルマンモグラフィの特性                     | 第4回マンモグラフィ画像研修講習会<br>(16. 8 大阪)    | 講 演    |
| 田 中 宏   | 放射線技術部 | フィルムリーディング                         | 埼玉乳房画像研究会研修会 (16.10 東京)            | 講 演    |
| 田 中 宏   | 放射線技術部 | デジタルマンモグラフィのメリットデメリット              | 第14回乳癌検診学会総会<br>(16.11 大阪)         | シンポジウム |
| 田 中 宏   | 放射線技術部 | 微細石灰化病変に対しUS下で行うcore needle biopsy | 第14回乳癌検診学会総会<br>(16.11 大阪)         | ポスター   |
| 田 中 宏   | 放射線技術部 | デジタルマンモグラフィ (FPD)                  | 第1回埼玉乳房画像研究会公開セミナー<br>(16.11 さいたま) | 講 演    |
| 田 中 宏   | 放射線技術部 | 自動現像機                              | 埼玉・東京マンモグラフィ検診従事者講習会<br>(17. 1 東京) | 講 演    |
| 田 中 宏   | 放射線技術部 | デジタルマンモグラフィの特性                     | 第5回マンモグラフィ画像研修講習会 (17. 1 大阪)       | 講 演    |
| 田 中 宏   | 放射線技術部 | ポジショニング                            | マンモグラフィ検診従事者講習会 (17. 2 鈴鹿)         | 講 演    |
| 田 中 宏   | 放射線技術部 | デジタルマンモグラフィの特性                     | 第6回マンモグラフィ画像研修講習会<br>(17. 3 大阪)    | 講 演    |
| 松 田 幸 広 | 放射線技術部 | 電離放射線施設における医療安全対策                  | 埼玉放射線師会認定講習会 (16.11 埼玉)            | 講 演    |

| 氏 名                                                                                | 所 属                                 | 題 名                                  | 学会等名称 (年月, 場所)                    | 発表形式 |
|------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------|--------------------------------------|-----------------------------------|------|
| 松 田 幸 広                                                                            | 放射線技術部                              | 放射線治療計画CTにおけるCT値—電子密度変換用ファントムの精度検討   | 埼玉放射線治療技術研究会 (16.10 埼玉)           | 発 表  |
| 冷水 花<br>岩 田 敏 弘<br>他 6 名                                                           | 川口工業総合病院<br>検査技術部                   | 埼玉県医師会コントロールサーベイの歩み 第1報 尿定性検査        | 第53回日本医学検査学会 (16. 5 富山)           | 口 演  |
| 深 田 茂 則<br>岩 田 敏 弘<br>他 6 名                                                        | 埼玉医科大学附属病院<br>検査技術部                 | 埼玉県医師会コントロールサーベイの歩み 第2報 尿蛋白・尿糖定量     | 第53回日本医学検査学会 (16. 5 富山)           | 口 演  |
| 山 浦 久<br>岩 田 敏 弘<br>他 6 名                                                          | さいたま市立病院<br>検査技術部                   | 埼玉県医師会コントロールサーベイの歩み 第3報 尿沈渣          | 第53回日本医学検査学会 (16. 5 富山)           | 口 演  |
| 岩 田 敏 弘<br>他 7 名                                                                   | 検査技術部                               | 反射率を用いた尿定性コントロールサーベイの試み              | 第53回日本医学検査学会 (16. 5 富山)           | 口 演  |
| 家 城 正 和<br>他 4 名                                                                   | 検査技術部                               | 超音波流量センサーを用いたスパイロメータの基礎的検討 (第2報)     | 第53回日本医学検査学会 (16. 5 富山)           | 口 演  |
| 家 城 正 和<br>他 4 名                                                                   | 検査技術部                               | 気管支喘息におけるevening dip asthma の検討      | 第53回日本医学検査学会 (16. 5 富山)           | 口 演  |
| 小 林 康 人<br>他 2 名                                                                   | 検査技術部                               | 気管支扁平上皮癌発生高危険度群の同定 (2)               | 第93回日本病理学会総会 (16. 6 札幌)           | 口 演  |
| 岩 田 敏 弘                                                                            | 検査技術部                               | 尿沈渣における異形細胞検出の意義                     | 第5回中日学術シンポジウム<br>(16. 9 沈陽市 (中国)) | 口 演  |
| 小 林 康 人<br>他 2 名                                                                   | 検査技術部                               | 肺神経内分泌腫瘍の組織分類に客観性を付与する分子マーカー         | 第63回日本癌学会総会 (16. 9 福岡)            | 口 演  |
| 山口 ゆ り<br>武 井 寛 幸<br>末 益 公 人<br>黒 住 昌 史<br>小 林 康 人<br>他 2 名                        | 研究室<br>乳腺外科<br>病理科<br>検査技術部         | 間質細胞による乳癌のエストロゲンシグナルの制御機構および予後因子との相関 | 第63回日本癌学会総会 (16. 9 福岡)            | 口 演  |
| 渡 辺 潤 子<br>赤 木 究<br>黒 住 昌 史<br>田 中 洋 一<br>坂 本 裕 彦<br>西 村 洋 治<br>網 倉 克 己<br>小 林 康 人 | 研究室<br>研究室<br>病理科<br>消化器外科<br>検査技術部 | 大腸がん転移に伴って発現増強するタンパクの比較プロテオーム解析      | 第63回日本癌学会総会 (16. 9 福岡)            | 示 説  |

| 氏 名                                                                       | 所 属                            | 題 名                                                                                                  | 学会等名称 (年月, 場所)                                             | 発表形式               |
|---------------------------------------------------------------------------|--------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------|--------------------|
| 他 2 名                                                                     |                                |                                                                                                      |                                                            |                    |
| 江 良 英 人<br>永 宗 恵 子<br>沼 上 英 博<br>林 田 ひ ろ み<br>出 雲 俊 之<br>黒 住 昌 史<br>他 1 名 | 検査技術部<br><br>病理科               | 細胞診断に苦慮したリンパ節発生<br>成人Langerhans cell<br>histiocytosis (LCH) の 1 例                                    | 第45回日本臨床細胞学会<br>総会 (16. 7 東京)                              | 示 説                |
| 江 良 英 人<br>永 宗 恵 子<br>西 田 一 典<br>白 井 貴 子<br>横 田 治 重<br>黒 住 昌 史<br>他 1 名   | 検査技術部<br><br>病理科<br>婦人科<br>病理科 | 内膜吸引細胞診標本に多数の腫瘍細胞を<br>認めたExtraovarian<br>peritoneal serous papillary<br>adenocarcinoma (EPSPC) の 1 例 | 第43回日本臨床細胞学会<br>秋期大会 (16.11 東京)                            | 示 説                |
| 家 城 正 和                                                                   | 検査技術部                          | 喘息と呼吸機能検査                                                                                            | 埼玉県臨床衛生検査技師<br>会 生涯教育研修会<br>(16. 8 さいたま)                   | 講 演                |
| 榎 本 英 雄                                                                   | 検査技術部                          | おさえておきたい疾患の特徴                                                                                        | 腹部超音波入門②胆嚢・<br>脾臓<br>(16. 9 さいたま)                          | 講 演                |
| 榎 本 政 幸<br>武 井 牧 子<br>萬 羽 知 子<br>宮 澤 金 蔵                                  | 栄養部                            | 長期入院を要する病棟での食事提供サー<br>ビスの試み (一部病棟配膳の提案)                                                              | 第43回全国自治体病院学<br>会 (16.11 広島)                               | 一般演題<br>(ポスタ<br>ー) |
| 萬 羽 知 子                                                                   | 栄養部                            | がんの栄養管理                                                                                              | 埼玉県栄養士会病院栄養<br>士協議会セミナー<br>(16. 9 さいたま)                    | セミナー               |
| 吉 原 広 和                                                                   | リハビリ                           | フットケアにおける浮腫の治療<br>ー下肢二次性リンパ浮腫の複合的理学療<br>法ー                                                           | 第 3 回日本フットケア学<br>会学術集会 品川区立総<br>合区民会館「きゅりあん」<br>(17. 2 東京) | 教育講演               |
| 川 上 久 乃<br>手 嶋 文 子<br>原 八 重 子<br>野々垣実希子<br>中 村 美 佳<br>工 藤 富 士 子           | 看護部                            | がん告知を受けた患者が手術に至るまで<br>の心理的特徴<br>ー短期入院における手術前看護の充実を<br>目指してー                                          | 第35回日本看護学会 成<br>人看護 I (16.10 名古屋)                          | 示 説                |
| 泉 名 み ゆ き<br>川 井 奈 緒 実<br>伊 藤 麻 矢                                         | 看護部                            | 超低位前方切除を受けた患者の排泄状況<br>と退院後の生活の実態調査                                                                   | 第19回日本がん看護学会<br>(16. 2 仙台)                                 | 一般演題               |

| 氏 名                                                          | 所 属 | 題 名                             | 学会等名称 (年月, 場所)                         | 発表形式 |
|--------------------------------------------------------------|-----|---------------------------------|----------------------------------------|------|
| 清水 桂<br>工藤 富士子                                               |     |                                 |                                        |      |
| 佐藤 尊子<br>楮 本 生 恵                                             | 看護部 | キーパーソンが高齢者である事例への指導方法           | 第26回埼玉ストーマリハビリテーション研究会<br>(16.10 さいたま) | 一般演題 |
| 野口 智 恵 美                                                     | 看護部 | 看護記録の定期的な監査を行って                 | フォーカスチャーテイング学会 (16.11 横浜)              | 一般演題 |
| 佐藤 美穂<br>鈴木 友里<br>塩谷 智恵子                                     | 看護部 | 肺がん患者の初回治療受けるまでの思い              | 第19回日本がん看護学会<br>(16. 2 仙台)             | 一般演題 |
| 横山 愛<br>高窪 一真<br>宮崎 京子                                       | 看護部 | 緩和ケア選択に関する患者医療者間の認識の相違          | 埼玉がん緩和ケア研究会<br>(16.11 さいたま)            | 一般演題 |
| 木村 八 恵<br>田 口 節 子                                            | 看護部 | 症状コントロールが困難であった終末期患者の援助         | 第26回埼玉がん緩和ケア研究発表会<br>(16.11 さいたま)      | 示 説  |
| 高山 晴子<br>上原 浩子<br>赤坂 和 美                                     | 看護部 | NPUAPⅢ度の褥瘡が発生・悪化した状況の分析         | 第26回埼玉ストーマリハビリテーション研究会<br>(16.10 さいたま) | 示 説  |
| 橋本 裕子<br>佐藤 則子<br>山本 智子<br>野村 真奈美<br>工藤 富士子                  | 看護部 | 頭頸部が看護に携わる看護師の意識調査              | 第16回埼玉看護研究発表会 (16.11 さいたま)             | 示 説  |
| 森 直子<br>細井 ますみ<br>岡田 紀子<br>伊藤 直美<br>山理 名子<br>守谷 明子<br>工藤 富士子 | 看護部 | 上顎洞癌術後患者の社会参加の実態と関連要因           | 第19回日本がん看護学会<br>(16. 2 仙台)             | 一般演題 |
| 蓮見 典子<br>松 永 晴子                                              | 看護部 | 外陰がんで局所再発し、潰瘍形成した患者のケア          | 第26回埼玉リハビリテーション研究会<br>(16.10 さいたま)     | 一般演題 |
| 赤坂 和 美                                                       | 看護部 | 埼玉県立がんセンターにおける褥瘡対策委員会の活動と褥瘡発生状況 | 第16回埼玉看護研究発表会 (16.11 さいたま)             | 一般演題 |
| 谷口 瑞代<br>池田 真弓                                               | 看護部 | 無菌治療病棟における肛門粘膜障害への取り組み          | 第27回日本造血細胞移植学会 (16.12 岡山)              | 一般演題 |

| 氏 名                                                                           | 所 属 | 題 名                                                    | 学会等名称 (年月, 場所)                    | 発表形式 |
|-------------------------------------------------------------------------------|-----|--------------------------------------------------------|-----------------------------------|------|
| 吉 田 直 子<br>永 井 里 恵<br>赤 坂 和 美<br>藤 田 恵 美 子                                    | 看護部 | ターミナル期における倫理的意思決定を<br>考える<br>－看護師の巡視を拒否した事例を振り返<br>って－ | 第28回日本死の臨床研究<br>年次大会 (16.11 つくば)  | 示 説  |
| 坂 本 紀 美 江                                                                     | 看護部 | ターミナル患者の口腔乾燥に対するケア<br>－キシリトールシャーベットの有用性－               | 第19回日本がん看護学会<br>(16. 2 仙台)        | 一般演題 |
| 羽 賀 裕 子<br>佐 藤 ひ ろ み                                                          | 看護部 | ギアチェンジの時期にせん妄が強く現れ<br>た患者の関わりについて                      | 第28回日本死の臨床研究<br>会 (16.11 つくば)     | 一般演題 |
| 草 間 香 織<br>渋谷 智 恵 子                                                           | 看護部 | 手術を受ける患者の不安に対する看護ケ<br>ア                                | 第5支部第22回看護研究<br>発表会 (16.10 北本)    | 一般演題 |
| 山 本 綾<br>鶴 谷 朋 子                                                              | 看護部 | 頭側挙上時の「ずれ」を最小限に対する<br>体位の工夫                            | 第35回日本看護学会 成<br>人看護 I (16.10 名古屋) | 一般演題 |
| 下 永 吉 麻 里                                                                     | 看護部 | パクリタキセル治療を受ける患者の感覚<br>性神経障害の評価と患者指導                    | 第19回日本がん看護学会<br>(16. 2 仙台)        | 一般演題 |
| 下 永 吉 麻 里                                                                     | 看護部 | タキサン系薬剤を用いた外来治療を受け<br>る患者の自動車運転の安全性について                | 第19回日本がん看護学会<br>(16. 2 仙台)        | 一般演題 |
| 下 永 吉 麻 里                                                                     | 看護部 | ドセキタル及びパクリセキタルを用いた<br>外来化学療法における呼気中アルコール<br>濃度の検討      | 第43回自治体病院学会<br>(16.11 広島)         | 一般演題 |
| 相 良 ル ミ<br>松 井 路 子                                                            | 看護部 | 点滴業務の事故防止に関するマニュアル<br>指導状況の比較                          | 第43回自治体病院学会<br>(16.11 広島)         | 一般演題 |
| 森 近 訓 江<br>天 羽 春 江<br>中 島 晴 子<br>小 林 美 智 子<br>飯 泉 ハ ナ<br>宇 野 み な 子<br>向 田 良 子 | 看護部 | 退院計画の現状と看護相談室の役割                                       | 第43回自治体病院学会<br>(16.11 広島)         | 示 説  |
| 下 永 吉 麻 里                                                                     | 看護部 | パクリタキセルを投与された患者のタッ<br>チテストを用いた感覚性神経障害の評価<br>について       | 第12回日本乳がん学会<br>(16. 6 福岡)         | 一般演題 |
| 上 原 浩 子<br>赤 坂 和 美                                                            | 看護部 | 終末期がん患者における褥瘡発生要因の<br>分析                               | 第19回日本がん看護学会<br>(16. 2 仙台)        | 口 演  |

## 第4節 医局セミナー他

| 年 月 日      | 演 題                   | 演 者     | 演者所属 |
|------------|-----------------------|---------|------|
| H17. 2. 24 | 多地点TV会議：外来化学療法の実際と問題点 | 駒 形 浩 史 | 呼吸器科 |

## 第5節 看護研究会

### 1 院内研究発表会

| 年 月 日      | 演 題                                                          | 演 者       | 演者所属      |
|------------|--------------------------------------------------------------|-----------|-----------|
| H16. 7. 16 | 手術を受ける患者の不安に関する看護ケア<br>～手術室入室時「握手」というタッチングを取り入れて～            | 草 間 香 織   | 手術室       |
|            | 悪性リンパ腫患者の闘病中における体験と心理プロセスに関する研究                              | 橘 亜 希 子   | 3 病棟      |
|            | 肺がん患者の初回治療を迎えるまでの思い                                          | 鈴 木 友 里   | 2 病棟      |
| H17. 2. 19 | 退院計画の現状と看護相談室の役割                                             | 岩 村 千 津   | デイケア・外来   |
|            | 埼玉県立がんセンターにおける病棟間リリーフ体制の現状と課題                                | 新 野 理 恵   | 12病棟      |
|            | 勤務移動を経験した看護師が感じるがん看護の特殊性について～聞き取り調査より表出された結果の一考察～            | 石 倉 由 起 子 | 11病棟      |
|            | 不眠を訴える入院治療中のがん患者に対する足浴の有効性について                               | 田 村 和 恵   | 卒後4年目グループ |
|            | 外来化学療法を受ける患者が、セルフケアを維持向上するために必要な情報の検討 ～患者の生活の場を意識した関わりを目指して～ | 榎 本 実 希 子 | 卒後4年目グループ |
|            | 当センター緩和ケア病棟における褥瘡発生の要因と今後の課題                                 | 羽 賀 裕 子   | 13病棟      |

## 第6節 その他の活動

### 1 厚生労働省等の補助金による研究

| 年 月 日                   | 研 究 課 題                                               | 研究者（所属）                                                       | 備 考                                                                            |
|-------------------------|-------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------|
| H16. 4. 1<br>～17. 3. 31 | 乳がんに対する集学的治療の研究                                       | 田 部 井 敏 夫<br>（ 内 分 泌 科 ）                                      | 平成16年度厚生労働省がん研究助成金指定研究「高感受性悪性腫瘍に対する標準的治療確立のための多施設共同研究」班（主任研究者・堀田知光）の分担研究者として活動 |
| H16. 4. 1<br>～17. 3. 31 | 診断群分類に関する検討                                           | 田 部 井 敏 夫<br>（ 内 分 泌 科 ）                                      | 平成16年度厚生労働省研究「診断群分類調査研究班（乳腺）」班（班長・福田 護）の班員として活動                                |
| H16. 4. 1<br>～17. 3. 31 | 乳癌治療の支援ツールに関する調査研究                                    | 井 上 賢 一<br>（ 内 分 泌 科 ）                                        | 平成17年度厚生労働科学研究費補助金（がん臨床研究事業）「がん患者の心のケア及び医療相談等のあり方に関する研究」班（主任研究者・山口健）の班員として活動   |
| H16. 4. 1<br>～17. 3. 31 | 呼吸器悪性腫瘍に対する標準的治療確立のための多施設共同研究                         | 米 田 修 一<br>（ 呼 吸 器 科 ）                                        | 班長協力者として活動<br>（主任研究者：西條長宏）                                                     |
| H16. 4. 1<br>～17. 3. 31 | 上部進行胃癌に対する胃全摘術における脾合併切除の意義に関するランダム化比較試験               | 田 中 洋 一<br>川 島 吉 之<br>吉 川 朱 実<br>（ 消 化 器 外 科 ）                | 消化器悪性腫瘍に対する標準的治療確立のための多施設共同研究（主任研究者：大津 敦）の共同研究者（班員）として参画                       |
| H16. 4. 1<br>～17. 3. 31 | 根治切除可能な大型3型・4型胃癌に対する術前TS-1+CDDP併用療法の安全性確認試験           | 田 中 洋 一<br>川 島 吉 之<br>吉 川 朱 実<br>（ 消 化 器 外 科 ）                | 消化器悪性腫瘍に対する標準的治療確立のための多施設共同研究（主任研究者：大津 敦）の共同研究者（班員）として参画                       |
| H16. 4. 1<br>～17. 3. 31 | 早期胃癌におけるセンチネルリンパ節生検の妥当性に関する研究                         | 田 中 洋 一<br>川 島 吉 之<br>吉 川 朱 実<br>（ 消 化 器 外 科 ）                | 消化器悪性腫瘍に対する標準的治療確立のための多施設共同研究（主任研究者：大津 敦）の共同研究者（班員）として参画                       |
| H16. 4. 1<br>～17. 3. 31 | 高度リンパ節転移を伴う進行胃がんに対する、TS-1+CDDP併用療法＋外科切除の第Ⅱ相臨床試験       | 田 中 洋 一<br>川 島 吉 之<br>吉 川 朱 実<br>（ 消 化 器 外 科 ）                | 消化器悪性腫瘍に対する標準的治療確立のための多施設共同研究（主任研究者：大津 敦）の共同研究者（班員）として参画                       |
| H14. 4. 1<br>～17. 3. 31 | 厚生労働省がん研究助成金 13-23<br>胆膵がんに対する術中照射療法の有効性評価に関する多施設共同研究 | 坂 本 裕 彦<br>網 倉 克 己<br>（ 消 化 器 外 科 ）<br>楮 本 智 子<br>（ 放 射 線 科 ） | 木下班の班員として研究に参加                                                                 |
| H16. 4. 1<br>～17. 3. 31 | 進行卵巣がんの集学的治療に関する研究                                    | 横 田 治 重<br>（ 婦 人 科 ）                                          | 平成17年度厚生労働省科学研究費補助金がん臨床研究事業（吉川班）の研究協力者                                         |

| 年 月 日               | 研 究 課 題                                            | 研究者（所属）                           | 備 考                                                                                                                                         |
|---------------------|----------------------------------------------------|-----------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| H16.4.1<br>～17.3.31 | 子宮頸がんの予後向上を目指した集学的治療における標準的化学療法の確立に関する研究           | 横 田 治 重<br>（ 婦 人 科 ）              | 平成17年度厚生労働省科学研究費補助金がん臨床研究事業（嘉村班）の研究協力者                                                                                                      |
| H16.4.1<br>～17.3.31 | 腫瘍径2 cm以上のⅠ－ⅢA期原発乳がんに対する術前化学療法とそれに続く放射線照射の有効性・安全試験 | 斉 藤 吉 弘<br>楳 本 智 子<br>（ 放 射 線 科 ） | 平成16年度厚生労働省科学研究費補助金「効果的医療技術の確立推進臨床研究事業」「再発高危険度群乳がんの予後改善を目指した標準的治療法確立に関する研究」厚生労働省がん研究助成金指定研究「多施設共同研究の質の向上のための研究体制確立に関する研究」班（研究代表者・渡辺 亨）の研究協力 |
| H16.4.1<br>～17.3.31 | がん情報の高次利用に関する研究                                    | 野 津 聡<br>（ 放 射 線 科 ）              | 平成16年度厚生労働省がん研究助成金指定研究「難治がんの総合的な対策に関する研究」班（主任研究者・野村和弘）の小班分担研究                                                                               |
| H16.4.1<br>～17.3.31 | 長期の追跡結果に基づく乳がんに対する適正な乳房温存療法の確立に関する研究               | 末 益 公 人<br>（ 乳 腺 外 科 ）            | 平成16年度厚生労働省がん研究助成金計画研究「長期の追跡結果に基づく乳がんに対する適正な乳房温存療法の確立に関する研究」班（主任研究者：稲治英生）の研究協力者としての研究                                                       |
| H16.4.1<br>～17.3.31 | 標準的な乳房温存療法の実施要項の研究                                 | 末 益 公 人<br>（ 乳 腺 外 科 ）            | 平成16年度厚生労働省がん研究助成金計画研究「標準的な乳房温存療法の実施要項の研究」班（主任研究者：霞富士雄）の分担研究者としての研究                                                                         |
| H16.4.1<br>～17.3.31 | 国際免除レベルの医療法への取り入れに付随する関連事項に関する研究                   | 諸 澄 邦 彦<br>（放射線技術部）               | 平成16年度厚生労働省科学研究費補助金（医療技術評価総合研究事業）「医療放射線分野における法令整備等を含めた管理体制の確立に関する研究」（主任研究者：油野民雄）の研究協力者                                                      |
|                     | 医療機関における放射性医薬品管理の規制のあり方に関する研究                      | 諸 澄 邦 彦<br>（放射線技術部）               | 平成16年度厚生労働省科学研究費補助金（厚生労働科学研究事業）「診療用放射線の防護規制に関する緊急特別研究」（主任研究者：山口一郎）の研究協力者                                                                    |

## 2 学会・研究会の開催

| 年 月 日       | 研 究 課 題                                                                     | 研究者（所属）                                                | 備 考               |
|-------------|-----------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------|-------------------|
| H16. 11. 18 | 第7回上部消化管疾患研究会<br>（さいたま）                                                     | 田 中 洋 一<br>（消化器外科）                                     | 当番世話人             |
| H16. 6. 5   | 第25回埼玉がん緩和ケア研究会<br>実地臨床講演会 “市民と語り合<br>う講演会”                                 | 卯 木 次 郎<br>（脳神経外科）<br>他                                | ラフレさいたま（さいたま）     |
| H16. 6. 29  | 平成16年度麻薬行政官研修会<br>（厚生労働省，国際協力機構，<br>国際厚生事業団）                                | 卯 木 次 郎<br>（脳神経外科）                                     | 埼玉県立がんセンター（伊奈）    |
| H16. 7. 16  | 第229回埼玉脳神経外科懇話会                                                             | 卯 木 次 郎<br>（脳神経外科）                                     | ソニックシティ603号（さいたま） |
| H16. 11. 6  | 第26回埼玉がん緩和ケア研究会<br>実地臨床講演会                                                  | 卯 木 次 郎<br>（脳神経外科）<br>他                                | ラフレさいたま（さいたま）     |
| H17. 2. 5   | 平成16年度厚生省末期医療患者<br>QOL推進事業講習会－テー<br>マ：がん疼痛治療：期待した治<br>療効果が得られないときの対<br>策－   | 卯 木 次 郎<br>（脳神経外科）                                     | ソニックシティ小ホール（さいたま） |
| H16. 6. 29  | 平成16年度麻薬行政官研修会<br>（講演）<br>がん疼痛に対する麻薬使用の実<br>際                               | 細 谷 和 良<br>（薬 剤 部 ）                                    | 埼玉県立がんセンター（伊奈）    |
| H16. 8. 8   | 平成16年度埼玉県職員薬剤師技<br>術研修会（発表）<br>外来化学療法における薬剤師の<br>役割<br>抗がん剤の混合調製業務をと<br>おして | 渡 辺 富 士 雄<br>石 田 泰 嗣<br>中 山 季 昭<br>細 谷 和 良<br>（薬 剤 部 ） | 埼玉県庁第3庁舎講堂（さいたま）  |
| H16. 3. 12  | 秋田県病院薬剤師会がん専門薬<br>剤師研修会（講演）<br>埼玉県立がんセンター薬剤部に<br>おける抗がん剤の混合調製業務             | 中 山 季 昭<br>細 谷 和 良<br>（薬 剤 部 ）                         | 秋田市民交流プラザ（秋田市）    |

## 第3章 病院・研究室共同事業

### 研究課題および研究結果

#### 「がん遺伝子診療事業」

平成9年度よりスタートした「がん遺伝子診断・遺伝子治療事業」は、平成15年度より「がん遺伝子診療事業」として引き継がれ、遺伝子検査を用いたがんの高度先進医療を県民に提供している。

#### <研究課題>

##### 造血器腫瘍の遺伝子検査に関する検討

#### <研究者氏名>

研究所：赤木 究

病院： 新井吉子（臨床技術部）、血液科、消化器内科

#### <目的・成果>

平成10年度より造血器腫瘍の遺伝子検査に関する基礎検討を開始し、これまでに臨床検査として検査項目を年々増やしてきた。現在では、「悪性リンパ腫のモノクローナリティー検査」、リンパ腫染色体転座「IgH/bcl-2」、「API2/MALT1」、「移植におけるキメラリズム検査」、「bcr/abl定量PCR検査」を行い、これらを保険診療（2000点）として確立した。特に最近、分子標的治療薬の出現により、慢性骨髄性白血病の治療方針が大きく変わろうとしている。そのためには、治療効果を的確かつ高感度に検出する方法が不可欠であり、bcr/abl定量PCR検査はそのひとつである。これまでに慢性骨髄性白血病20症例について、定量PCRと従来の染色体検査、臨床所見との比較検討を行い、両者に高い相関性が認められたこと、従来の検査よりはるかに高感度であることが確認された。しかしながら、定量PCRは、反応ステップが多いこともあり、その結果に施設間差があったり、結果が安定しないなど臨床で利用する場合、様々な問題がある。そこで簡便で高速、高感度、高精度な新しい遺伝子検査法の開発を試みた。その結果、血液中の数個の白血病細胞が混在していても、1時間以内にそれを検出できる新しい検査法の開発に成功した。

また、「移植におけるキメラリズム検査」では、生体内におけるドナー細胞の動きをモニターする検査として確立しつつあり、再発の早期発見のための基礎データが集まりつつある。

#### <今後の計画>

「bcr/ablに対する新しい遺伝子検査法の開発」に関しては、1年以内の実用化を目指す。

また、「移植におけるキメラリズム検査」については、移植の不成功例の対応について検討を行う。

#### <研究課題>

##### 大腸がんにおけるゲノムの不安定の分子生物学的、臨床病理学的検討

#### <研究者氏名>

研究所：赤木 究

病院： 新井吉子（臨床技術部）、山口研成（消化器内科）、石窪 力（研修生）、消化器外科

#### <目的・成果>

マイクロサテライト不安定性（MSI）を示す大腸がんは多発がん傾向である、予後が良い、一部に遺伝性を認める、など臨床的に重要な特徴を持っているため、これを同定し、その発症における分子メカニズムの解明を試みている。我々は、これまで約700症例の原発性大腸がんのMSI解析を行い、性差によるMSI陽性大腸癌の臨床病理学的相違の1つに、男性のMSI陽性大腸癌の約1/3が直腸に発症し、右半結腸に多い女性に比べて明らかに異なる特徴を見いだした。これまでに男性6名、女性2名の計8例のMSI陽性直腸がんを見いだしているが、これらがBethesda Criteriaを満たすかどうか検討した。その結果、Bethesda Criteriaを満たすものは多発がんを認めた2例のみであり、その多くが見落とされてしまうことがわかった。しかしながら、我が国における直腸がんは全大腸癌の約4割をしめており、効率のよい絞り込みは重要な課題の一つである。BRAF遺伝子の変異やhMLH1プロモーターのメチレーションは、MSI陽性直腸がんでは認められず、こうした分子生物学的特徴を利用した診断の可能性が見いだされた。

#### <今後の計画>

MSI陽性大腸がんの分子生物学的解析を行い、その特徴を明らかにすると同時に、これらがHNPCCであるか遺伝子診断を試みる。また、こうした知見をもとに、HNPCCにおけるがん予防法の確立を目指す。

#### <研究課題>

##### がん遺伝カウンセリング外来におけるゲノム医療のあり方に関する研究

#### <研究者氏名>

研究所：赤木 究

病院： 新井吉子（臨床技術部）、山口研成（消化器内科）、仲島晴子、天羽春江（看護部）、消化器外科

#### <目的・成果>

平成14年10月に開設したがん遺伝カウンセリング外来は、年々受診者も増えつつあるが、こうしたゲノム情報を用いた医療は未だ確立されておらず、今後のゲノム医療のあり方を考える上で、がん遺伝カウンセリング外来はその基礎となる情報を与えてくれる重要な実践の場でもある。

現在、遺伝性大腸がんを中心に外来を行っているが、遺伝性であるために様々な臓器にがんをおこす可能性があり、複数の診療科や看護師、ソーシャルワーカー、心理士など様々な職種との連携の必要性があり、こうした連携をどのようにしていくかシステム作りの検討を行っている。また、患者やその家族に対し、どのような説明をし、どのような情報を提供し、どのようなサポートすることによって、その人にとって最も好ましい決定ができるようになるのか、

一つ一つの症例を通して検討を行っている。こうした症例検討を積み重ね、ゲノム医療に共通して認められる問題点の把握とその対処法の体系化を進めている。

#### <今後の計画>

遺伝性がんにおけるゲノム医療のあり方は、これから発展していくであろうゲノム医療を実践する上でその基礎となると考えられ、問題の具体化、体系化、対処法について検討を行う予定である。

#### <研究課題>

##### EGFR遺伝子変異解析法の開発及びその臨床応用

#### <研究者氏名>

研究室：赤木 究

病院： 新井吉子（臨床技術部），呼吸器科，胸部外科

#### <目的・成果>

肺癌の治療薬であるゲフィチニブ（イレッサ）の強い治療感受性予測因子として、EGFR遺伝子変異が報告された。そこで微量な検体から効率よく簡便に治療効果と関連する遺伝子変異を検出する遺伝子検査法の開発を試みた。

特にEGFR遺伝子のexon18, 19, 20, 21における遺伝子変異を独自の方法で検出するシステムを考案し、培養細胞を用いて検討した。その結果、がん細胞が1割含まれる検体であれば変異を検出することができた。そこで、この方法を用いて、気管支鏡で採取された検体や生検検体からも変異を検出することができるかを、検討したところ検体の約15%にEGFR遺伝子変異を見いだすことができた。

#### <今後の計画>

細胞診やその後の臨床経過の情報を収集して、遺伝子検査の感度や精度の評価、治療感受性予測因子としての評価を行う。

尚、これらの研究業績は第1章及び第2章の第3節に記載した。

## 第4章 埼玉県立がんセンター開設記念講演会

| 年 月 日       | 演 題                                                     | 演 者                         | 演 者 所 属            |
|-------------|---------------------------------------------------------|-----------------------------|--------------------|
| S 51. 4. 23 | 化学物質による発がん研究の諸問題                                        | 杉 村 隆                       | 国立がんセンター（研究所長）     |
| 51. 11. 9   | がんの外科療法                                                 | 梶 谷 鑲                       | がん研究会付属病院（病院長）     |
|             | がんの診断と治療                                                | 黒 川 利 雄                     | がん研究会付属病院（名誉院長）    |
| 52. 4. 13   | 肺がんの早期発見                                                | 石 川 七 郎                     | 国立がんセンター（総長）       |
|             | 胃がんの早期発見をめぐって                                           | 市 川 平 三 郎                   | 国立がんセンター（病院長）      |
| 52. 11. 1   | がん化の老化との関連                                              | 太 田 邦 夫                     | 東京都老人総合研究所（所長）     |
|             | これからのがんの放射線治療法について                                      | 梅 垣 洋 一 郎                   | 放射線医学総合研究所（臨床検査部長） |
| 53. 11. 8   | 肺がんの初診から治療まで                                            | 吉 田 清 一                     | 埼玉県立がんセンター（病院長）    |
|             | がんの予防研究の一側面                                             | 遠 藤 英 也                     | 九州大学医学部（がん研究所教授）   |
| 54. 11. 19  | がん化学療法の現状と将来－胃がんを中心にして－                                 | 木 村 禧 代 二                   | 国立名古屋病院（病院長）       |
| 56. 3. 12   | がん患者とその家族                                               | 十 辺 千 鶴 子                   | 評論家                |
| 56. 11. 20  | インターフェロンの抗がん性について                                       | 岸 田 綱 太 郎                   | 京都府立医科大学（教授）       |
| 57. 11. 12  | モノクローナル抗体とがん治療                                          | 橋 本 嘉 幸                     | 東北大学薬学部（教授）        |
| 58. 11. 18  | 肝がんとその予防                                                | 西 岡 久 寿 弥                   | 東京都臨床医学総合研究所（副所長）  |
| 59. 11. 20  | ウィルスがん遺伝子と細胞がん遺伝子                                       | 豊 島 久 真 男                   | 東京大学医科学研究所（教授）     |
| 60. 12. 5   | いかにしてがんにくつか<br>（シンポジウム）                                 | 服 部 理 男<br>（ 座 長 ）<br>他 4 名 | 埼玉県立がんセンター（病院長）    |
| 61. 11. 11  | 胃がんの生検・細胞診断について                                         | 長 与 健 夫                     | 愛知県がんセンター（総長）      |
| 62. 11. 18  | がんの告知をめぐって                                              | 岡 安 大 仁                     | 日本大学医学部（教授）        |
| 63. 11. 12  | ’88埼玉がんシンポジウム「600万県民のがん医療」                              | 漆 崎 一 朗<br>他14名             | 札幌医科大学（名誉教授）       |
| H元. 12. 16  | ’89埼玉がんシンポジウム「胃がん特集」                                    | 藤 間 弘 行<br>他 8 名            | 藤間病院（病院長）          |
| 2. 12. 1    | ’90埼玉がんシンポジウム「肺がん特集」                                    | 森 弘 一<br>他11名               | 森医院（院長）            |
| 3. 12. 14   | ’91埼玉がんシンポジウム「子宮がん特集」                                   | 丸 山 正 義<br>他12名             | 丸山記念総合病院（理事長）      |
| 4. 12. 5    | ’92埼玉がんシンポジウム「乳がん特集」                                    | 山 崎 寛 一 郎<br>他13名           | 山崎外科胃腸科病院（院長）      |
| 5. 12. 4    | ’93埼玉がんシンポジウム「血液がん特集」                                   | 服 部 理 男<br>他11名             | 埼玉県伊奈赤十字血液センター（所長） |
| 6. 12. 3    | ’94埼玉がんシンポジウム「大腸がん特集」                                   | 古 川 俊 隆<br>他10名             | 丸山記念総合病院（院長）       |
| 7. 11. 25   | 埼玉県立がんセンター開設20周年記念<br>’95埼玉がんシンポジウム「県民とともに<br>彩の国のがん医療」 | 石 井 勝<br>他12名               | 埼玉県立がんセンター（病院長）    |
| 8. 11. 30   | ’96埼玉がんシンポジウム「泌尿器がん特集」                                  | 田 利 清 信<br>他12名             | 埼玉県立がんセンター（副病院長）   |
| 9. 11. 29   | ’97埼玉がんシンポジウム「がんとともに<br>生きる」                            | 桜 井 雅 温<br>他13名             | 埼玉県立がんセンター（副総長）    |
| 10. 11. 28  | ’98埼玉がんシンポジウム「21世紀のがん<br>医療を考える」                        | 石 井 勝<br>他13名               | 埼玉県立がんセンター（総長）     |

| 年 月 日      | 演 題                                               | 演 者                  | 演 者 所 属                    |
|------------|---------------------------------------------------|----------------------|----------------------------|
| 11. 11. 27 | ’99埼玉県民のための“がんの集い”<br>「ここまで進んだがん医療」               | 東 四 雄<br>他 5 名       | 埼玉県立がんセンター（外来部副部長）         |
| 12. 10. 28 | ミレニアム埼玉県民のための“がんの集い”<br>「ともに考えるがん医療」              | 石 井 勝<br>他 6 名       | 埼玉県立がんセンター（総長）             |
| 13. 12. 1  | ’01埼玉県民のための“がんの集い”<br>「元気・勇気・そして愛」                | 川 上 理 恵<br>他 2 名     | シドニーパラリンピック バスケットボール銅メダリスト |
| 14. 8. 31  | ’02埼玉県民のための“がんの集い”<br>映画「命」と共に考えるがん医療             | 映 画 「 命 」<br>田 中 洋 一 | 埼玉県立がんセンター（腹部外科部長）         |
| 15. 11. 15 | ’03埼玉県民のための“がんの集い”<br>地域に根ざすがん医療<br>ーがんセンターに望むことー | 天 草 万 里<br>他 4 名     | 北足立郡市医師会理事                 |
| 16. 11. 20 | ’04埼玉県民のための“がんの集い”<br>よくわかる最新のがん治療                | 酒 井 洋<br>他 5 名       | 埼玉県立がんセンター（呼吸器科）           |

# ’ 04 埼玉県民のための“がんの集い”

## ーよくわかる最新のがん治療ー

がん相談コーナー      東館デイケアセンター内      12:00～

講演会・表彰式・ふれあいコンサート      本館講堂      13:30～16:00

|      |        |               |
|------|--------|---------------|
| 総合司会 |        | 卯木次郎（副病院長）    |
| 開会の辞 | 13:00～ | 神田裕三（病院長）     |
| 祝 辞  |        | 武田 光（病院局長）    |
|      |        | 吉原忠男（埼玉県医師会長） |

### 講演会

13:10～14:25

|       |       |            |
|-------|-------|------------|
| 司 会   | 田部井敏夫 | （内分泌科/科長）  |
| パネリスト | 酒井 洋  | （呼吸器科/医師）  |
|       | 石田 泰嗣 | （薬剤部/薬剤師）  |
|       | 小林 泰文 | （血液科/医師）   |
|       | 多田 正弘 | （消化器内科/医師） |
|       | 赤坂 和美 | （看護部/看護師）  |

### ボランティア表彰式

14:30～15:00

ミニコンサート      15:00～16:00

ふれあいバザー      東館デイケアセンター内      12:00～

最新高度医療機器見学会      本館 地下      12:00～

|      |                            |
|------|----------------------------|
| 日 時: | 平成16年11月20日(土)12:00～16:00  |
| 場 所: | 埼玉県立がんセンター 講堂他             |
| 主 催: | 埼玉県立がんセンター（電話048-722-1111） |
| 後 援: | 埼玉県医師会・埼玉県健康づくり事業団         |

## 第5章 国際交流

### 第1節 その他の交流

#### 1 海外からがんセンターへ

| 氏 名                 | 期 間   | 研 究（研 修）内 容 等                                                                                                                                                                                                                       |
|---------------------|-------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| Mr. Ben Bony（カンボジア） | 6. 29 | 平成16年度麻薬行政官研修（伊奈）<br>その他の参加者氏名：<br>Mr. Vinyanh Gheryangsaijou（ラオス）， Ms. Nor Azila Binti Ab. Rahman（マレーシア）， Mr. Mahendra Alwis Jayasinghe（スリ・ランカ）， Mr. Romualda Parago Iglesia（フィリピン）， Mr. Jarae Porka（タイ）， Mr. Bui The Khanh（ベトナム）. |

## 第 1 章 会計業務統計（事業会計）

第 1 表 比較損益計算書

（単位：円・％）

| 区 分             | 平 成 16 年 度     |       | 平 成 15 年 度     |       | 前 年 度 対 比     |       |
|-----------------|----------------|-------|----------------|-------|---------------|-------|
|                 | 金 額            | 構成比率  | 金 額            | 構成比率  | 増 減 額         | 比 率   |
| 病院事業収益          | 11,702,524,446 | 100.0 | 12,019,814,895 | 100.0 | △ 317,290,449 | 97.4  |
| 医 業 収 益         | 9,534,066,723  | 81.5  | 9,551,283,697  | 79.5  | △ 17,216,974  | 99.8  |
| 入 院 収 益         | 6,045,101,299  | 51.7  | 6,300,427,995  | 52.4  | △ 255,326,696 | 95.9  |
| 外 来 収 益         | 3,116,310,890  | 26.6  | 2,922,989,048  | 24.3  | 193,321,842   | 106.6 |
| そ の 他 医 業 収 益   | 372,654,534    | 3.2   | 327,866,654    | 2.7   | 44,787,880    | 113.7 |
| 医 業 外 収 益       | 2,168,457,723  | 18.5  | 2,468,531,198  | 20.5  | △ 300,073,475 | 87.8  |
| 受 取 利 息 配 当 金   | 222,606        | 0.0   | 561,800        | 0.0   | △ 339,194     | 39.6  |
| 補 助 金           | 2,745,000      | 0.0   | 3,835,000      | 0.0   | △ 1,090,000   | 71.6  |
| 負 担 金 交 付 金     | 2,122,082,183  | 18.1  | 2,404,288,044  | 20.0  | △ 282,205,861 | 88.3  |
| そ の 他 医 業 外 収 益 | 43,407,934     | 0.4   | 59,846,354     | 0.5   | △ 16,438,420  | 72.5  |
| 病院事業費用          | 10,856,899,995 | 100.0 | 10,942,387,724 | 100.0 | △ 85,487,729  | 99.2  |
| 医 業 費 用         | 10,448,711,011 | 96.2  | 10,389,967,961 | 95.0  | 58,743,050    | 100.6 |
| 給 与 費           | 5,029,849,497  | 46.3  | 4,961,262,982  | 45.3  | 68,586,515    | 101.4 |
| 材 料 費           | 2,783,144,049  | 25.6  | 2,781,020,998  | 25.4  | 2,123,051     | 100.1 |
| 経 費             | 1,696,092,177  | 15.6  | 1,623,973,429  | 14.8  | 72,118,748    | 104.4 |
| 減 価 償 却 費       | 768,443,194    | 7.1   | 870,374,112    | 8.0   | △ 101,930,918 | 88.3  |
| 資 産 減 耗 費       | 19,075,961     | 0.2   | 14,565,564     | 0.1   | 4,510,397     | 131.0 |
| 研 究 研 修 費       | 152,106,133    | 1.4   | 138,770,876    | 1.3   | 13,335,257    | 109.6 |
| 医 業 外 費 用       | 408,188,984    | 3.8   | 552,419,763    | 5.0   | △ 144,230,779 | 73.9  |
| 支払利息及び企業債取扱諸費   | 144,288,746    | 1.3   | 157,710,951    | 1.4   | △ 13,422,205  | 91.5  |
| 繰 延 勘 定 償 却     | 45,151,752     | 0.4   | 173,044,751    | 1.6   | △ 127,892,999 | 26.1  |
| 雑 損 失           | 218,748,486    | 2.0   | 221,664,061    | 2.0   | △ 2,915,575   | 98.7  |
| 当 年 度 純 利 益     | 845,624,451    | —     | 1,077,427,171  | —     | △ 231,802,720 | 78.5  |
| 当年度末処分利益剰余金     | 1,907,295,631  | —     | 1,085,671,180  | —     | 821,624,451   | 175.7 |

第2表 比較貸借対照表

(単位：円・%)

| 区 分                  |             | 平成16年度         |       | 平成15年度         |       | 前年度対比         |        |
|----------------------|-------------|----------------|-------|----------------|-------|---------------|--------|
|                      |             | 金額             | 構成比率  | 金額             | 構成比率  | 増減額           | 比率     |
| 資 産                  | 固 定 資 産     | 11,698,215,579 | 55.5  | 11,950,796,746 | 58.6  | △ 252,581,167 | 97.9   |
|                      | 有形固定資産      | 11,695,982,819 | 55.5  | 11,948,635,986 | 58.6  | △ 252,653,167 | 97.9   |
|                      | 土 地         | 1,282,744,901  | 6.1   | 1,282,744,901  | 6.3   | 0             | 100.0  |
|                      | 建 物         | 8,597,070,374  | 40.8  | 8,986,021,763  | 44.1  | △ 388,951,389 | 95.7   |
|                      | 構 築 物       | 203,931,771    | 1.0   | 215,475,817    | 1.1   | △ 11,544,046  | 94.6   |
|                      | 器 械 備 品     | 1,600,249,934  | 7.6   | 1,452,127,766  | 7.1   | 148,122,168   | 110.2  |
|                      | 車 両         | 1,042,059      | 0.0   | 1,321,959      | 0.0   | △ 279,900     | 78.8   |
|                      | 放射線同位元素     | 703,780        | 0.0   | 703,780        | 0.0   | 0             | 100.0  |
|                      | その他有形固定資産   | 10,240,000     | 0.0   | 10,240,000     | 0.1   | 0             | 100.0  |
|                      | 無形固定資産      | 2,232,760      | 0.0   | 2,160,760      | 0.0   | 72,000        | 103.3  |
|                      | 電 話 加 入 権   | 1,681,000      | 0.0   | 1,609,000      | 0.0   | 72,000        | 104.5  |
|                      | その他無形固定資産   | 551,760        | 0.0   | 551,760        | 0.0   | 0             | 100.0  |
|                      | 流 動 資 産     | 9,122,347,219  | 43.3  | 8,234,953,871  | 40.4  | 887,393,348   | 110.8  |
|                      | 現 金 預 金     | 7,755,719,600  | 36.8  | 6,857,616,901  | 33.6  | 898,102,699   | 113.1  |
|                      | 未 収 金       | 1,324,542,968  | 6.3   | 1,333,493,962  | 6.5   | △ 8,950,994   | 99.3   |
|                      | 貯 蔵 品       | 33,584,651     | 0.2   | 35,343,008     | 0.2   | △ 1,758,357   | 95.0   |
|                      | その他流動資産     | 8,500,000      | 0.0   | 8,500,000      | 0.0   | 0             | 100.0  |
|                      | 繰 延 勘 定     | 269,935,264    | 1.3   | 213,360,060    | 1.0   | 56,575,204    | 126.5  |
|                      | 企業債発行差金     | 61,300         | 0.0   | 152,000        | 0.0   | △ 90,700      | 40.3   |
|                      | 開 発 費       | 76,912,500     | 0.4   | 4,325,995      | 0.0   | 72,586,505    | 1777.9 |
|                      | 控除対象外消費税額   | 192,961,464    | 0.9   | 208,882,065    | 1.0   | △ 15,920,601  | 92.4   |
|                      | 資 産 合 計     | 21,090,498,062 | 100.0 | 20,399,110,677 | 100.0 | 691,387,385   | 103.4  |
| 負 債<br>及<br>び<br>資 本 | 固 定 負 債     | 464,334,330    | 2.2   | 442,949,639    | 2.2   | 21,384,691    | 104.8  |
|                      | 引 当 金       | 464,334,330    | 2.2   | 442,949,639    | 2.2   | 21,384,691    | 104.8  |
|                      | 退職給与引当金     | 271,802,372    | 1.3   | 250,417,681    | 1.2   | 21,384,691    | 108.5  |
|                      | 修繕引当金       | 192,531,958    | 0.9   | 192,531,958    | 0.9   | 0             | 100.0  |
|                      | 流 動 負 債     | 814,858,458    | 3.9   | 754,191,722    | 3.7   | 60,666,736    | 108.0  |
|                      | 未 払 金       | 771,862,856    | 3.7   | 707,990,421    | 3.5   | 63,872,435    | 109.0  |
|                      | その他流動負債     | 42,995,602     | 0.2   | 46,201,301     | 0.2   | △ 3,205,699   | 93.1   |
|                      | 負 債 合 計     | 1,279,192,788  | 6.1   | 1,197,141,361  | 5.9   | 82,051,427    | 106.9  |
|                      | 資 本 金       | 14,789,074,475 | 70.1  | 15,247,363,422 | 74.7  | △ 458,288,947 | 97.0   |
|                      | 自 己 資 本 金   | 10,041,030,590 | 47.6  | 10,017,030,590 | 49.1  | 24,000,000    | 100.2  |
|                      | 借 入 資 本 金   | 4,748,043,885  | 22.5  | 5,230,332,832  | 25.6  | △ 482,288,947 | 90.8   |
|                      | 企 業 債       | 4,748,043,885  | 22.5  | 5,230,332,832  | 25.6  | △ 482,288,947 | 90.8   |
|                      | 剰 余 金       | 5,022,230,799  | 23.8  | 3,954,605,894  | 19.4  | 1,067,624,905 | 127.0  |
|                      | 資 本 剰 余 金   | 3,114,935,168  | 14.8  | 2,868,934,714  | 14.1  | 246,000,454   | 108.6  |
|                      | 受贈財産評価額     | 297,302,890    | 1.4   | 292,446,910    | 1.4   | 4,855,980     | 101.7  |
|                      | 国庫補助金       | 196,936,000    | 0.9   | 196,936,000    | 1.0   | 0             | 100.0  |
|                      | その他資本剰余金    | 2,620,696,278  | 12.4  | 2,379,551,804  | 11.7  | 241,144,474   | 110.1  |
|                      | 利 益 剰 余 金   | 1,907,295,631  | 9.0   | 1,085,671,180  | 5.3   | 821,624,451   | 175.7  |
|                      | 当年度未処分利益剰余金 | 1,907,295,631  | 9.0   | 1,085,671,180  | 5.3   | 821,624,451   | 175.7  |
|                      | 資 本 合 計     | 19,811,305,274 | 93.9  | 19,201,969,316 | 94.1  | 609,335,958   | 103.2  |
|                      | 負債・資本合計     | 21,090,498,062 | 100.0 | 20,399,110,677 | 100.0 | 691,387,385   | 103.4  |

第3表 固定資産—有形固定資産

(単位：円)

| 資産の種類         | 年度当初<br>の現在高   | 当 年 度<br>増 加 額 | 年 度 末<br>減 少 額 | 年 度 末<br>現 在 高 | 減 価 償 却 累 計 額 |             |                | 年度末償却<br>未 済 高 | 備 考 |
|---------------|----------------|----------------|----------------|----------------|---------------|-------------|----------------|----------------|-----|
|               |                |                |                |                | 当年度増加額        | 当年度減少額      | 累 計            |                |     |
| 土 地           | 1,282,744,901  | 0              | 0              | 1,282,744,901  | —             | —           | —              | 1,282,744,901  |     |
| 建 物           | 16,509,411,402 | 91,074,649     | 19,441,000     | 16,581,045,051 | 479,053,988   | 18,468,950  | 7,983,974,677  | 8,597,070,374  |     |
| 構 築 物         | 685,891,516    | 0              | 613,000        | 685,278,516    | 11,286,338    | 355,292     | 481,346,745    | 203,931,771    |     |
| 器 械 備 品       | 7,611,271,759  | 446,220,289    | 222,367,102    | 7,835,124,946  | 277,822,968   | 202,091,949 | 6,234,875,012  | 1,600,249,934  |     |
| 車 両           | 6,193,500      | 0              | 0              | 6,193,500      | 279,900       | 0           | 5,151,441      | 1,042,059      |     |
| 放射性同位元素       | 14,075,600     | 0              | 0              | 14,075,600     | 0             | 0           | 13,371,820     | 703,780        |     |
| その他有形<br>固定資産 | 10,240,000     | 0              | 0              | 10,240,000     | —             | —           | —              | 10,240,000     |     |
| 合 計           | 26,119,828,678 | 537,294,938    | 242,421,102    | 26,414,702,514 | 768,443,194   | 220,916,191 | 14,718,719,695 | 11,695,982,819 |     |

第4表 固定資産—無形固定資産

(単位：円)

| 資 産 の 種 類 | 年度当初の現在高  | 当 年 度 増 加 額 | 当 年 度 減 少 額 | 年度末現在高    | 年度末償却未済高  | 備 考 |
|-----------|-----------|-------------|-------------|-----------|-----------|-----|
| 電 話 加 入 権 | 1,609,000 | 72,000      | 0           | 1,681,000 | 1,681,000 |     |
| その他無形固定資産 | 551,760   | 0           | 0           | 551,760   | 551,760   |     |
| 合 計       | 2,160,760 | 72,000      | 0           | 2,232,760 | 2,232,760 |     |

第5表 企業債

(単位：円・％)

| 種 類   | 発 行<br>年 月 日  | 発行総額          | 償 還 高          |               | 未償還残高         | 発 行 価 格       | 利率   | 償還終期     | 備 考     |
|-------|---------------|---------------|----------------|---------------|---------------|---------------|------|----------|---------|
|       |               |               | 当 年 度<br>償 還 高 | 償還高累計         |               |               |      |          |         |
| 特別地方債 | 昭和            | 円             | 円              | 円             | 円             | 円             | ％    | 平成       |         |
|       | 51. 3.25      | 541,000,000   | 42,405,892     | 495,354,034   | 45,645,966    | 541,000,000   | 7.50 | 18. 3. 1 | 財政融資資金  |
| 〃     | 51. 5.26      | 958,000,000   | 75,092,133     | 877,170,358   | 80,829,642    | 958,000,000   | 7.50 | 18. 3. 1 | 〃       |
| 〃     | 平成<br>7. 3.17 | 294,000,000   | 188,160,000    | 294,000,000   | 0             | 293,706,000   | 4.50 | 17. 3.17 | シンジケート団 |
| 〃     | 7. 5.26       | 55,000,000    | 1,561,829      | 7,246,228     | 47,753,772    | 55,000,000    | 3.85 | 37. 3.25 | 財政融資資金  |
| 〃     | 7. 5.26       | 160,000,000   | 4,543,503      | 21,079,935    | 138,920,065   | 160,000,000   | 3.85 | 37. 3.25 | 〃       |
| 〃     | 7.12.21       | 613,000,000   | 36,780,000     | 220,680,000   | 392,320,000   | 612,387,000   | 3.00 | 17.12.21 | シンジケート団 |
| 〃     | 9. 3.25       | 1,665,000,000 | 49,433,320     | 144,270,337   | 1,520,729,663 | 1,665,000,000 | 2.80 | 39. 3. 1 | 財政融資資金  |
| 〃     | 9. 3.25       | 225,000,000   | 6,680,178      | 19,495,991    | 205,504,009   | 225,000,000   | 2.80 | 39. 3. 1 | 〃       |
| 〃     | 10. 3.25      | 2,062,000,000 | 64,808,653     | 128,277,464   | 1,933,722,536 | 2,062,000,000 | 2.10 | 40. 3. 1 | 〃       |
| 〃     | 10. 3.25      | 408,000,000   | 12,823,439     | 25,381,768    | 382,618,232   | 408,000,000   | 2.10 | 40. 3. 1 | 〃       |
| 合 計   |               | 6,981,000,000 | 482,288,947    | 2,232,956,115 | 4,748,043,885 | 6,980,093,000 |      |          |         |

## 第2章 病院業務統計

### 1 外来患者数統計

#### 1) 全診療科

(単位：人)

|               | 15年度<br>総 数 | 16年度<br>総 数 | 4 月    | 5 月    | 6 月    | 7 月    | 8 月    | 9 月    | 10 月   | 11 月   | 12 月   | 1 月    | 2 月    | 3 月    |
|---------------|-------------|-------------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|
| 初 診 患 者 数     | 10,667      | 11,473      | 870    | 895    | 1,024  | 946    | 977    | 914    | 970    | 1,083  | 954    | 915    | 931    | 994    |
| 診 療 患 者 延 数   | 183,731     | 190,624     | 15,633 | 13,943 | 16,831 | 16,059 | 15,952 | 15,579 | 15,501 | 16,240 | 16,220 | 15,516 | 15,649 | 17,501 |
| 1 日 平 均 患 者 数 | 747         | 784.5       | 744.4  | 774.6  | 765.0  | 764.7  | 725.1  | 779.0  | 775.1  | 812.0  | 853.7  | 816.6  | 823.6  | 795.5  |
| 診 療 日 数       | 246         | 243         | 21     | 18     | 22     | 21     | 22     | 20     | 20     | 20     | 19     | 19     | 19     | 22     |

#### 2) 診療科別

(単位：人)

|            | 15年度<br>総 数 | 16年度<br>総 数 | 4 月   | 5 月   | 6 月   | 7 月   | 8 月   | 9 月   | 10 月  | 11 月  | 12 月  | 1 月   | 2 月   | 3 月   |
|------------|-------------|-------------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|
| 血 液 科      | 8,573       | 8,258       | 713   | 628   | 743   | 678   | 750   | 684   | 749   | 673   | 680   | 622   | 618   | 720   |
| 内 分 泌 科    | 10,563      | 10,916      | 911   | 822   | 843   | 956   | 926   | 893   | 894   | 941   | 881   | 897   | 943   | 1,009 |
| 呼 吸 器 科    | 10,691      | 10,980      | 926   | 839   | 954   | 873   | 918   | 922   | 860   | 879   | 918   | 883   | 909   | 1,099 |
| 消 化 器 内 科  | 23,026      | 22,198      | 1,875 | 1,560 | 2,017 | 1,919 | 1,766 | 1,734 | 1,870 | 1,989 | 1,919 | 1,763 | 1,728 | 2,058 |
| 消 化 器 外 科  | 20,571      | 21,468      | 1,852 | 1,607 | 1,904 | 1,795 | 1,807 | 1,694 | 1,702 | 1,910 | 1,802 | 1,744 | 1,782 | 1,869 |
| 胸部外科(肺・縦隔) | 5,679       | 5,973       | 534   | 420   | 525   | 481   | 493   | 513   | 500   | 459   | 529   | 546   | 467   | 506   |
| 脳 神 経 外 科  | 3,195       | 3,373       | 303   | 261   | 301   | 311   | 250   | 314   | 292   | 283   | 282   | 267   | 232   | 277   |
| 婦 人 科      | 14,906      | 13,686      | 991   | 991   | 1,173 | 1,144 | 1,183 | 1,092 | 1,066 | 1,180 | 1,243 | 1,129 | 1,171 | 1,323 |
| 放 射 線 科    | 23,954      | 28,700      | 2,179 | 1,965 | 2,636 | 2,427 | 2,322 | 2,182 | 2,398 | 2,394 | 2,378 | 2,383 | 2,567 | 2,869 |
| 頭 頸 部 外 科  | 12,464      | 13,100      | 1,143 | 918   | 1,138 | 1,025 | 1,120 | 1,093 | 1,048 | 1,114 | 1,081 | 1,051 | 1,085 | 1,284 |
| 泌 尿 器 科    | 7,762       | 7,760       | 640   | 631   | 673   | 672   | 658   | 589   | 645   | 685   | 640   | 630   | 632   | 665   |
| 整 形 外 科    | 1,750       | 2,034       | 152   | 142   | 154   | 141   | 170   | 153   | 156   | 179   | 184   | 188   | 182   | 233   |
| 皮 膚 科      | 2,908       | 2,908       | 250   | 206   | 255   | 265   | 240   | 250   | 271   | 232   | 227   | 241   | 206   | 265   |
| 麻 酔 科      | 127         | 96          | 7     | 4     | 12    | 14    | 7     | 9     | 13    | 9     | 7     | 4     | 5     | 5     |
| 眼 科        | 1           | 130         | 2     | 6     | 10    | 7     | 16    | 15    | 8     | 9     | 11    | 10    | 15    | 21    |
| 口 腔 外 科    | 14,687      | 15,044      | 1,371 | 1,245 | 1,369 | 1,372 | 1,316 | 1,377 | 1,086 | 1,346 | 1,379 | 1,204 | 1,104 | 875   |
| 乳 腺 外 科    | 22,289      | 23,201      | 1,708 | 1,633 | 2,059 | 1,925 | 1,954 | 2,000 | 1,890 | 1,896 | 2,004 | 1,879 | 1,925 | 2,328 |
| 緩 和 ケ ア 科  | 585         | 749         | 76    | 65    | 65    | 54    | 56    | 65    | 53    | 62    | 55    | 65    | 58    | 75    |
| 形 成 外 科    |             | 50          |       |       |       |       |       |       |       |       |       | 10    | 20    | 20    |

#### 3) 外来処置室年間統計数

平成16年4月～平成17年3月

|                        | 4 月   | 5 月   | 6 月   | 7 月   | 8 月   | 9 月   | 10 月  | 11 月  | 12 月  | 1 月   | 2 月   | 3 月   | 総 数    |
|------------------------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|--------|
| 採 血                    | 5,048 | 4,688 | 5,385 | 5,072 | 5,206 | 5,122 | 5,039 | 5,352 | 5,097 | 5,196 | 4,988 | 5,629 | 61,822 |
| 神 経 プ ロ ッ ク            | 0     | 1     | 6     | 6     | 1     | 1     | 4     | 4     | 1     | 0     |       | 0     | 24     |
| 輸 血                    | 0     | 2     | 2     | 1     | 1     | 0     | 3     | 1     | 1     | 1     | 1     | 2     | 15     |
| 輸 液                    | 97    | 79    | 87    | 96    | 96    | 78    | 78    | 104   | 87    | 70    | 74    | 82    | 1,028  |
| 静、筋、皮下、皮内注射            | 255   | 216   | 292   | 302   | 303   | 322   | 271   | 262   | 219   | 233   | 305   | 332   | 3,312  |
| 骨 髄 穿 刺<br>(マルク、骨生検)   | 22    | 12    | 18    | 15    | 17    | 20    | 22    | 5     | 40    | 10    | 12    | 23    | 216    |
| 胸 腔 穿 刺                | 6     | 7     | 4     | 0     | 11    | 4     | 6     | 7     | 3     | 6     | 3     | 9     | 66     |
| 腹腔穿刺、腹注                | 3     | 1     | 2     | 0     | 2     | 0     | 5     | 5     | 3     | 7     | 8     | 10    | 46     |
| 腰 椎 穿 刺                | 4     | 3     | 1     | 2     | 2     | 3     | 2     | 0     | 1     | 3     | 1     | 0     | 22     |
| 細胞診、吸引、<br>リンパ節生検      | 6     | 2     | 2     | 2     | 3     | 6     | 4     | 0     | 4     | 6     | 3     | 5     | 43     |
| I V H 挿 入、<br>抜去、IVH包交 | 10    | 1     | 2     | 6     | 7     | 3     | 2     | 0     | 2     | 0     | 1     | 21    | 55     |
| 創傷処置(ガーゼ<br>交換、抜糸等)    | 51    | 48    | 49    | 45    | 52    | 45    | 42    | 35    | 27    | 27    | 72    | 66    | 559    |
| 浣腸、排便、導尿、膀胱洗           | 2     | 6     | 5     | 2     | 7     | 4     | 3     | 0     | 1     | 8     | 1     | 5     | 44     |
| 入院、入院までの<br>ベ ッ ド 利 用  | 48    | 40    | 43    | 52    | 52    | 34    | 35    | 36    | 42    | 26    | 35    | 48    | 491    |

|                       | 4 月   | 5 月   | 6 月   | 7 月   | 8 月   | 9 月   | 10 月  | 11 月  | 12 月  | 1 月   | 2 月   | 3 月   | 総 数    |
|-----------------------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|--------|
| 診察、検査までの<br>ベッド利用     | 74    | 44    | 54    | 47    | 52    | 42    | 34    | 59    | 46    | 51    | 49    | 59    | 611    |
| 診 察                   | 27    | 57    | 64    | 69    | 64    | 53    | 32    | 62    | 66    | 67    | 46    | 86    | 693    |
| 救急車、急変患<br>者の受け入れ     | 9     | 7     | 8     | 6     | 11    | 5     | 5     | 5     | 7     | 12    | 9     | 17    | 101    |
| 血圧、心拍監視               | 1     | 0     | 0     | 0     | 0     | 0     | 1     | 0     | 0     | 1     | 1     | 2     | 6      |
| 酸素吸入、パルスオ<br>キシメーター測定 | 7     | 6     | 8     | 4     | 3     | 2     | 2     | 0     | 2     | 7     | 5     | 14    | 60     |
| 超 音 波 検 査             | 4     | 3     | 0     | 0     | 4     | 1     | 4     | 1     | 1     | 5     | 2     | 7     | 32     |
| 自己血、HLA採血             | 6     | 15    | 8     | 3     | 7     | 7     | 3     | 8     | 1     | 10    | 3     | 10    | 81     |
| IVH、動注フラッシュ           | 25    | 12    | 20    | 37    | 31    | 22    | 21    | 27    | 22    | 33    | 24    | 38    | 312    |
| PTCD洗浄、包交             | 8     | 7     | 3     | 13    | 6     | 7     | 4     | 3     | 2     | 4     | 4     | 6     | 67     |
| C c r, GTT, ICG       | 13    | 6     | 8     | 6     | 6     | 14    | 7     | 13    | 9     | 11    | 6     | 13    | 112    |
| ネ プ ラ イ ザ ー           | 2     | 3     | 2     | 0     | 3     | 0     | 2     | 0     | 0     | 1     | 1     | 0     | 14     |
| 血 ガ ス B S 測 定         | 1     | 0     | 0     | 2     | 0     | 0     | 0     | 0     | 2     | 0     | 1     | 2     | 8      |
| 胃管挿入、洗浄               | 1     | 0     | 0     | 1     | 0     | 1     | 0     | 0     | 0     | 0     | 0     | 0     | 3      |
| 手術出し、手術後<br>患者受け入れ    | 0     | 0     | 0     | 0     | 0     | 0     | 0     | 0     | 0     | 0     | 0     | 0     | 0      |
| そ の 他                 | 10    | 15    | 16    | 24    | 27    | 18    | 14    | 19    | 21    | 11    | 13    | 17    | 205    |
| 合 計                   | 5,741 | 5,281 | 5,606 | 5,813 | 5,726 | 5,814 | 5,645 | 6,019 | 5,707 | 5,806 | 5,668 | 6,503 | 69,329 |
| 平 均 件 数               | 273   | 293   | 255   | 277   | 260   | 291   | 282   | 301   | 300   | 306   | 298   | 296   | 285    |
| 可 動 日 数               | 21    | 18    | 22    | 21    | 22    | 20    | 20    | 20    | 19    | 19    | 19    | 22    | 243    |

#### 4) デイケアセンター業務内容総数

|              |                   | 4 月   | 5 月   | 6 月   | 7 月   | 8 月   | 9 月   | 10月   | 11月   | 12月   | 1 月   | 2 月   | 3 月   | 合 計    |
|--------------|-------------------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|--------|
| 化学療法         | 持 続 点 滴           | 685   | 628   | 674   | 705   | 731   | 776   | 713   | 700   | 683   | 750   | 778   | 904   | 8,727  |
|              | 動 注               | 29    | 24    | 33    | 32    | 29    | 27    | 21    | 23    | 24    | 21    | 23    | 26    | 312    |
|              | 静 注・管 注           | 34    | 27    | 34    | 68    | 44    | 39    | 35    | 38    | 32    | 40    | 40    | 33    | 464    |
| 輸 血          |                   | 36    | 59    | 45    | 44    | 42    | 43    | 33    | 61    | 43    | 32    | 33    | 30    | 501    |
| 輸液           | 持 続 点 滴           | 163   | 151   | 155   | 164   | 155   | 127   | 150   | 154   | 126   | 121   | 107   | 166   | 1,739  |
|              | 静 注・管注            | 8     | 7     | 11    | 10    | 7     | 7     | 9     | 9     | 8     | 9     | 8     | 0     | 93     |
| ヘパリン生食注入     |                   | 27    | 9     | 13    | 10    | 23    | 9     | 18    | 23    | 40    | 3     | 5     | 5     | 185    |
| 持 続 皮 下 注    |                   | 5     | 5     | 5     | 5     | 4     | 4     | 5     | 4     | 2     | 5     | 5     | 3     | 52     |
| 筋 注・皮 下 注    |                   | 12    | 10    | 8     | 8     | 8     | 8     | 9     | 9     | 10    | 13    | 11    | 13    | 119    |
| 処置・ケア        | 酸 素 吸 入           | 5     | 1     | 5     | 6     | 4     | 2     | 2     | 1     | 0     | 1     | 3     | 0     | 30     |
|              | 創 傷 処 置           | 4     | 4     | 6     | 10    | 13    | 6     | 10    | 20    | 10    | 3     | 7     | 6     | 99     |
|              | 採 血               | 0     | 1     | 3     | 5     | 1     | 0     | 0     | 1     | 1     | 1     | 2     | 1     | 16     |
|              | 手 術 出 し           | 9     | 4     | 2     | 8     | 6     | 2     | 5     | 8     | 6     | 4     | 5     | 6     | 65     |
|              | 診 察               | 25    | 40    | 41    | 41    | 44    | 43    | 32    | 30    | 29    | 25    | 42    | 53    | 445    |
|              | 緊 急 入 院           | 3     | 2     | 3     | 4     | 2     | 2     | 2     | 2     | 1     | 1     | 3     | 0     | 25     |
|              | 機械入浴・洗髪           | 0     | 0     | 1     | 1     | 1     | 0     | 2     | 0     | 1     | 0     | 2     | 1     | 9      |
|              | そ の 他             | 5     | 10    | 11    | 7     | 12    | 10    | 9     | 17    | 5     | 10    | 19    | 35    | 150    |
|              | 服 薬 指 導           | 2     | 0     | 2     | 0     | 5     | 1     | 1     | 1     | 0     | 1     | 2     | 1     | 16     |
| 指導・相談        | 化療オリエン<br>テーション   | 34    | 47    | 51    | 60    | 61    | 47    | 49    | 39    | 47    | 69    | 61    | 93    | 658    |
|              | 持続皮下注指導           | 0     | 0     | 0     | 0     | 0     | 0     | 2     | 0     | 0     | 0     | 2     | 0     | 4      |
|              | 術前術後オリエン<br>テーション | 15    | 7     | 5     | 14    | 4     | 8     | 6     | 14    | 9     | 6     | 17    | 13    | 118    |
|              | そ の 他             | 2     | 2     | 0     | 1     | 1     | 4     | 0     | 1     | 1     | 3     | 2     | 0     | 17     |
| 総 件 数        |                   | 1,103 | 1,038 | 1,108 | 1,203 | 1,197 | 1,165 | 1,113 | 1,155 | 1,078 | 1,118 | 1,177 | 1,389 | 13,844 |
| 総 患 者 数      |                   | 963   | 878   | 944   | 993   | 986   | 1,015 | 955   | 1,013 | 943   | 957   | 996   | 1,154 | 11,797 |
| 4時間以上滞在者(再掲) |                   | 164   | 150   | 179   | 201   | 204   | 209   | 148   | 161   | 111   | 137   | 140   | 202   | 2,006  |
| 一日平均患者数      |                   | 45.9  | 48.8  | 42.9  | 47.3  | 44.8  | 50.8  | 47.8  | 50.7  | 49.6  | 50.4  | 52.4  | 52.5  | 48.7   |

5) 在宅療養指導（訪問看護含）統計

・相談内容別件数

|          | 4月  | 5月  | 6月  | 7月  | 8月  | 9月  | 10月 | 11月 | 12月 | 1月  | 2月  | 3月  | 合計    |
|----------|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-------|
| 受診相談     | 31  | 25  | 42  | 27  | 29  | 30  | 33  | 53  | 50  | 48  | 45  | 44  | 457   |
| 在宅酸素     | 0   | 1   | 2   | 2   | 4   | 0   | 2   | 2   | 3   | 1   | 3   | 1   | 21    |
| 在宅輸液     | 3   | 4   | 4   | 6   | 10  | 11  | 2   | 1   | 4   | 0   | 4   | 3   | 52    |
| 自己注射     | 0   | 0   | 0   | 1   | 2   | 0   | 1   | 0   | 0   | 1   | 0   | 0   | 5     |
| 自己導尿     | 1   | 1   | 4   | 1   | 4   | 2   | 1   | 3   | 3   | 1   | 1   | 1   | 23    |
| 吸引・吸入    | 4   | 1   | 4   | 7   | 2   | 4   | 4   | 9   | 5   | 8   | 13  | 10  | 71    |
| 褥創処置     | 0   | 0   | 6   | 10  | 4   | 4   | 4   | 5   | 7   | 4   | 2   | 5   | 51    |
| ストーマケア   | 33  | 23  | 24  | 14  | 27  | 17  | 33  | 28  | 33  | 30  | 23  | 24  | 309   |
| 疼痛コントロール | 2   | 0   | 0   | 0   | 0   | 0   | 0   | 1   | 3   | 0   | 0   | 2   | 8     |
| 食事指導     | 1   | 1   | 1   | 0   | 2   | 1   | 2   | 0   | 0   | 0   | 2   | 0   | 10    |
| 介護指導     | 0   | 0   | 0   | 0   | 0   | 0   | 0   | 0   | 0   | 0   | 0   | 0   | 0     |
| 心理援助     | 28  | 49  | 26  | 42  | 47  | 48  | 49  | 49  | 50  | 56  | 62  | 71  | 577   |
| 家族援助     | 6   | 8   | 11  | 7   | 7   | 3   | 5   | 8   | 5   | 3   | 2   | 2   | 67    |
| 退院準備     | 46  | 28  | 25  | 40  | 42  | 35  | 45  | 29  | 41  | 40  | 43  | 56  | 470   |
| 連絡調整     | 95  | 75  | 77  | 72  | 64  | 61  | 87  | 103 | 112 | 106 | 102 | 149 | 1,103 |
| 療養全般     | 41  | 42  | 37  | 51  | 46  | 41  | 40  | 38  | 46  | 34  | 37  | 34  | 487   |
| 医療相談     | 19  | 3   | 23  | 20  | 11  | 12  | 7   | 12  | 11  | 26  | 13  | 28  | 185   |
| その他      | 1   | 4   | 7   | 7   | 4   | 3   | 5   | 5   | 8   | 1   | 6   | 0   | 51    |
| 合計       | 311 | 265 | 293 | 307 | 305 | 272 | 320 | 346 | 381 | 359 | 358 | 430 | 3,947 |

・月別地域訪問看護ステーションとの連携件数

|              | 4月 | 5月 | 6月 | 7月 | 8月 | 9月 | 10月 | 11月 | 12月 | 1月 | 2月 | 3月 | 合計  |
|--------------|----|----|----|----|----|----|-----|-----|-----|----|----|----|-----|
| 連携件数（ステーション） | 5  | 7  | 6  | 8  | 6  | 3  | 13  | 11  | 13  | 12 | 9  | 16 | 109 |
| 連携件数（病診）     | 2  | 4  | 4  | 3  | 4  | 3  | 5   | 1   | 8   | 3  | 2  | 4  | 43  |

・診療科別化学療法件数

|         | 4月  | 5月  | 6月  | 7月  | 8月  | 9月  | 10月 | 11月 | 12月 | 1月  | 2月  | 3月  | 合計    |
|---------|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-------|
| 血液科     | 43  | 45  | 49  | 55  | 69  | 72  | 56  | 53  | 50  | 50  | 44  | 51  | 637   |
| 内分泌科    | 301 | 263 | 291 | 346 | 333 | 342 | 316 | 324 | 331 | 342 | 374 | 424 | 3,987 |
| 呼吸器科    | 189 | 170 | 148 | 160 | 161 | 178 | 143 | 131 | 136 | 145 | 152 | 173 | 1,886 |
| 消化器内科   | 89  | 91  | 126 | 99  | 102 | 124 | 118 | 142 | 117 | 116 | 127 | 158 | 1,409 |
| 消化器外科   | 76  | 62  | 72  | 63  | 68  | 71  | 61  | 67  | 63  | 76  | 71  | 69  | 819   |
| 胸部外科    | 10  | 14  | 10  | 12  | 20  | 17  | 28  | 26  | 21  | 29  | 23  | 30  | 240   |
| 脳神経外科   | 6   | 2   | 5   | 4   | 3   | 4   | 7   | 3   | 11  | 6   | 0   | 4   | 55    |
| 婦人科     | 12  | 19  | 11  | 8   | 8   | 9   | 11  | 12  | 12  | 16  | 19  | 23  | 160   |
| 放射線科    | 0   | 0   | 0   | 1   | 1   | 0   | 2   | 5   | 1   | 0   | 0   | 7   | 17    |
| 頭頸部外科   | 0   | 0   | 0   | 0   | 1   | 1   | 0   | 0   | 0   | 3   | 2   | 1   | 8     |
| 口腔外科    | 0   | 0   | 0   | 0   | 0   | 0   | 0   | 0   | 0   | 0   | 0   | 0   | 0     |
| 泌尿器科    | 6   | 5   | 5   | 5   | 6   | 6   | 6   | 4   | 4   | 5   | 4   | 3   | 59    |
| 皮膚科     | 0   | 0   | 0   | 0   | 0   | 0   | 0   | 0   | 0   | 0   | 0   | 0   | 0     |
| 乳腺外科    | 0   | 0   | 0   | 0   | 0   | 0   | 0   | 0   | 0   | 0   | 0   | 0   | 0     |
| 整形外科    | 0   | 0   | 0   | 0   | 0   | 0   | 0   | 0   | 0   | 0   | 0   | 0   | 0     |
| 総件数     | 732 | 671 | 717 | 753 | 772 | 824 | 748 | 767 | 746 | 788 | 816 | 943 | 9,277 |
| 1日平均患者数 | 35  | 37  | 33  | 36  | 35  | 41  | 37  | 38  | 39  | 41  | 43  | 43  | 38.2  |

10 薬剤業務統計  
・年の合計

|                                       |     | 調剤業務総計  | 外来調剤業務 | 入院調剤業務（無菌室含む） | 無菌室調剤業務 |
|---------------------------------------|-----|---------|--------|---------------|---------|
| 業 務 日 数                               |     |         |        |               |         |
| 外 来 実 枚 数                             |     | 4,606   | 4,606  | 365           | 243     |
| 調剤薬処方せん等取扱数<br>（麻薬を含む）<br>（外来は注射薬を含む） | 枚 数 | 52,901  | 4,606  | 48,295        | 0       |
|                                       | 件 数 | 90,003  | 6,119  | 83,884        | 0       |
|                                       | 剤 数 | 660,808 | 30,261 | 630,547       | 0       |
| 注射薬処方せん等取扱数                           | 枚 数 | 116,866 | 17,052 | 99,814        | 155     |
|                                       | 件 数 | 490,460 | 79,185 | 411,275       | 182     |
| 麻薬注射せん取扱数                             | 枚 数 | 9,588   | 125    | 9,463         | 0       |
|                                       | 件 数 | 9,588   | 125    | 9,463         | 0       |
| 製剤等取扱数                                | 枚 数 | 9,692   |        | 9,692         | 0       |
|                                       | 件 数 | 161,918 |        | 161,918       | 0       |

| ・ 1 日 平 均                             |     | 調剤業務総計  | 外来調剤業務 | 入院調剤業務（無菌室含む） | 無菌室調剤業務 |
|---------------------------------------|-----|---------|--------|---------------|---------|
| 外 来 実 枚 数                             |     | 19.0    | 19.0   |               |         |
| 調剤薬処方せん等取扱数<br>（麻薬を含む）<br>（外来は注射薬を含む） | 枚 数 | 151.3   | 19.0   | 132.3         | 0.0     |
|                                       | 件 数 | 255.0   | 25.2   | 229.8         | 0.0     |
|                                       | 剤 数 | 1,852.1 | 124.5  | 1,727.5       | 0.0     |
| 注射薬処方せん等取扱数                           | 枚 数 | 343.6   | 70.2   | 273.5         | 0.6     |
|                                       | 件 数 | 1,452.6 | 325.9  | 1,126.8       | 0.7     |
| 麻薬注射せん取扱数                             | 枚 数 | 26.4    | 0.5    | 25.9          | 0.0     |
|                                       | 件 数 | 26.4    | 0.5    | 25.9          | 0.0     |
| 製剤等取扱数                                | 枚 数 | 26.6    |        | 26.6          | 0.0     |
|                                       | 件 数 | 443.6   |        | 443.6         | 0.0     |

・ 抗がん剤混合調製実績（枚数） 平成16年度

|           | 4 月 | 5 月 | 6 月 | 7 月 | 8 月 | 9 月 | 10月 | 11月 | 12月 | 1 月 | 2 月 | 3 月   | 計      |
|-----------|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-------|--------|
| 総 処 方 枚 数 | 809 | 732 | 818 | 847 | 884 | 924 | 874 | 889 | 910 | 922 | 935 | 1,081 | 10,625 |
| 外 来       | 732 | 671 | 717 | 753 | 772 | 824 | 748 | 767 | 746 | 788 | 816 | 943   | 9,277  |
| 入 院       | 77  | 61  | 101 | 94  | 112 | 100 | 126 | 122 | 164 | 134 | 119 | 138   | 1,348  |

・ 抗がん剤混合調製実績（件数） 平成16年度

|       | 4 月   | 5 月   | 6 月   | 7 月   | 8 月   | 9 月   | 10月   | 11月   | 12月   | 1 月   | 2 月   | 3 月   | 計      |
|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|--------|
| 総 件 数 | 1,294 | 1,171 | 1,309 | 1,355 | 1,414 | 1,478 | 1,398 | 1,422 | 1,456 | 1,475 | 1,496 | 1,730 | 17,000 |
| 外 来   | 1,171 | 1,074 | 1,147 | 1,205 | 1,235 | 1,318 | 1,197 | 1,227 | 1,194 | 1,261 | 1,306 | 1,509 | 14,843 |
| 入 院   | 123   | 98    | 162   | 150   | 179   | 160   | 202   | 195   | 262   | 214   | 190   | 221   | 2,157  |

・ 薬剤管理指導業務の実績 平成16年度

| 指 導 数   | 4 月 | 5 月 | 6 月 | 7 月 | 8 月 | 9 月 | 10月 | 11月 | 12月 | 1 月 | 2 月 | 3 月 | 計     |
|---------|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-------|
| 算 定 件 数 | 362 | 287 | 395 | 394 | 413 | 387 | 356 | 407 | 331 | 343 | 372 | 436 | 4,483 |

・ 院外処方せん実績

| 項 目     | H13年度  | H14年度  | H15年度  | H16年度  |
|---------|--------|--------|--------|--------|
| 業 務 日 数 | 246    | 245    | 245    | 246    |
| 実 枚 数   | 56,689 | 58,691 | 69,493 | 63,744 |

・ 院外処方せん発行状況

|     | 外来総処方せん枚数<br>(A+B) | 院内外来処方せん枚数<br>(A) | 院外処方せん枚数<br>(B) | 院外処方割合<br>( B/(A+B) ) |
|-----|--------------------|-------------------|-----------------|-----------------------|
| 4 月 | 5,683              | 372               | 5,311           | 93.45%                |
| 5 月 | 4,820              | 326               | 4,494           | 93.24%                |
| 6 月 | 5,344              | 364               | 4,980           | 93.19%                |
| 7 月 | 5,411              | 390               | 5,021           | 92.79%                |
| 8 月 | 5,251              | 387               | 4,864           | 92.63%                |
| 9 月 | 5,295              | 363               | 4,932           | 93.14%                |
| 10月 | 5,062              | 288               | 4,774           | 94.31%                |
| 11月 | 5,539              | 468               | 5,071           | 91.55%                |
| 12月 | 5,443              | 419               | 5,024           | 92.30%                |
| 1 月 | 5,033              | 380               | 4,653           | 92.45%                |
| 2 月 | 5,080              | 418               | 4,662           | 91.77%                |
| 3 月 | 5,783              | 431               | 5,352           | 92.55%                |
| 合 計 | 63,744             | 4,606             | 59,138          | 92.77%                |

11 患者給食状況（食種別給食総数） [ ] は選択食再掲

| 区分    |         | 平成16年度             |       | 月 別 内 訳         |                 |                 |                 |                 |                 |                 |                 |                 |                 |                 |                 | (単位：食) |  |  |
|-------|---------|--------------------|-------|-----------------|-----------------|-----------------|-----------------|-----------------|-----------------|-----------------|-----------------|-----------------|-----------------|-----------------|-----------------|--------|--|--|
|       |         | 総数                 | 比率%   | 4月              | 5月              | 6月              | 7月              | 8月              | 9月              | 10月             | 11月             | 12月             | 1月              | 2月              | 3月              |        |  |  |
| 月別総数  |         | 297,444            | 100.0 | 24,911          | 23,313          | 25,962          | 26,338          | 26,015          | 25,252          | 25,327          | 25,145          | 23,785          | 21,395          | 23,634          | 26,367          |        |  |  |
| 一般食   | 常食      | 150,222<br>[6,180] | 50.5  | 12,074<br>[356] | 11,635<br>[352] | 13,194<br>[484] | 13,257<br>[286] | 12,894<br>[548] | 12,028<br>[512] | 12,524<br>[408] | 12,766<br>[624] | 12,074<br>[504] | 11,143<br>[398] | 12,853<br>[544] | 13,780<br>[794] |        |  |  |
|       | 軟菜      | 61,963             | 20.8  | 5,893           | 5,500           | 5,169           | 5,077           | 5,155           | 4,964           | 5,758           | 5,328           | 5,247           | 4,316           | 4,511           | 5,045           |        |  |  |
|       | 5分菜     | 6,273              | 2.1   | 356             | 428             | 483             | 590             | 684             | 539             | 500             | 491             | 682             | 495             | 505             | 520             |        |  |  |
|       | 3分菜     | 2,513              | 0.8   | 183             | 154             | 97              | 217             | 71              | 210             | 255             | 259             | 141             | 289             | 335             | 302             |        |  |  |
|       | 流動菜     | 5,549              | 1.9   | 450             | 480             | 306             | 415             | 480             | 655             | 424             | 559             | 724             | 333             | 342             | 381             |        |  |  |
|       | 希望限定食   | 6,684              | 2.2   | 351             | 381             | 562             | 462             | 866             | 682             | 720             | 569             | 305             | 496             | 629             | 661             |        |  |  |
|       | 子供食     | 157                | 0.1   | 0               | 0               | 0               | 0               | 0               | 71              | 52              | 15              | 0               | 0               | 0               | 19              |        |  |  |
|       | 小計      | 233,361            | 78.5  | 19,307          | 18,578          | 19,811          | 20,018          | 20,150          | 19,149          | 20,233          | 19,987          | 19,173          | 17,072          | 19,175          | 20,708          |        |  |  |
| 特別治療食 | 栄養エネルギー | 12,356             | 4.2   | 872             | 1,138           | 1,566           | 1,272           | 880             | 982             | 1,112           | 959             | 944             | 788             | 600             | 1,243           |        |  |  |
|       | たんぱく質   | 264                | 0.1   | 86              | 4               | 51              | 15              | 43              | 0               | 0               | 0               | 0               | 65              | 0               | 0               |        |  |  |
|       | 脂質      | 3,340              | 1.1   | 309             | 316             | 271             | 170             | 471             | 206             | 205             | 243             | 261             | 242             | 325             | 321             |        |  |  |
|       | 塩分      | 1,364              | 0.5   | 155             | 98              | 195             | 211             | 148             | 117             | 58              | 55              | 15              | 53              | 145             | 114             |        |  |  |
|       | 潰瘍食     | 1,844              | 0.6   | 107             | 50              | 171             | 338             | 154             | 203             | 323             | 85              | 20              | 106             | 133             | 154             |        |  |  |
|       | 低残渣食    | 7,767              | 2.6   | 773             | 629             | 624             | 474             | 614             | 480             | 596             | 750             | 663             | 758             | 641             | 765             |        |  |  |
|       | 消化器食    | 23,856             | 8.0   | 2,471           | 1,582           | 1,974           | 2,322           | 2,386           | 2,801           | 1,789           | 1,801           | 1,572           | 1,325           | 1,714           | 2,119           |        |  |  |
|       | ミキサー食   | 6,849              | 2.3   | 531             | 528             | 595             | 921             | 648             | 644             | 383             | 763             | 648             | 354             | 381             | 453             |        |  |  |
|       | 放治食     | 851                | 0.3   | 0               | 5               | 154             | 135             | 134             | 141             | 118             | 13              | 89              | 0               | 0               | 62              |        |  |  |
|       | 経管栄養    | 3,190              | 1.1   | 167             | 175             | 266             | 264             | 249             | 372             | 359             | 352             | 243             | 315             | 224             | 204             |        |  |  |
|       | 無菌食     | 406<br>[20]        | 0.1   | 39              | 90              | 112<br>[6]      | 78<br>[6]       | 38<br>[6]       | 42<br>[2]       | 4               | 0               | 2               | 0               | 0               | 1               |        |  |  |
|       | 緩和ケア食   | 1,525<br>[176]     | 0.5   | 79              | 109             | 127             | 83              | 4<br>[2]        | 82<br>[26]      | 118<br>[26]     | 88<br>[24]      | 104<br>[26]     | 283<br>[20]     | 249<br>[24]     | 199<br>[28]     |        |  |  |
|       | 離乳食     | 0                  | 0.0   | 0               | 0               | 0               | 0               | 0               | 0               | 0               | 0               | 0               | 0               | 0               | 0               |        |  |  |
|       | 小計      | 63,612             | 21.4  | 5,589           | 4,724           | 6,106           | 6,283           | 5,769           | 6,070           | 5,065           | 5,109           | 4,561           | 4,289           | 4,412           | 5,635           |        |  |  |
| 検査食   | ヨード禁食   | 153                | 0.1   | 3               | 1               | 12              | 11              | 36              | 0               | 14              | 19              | 31              | 15              | 11              | 0               |        |  |  |
|       | 注腸検査食   | 318                | 0.1   | 12              | 10              | 33              | 26              | 60              | 33              | 15              | 30              | 20              | 19              | 36              | 24              |        |  |  |
|       | 小計      | 471                | 0.2   | 15              | 11              | 45              | 37              | 96              | 33              | 29              | 49              | 51              | 34              | 47              | 24              |        |  |  |

## 12 検査技術部病理業務統計

| 区 分 | 4月 | 5月 | 6月 | 7月 | 8月 | 9月 | 10月 | 11月 | 12月 | 1月 | 2月 | 3月 | 合 計 |
|-----|----|----|----|----|----|----|-----|-----|-----|----|----|----|-----|
|-----|----|----|----|----|----|----|-----|-----|-----|----|----|----|-----|

### 1) 解剖例数（死亡患者数：緩和ケアを除く）

|             |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |     |
|-------------|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|-----|
| 死 亡 患 者 数   | 43 | 34 | 35 | 46 | 56 | 39 | 35 | 53 | 50 | 39 | 39 | 48 | 517 |
| 解 剖 数       | 4  | 2  | 4  | 2  | 2  | 2  | 4  | 2  | 2  | 3  | 2  | 2  | 31  |
| 解 剖 率 （ % ） | 9  | 6  | 11 | 4  | 4  | 5  | 11 | 4  | 4  | 8  | 5  | 4  | 6   |

### 2) 組織検査数

|         |     |     |     |     |     |     |     |     |     |     |     |     |       |
|---------|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-------|
| 手 術 材 料 | 192 | 169 | 197 | 203 | 213 | 187 | 168 | 211 | 212 | 200 | 216 | 240 | 2,408 |
| 生 検     | 501 | 438 | 605 | 537 | 590 | 552 | 525 | 594 | 627 | 618 | 586 | 690 | 6,863 |
| 受 託     | 9   | 11  | 20  | 16  | 8   | 13  | 17  | 13  | 17  | 13  | 19  | 12  | 168   |
| 総 数     | 702 | 618 | 822 | 756 | 811 | 752 | 710 | 818 | 856 | 831 | 821 | 942 | 9,439 |

### 3) 術中迅速診断数

|     |     |     |     |     |     |     |     |     |     |     |     |     |       |
|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-------|
| 件 数 | 166 | 142 | 178 | 189 | 282 | 213 | 151 | 176 | 119 | 173 | 293 | 351 | 2,433 |
|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-------|

4) 細胞診件数

|   |   |     |     |     |     |     |     |     |     |     |     |     |     |       |
|---|---|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-------|
| 子 | 宮 | 404 | 436 | 499 | 400 | 470 | 376 | 456 | 465 | 505 | 461 | 426 | 492 | 5,390 |
|   | 肺 | 100 | 55  | 100 | 74  | 108 | 110 | 99  | 106 | 112 | 80  | 93  | 137 | 1,174 |
| 乳 | 腺 | 9   | 10  | 24  | 14  | 18  | 20  | 14  | 6   | 26  | 12  | 15  | 11  | 179   |
| そ | の | 202 | 139 | 167 | 187 | 205 | 210 | 152 | 196 | 165 | 186 | 177 | 226 | 2,212 |
| 総 | 数 | 715 | 640 | 790 | 675 | 801 | 716 | 721 | 773 | 808 | 739 | 711 | 866 | 8,955 |

5) 術中迅速細胞診断数

|   |   |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |     |
|---|---|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|-----|
| 件 | 数 | 18 | 17 | 12 | 19 | 19 | 26 | 15 | 15 | 15 | 11 | 17 | 18 | 202 |
|---|---|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|-----|

### 13 医療社会事業業務統計

#### 1) 相談取扱件数

| 年 度    | 相談実人員<br>(内新規相談) | 相談延件数 |
|--------|------------------|-------|
| 平成15年度 | 1,394<br>624     | 2,535 |
| 平成16年度 | 1,964<br>1,215   | 5,668 |

#### 2) ケース紹介経路

| 区分     | 医師  | 看護婦  | 他職種 | 院外  | 直接   | その他 | 計     |
|--------|-----|------|-----|-----|------|-----|-------|
| 平成15年度 | 34  | 253  | 15  | 37  | 255  | 30  | 624   |
| 件数(比率) | 5.5 | 40.5 | 2.4 | 5.9 | 40.9 | 4.8 | 100.0 |
| 平成16年度 | 116 | 338  | 20  | 88  | 568  | 85  | 1215  |
| 件数(比率) | 9.6 | 27.8 | 1.6 | 7.2 | 46.8 | 7.0 | 100.0 |

#### 3) 内容別相談件数

|         | 平成15年度<br>相談実件数 | 比率(%) | 平成16年度<br>相談実件数 | 比率(%) | 内 容                                                                  |
|---------|-----------------|-------|-----------------|-------|----------------------------------------------------------------------|
| 受診の関係   | 75              | 2.9   | 255             | 4.5   | 受診に関する電話、窓口照会のうち、複雑なもの。(主として、院外。)福祉、保健、医療機関からの照会に関する事。               |
| 退院の関係   | 629             | 24.8  | 1,265           | 22.3  | 退院(転院)に伴う、社会資源の紹介や、諸条件の整備に関する事。<br>退院(転院)に伴う、精神的な不安に関する相談。           |
| 医 療 費   | 975             | 38.5  | 2,259           | 39.9  | 診療費の支払いに関する相談。公費医療の取扱いに関する調整。<br>相談に伴う、社会保障、社会福祉制度の活用に関する事。          |
| 経済的問題   | 100             | 3.9   | 289             | 5.1   | 療養中の生活費等に関する相談。相談に伴う、社会保障、社会福祉制度の活用に関する事。<br>年金の受給等に関する事。            |
| 身 障 手 帳 | 170             | 6.7   | 224             | 3.9   | 身体障害者手帳の申請に関する相談。<br>身体障害者福祉法に関する制度の説明と活用に関する事。                      |
| 心理社会的問題 | 415             | 16.4  | 701             | 12.4  | 療養生活から派生する患者、家族の社会的、心理的問題への対応。<br>単身者、高齢者等の日常生活の支援に関する事。患者会、家族会等の紹介。 |
| 地 域 活 動 | 1               | 0.1   | 4               | 0.1   | 既存の制度で対応困難な問題に対して、関係機関に協力を求める事。<br>新たな社会資源の開発に関する事。                  |
| 緩 和 ケ ア | 124             | 4.9   | 525             | 9.2   | 緩和ケア電話相談、緩和ケア直接相談に関する事。                                              |
| そ の 他   | 46              | 1.8   | 146             | 2.6   | 院内の他職種との連絡調整に関する事。<br>社会福祉、医療関係機関との連絡調整に関する事。                        |
| 計       | 2,535           | 100.0 | 5,668           | 100.0 |                                                                      |

# 14 院内がん登録 新規登録件数（第10回修正国際疾病分類）

良性新生物・性状不祥の新生物を参考計上

平成12年1月1日～平成16年12月31日

| 年別及び性別<br>部位等       |               | 総 数    |       |       | 12 年  |       |       | 13 年  |       |       | 14 年  |       |       | 15 年  |       |       | 16 年  |       |       |
|---------------------|---------------|--------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|
|                     |               | 計      | 男     | 女     | 計     | 男     | 女     | 計     | 男     | 女     | 計     | 男     | 女     | 計     | 男     | 女     | 計     | 男     | 女     |
| 総数(悪性新生物+非新生物)      |               | 12,773 | 6,500 | 6,273 | 2,186 | 1,082 | 1,104 | 2,360 | 1,167 | 1,193 | 2,520 | 1,284 | 1,236 | 2,801 | 1,450 | 1,351 | 2,906 | 1,517 | 1,389 |
| 悪 性 新 生 物           |               | 11,370 | 6,081 | 5,289 | 1,874 | 1,000 | 874   | 2,097 | 1,101 | 996   | 2,243 | 1,202 | 1,041 | 2,495 | 1,354 | 1,141 | 2,661 | 1,424 | 1,237 |
| 口 唇、口 腔 及 び 咽 頭     | 口 唇           | 2      | 0     | 2     | 0     | 0     | 0     | 0     | 0     | 0     | 1     | 0     | 1     | 1     | 0     | 1     | 0     | 0     | 0     |
|                     | 舌 根（基 底）部     | 34     | 29    | 5     | 2     | 2     | 0     | 7     | 6     | 1     | 9     | 8     | 1     | 10    | 8     | 2     | 6     | 5     | 1     |
|                     | その他及び部位不明の舌   | 254    | 160   | 94    | 32    | 19    | 13    | 53    | 33    | 20    | 59    | 41    | 18    | 60    | 36    | 24    | 50    | 31    | 19    |
|                     | 歯 肉           | 101    | 52    | 49    | 17    | 12    | 5     | 14    | 8     | 6     | 22    | 11    | 11    | 18    | 10    | 8     | 30    | 11    | 19    |
|                     | 口 腔 底         | 51     | 42    | 9     | 7     | 6     | 1     | 13    | 13    | 0     | 7     | 5     | 2     | 7     | 6     | 1     | 17    | 12    | 5     |
|                     | 口 蓋           | 15     | 14    | 1     | 1     | 1     | 0     | 3     | 3     | 0     | 4     | 4     | 0     | 5     | 5     | 0     | 2     | 1     | 1     |
|                     | その他&部位不明の口腔   | 64     | 26    | 38    | 13    | 7     | 6     | 12    | 3     | 9     | 8     | 2     | 6     | 12    | 7     | 5     | 19    | 7     | 12    |
|                     | 耳 下 腺         | 36     | 25    | 11    | 6     | 3     | 3     | 10    | 6     | 4     | 4     | 3     | 1     | 10    | 8     | 2     | 6     | 5     | 1     |
|                     | 部位不明の大唾液腺     | 26     | 18    | 8     | 3     | 2     | 1     | 4     | 4     | 0     | 5     | 4     | 1     | 9     | 5     | 4     | 5     | 3     | 2     |
|                     | 扁桃腺           | 1      | 1     | 0     | 1     | 1     | 0     | 0     | 0     | 0     | 0     | 0     | 0     | 0     | 0     | 0     | 0     | 0     | 0     |
|                     | 中 咽 頭         | 71     | 58    | 13    | 11    | 9     | 2     | 20    | 17    | 3     | 11    | 10    | 1     | 15    | 11    | 4     | 14    | 11    | 3     |
|                     | 鼻 < 上 > 咽 頭   | 58     | 42    | 16    | 9     | 3     | 6     | 17    | 15    | 2     | 14    | 9     | 5     | 9     | 9     | 0     | 9     | 6     | 3     |
|                     | 梨 状 陥 凹 < 洞 > | 103    | 91    | 12    | 24    | 21    | 3     | 14    | 13    | 1     | 20    | 19    | 1     | 22    | 20    | 2     | 23    | 18    | 5     |
|                     | 下 咽 頭         | 72     | 52    | 20    | 11    | 8     | 3     | 20    | 16    | 4     | 17    | 10    | 7     | 10    | 7     | 3     | 14    | 11    | 3     |
|                     | 部位不明の咽頭、口腔他   | 8      | 5     | 3     | 3     | 2     | 1     | 0     | 0     | 0     | 2     | 1     | 1     | 2     | 1     | 1     | 1     | 1     | 0     |
| 計                   |               | 896    | 615   | 281   | 140   | 96    | 44    | 187   | 137   | 50    | 183   | 127   | 56    | 190   | 133   | 57    | 196   | 122   | 74    |
| 消 化 器               | 食 道           | 545    | 488   | 57    | 80    | 71    | 9     | 101   | 90    | 11    | 95    | 84    | 11    | 131   | 125   | 6     | 138   | 118   | 20    |
|                     | 胃             | 1,570  | 1,132 | 438   | 253   | 185   | 68    | 287   | 201   | 86    | 293   | 218   | 75    | 363   | 257   | 106   | 374   | 271   | 103   |
|                     | 小 腸           | 33     | 24    | 9     | 4     | 4     | 0     | 2     | 2     | 0     | 6     | 6     | 0     | 13    | 6     | 7     | 8     | 6     | 2     |
|                     | 結 腸           | 656    | 375   | 281   | 107   | 53    | 54    | 120   | 72    | 48    | 128   | 76    | 52    | 143   | 74    | 69    | 158   | 100   | 58    |
|                     | 直腸S状結腸移行部     | 114    | 70    | 44    | 13    | 11    | 2     | 22    | 13    | 9     | 24    | 13    | 11    | 25    | 15    | 10    | 30    | 18    | 12    |
|                     | 直 腸           | 312    | 222   | 90    | 44    | 33    | 11    | 59    | 40    | 19    | 51    | 37    | 14    | 74    | 53    | 21    | 84    | 59    | 25    |
|                     | 肛 門 及 び 肛 門 管 | 3      | 3     | 0     | 0     | 0     | 0     | 2     | 2     | 0     | 0     | 0     | 0     | 0     | 0     | 0     | 1     | 1     | 0     |
|                     | 肝 及 び 肝 内 胆 管 | 375    | 308   | 67    | 73    | 61    | 12    | 70    | 57    | 13    | 83    | 64    | 19    | 77    | 66    | 11    | 72    | 60    | 12    |
|                     | 胆 の う < 嚢 >   | 65     | 37    | 28    | 4     | 2     | 2     | 14    | 9     | 5     | 9     | 4     | 5     | 18    | 10    | 8     | 20    | 12    | 8     |
|                     | その他&部位不明の胆道   | 80     | 43    | 37    | 13    | 6     | 7     | 17    | 9     | 8     | 13    | 6     | 7     | 17    | 10    | 7     | 20    | 12    | 8     |
|                     | 膵             | 250    | 155   | 95    | 36    | 26    | 10    | 42    | 21    | 21    | 51    | 28    | 23    | 65    | 39    | 26    | 56    | 41    | 15    |
|                     | 部位不明の消化器      | 5      | 2     | 3     | 0     | 0     | 0     | 0     | 0     | 0     | 1     | 0     | 1     | 0     | 0     | 0     | 4     | 2     | 2     |
| 計                   |               | 4,008  | 2,859 | 1,149 | 627   | 452   | 175   | 736   | 516   | 220   | 754   | 536   | 218   | 926   | 655   | 271   | 965   | 700   | 265   |
| 呼 吸 器 及 び 胸 腔 内 臓 器 | 鼻 腔 及 び 中 耳   | 14     | 11    | 3     | 1     | 1     | 0     | 1     | 0     | 1     | 3     | 3     | 0     | 4     | 3     | 1     | 5     | 4     | 1     |
|                     | 副 鼻 腔         | 73     | 51    | 22    | 19    | 12    | 7     | 13    | 7     | 6     | 13    | 10    | 3     | 10    | 7     | 3     | 18    | 15    | 3     |
|                     | 喉 頭           | 194    | 185   | 9     | 25    | 24    | 1     | 38    | 38    | 0     | 41    | 37    | 4     | 42    | 39    | 3     | 48    | 47    | 1     |
|                     | 気 管           | 2      | 2     | 0     | 0     | 0     | 0     | 0     | 0     | 0     | 1     | 1     | 0     | 0     | 0     | 0     | 1     | 1     | 0     |
|                     | 気 管 支 及 び 肺   | 1,510  | 1,137 | 373   | 252   | 196   | 56    | 236   | 181   | 55    | 320   | 237   | 83    | 352   | 260   | 92    | 350   | 263   | 87    |
|                     | 胸 腺           | 8      | 7     | 1     | 0     | 0     | 0     | 1     | 1     | 0     | 4     | 4     | 0     | 3     | 2     | 1     | 0     | 0     | 0     |
|                     | 心臓、縦隔及び胸膜     | 23     | 18    | 5     | 8     | 6     | 2     | 2     | 2     | 0     | 7     | 5     | 2     | 3     | 2     | 1     | 3     | 3     | 0     |
|                     | 部位不明の呼吸器      | 1      | 1     | 0     | 0     | 0     | 0     | 1     | 1     | 0     | 0     | 0     | 0     | 0     | 0     | 0     | 0     | 0     | 0     |
|                     | 計             | 1,825  | 1,412 | 413   | 305   | 239   | 66    | 292   | 230   | 62    | 389   | 297   | 92    | 414   | 313   | 101   | 425   | 333   | 92    |
| 間 接 骨 及 軟 骨         | 四肢の骨及び関節軟骨    | 28     | 17    | 11    | 5     | 3     | 2     | 3     | 2     | 1     | 5     | 3     | 2     | 8     | 4     | 4     | 7     | 5     | 2     |
|                     | 部位不明の骨、関節軟骨   | 15     | 7     | 8     | 3     | 2     | 1     | 2     | 1     | 1     | 2     | 1     | 1     | 4     | 1     | 3     | 4     | 2     | 2     |
| 計                   |               | 43     | 24    | 19    | 8     | 5     | 3     | 5     | 3     | 2     | 7     | 4     | 3     | 12    | 5     | 7     | 11    | 7     | 4     |
| 皮 膚                 | 皮膚の悪性黒色腫      | 62     | 29    | 33    | 14    | 6     | 8     | 13    | 5     | 8     | 10    | 4     | 6     | 12    | 4     | 8     | 13    | 10    | 3     |
|                     | 皮膚のその他悪性新生物   | 134    | 77    | 57    | 21    | 14    | 7     | 24    | 12    | 12    | 22    | 12    | 10    | 34    | 21    | 13    | 33    | 18    | 15    |
|                     | 計             | 196    | 106   | 90    | 35    | 20    | 15    | 37    | 17    | 20    | 32    | 16    | 16    | 46    | 25    | 21    | 46    | 28    | 18    |
| 中 皮 及 び 軟 部 組 織     | 中 皮 種         | 23     | 18    | 5     | 4     | 3     | 1     | 3     | 3     | 0     | 8     | 7     | 1     | 3     | 2     | 1     | 5     | 3     | 2     |
|                     | カ ボ ジ 肉 腫     | 0      | 0     | 0     | 0     | 0     | 0     | 0     | 0     | 0     | 0     | 0     | 0     | 0     | 0     | 0     | 0     | 0     | 0     |
|                     | 末梢神経及び自律神経系   | 3      | 2     | 1     | 1     | 0     | 1     | 0     | 0     | 0     | 1     | 1     | 0     | 1     | 1     | 0     | 0     | 0     | 0     |
|                     | 後 腹 膜 及 び 腹 膜 | 18     | 10    | 8     | 3     | 1     | 2     | 0     | 0     | 0     | 4     | 3     | 1     | 3     | 2     | 1     | 8     | 4     | 4     |
|                     | その他結合、軟部組織    | 77     | 43    | 34    | 18    | 9     | 9     | 16    | 12    | 4     | 17    | 11    | 6     | 8     | 3     | 5     | 18    | 8     | 10    |
|                     | 計             | 121    | 73    | 48    | 26    | 13    | 13    | 19    | 15    | 4     | 30    | 22    | 8     | 15    | 8     | 7     | 31    | 15    | 16    |
| 乳 房                 | 乳 房           | 1,788  | 11    | 1,777 | 288   | 1     | 287   | 318   | 2     | 316   | 327   | 4     | 323   | 377   | 2     | 375   | 478   | 2     | 476   |

| 年別及び性別<br>部位等                                            |               | 総 数   |     |     | 12 年 |    |     | 13 年 |    |     | 14 年 |    |     | 15 年 |    |     | 16 年 |    |     |
|----------------------------------------------------------|---------------|-------|-----|-----|------|----|-----|------|----|-----|------|----|-----|------|----|-----|------|----|-----|
|                                                          |               | 計     | 男   | 女   | 計    | 男  | 女   | 計    | 男  | 女   | 計    | 男  | 女   | 計    | 男  | 女   | 計    | 男  | 女   |
| 女性<br>性器                                                 | 外 陰           | 23    | 0   | 23  | 2    | 0  | 2   | 4    | 0  | 4   | 3    | 0  | 3   | 8    | 0  | 8   | 6    | 0  | 6   |
|                                                          | 膣             | 7     | 0   | 7   | 0    | 0  | 0   | 2    | 0  | 2   | 0    | 0  | 0   | 4    | 0  | 4   | 1    | 0  | 1   |
|                                                          | 子 宮 頸         | 407   | 0   | 407 | 70   | 0  | 70  | 93   | 0  | 93  | 87   | 0  | 87  | 83   | 0  | 83  | 74   | 0  | 74  |
|                                                          | 子 宮 体 部       | 339   | 0   | 339 | 74   | 0  | 74  | 70   | 0  | 70  | 69   | 0  | 69  | 71   | 0  | 71  | 55   | 0  | 55  |
|                                                          | 子宮、部位不明       | 4     | 0   | 4   | 1    | 0  | 1   | 0    | 0  | 0   | 1    | 0  | 1   | 1    | 0  | 1   | 1    | 0  | 1   |
|                                                          | 卵 巢           | 187   | 0   | 187 | 32   | 0  | 32  | 39   | 0  | 39  | 54   | 0  | 54  | 35   | 0  | 35  | 27   | 0  | 27  |
|                                                          | 部位不明の女性性器     | 6     | 0   | 6   | 1    | 0  | 1   | 3    | 0  | 3   | 2    | 0  | 2   | 0    | 0  | 0   | 0    | 0  | 0   |
|                                                          | 胎 盤           | 0     | 0   | 0   | 0    | 0  | 0   | 0    | 0  | 0   | 0    | 0  | 0   | 0    | 0  | 0   | 0    | 0  | 0   |
|                                                          | 計             | 973   | 0   | 973 | 180  | 0  | 180 | 211  | 0  | 211 | 216  | 0  | 216 | 202  | 0  | 202 | 164  | 0  | 164 |
| 男性<br>性器                                                 | 陰 茎           | 13    | 13  | 0   | 1    | 1  | 0   | 4    | 4  | 0   | 4    | 4  | 0   | 3    | 3  | 0   | 1    | 1  | 0   |
|                                                          | 前 立 腺         | 164   | 164 | 0   | 32   | 32 | 0   | 28   | 28 | 0   | 29   | 29 | 0   | 42   | 42 | 0   | 33   | 33 | 0   |
|                                                          | 精 巢 < 睪 丸 >   | 43    | 43  | 0   | 12   | 12 | 0   | 5    | 5  | 0   | 10   | 10 | 0   | 7    | 7  | 0   | 9    | 9  | 0   |
|                                                          | 部位不明の男性性器     | 3     | 3   | 0   | 1    | 1  | 0   | 0    | 0  | 0   | 0    | 0  | 0   | 0    | 0  | 0   | 2    | 2  | 0   |
|                                                          | 計             | 223   | 223 | 0   | 46   | 46 | 0   | 37   | 37 | 0   | 43   | 43 | 0   | 52   | 52 | 0   | 45   | 45 | 0   |
| 尿<br>路                                                   | 腎 盂 を 除 く 腎   | 0     | 80  | 38  | 18   | 14 | 4   | 22   | 14 | 8   | 32   | 20 | 12  | 16   | 11 | 5   | 30   | 21 | 9   |
|                                                          | 腎 盂           | 27    | 22  | 5   | 4    | 4  | 0   | 6    | 4  | 2   | 6    | 5  | 1   | 6    | 5  | 1   | 5    | 4  | 1   |
|                                                          | 尿 管           | 25    | 13  | 12  | 7    | 4  | 3   | 3    | 3  | 0   | 4    | 2  | 2   | 5    | 1  | 4   | 6    | 3  | 3   |
|                                                          | 膀 胱           | 169   | 136 | 33  | 21   | 16 | 5   | 43   | 33 | 10  | 37   | 31 | 6   | 34   | 28 | 6   | 34   | 28 | 6   |
|                                                          | 部位不明の泌尿器      | 4     | 1   | 3   | 1    | 1  | 0   | 0    | 0  | 0   | 1    | 0  | 1   | 0    | 0  | 0   | 2    | 0  | 2   |
|                                                          | 計             | 343   | 252 | 91  | 51   | 39 | 12  | 74   | 54 | 20  | 80   | 58 | 22  | 61   | 45 | 16  | 77   | 56 | 21  |
| 眼<br>脳<br>中<br>枢<br>神<br>経<br>系                          | 眼 及 び 付 属 器   | 5     | 4   | 1   | 2    | 1  | 1   | 0    | 0  | 0   | 0    | 0  | 0   | 1    | 1  | 0   | 2    | 2  | 0   |
|                                                          | 髄 膜           | 1     | 0   | 1   | 0    | 0  | 0   | 0    | 0  | 0   | 0    | 0  | 0   | 1    | 0  | 1   | 0    | 0  | 0   |
|                                                          | 脳             | 34    | 21  | 13  | 0    | 0  | 0   | 6    | 4  | 2   | 6    | 5  | 1   | 7    | 4  | 3   | 15   | 8  | 7   |
|                                                          | 中枢神経系のその他の部位  | 0     | 0   | 0   | 0    | 0  | 0   | 0    | 0  | 0   | 0    | 0  | 0   | 0    | 0  | 0   | 0    | 0  | 0   |
|                                                          | 計             | 40    | 25  | 15  | 2    | 1  | 1   | 6    | 4  | 2   | 6    | 5  | 1   | 9    | 5  | 4   | 17   | 10 | 7   |
| 他<br>甲<br>内<br>分<br>泌<br>腺<br>の<br>腺                     | 甲 状 腺         | 137   | 39  | 98  | 18   | 5  | 13  | 23   | 6  | 17  | 28   | 7  | 21  | 28   | 7  | 21  | 40   | 14 | 26  |
|                                                          | 副 腎           | 0     | 0   | 0   | 0    | 0  | 0   | 0    | 0  | 0   | 0    | 0  | 0   | 0    | 0  | 0   | 0    | 0  | 0   |
|                                                          | その他の内分泌腺      | 2     | 2   | 0   | 0    | 0  | 0   | 0    | 0  | 0   | 0    | 0  | 0   | 2    | 2  | 0   | 0    | 0  | 0   |
|                                                          | 計             | 139   | 41  | 98  | 18   | 5  | 13  | 23   | 6  | 17  | 28   | 7  | 21  | 30   | 9  | 21  | 40   | 14 | 26  |
|                                                          | 部位不明及び転移      | 9     | 6   | 3   | 1    | 0  | 1   | 2    | 2  | 0   | 2    | 1  | 1   | 3    | 3  | 0   | 1    | 0  | 1   |
| リン<br>パ<br>組<br>織<br>及<br>び<br>造<br>血<br>組<br>織          | リンパ節の続発性      | 1     | 0   | 1   | 1    | 0  | 1   | 0    | 0  | 0   | 0    | 0  | 0   | 0    | 0  | 0   | 0    | 0  | 0   |
|                                                          | 呼吸器・消化器の続発性   | 0     | 0   | 0   | 0    | 0  | 0   | 0    | 0  | 0   | 0    | 0  | 0   | 0    | 0  | 0   | 0    | 0  | 0   |
|                                                          | その他の部位の続発性    | 0     | 0   | 0   | 0    | 0  | 0   | 0    | 0  | 0   | 0    | 0  | 0   | 0    | 0  | 0   | 0    | 0  | 0   |
|                                                          | 部位の明示されないもの   | 123   | 79  | 44  | 17   | 10 | 7   | 15   | 7  | 8   | 24   | 11 | 13  | 31   | 25 | 6   | 36   | 26 | 10  |
|                                                          | 計             | 133   | 85  | 48  | 19   | 10 | 9   | 17   | 9  | 8   | 26   | 12 | 14  | 34   | 28 | 6   | 37   | 26 | 11  |
|                                                          | ホ ジ キ ン 病     | 8     | 5   | 3   | 1    | 1  | 0   | 2    | 0  | 2   | 0    | 0  | 0   | 2    | 2  | 0   | 3    | 2  | 1   |
|                                                          | ろ胞性非ホジキン腫     | 2     | 0   | 2   | 0    | 0  | 0   | 1    | 0  | 1   | 0    | 0  | 0   | 0    | 0  | 0   | 1    | 0  | 1   |
|                                                          | びまん性非ホジキン腫    | 9     | 4   | 5   | 0    | 0  | 0   | 3    | 1  | 2   | 2    | 2  | 0   | 2    | 0  | 2   | 2    | 1  | 1   |
|                                                          | 末梢性リンパ腫       | 4     | 3   | 1   | 0    | 0  | 0   | 0    | 0  | 0   | 1    | 1  | 0   | 0    | 0  | 0   | 3    | 2  | 1   |
|                                                          | 非ホジキン腫のその他    | 377   | 210 | 167 | 67   | 39 | 28  | 70   | 38 | 32  | 67   | 36 | 31  | 80   | 45 | 35  | 93   | 52 | 41  |
|                                                          | 悪性免疫増殖性疾患     | 1     | 1   | 0   | 1    | 1  | 0   | 0    | 0  | 0   | 0    | 0  | 0   | 0    | 0  | 0   | 0    | 0  | 0   |
|                                                          | 多 発 性 骨 髄 腫   | 47    | 24  | 23  | 11   | 6  | 5   | 15   | 7  | 8   | 6    | 4  | 2   | 8    | 5  | 3   | 7    | 2  | 5   |
|                                                          | リンパ性白血病       | 41    | 20  | 21  | 10   | 5  | 5   | 9    | 7  | 2   | 7    | 4  | 3   | 8    | 2  | 6   | 7    | 2  | 5   |
|                                                          | 骨 髄 性 白 血 病   | 149   | 86  | 63  | 38   | 20 | 18  | 34   | 17 | 17  | 39   | 24 | 15  | 26   | 20 | 6   | 12   | 5  | 7   |
|                                                          | 単 球 性 白 血 病   | 0     | 0   | 0   | 0    | 0  | 0   | 0    | 0  | 0   | 0    | 0  | 0   | 0    | 0  | 0   | 0    | 0  | 0   |
|                                                          | その他明示された白血病   | 0     | 0   | 0   | 0    | 0  | 0   | 0    | 0  | 0   | 0    | 0  | 0   | 0    | 0  | 0   | 0    | 0  | 0   |
|                                                          | 細胞型不明の白血病     | 3     | 2   | 1   | 1    | 1  | 0   | 1    | 1  | 0   | 0    | 0  | 0   | 0    | 0  | 0   | 1    | 0  | 1   |
|                                                          | リンパ・造血組織の不明   | 1     | 0   | 1   | 0    | 0  | 0   | 0    | 0  | 0   | 0    | 0  | 0   | 1    | 0  | 1   | 0    | 0  | 0   |
|                                                          | 計             | 642   | 355 | 287 | 129  | 73 | 56  | 135  | 71 | 64  | 122  | 71 | 51  | 127  | 74 | 53  | 129  | 66 | 63  |
| そ<br>上<br>の<br>皮<br>内<br>腫<br>瘍<br>及<br>び<br>新<br>生<br>物 | 上 皮 内 癌       | 409   | 39  | 370 | 93   | 5  | 88  | 73   | 5  | 68  | 90   | 7  | 83  | 85   | 8  | 77  | 68   | 14 | 54  |
|                                                          | 子 宮 頸 （ 再 掲 ） | 247   | 0   | 247 | 68   | 0  | 68  | 43   | 0  | 43  | 61   | 0  | 61  | 53   | 0  | 53  | 22   | 0  | 22  |
|                                                          | 良 性 新 生 物     | 843   | 294 | 549 | 189  | 64 | 125 | 164  | 46 | 118 | 147  | 49 | 98  | 190  | 67 | 123 | 153  | 68 | 85  |
|                                                          | 性状不祥の新生物      | 134   | 76  | 58  | 26   | 10 | 16  | 23   | 15 | 8   | 30   | 19 | 11  | 31   | 21 | 10  | 24   | 11 | 13  |
|                                                          | 計             | 1,379 | 404 | 975 | 308  | 79 | 229 | 260  | 66 | 194 | 267  | 75 | 192 | 306  | 96 | 210 | 238  | 88 | 150 |

15 部位別・性別患者相対生存率

期間 平成7年～平成11年までの初回入院 当初患者数20未満は未掲載

| 原発部位          | 性別 | 1年生存率  | 標準誤差  | 2年生存率  | 標準誤差  | 3年生存率  | 標準誤差  | 4年生存率  | 標準誤差  | 5年生存率  | 標準誤差  | 当初患者数 |
|---------------|----|--------|-------|--------|-------|--------|-------|--------|-------|--------|-------|-------|
| 【対象全部位】       | 合計 | 0.8051 | 0.005 | 0.6937 | 0.006 | 0.6385 | 0.006 | 0.6037 | 0.007 | 0.5751 | 0.007 | 5598  |
|               | 男性 | 0.7328 | 0.008 | 0.5933 | 0.009 | 0.5261 | 0.010 | 0.4894 | 0.010 | 0.4605 | 0.010 | 2785  |
|               | 女性 | 0.8766 | 0.006 | 0.7931 | 0.008 | 0.7497 | 0.008 | 0.7168 | 0.008 | 0.6884 | 0.009 | 2813  |
| 舌             | 合計 | 0.8387 | 0.033 | 0.6855 | 0.042 | 0.6452 | 0.043 | 0.6210 | 0.044 | 0.5801 | 0.044 | 124   |
|               | 男性 | 0.8356 | 0.043 | 0.6575 | 0.056 | 0.6164 | 0.057 | 0.5753 | 0.058 | 0.5052 | 0.059 | 73    |
|               | 女性 | 0.8431 | 0.051 | 0.7255 | 0.062 | 0.6863 | 0.065 | 0.6863 | 0.065 | 0.6863 | 0.065 | 51    |
| 歯肉            | 合計 | 0.6744 | 0.071 | 0.5349 | 0.076 | 0.4651 | 0.076 | 0.4651 | 0.076 | 0.4186 | 0.075 | 43    |
|               | 男性 | 0.6400 | 0.096 | 0.5200 | 0.100 | 0.4400 | 0.099 | 0.4400 | 0.099 | 0.4000 | 0.098 | 25    |
|               | 女性 | 0.7222 | 0.106 | 0.5556 | 0.117 | 0.5000 | 0.118 | 0.5000 | 0.118 | 0.4444 | 0.117 | 18    |
| 口腔、その他および部位不明 | 合計 | 0.8250 | 0.060 | 0.6750 | 0.074 | 0.6000 | 0.077 | 0.5500 | 0.079 | 0.4750 | 0.079 | 40    |
|               | 男性 | 0.7500 | 0.097 | 0.6500 | 0.107 | 0.5500 | 0.111 | 0.5000 | 0.112 | 0.4500 | 0.111 | 20    |
|               | 女性 | 0.9000 | 0.067 | 0.7000 | 0.102 | 0.6500 | 0.107 | 0.6000 | 0.110 | 0.5000 | 0.112 | 20    |
| 大唾液腺          | 合計 | 0.9032 | 0.053 | 0.7097 | 0.082 | 0.6774 | 0.084 | 0.6129 | 0.087 | 0.6129 | 0.087 | 31    |
|               | 男性 | 0.9412 | 0.057 | 0.6471 | 0.116 | 0.6471 | 0.116 | 0.5882 | 0.119 | 0.5882 | 0.119 | 17    |
|               | 女性 | 0.8571 | 0.094 | 0.7857 | 0.110 | 0.7143 | 0.121 | 0.6429 | 0.128 | 0.6429 | 0.128 | 14    |
| 中咽頭           | 合計 | 0.7436 | 0.070 | 0.5128 | 0.080 | 0.4872 | 0.080 | 0.4359 | 0.079 | 0.4103 | 0.079 | 39    |
|               | 男性 | 0.7000 | 0.084 | 0.5667 | 0.090 | 0.5333 | 0.091 | 0.4667 | 0.091 | 0.4667 | 0.091 | 30    |
|               | 女性 | 0.8889 | 0.105 | 0.3333 | 0.157 | 0.3333 | 0.157 | 0.3333 | 0.157 | 0.2222 | 0.139 | 9     |
| 鼻<上>咽頭        | 合計 | 0.6923 | 0.091 | 0.5385 | 0.098 | 0.3846 | 0.095 | 0.3846 | 0.095 | 0.3462 | 0.093 | 26    |
|               | 男性 | 0.8000 | 0.089 | 0.6500 | 0.107 | 0.4500 | 0.111 | 0.4500 | 0.111 | 0.4000 | 0.110 | 20    |
|               | 女性 | 0.3333 | 0.192 | 0.1667 | 0.152 | 0.1667 | 0.152 | 0.1667 | 0.152 | 0.1667 | 0.152 | 6     |
| 下咽頭           | 合計 | 0.8182 | 0.048 | 0.5455 | 0.061 | 0.4394 | 0.061 | 0.4091 | 0.061 | 0.3600 | 0.060 | 66    |
|               | 男性 | 0.8305 | 0.049 | 0.5424 | 0.065 | 0.4237 | 0.064 | 0.4068 | 0.064 | 0.3513 | 0.063 | 59    |
|               | 女性 | 0.7143 | 0.171 | 0.5714 | 0.187 | 0.5714 | 0.187 | 0.4286 | 0.187 | 0.4286 | 0.187 | 7     |
| 食道            | 合計 | 0.6198 | 0.035 | 0.5000 | 0.036 | 0.4323 | 0.036 | 0.4063 | 0.035 | 0.3688 | 0.035 | 192   |
|               | 男性 | 0.6114 | 0.037 | 0.4857 | 0.038 | 0.4229 | 0.037 | 0.3943 | 0.037 | 0.3590 | 0.036 | 175   |
|               | 女性 | 0.7059 | 0.111 | 0.6471 | 0.116 | 0.5294 | 0.121 | 0.5294 | 0.121 | 0.4706 | 0.121 | 17    |
| 胃             | 合計 | 0.8178 | 0.014 | 0.7126 | 0.017 | 0.6856 | 0.017 | 0.6544 | 0.017 | 0.6349 | 0.018 | 741   |
|               | 男性 | 0.8178 | 0.017 | 0.7129 | 0.020 | 0.6852 | 0.021 | 0.6513 | 0.021 | 0.6289 | 0.022 | 505   |
|               | 女性 | 0.8178 | 0.025 | 0.7119 | 0.029 | 0.6864 | 0.030 | 0.6609 | 0.031 | 0.6478 | 0.031 | 236   |
| 結腸            | 合計 | 0.8964 | 0.019 | 0.8048 | 0.025 | 0.7729 | 0.026 | 0.7529 | 0.027 | 0.7200 | 0.028 | 251   |
|               | 男性 | 0.8800 | 0.027 | 0.7867 | 0.033 | 0.7667 | 0.035 | 0.7600 | 0.035 | 0.7462 | 0.036 | 150   |
|               | 女性 | 0.9208 | 0.027 | 0.8317 | 0.037 | 0.7822 | 0.041 | 0.7423 | 0.043 | 0.6813 | 0.047 | 101   |
| 直腸、直腸S状結腸移行部  | 合計 | 0.9216 | 0.022 | 0.8497 | 0.029 | 0.7778 | 0.034 | 0.7253 | 0.036 | 0.6984 | 0.037 | 153   |
|               | 男性 | 0.9118 | 0.028 | 0.8726 | 0.033 | 0.7843 | 0.041 | 0.7350 | 0.044 | 0.7249 | 0.044 | 102   |
|               | 女性 | 0.9412 | 0.033 | 0.8039 | 0.056 | 0.7647 | 0.059 | 0.7059 | 0.064 | 0.6454 | 0.067 | 51    |

| 原発部位              | 性別 | 1 年生存率 | 標準誤差  | 2 年生存率 | 標準誤差  | 3 年生存率 | 標準誤差  | 4 年生存率 | 標準誤差  | 5 年生存率 | 標準誤差  | 当初患者数 |
|-------------------|----|--------|-------|--------|-------|--------|-------|--------|-------|--------|-------|-------|
| 肝 お よ び 肝 内 胆 管   | 合計 | 0.6667 | 0.037 | 0.4909 | 0.039 | 0.4000 | 0.038 | 0.3267 | 0.037 | 0.2627 | 0.035 | 165   |
|                   | 男性 | 0.6748 | 0.042 | 0.4878 | 0.045 | 0.3740 | 0.044 | 0.3082 | 0.042 | 0.2378 | 0.039 | 123   |
|                   | 女性 | 0.6429 | 0.074 | 0.5000 | 0.077 | 0.4762 | 0.077 | 0.3810 | 0.075 | 0.3333 | 0.073 | 42    |
| 胆 嚢 お よ び 肝 外 胆 管 | 合計 | 0.4839 | 0.090 | 0.3871 | 0.087 | 0.3548 | 0.086 | 0.2903 | 0.082 | 0.2903 | 0.082 | 31    |
|                   | 男性 | 0.4706 | 0.121 | 0.3529 | 0.116 | 0.2941 | 0.111 | 0.1765 | 0.092 | 0.1765 | 0.092 | 17    |
|                   | 女性 | 0.5000 | 0.134 | 0.4286 | 0.132 | 0.4286 | 0.132 | 0.4286 | 0.132 | 0.4286 | 0.132 | 14    |
| 肺                 | 合計 | 0.3444 | 0.050 | 0.1111 | 0.033 | 0.1000 | 0.032 | 0.0889 | 0.030 | 0.0667 | 0.026 | 90    |
|                   | 男性 | 0.3846 | 0.067 | 0.1346 | 0.047 | 0.1154 | 0.044 | 0.0962 | 0.041 | 0.0577 | 0.032 | 52    |
|                   | 女性 | 0.2895 | 0.074 | 0.0790 | 0.044 | 0.0790 | 0.044 | 0.0790 | 0.044 | 0.0790 | 0.044 | 38    |
| 副 鼻 腔             | 合計 | 0.8000 | 0.068 | 0.6571 | 0.080 | 0.5429 | 0.084 | 0.4842 | 0.085 | 0.4842 | 0.085 | 35    |
|                   | 男性 | 0.7500 | 0.088 | 0.6250 | 0.099 | 0.4583 | 0.102 | 0.4147 | 0.101 | 0.4147 | 0.101 | 24    |
|                   | 女性 | 0.9091 | 0.087 | 0.7273 | 0.134 | 0.7273 | 0.134 | 0.6364 | 0.145 | 0.6364 | 0.145 | 11    |
| 喉                 | 合計 | 0.9213 | 0.024 | 0.8347 | 0.033 | 0.7480 | 0.039 | 0.7087 | 0.040 | 0.6926 | 0.041 | 127   |
|                   | 男性 | 0.9180 | 0.025 | 0.8279 | 0.034 | 0.7377 | 0.040 | 0.6967 | 0.042 | 0.6799 | 0.042 | 122   |
|                   | 女性 | 1.0000 | 0.000 | 1.0000 | 0.000 | 1.0000 | 0.000 | 1.0000 | 0.000 | 1.0000 | 0.000 | 5     |
| 気 管 支 お よ び 肺     | 合計 | 0.6199 | 0.018 | 0.4190 | 0.018 | 0.3284 | 0.017 | 0.2876 | 0.016 | 0.2635 | 0.016 | 764   |
|                   | 男性 | 0.5823 | 0.021 | 0.3746 | 0.020 | 0.2894 | 0.019 | 0.2468 | 0.018 | 0.2252 | 0.018 | 566   |
|                   | 女性 | 0.7273 | 0.032 | 0.5455 | 0.035 | 0.4394 | 0.035 | 0.4038 | 0.035 | 0.3730 | 0.034 | 198   |
| 皮 膚 の 悪 性 黒 色 腫   | 合計 | 0.7667 | 0.077 | 0.6667 | 0.086 | 0.6000 | 0.089 | 0.6000 | 0.089 | 0.5314 | 0.091 | 30    |
|                   | 男性 | 0.7857 | 0.110 | 0.6429 | 0.128 | 0.5000 | 0.134 | 0.5000 | 0.134 | 0.5000 | 0.134 | 14    |
|                   | 女性 | 0.7500 | 0.108 | 0.6875 | 0.116 | 0.6875 | 0.116 | 0.6875 | 0.116 | 0.5566 | 0.125 | 16    |
| 皮膚のその他の悪性新生物      | 合計 | 0.9155 | 0.033 | 0.8310 | 0.044 | 0.7747 | 0.050 | 0.7606 | 0.051 | 0.6895 | 0.055 | 71    |
|                   | 男性 | 0.9189 | 0.045 | 0.7838 | 0.068 | 0.7027 | 0.075 | 0.6757 | 0.077 | 0.6205 | 0.080 | 37    |
|                   | 女性 | 0.9118 | 0.049 | 0.8824 | 0.055 | 0.8529 | 0.061 | 0.8529 | 0.061 | 0.7647 | 0.073 | 34    |
| その他の結合および軟部組織     | 合計 | 0.8529 | 0.061 | 0.7647 | 0.073 | 0.6765 | 0.080 | 0.6471 | 0.082 | 0.6177 | 0.083 | 34    |
|                   | 男性 | 0.8261 | 0.079 | 0.6957 | 0.096 | 0.6087 | 0.102 | 0.5652 | 0.103 | 0.5652 | 0.103 | 23    |
|                   | 女性 | 0.9091 | 0.087 | 0.9091 | 0.087 | 0.8182 | 0.116 | 0.8182 | 0.116 | 0.7273 | 0.134 | 11    |
| 乳 房               | 合計 | 0.9757 | 0.005 | 0.9368 | 0.008 | 0.9052 | 0.010 | 0.8758 | 0.012 | 0.8521 | 0.013 | 823   |
|                   | 男性 | 1.0000 | 0.000 | 1.0000 | 0.000 | 1.0000 | 0.000 | 1.0000 | 0.000 | 1.0000 | 0.000 | 1     |
|                   | 女性 | 0.9757 | 0.005 | 0.9367 | 0.008 | 0.9051 | 0.010 | 0.8757 | 0.012 | 0.8519 | 0.013 | 822   |
| 子 宮 頸             | 合計 | 0.9194 | 0.014 | 0.8564 | 0.018 | 0.8186 | 0.019 | 0.7932 | 0.020 | 0.7647 | 0.021 | 397   |
|                   | 男性 | —      | —     | —      | —     | —      | —     | —      | —     | —      | —     | —     |
|                   | 女性 | 0.9194 | 0.014 | 0.8564 | 0.018 | 0.8186 | 0.019 | 0.7932 | 0.020 | 0.7647 | 0.021 | 397   |
| 子 宮 体 部           | 合計 | 0.9167 | 0.020 | 0.8854 | 0.023 | 0.8646 | 0.025 | 0.8177 | 0.028 | 0.8125 | 0.028 | 192   |
|                   | 男性 | —      | —     | —      | —     | —      | —     | —      | —     | —      | —     | —     |
|                   | 女性 | 0.9167 | 0.020 | 0.8854 | 0.023 | 0.8646 | 0.025 | 0.8177 | 0.028 | 0.8125 | 0.028 | 192   |

| 原発部位        | 性別       | 1 年生存率           | 標準誤差           | 2 年生存率           | 標準誤差           | 3 年生存率           | 標準誤差           | 4 年生存率           | 標準誤差           | 5 年生存率           | 標準誤差           | 当初患者数     |
|-------------|----------|------------------|----------------|------------------|----------------|------------------|----------------|------------------|----------------|------------------|----------------|-----------|
| 卵巣          | 合計       | 0.9008           | 0.027          | 0.7769           | 0.038          | 0.6942           | 0.042          | 0.6028           | 0.045          | 0.5686           | 0.045          | 121       |
|             | 男性<br>女性 | —<br>0.9008      | —<br>0.027     | —<br>0.7769      | —<br>0.038     | —<br>0.6942      | —<br>0.042     | —<br>0.6028      | —<br>0.045     | —<br>0.5686      | —<br>0.045     | —<br>121  |
| 前立腺         | 合計       | 0.9462           | 0.023          | 0.8602           | 0.036          | 0.7527           | 0.045          | 0.7097           | 0.047          | 0.6660           | 0.049          | 93        |
|             | 男性<br>女性 | 0.9462<br>—      | 0.023<br>—     | 0.8602<br>—      | 0.036<br>—     | 0.7527<br>—      | 0.045<br>—     | 0.7097<br>—      | 0.047<br>—     | 0.6660<br>—      | 0.049<br>—     | 93<br>—   |
| 腎盂を除く腎      | 合計       | 0.7763           | 0.048          | 0.6842           | 0.053          | 0.6447           | 0.055          | 0.6049           | 0.056          | 0.5911           | 0.057          | 76        |
|             | 男性<br>女性 | 0.7400<br>0.8462 | 0.062<br>0.071 | 0.6200<br>0.8077 | 0.069<br>0.077 | 0.5600<br>0.8077 | 0.070<br>0.077 | 0.5396<br>0.7308 | 0.071<br>0.087 | 0.5181<br>0.7308 | 0.071<br>0.087 | 50<br>26  |
| 腎盂、尿管       | 合計       | 0.8462           | 0.071          | 0.7308           | 0.087          | 0.6923           | 0.091          | 0.6923           | 0.091          | 0.6539           | 0.093          | 26        |
|             | 男性<br>女性 | 0.9474<br>0.5714 | 0.051<br>0.187 | 0.8421<br>0.4286 | 0.084<br>0.187 | 0.7895<br>0.4286 | 0.094<br>0.187 | 0.7895<br>0.4286 | 0.094<br>0.187 | 0.7369<br>0.4286 | 0.101<br>0.187 | 19<br>7   |
| 膀胱          | 合計       | 0.8804           | 0.034          | 0.8478           | 0.037          | 0.7500           | 0.045          | 0.7283           | 0.046          | 0.6731           | 0.049          | 92        |
|             | 男性<br>女性 | 0.8677<br>0.9167 | 0.041<br>0.056 | 0.8529<br>0.8333 | 0.043<br>0.076 | 0.7353<br>0.7917 | 0.053<br>0.083 | 0.7059<br>0.7917 | 0.055<br>0.083 | 0.6464<br>0.7489 | 0.058<br>0.089 | 68<br>24  |
| 甲状腺         | 合計       | 0.9355           | 0.025          | 0.9355           | 0.025          | 0.9355           | 0.025          | 0.9355           | 0.025          | 0.9355           | 0.025          | 93        |
|             | 男性<br>女性 | 0.8182<br>0.9718 | 0.082<br>0.020 | 0.8182<br>0.9718 | 0.082<br>0.020 | 0.8182<br>0.9718 | 0.082<br>0.020 | 0.8182<br>0.9718 | 0.082<br>0.020 | 0.8182<br>0.9718 | 0.082<br>0.020 | 22<br>71  |
| 部位の明示されないもの | 合計       | 0.4324           | 0.081          | 0.2973           | 0.075          | 0.2973           | 0.075          | 0.2703           | 0.073          | 0.2162           | 0.068          | 37        |
|             | 男性<br>女性 | 0.3200<br>0.6667 | 0.093<br>0.136 | 0.2000<br>0.5000 | 0.080<br>0.144 | 0.2000<br>0.5000 | 0.080<br>0.144 | 0.1600<br>0.5000 | 0.073<br>0.144 | 0.1200<br>0.4167 | 0.065<br>0.142 | 25<br>12  |
| 非ホジキン腫のその他  | 合計       | 0.7112           | 0.033          | 0.5722           | 0.036          | 0.4973           | 0.037          | 0.4647           | 0.037          | 0.4313           | 0.036          | 187       |
|             | 男性<br>女性 | 0.6696<br>0.7778 | 0.044<br>0.049 | 0.5044<br>0.6806 | 0.047<br>0.055 | 0.4348<br>0.5972 | 0.046<br>0.058 | 0.3993<br>0.5691 | 0.046<br>0.058 | 0.3721<br>0.5259 | 0.045<br>0.059 | 115<br>72 |
| 多発性骨髄腫      | 合計       | 0.7879           | 0.071          | 0.4849           | 0.087          | 0.3030           | 0.080          | 0.2424           | 0.075          | 0.1818           | 0.067          | 33        |
|             | 男性<br>女性 | 0.7059<br>0.8750 | 0.111<br>0.083 | 0.4118<br>0.5625 | 0.119<br>0.124 | 0.1765<br>0.4375 | 0.092<br>0.124 | 0.1765<br>0.3125 | 0.092<br>0.116 | 0.1177<br>0.2500 | 0.078<br>0.108 | 17<br>16  |
| リンパ性白血病     | 合計       | 0.5000           | 0.079          | 0.3000           | 0.072          | 0.2250           | 0.066          | 0.2250           | 0.066          | 0.2250           | 0.066          | 40        |
|             | 男性<br>女性 | 0.5652<br>0.4118 | 0.103<br>0.119 | 0.3044<br>0.2941 | 0.096<br>0.111 | 0.2174<br>0.2353 | 0.086<br>0.103 | 0.2174<br>0.2353 | 0.086<br>0.103 | 0.2174<br>0.2353 | 0.086<br>0.103 | 23<br>17  |
| 骨髄性白血病      | 合計       | 0.5859           | 0.050          | 0.4647           | 0.050          | 0.3939           | 0.049          | 0.3535           | 0.048          | 0.3232           | 0.047          | 99        |
|             | 男性<br>女性 | 0.5172<br>0.6829 | 0.066<br>0.073 | 0.4138<br>0.5366 | 0.065<br>0.078 | 0.3448<br>0.4634 | 0.062<br>0.078 | 0.2931<br>0.4390 | 0.060<br>0.078 | 0.2759<br>0.3903 | 0.059<br>0.076 | 58<br>41  |

## 16 臨床研究審査委員会業務統計

### 1) 受託研究（治験等）の契約件数（平成12年度～平成16年度）

| 項 目                     |               | 12年度 | 13年度 | 14年度 | 15年度 | 16年度 |
|-------------------------|---------------|------|------|------|------|------|
| 医薬品の治験                  | 抗悪性腫瘍剤        | 11   | 11   | 17   | 7    | 7    |
|                         | 血管新生阻害剤       |      |      |      | 3    | 2    |
|                         | 抗癌剤毒性軽減剤      |      |      |      | 1    | 1    |
|                         | 高カルシウム血症の治療薬  |      | 1    | 3    | 3    |      |
|                         | 抗癌剤による貧血の治療薬  |      |      | 1    |      | 2    |
|                         | 骨転移病変の治療薬     | 3    | 4    | 4    | 2    |      |
|                         | がん性疼痛に関する治療薬  |      |      |      |      | 1    |
|                         | 放射線増感剤        | 1    | 1    |      |      |      |
|                         | 放射性医薬品の骨疼痛緩和剤 |      | 1    |      |      |      |
|                         | 末期癌の消化管閉塞の治療薬 |      | 1    |      |      |      |
|                         | 癌患者の消化器症状の治療薬 |      | 1    |      |      | 1    |
| 医療用具の治験                 |               | 1    | 1    |      |      |      |
| 市販後臨床試験（医薬品）            |               | 12   | 9    | 12   | 13   | 13   |
| 市販後調査（医薬品）（使用成績調査・特別調査） |               | 18   | 16   | 8    | 6    | 6    |
| 市販後調査（医療用具）             |               |      |      | 1    |      |      |
| その他                     |               |      |      |      |      |      |
| 合 計                     |               | 46   | 45   | 46   | 35   | 33   |

### 2) 臨床研究の審査件数（平成12年度～平成16年度）

| 項 目                       |                                          | 12年度 | 13年度 | 14年度 | 15年度 | 16年度 |
|---------------------------|------------------------------------------|------|------|------|------|------|
| 厚生労働省<br>がん研究助成<br>金による研究 | JCOG 消化器がん内科グループ                         |      | 3    | 1    |      |      |
|                           | JCOG 胃癌外科グループ                            |      |      |      |      | 2    |
|                           | JCOG 乳がんグループ                             |      |      | 1    |      | 1    |
|                           | JCOG 肺がん内科グループ                           |      | 1    | 1    | 1    |      |
|                           | JCOG 肺がん外科グループ                           |      |      |      |      |      |
|                           | JCOG リンパ腫研究グループ                          | 1    |      |      | 2    |      |
|                           | JCOG 婦人科腫瘍グループ                           |      | 1    |      | 1    |      |
|                           | JCOG 放射線治療における臨床研究の体系化<br>に関する研究班        |      |      |      |      | 2    |
|                           | 分子基盤に基づく難治性リンパ系腫瘍の診断<br>及び治療法に関する研究班     |      |      |      |      | 1    |
| 厚生科学研究                    | ヒトゲノム・再生医療等研究                            | 1    |      |      | 5    |      |
|                           | がん患者のQOLを向上させるための身体症状<br>緩和プログラムの開発（内富班） |      |      |      |      | 1    |
| 他施設との共同研究                 |                                          | 5    | 6    | 10   | 8    | 8    |
| 企業との共同研究                  |                                          |      |      |      |      | 1    |
| 院内自主研究                    |                                          | 3    | 2    | 4    | 16   | 11   |
| その他                       |                                          |      |      |      |      |      |
| 合 計                       |                                          | 10   | 13   | 17   | 33   | 27   |

## 17 診療材料管理業務統計

### 1) 平成16年度診療材料等委員会診療材料等採用件数

| 回   | 1    | 2    | 3    | 4     | 5     | 6    | 7    | 計   |
|-----|------|------|------|-------|-------|------|------|-----|
| 月／日 | 5/27 | 6/24 | 9/28 | 10/28 | 11/25 | 1/27 | 3/24 |     |
| 採 用 | 21   | 4    | 13   | 20    | 8     | 15   | 17   | 98  |
| 試   | 0    | 2    | 0    | 3     | 0     | 15   | 9    | 29  |
| 計   | 21   | 6    | 13   | 23    | 8     | 30   | 26   | 127 |

### 2) 診療材料等リスト

| 項目    |       |
|-------|-------|
| 削除品目  | 60    |
| 追加品目  | 127   |
| 総 品 目 | 5,097 |

## 18 平成16年度受託研究一覧

| 研究の種類   | 被験薬等              | 責任医師  | 診療科   | 契約症例数 |
|---------|-------------------|-------|-------|-------|
| 治験      | TSU-68(併用)        | 井上 賢一 | 内分泌科  | 2例    |
| 〃       | BMS181339(肺癌)     | 米田 修一 | 呼吸器科  | 1例    |
| 〃       | BNP7787           | 田部井敏夫 | 内分泌科  | 3例    |
| 〃       | PTK787/ZK222584   | 山口 研成 | 消化器内科 | 1例    |
| 〃       | TAS-108           | 田部井敏夫 | 内分泌科  | 3例    |
| 〃       | CGS20267          | 田部井敏夫 | 内分泌科  | 2例    |
| 〃       | HFT-290           | 余宮きのみ | 緩和ケア科 | 2例    |
| 〃       | EPOCH(2重盲検)       | 米田 修一 | 呼吸器科  | 10例   |
| 〃       | EPOCH(一般臨床試験)     | 柵木 信男 | 血液科   | 5例    |
| 〃       | S-1(CDDP併用)       | 酒井 洋  | 呼吸器科  | 6例    |
| 〃       | AS-4370           | 田中 洋一 | 消化器外科 | 4例    |
| 〃       | LY231514          | 米田 修一 | 呼吸器科  | 3例    |
| 〃       | BMS181339(乳癌)     | 田部井敏夫 | 内分泌科  | 2例    |
| 〃       | Z-100             | 横田 治重 | 婦人科   | 2例    |
| 市販後臨床試験 | ユーエフティ(乳癌)        | 末益 公人 | 乳腺外科  | 9例    |
| 〃       | ユーエフティ(胃癌)        | 川島 吉之 | 消化器外科 | 1例    |
| 〃       | リュープリン注(TAP144SR) | 末益 公人 | 乳腺外科  | 3例    |
| 〃       | フェアストン錠           | 末益 公人 | 乳腺外科  | 4例    |
| 〃       | ナベルピン注ほか          | 米田 修一 | 呼吸器科  | 3例    |
| 〃       | アリミデックス錠(ZD-1033) | 田部井敏夫 | 内分泌科  | 1例    |
| 〃       | TS-1(胃癌)          | 田中 洋一 | 消化器外科 | 6例    |
| 〃       | ハイカムチン注           | 米田 修一 | 呼吸器科  | 3例    |
| 〃       | アイソボリン注           | 山口 研成 | 消化器内科 | 10例   |
| 〃       | タキソテール注           | 山口 研成 | 消化器内科 | 5例    |
| 〃       | TS-1(頭頸部癌)        | 西畠 渡  | 頭頸部外科 | 4例    |
| 〃       | CPT-11            | 山口 研成 | 消化器内科 | 2例    |
| 〃       | ハーセプチン注           | 井上 賢一 | 内分泌科  | 2例    |
| 市販後調査   | フルダラ注             | 柵木 信男 | 血液科   | 4例    |
| 〃       | グリバックカプセル         | 田中 洋一 | 消化器外科 | 3例    |
| 〃       | カルセド注             | 駒形 浩史 | 呼吸器科  | 3例    |
| 〃       | イオパミロン370シリンジ     | 野津 聡  | 呼吸器科  | 30例   |
| 〃       | ロイスタチン注           | 久保田靖子 | 血液科   | 2例    |

(治験事務室)

## 2 入院患者数統計

### 1) 入退院状況

(単位：人)

|               |           | 15年度<br>総 数 | 16年度<br>総 数 | 4 月      | 5 月      | 6 月      | 7 月      | 8 月      | 9 月      | 10 月     | 11 月     | 12 月     | 1 月     | 2 月      | 3 月      |
|---------------|-----------|-------------|-------------|----------|----------|----------|----------|----------|----------|----------|----------|----------|---------|----------|----------|
| 入<br>院        | 月末現在患者数   | 3,912       | 3,891       | 299      | 315      | 354      | 351      | 353      | 339      | 316      | 353      | 168      | 336     | 354      | 353      |
|               | 前月からの繰越   | 3,892       | 3,887       | 349      | 299      | 315      | 354      | 351      | 353      | 339      | 316      | 353      | 168     | 336      | 354      |
|               | 総 数       | 8,012       | 8,285       | 655      | 613      | 704      | 677      | 699      | 661      | 659      | 692      | 652      | 789     | 715      | 769      |
| 退<br>院        | 総 数       | 7,992       | 8,281       | 705      | 597      | 665      | 680      | 697      | 675      | 682      | 655      | 837      | 621     | 697      | 770      |
|               | う ち 死 亡 数 | 679         | 734         | 59       | 52       | 55       | 66       | 78       | 56       | 49       | 72       | 69       | 58      | 51       | 69       |
|               | (うち剖検数)   | 25          | 31          | 4        | 2        | 4        | 2        | 2        | 2        | 4        | 2        | 2        | 3       | 2        | 2        |
| 在 院 患 者 延 べ 数 |           | 134,038     | 131,822     | 10,827   | 10,534   | 11,166   | 11,613   | 11,480   | 10,810   | 11,291   | 10,985   | 10,826   | 10,144  | 10,482   | 11,664   |
| (うち外泊除く)      |           | (131,581)   | (129,165)   | (10,674) | (10,272) | (10,991) | (11,371) | (11,314) | (10,577) | (10,946) | (10,812) | (10,682) | (9,833) | (10,264) | (11,429) |
| 1 日 平 均 患 者 数 |           | 366.2       | 361.2       | 360.9    | 339.8    | 372.2    | 374.6    | 370.3    | 360.3    | 364.2    | 366.2    | 349.2    | 327.2   | 374.4    | 376.3    |
| (うち外泊除く)      |           | (359.5)     | (353.9)     | (355.8)  | (331.4)  | (366.4)  | (366.8)  | (365.0)  | (352.6)  | (353.1)  | (360.4)  | (344.6)  | (317.2) | (366.6)  | (368.7)  |
| 病床利用率 (%)     |           | 91.6        | 90.3        | 90.2     | 85.0     | 93.1     | 93.7     | 92.6     | 90.1     | 91.1     | 91.5     | 87.3     | 81.8    | 93.6     | 94.1     |
| (うち外泊除く)      |           | (89.9)      | (88.5)      | (89.0)   | (82.8)   | (91.6)   | (91.7)   | (91.2)   | (88.1)   | (88.3)   | (90.1)   | (86.1)   | (79.3)  | (91.6)   | (92.2)   |
| 平 均 在 院 日 数   |           | 16.8        | 15.9        | 15.9     | 17.4     | 16.3     | 17.1     | 16.4     | 16.2     | 16.8     | 16.3     | 14.5     | 14.4    | 14.8     | 15.2     |

### 2) 病棟別延在院患者数

(単位：人)

|           | 15年度<br>総 数 | 16年度<br>総 数 | 4 月    | 5 月    | 6 月    | 7 月    | 8 月    | 9 月    | 10 月   | 11 月   | 12 月   | 1 月    | 2 月    | 3 月    |
|-----------|-------------|-------------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|
| 第 1 病 棟   | 15,403      | 15,267      | 1,235  | 1,186  | 1,265  | 1,341  | 1,363  | 1,247  | 1,241  | 1,250  | 1,314  | 1,224  | 1,250  | 1,351  |
| 第 2 病 棟   | 15,820      | 15,355      | 1,331  | 1,299  | 1,248  | 1,361  | 1,363  | 1,223  | 1,321  | 1,274  | 1,223  | 1,173  | 1,226  | 1,313  |
| 第 3 病 棟   | 14,454      | 14,196      | 1,206  | 1,091  | 1,222  | 1,291  | 1,235  | 1,184  | 1,208  | 1,211  | 1,130  | 1,006  | 1,169  | 1,243  |
| 第 5 病 棟   | 14,618      | 14,509      | 1,234  | 1,168  | 1,222  | 1,262  | 1,273  | 1,177  | 1,257  | 1,234  | 1,142  | 1,146  | 1,121  | 1,27   |
| 第 6 病 棟   | 10,213      | 10,202      | 857    | 852    | 860    | 917    | 884    | 825    | 870    | 841    | 841    | 791    | 800    | 864    |
| 第 7 病 棟   | 16,314      | 15,999      | 1,364  | 1,318  | 1,338  | 1,398  | 1,382  | 1,300  | 1,364  | 1,342  | 1,364  | 1,147  | 1,279  | 1,403  |
| 第 8 病 棟   | 17,148      | 16,622      | 1,250  | 1,210  | 1,420  | 1,443  | 1,499  | 1,435  | 1,523  | 1,355  | 1,394  | 1,242  | 1,318  | 1,533  |
| 第 1 0 病 棟 | 5,518       | 5,089       | 369    | 403    | 481    | 403    | 396    | 428    | 365    | 442    | 470    | 440    | 399    | 493    |
| 第 1 1 病 棟 | 9,550       | 9,545       | 797    | 749    | 826    | 839    | 853    | 742    | 811    | 820    | 758    | 709    | 756    | 885    |
| 第 1 2 病 棟 | 7,231       | 7,267       | 618    | 607    | 614    | 636    | 613    | 593    | 625    | 591    | 596    | 602    | 551    | 621    |
| 第 1 3 病 棟 | 5,239       | 5,429       | 368    | 468    | 456    | 499    | 410    | 473    | 517    | 449    | 389    | 462    | 426    | 512    |
| I C U     | 2,530       | 2,342       | 198    | 183    | 214    | 223    | 209    | 183    | 189    | 176    | 205    | 202    | 187    | 173    |
| 計         | 134,038     | 131,822     | 10,827 | 10,534 | 11,166 | 11,613 | 11,480 | 10,810 | 11,291 | 10,985 | 10,826 | 10,144 | 10,482 | 11,664 |

## 3) 診療科別延在院患者数

(単位:人)

|            | 15年度<br>総 数 | 16年度<br>総 数 | 4 月    | 5 月    | 6 月    | 7 月    | 8 月    | 9 月    | 10 月   | 11 月   | 12 月   | 1 月    | 2 月    | 3 月    |
|------------|-------------|-------------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|
| 血 液 科      | 13,060      | 11,246      | 903    | 901    | 1,030  | 942    | 926    | 1,019  | 899    | 971    | 941    | 903    | 795    | 1,016  |
| 内 分 泌 科    | 3,885       | 3,594       | 327    | 284    | 367    | 257    | 322    | 273    | 323    | 316    | 289    | 272    | 292    | 272    |
| 呼 吸 器 科    | 15,589      | 13,384      | 1,268  | 1,261  | 1,125  | 1,182  | 1,201  | 1,137  | 1,058  | 1,097  | 916    | 1,001  | 1,026  | 1,112  |
| 消 化 器 内 科  | 18,831      | 18,525      | 1,440  | 1,487  | 1,527  | 1,646  | 1,557  | 1,523  | 1,696  | 1,629  | 1,522  | 1,458  | 1,381  | 1,659  |
| 消 化 器 外 科  | 22,074      | 22,670      | 2,018  | 1,723  | 1,948  | 2,128  | 2,115  | 1,800  | 1,748  | 1,704  | 1,851  | 1,768  | 1,845  | 2,022  |
| 胸部外科(肺・縦隔) | 4,382       | 4,782       | 420    | 355    | 429    | 421    | 422    | 304    | 287    | 405    | 400    | 411    | 392    | 536    |
| 脳 神 経 外 科  | 4,238       | 5,405       | 419    | 450    | 336    | 480    | 649    | 455    | 505    | 390    | 440    | 405    | 453    | 423    |
| 婦 人 科      | 12,348      | 11,184      | 524    | 591    | 816    | 946    | 967    | 1,021  | 1,165  | 984    | 1,051  | 1,008  | 989    | 1,122  |
| 放 射 線 科    | 2,531       | 2,320       | 122    | 152    | 225    | 148    | 183    | 144    | 180    | 182    | 262    | 211    | 269    | 242    |
| 頭 頸 部 外 科  | 12,813      | 13,166      | 1,108  | 1,060  | 1,182  | 1,253  | 1,128  | 1,079  | 1,217  | 1,097  | 1,119  | 957    | 972    | 994    |
| 泌 尿 器 科    | 3,962       | 4,106       | 370    | 418    | 344    | 339    | 348    | 446    | 350    | 340    | 292    | 194    | 312    | 353    |
| 整 形 外 科    | 2,073       | 2,584       | 205    | 158    | 198    | 205    | 147    | 107    | 290    | 287    | 237    | 206    | 259    | 285    |
| 皮 膚 科      | 1,898       | 1,429       | 163    | 120    | 115    | 128    | 137    | 152    | 151    | 113    | 117    | 69     | 72     | 92     |
| 麻 酔 科      | 0           | 2           | 0      | 0      | 0      | 0      | 0      | 0      | 2      | 0      | 0      | 0      | 0      | 0      |
| 眼 科        | 0           | 0           | 0      | 0      | 0      | 0      | 0      | 0      | 0      | 0      | 0      | 0      | 0      | 0      |
| 口 腔 外 科    | 5,051       | 5,614       | 606    | 562    | 456    | 463    | 399    | 406    | 419    | 497    | 461    | 386    | 450    | 509    |
| 乳 腺 外 科    | 6,050       | 6,333       | 563    | 537    | 607    | 575    | 569    | 471    | 482    | 524    | 539    | 426    | 538    | 502    |
| 緩和 ケ ア 科   | 5,253       | 5,456       | 371    | 475    | 461    | 500    | 410    | 473    | 519    | 449    | 389    | 462    | 431    | 516    |
| 形 成 外 科    |             | 22          |        |        |        |        |        |        |        |        |        | 7      | 6      | 9      |
| 計          | 134,038     | 131,822     | 10,827 | 10,534 | 11,166 | 11,613 | 11,480 | 10,810 | 11,291 | 10,985 | 10,826 | 10,144 | 10,482 | 11,664 |

|         | 4 月     | 5 月    | 6 月    | 7 月    | 8 月    | 9 月    | 10月    | 11月    | 12月    | 1 月    | 2 月    | 3 月    | 合計     |
|---------|---------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|
| 診 療 日 数 | 365     | 30     | 31     | 30     | 31     | 31     | 30     | 31     | 30     | 31     | 31     | 28     | 31     |
| 稼働延病床   | 146,000 | 12,000 | 12,400 | 12,000 | 12,400 | 12,400 | 12,000 | 12,400 | 12,000 | 12,400 | 12,400 | 11,200 | 12,400 |

## 4) 病棟別病床利用率 在院日数/延べ病床数

(単位:率)

|           | 16年度総数 | 4 月   | 5 月  | 6 月  | 7 月  | 8 月  | 9 月  | 10 月 | 11 月 | 12 月 | 1 月  | 2 月   | 3 月  |
|-----------|--------|-------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|-------|------|
| 第 1 病 棟   | 95.1   | 93.6  | 87.0 | 95.8 | 98.3 | 99.9 | 94.5 | 91.0 | 94.7 | 96.3 | 89.7 | 101.5 | 99.0 |
| 第 2 病 棟   | 95.6   | 100.8 | 95.2 | 94.5 | 99.8 | 99.9 | 92.7 | 96.8 | 96.5 | 89.7 | 86.0 | 99.5  | 96.3 |
| 第 3 病 棟   | 90.4   | 93.5  | 81.8 | 94.7 | 96.8 | 92.6 | 91.8 | 90.6 | 93.9 | 84.8 | 75.5 | 97.1  | 93.2 |
| 第 5 病 棟   | 92.4   | 95.7  | 87.6 | 94.7 | 94.7 | 95.5 | 91.2 | 94.3 | 95.7 | 85.7 | 86.0 | 93.1  | 95.5 |
| 第 6 病 棟   | 90.2   | 92.2  | 88.7 | 92.5 | 95.4 | 92.0 | 88.7 | 90.5 | 90.4 | 87.5 | 82.3 | 92.2  | 89.9 |
| 第 7 病 棟   | 93.3   | 96.7  | 90.5 | 94.9 | 96.0 | 94.9 | 92.2 | 93.6 | 95.2 | 93.6 | 78.7 | 97.2  | 96.3 |
| 第 8 病 棟   | 87.6   | 80.1  | 75.1 | 91.0 | 89.5 | 93.0 | 92.0 | 94.5 | 86.9 | 86.5 | 77.0 | 90.5  | 95.1 |
| 第 1 0 病 棟 | 73.4   | 64.7  | 68.4 | 84.4 | 68.4 | 67.2 | 75.1 | 62.0 | 77.5 | 79.8 | 74.7 | 75.0  | 83.7 |
| 第 1 1 病 棟 | 87.2   | 88.6  | 80.5 | 91.8 | 90.2 | 91.7 | 82.4 | 87.2 | 91.1 | 81.5 | 76.2 | 90.0  | 95.2 |
| 第 1 2 病 棟 | 94.8   | 98.1  | 93.2 | 97.5 | 97.7 | 94.2 | 94.1 | 96.0 | 93.8 | 91.6 | 92.5 | 93.7  | 95.4 |
| 第 1 3 病 棟 | 82.6   | 68.1  | 83.9 | 84.4 | 89.4 | 73.5 | 87.6 | 92.7 | 83.1 | 69.7 | 82.8 | 84.5  | 91.8 |
| I C U     | 80.2   | 82.5  | 73.8 | 89.2 | 89.9 | 84.3 | 76.3 | 76.2 | 73.3 | 82.7 | 81.5 | 83.5  | 69.8 |
| 計         | 90.3   | 90.2  | 85.0 | 93.1 | 93.7 | 92.6 | 90.1 | 91.1 | 91.5 | 87.3 | 81.8 | 93.6  | 94.1 |

## 5) 看護度別病棟別患者収容状況

(単位：%)

| 病棟名   | 1<br>日<br>平均<br>患者数 | 調査当日<br>患者数<br>(人) | A群 (絶えず観察を必要) |       |      |     |       | B群 (1～2時間毎の観察必要) |      |      |     |       | C群 (B群より長く間隔をあけた観察でよい) |     |     |      |      | 左の内<br>重症者<br>AⅠ<br>AⅡ<br>AⅢ<br>BⅠ<br>BⅡ<br>BⅢ<br>BⅣ | 家族<br>付<br>い<br>添<br>数 | 看護職員数 |      |       |       |
|-------|---------------------|--------------------|---------------|-------|------|-----|-------|------------------|------|------|-----|-------|------------------------|-----|-----|------|------|------------------------------------------------------|------------------------|-------|------|-------|-------|
|       |                     |                    | I             | Ⅱ     | Ⅲ    | Ⅳ   | 小計    | I                | Ⅱ    | Ⅲ    | Ⅳ   | 小計    | I                      | Ⅱ   | Ⅲ   | Ⅳ    | 小計   |                                                      |                        | 日勤    | 夜勤   | 休日    | 配置数   |
| 1 病棟  | 38                  | 488                | 50            | 300   | 83   | 0   | 433   | 0                | 2    | 30   | 1   | 33    | 0                      | 0   | 0   | 22   | 22   | 433                                                  | 19                     | 107   | 72   | 163   | 363   |
|       | 13,854              |                    | 10.2          | 61.5  | 17.0 | 0.0 | 88.7  | 0.0              | 0.4  | 6.1  | 0.2 | 6.8   | 0.0                    | 0.0 | 0.0 | 4.5  | 4.5  | 88.7                                                 | 3.9                    | 29.5  | 19.8 | 44.9  |       |
| 2 病棟  | 37                  | 492                | 70            | 154   | 63   | 0   | 287   | 5                | 75   | 124  | 0   | 204   | 0                      | 0   | 1   | 0    | 1    | 292                                                  | 17                     | 116   | 70   | 100   | 302   |
|       | 13,488              |                    | 14.2          | 31.3  | 12.8 | 0.0 | 58.3  | 1.0              | 15.2 | 25.2 | 0.0 | 41.5  | 0.0                    | 0.0 | 0.2 | 0.0  | 0.2  | 59.3                                                 | 3.5                    | 38.2  | 23.2 | 32.9  |       |
| 3 病棟  | 35                  | 436                | 33            | 230   | 6    | 0   | 269   | 0                | 34   | 78   | 1   | 113   | 0                      | 1   | 1   | 52   | 54   | 269                                                  | 13                     | 118   | 69   | 107   | 320   |
|       | 12,494              |                    | 7.6           | 52.8  | 1.4  | 0.0 | 61.7  | 0.0              | 7.8  | 17.9 | 0.2 | 25.9  | 0.0                    | 0.2 | 0.2 | 11.9 | 12.4 | 61.7                                                 | 3.0                    | 36.9  | 21.6 | 33.4  |       |
| 5 病棟  | 35                  | 441                | 32            | 218   | 25   | 4   | 279   | 0                | 31   | 85   | 6   | 122   | 0                      | 0   | 1   | 39   | 40   | 275                                                  | 21                     | 116   | 71   | 112   | 334   |
|       | 12,731              |                    | 7.3           | 49.4  | 5.7  | 0.9 | 63.3  | 0.0              | 7.0  | 19.3 | 1.4 | 27.7  | 0.0                    | 0.0 | 0.2 | 8.8  | 9.1  | 62.4                                                 | 4.8                    | 34.7  | 21.3 | 33.5  |       |
| 6 病棟  | 24                  | 317                | 67            | 100   | 14   | 0   | 181   | 0                | 57   | 53   | 3   | 113   | 0                      | 0   | 5   | 18   | 23   | 181                                                  | 57                     | 76    | 48   | 82    | 218   |
|       | 8,919               |                    | 21.1          | 31.5  | 4.4  | 0.0 | 57.1  | 0.0              | 18.0 | 16.7 | 0.9 | 35.6  | 0.0                    | 0.0 | 1.6 | 5.7  | 7.3  | 57.1                                                 | 18.0                   | 34.9  | 22.0 | 37.6  |       |
| 7 病棟  | 39                  | 523                | 46            | 116   | 29   | 0   | 191   | 2                | 98   | 177  | 15  | 292   | 0                      | 1   | 3   | 36   | 40   | 193                                                  | 28                     | 124   | 75   | 108   | 334   |
|       | 14,070              |                    | 8.8           | 22.2  | 5.5  | 0.0 | 36.5  | 0.4              | 18.7 | 33.8 | 2.9 | 55.8  | 0.0                    | 0.2 | 0.6 | 6.9  | 7.6  | 36.9                                                 | 5.4                    | 37.0  | 22.5 | 32.3  |       |
| 8 病棟  | 40                  | 528                | 40            | 55    | 45   | 2   | 142   | 6                | 90   | 185  | 17  | 298   | 0                      | 0   | 5   | 83   | 88   | 146                                                  | 13                     | 119   | 80   | 120   | 361   |
|       | 14,595              |                    | 7.6           | 10.4  | 8.5  | 0.4 | 26.9  | 1.1              | 17.0 | 35.0 | 3.2 | 56.4  | 0.0                    | 0.0 | 0.9 | 15.7 | 16.7 | 27.7                                                 | 2.5                    | 32.8  | 22.2 | 33.1  |       |
| 10病棟  | 12                  | 162                | 7             | 38    | 81   | 0   | 126   | 1                | 2    | 32   | 1   | 36    | 0                      | 0   | 0   | 0    | 0    | 127                                                  | 0                      | 61    | 48   | 67    | 192   |
|       | 4,455               |                    | 4.3           | 23.5  | 50.0 | 0.0 | 77.8  | 0.6              | 1.2  | 19.8 | 0.6 | 22.2  | 0.0                    | 0.0 | 0.0 | 0.0  | 0.0  | 78.4                                                 | 0.0                    | 31.8  | 25.0 | 34.9  |       |
| 11病棟  | 24                  | 293                | 30            | 39    | 45   | 0   | 114   | 23               | 58   | 52   | 23  | 156   | 0                      | 0   | 0   | 23   | 23   | 137                                                  | 25                     | 68    | 48   | 65    | 194   |
|       | 8,570               |                    | 10.2          | 13.3  | 15.4 | 0.0 | 38.9  | 7.8              | 19.8 | 17.7 | 7.8 | 53.2  | 0.0                    | 0.0 | 0.0 | 7.8  | 7.8  | 46.8                                                 | 8.5                    | 34.8  | 24.7 | 33.2  |       |
| 12病棟  | 18                  | 226                | 36            | 52    | 34   | 0   | 122   | 0                | 10   | 67   | 4   | 81    | 0                      | 0   | 5   | 18   | 23   | 122                                                  | 30                     | 63    | 48   | 88    | 207   |
|       | 6,419               |                    | 15.9          | 23.0  | 15.0 | 0.0 | 54.0  | 0.0              | 4.4  | 29.6 | 1.8 | 35.8  | 0.0                    | 0.0 | 2.2 | 8.0  | 10.2 | 54.0                                                 | 13.3                   | 30.4  | 23.2 | 42.3  |       |
| 13病棟  | 12                  | 171                | 100           | 59    | 6    | 0   | 165   | 0                | 6    | 0    | 0   | 6     | 0                      | 0   | 0   | 0    | 0    | 165                                                  | 67                     | 71    | 48   | 60    | 184   |
|       | 4,521               |                    | 58.5          | 34.5  | 3.5  | 0.0 | 96.5  | 0.0              | 3.5  | 0.0  | 0.0 | 3.5   | 0.0                    | 0.0 | 0.0 | 0.0  | 0.0  | 96.5                                                 | 39.2                   | 38.6  | 26.1 | 32.6  |       |
| I C U | 8                   | 83                 | 83            | 0     | 0    | 0   | 83    | 0                | 0    | 0    | 0   | 0     | 0                      | 0   | 0   | 0    | 0    | 83                                                   | 0                      | 130   | 87   | 115   | 362   |
|       | 2,912               |                    | 100.0         | 0.0   | 0.0  | 0.0 | 100.0 | 0.0              | 0.0  | 0.0  | 0.0 | 0.0   | 0.0                    | 0.0 | 0.0 | 0.0  | 0.0  | 100.0                                                | 0.0                    | 35.9  | 24.0 | 31.8  |       |
| 全病棟   | 322                 | 4,160              | 594           | 1,361 | 431  | 6   | 2,392 | 37               | 463  | 883  | 71  | 1,454 | 0                      | 2   | 21  | 291  | 314  | 2,423                                                | 290                    | 1,169 | 764  | 1,187 | 3,371 |
| 合 計   | 117,028             |                    | 14.3          | 32.7  | 10.4 | 0.1 | 57.5  | 0.9              | 11.1 | 21.2 | 1.7 | 35.0  | 0.0                    | 0.0 | 0.5 | 7.0  | 7.5  | 58.2                                                 | 7.0                    | 34.6  | 22.7 | 35.2  |       |

注) I 常に寝たまま II ベッド上で身体を起こせる III 病室内歩行が可能 IV 日常生活にほとんど不自由がない

調査当日患者数：毎月1回16日に調査、年12回調査の累計(家族付添数、看護職員数も同様)

### 3 新規受診患者数統計（性別，年齢階級別，居住地別）

（平成16年4月～平成17年3月）（単位：人）

| 居住地                   | 性<br>年齢 | 男      |          |            |            |            |            |            |            |           | 女      |          |            |            |            |            |            |            |           | 計        |            | 摘要 |
|-----------------------|---------|--------|----------|------------|------------|------------|------------|------------|------------|-----------|--------|----------|------------|------------|------------|------------|------------|------------|-----------|----------|------------|----|
|                       |         | 計      | 0～<br>9歳 | 10～<br>19歳 | 20～<br>29歳 | 30～<br>39歳 | 40～<br>49歳 | 50～<br>59歳 | 60～<br>69歳 | 70歳<br>以上 | 計      | 0～<br>9歳 | 10～<br>19歳 | 20～<br>29歳 | 30～<br>39歳 | 40～<br>49歳 | 50～<br>59歳 | 60～<br>69歳 | 70歳<br>以上 | 患者<br>総数 | 居住地<br>別比率 |    |
| 埼玉県戸田・蕨保健所管内          |         | 30     |          |            |            | 2          | 2          | 3          | 13         | 10        | 35     |          |            | 2          | 6          | 6          | 7          | 9          | 5         | 65       | 0.9%       |    |
| 川 口 〃                 |         | 138    |          | 1          | 2          | 13         | 10         | 23         | 47         | 42        | 130    |          | 2          | 5          | 19         | 21         | 22         | 38         | 23        | 268      | 3.9%       |    |
| 朝 霞 〃                 |         | 23     |          |            | 1          | 5          | 2          | 4          | 4          | 7         | 23     |          | 1          | 2          | 1          | 7          | 6          | 5          | 1         | 46       | 0.7%       |    |
| 鴻 巣 〃                 |         | 869    | 2        | 19         | 20         | 47         | 72         | 158        | 294        | 257       | 1,168  | 7        | 19         | 69         | 136        | 176        | 287        | 292        | 182       | 2,037    | 29.6%      |    |
| 草 加 〃                 |         | 9      |          | 1          | 1          |            |            |            | 4          | 3         | 17     |          | 1          | 1          | 2          | 1          | 4          | 7          | 1         | 26       | 0.4%       |    |
| 坂 戸 〃                 |         | 41     |          |            | 2          | 2          | 1          | 12         | 15         | 9         | 44     |          |            | 1          | 4          | 6          | 19         | 13         | 1         | 85       | 1.2%       |    |
| 所 沢 〃                 |         | 41     | 1        | 2          | 1          | 2          | 1          | 11         | 13         | 10        | 69     |          |            | 5          | 6          | 17         | 14         | 22         | 5         | 110      | 1.6%       |    |
| 飯 能 〃                 |         | 10     |          | 2          |            | 3          | 2          | 1          | 2          |           | 16     |          |            |            | 2          | 5          | 1          | 4          | 4         | 26       | 0.4%       |    |
| 東 松 山 〃               |         | 58     |          | 2          | 1          | 3          | 3          | 13         | 21         | 15        | 74     |          | 2          | 3          | 12         | 12         | 22         | 7          | 16        | 132      | 1.9%       |    |
| 秩 父 〃                 |         | 25     |          |            |            | 1          | 1          | 4          | 10         | 9         | 31     |          |            |            | 4          | 4          | 11         | 6          | 6         | 56       | 0.8%       |    |
| 本 庄 〃                 |         | 12     |          |            |            | 2          |            | 1          | 6          | 3         | 16     |          | 1          |            |            | 6          | 7          | 2          |           | 28       | 0.4%       |    |
| 熊 谷 〃                 |         | 103    |          | 3          | 2          | 4          | 12         | 25         | 28         | 29        | 105    |          | 3          | 1          | 7          | 15         | 28         | 30         | 21        | 208      | 3.0%       |    |
| 深 谷 〃                 |         | 20     |          | 1          | 1          | 1          | 2          | 4          | 4          | 7         | 23     |          |            | 2          | 1          | 1          | 7          | 8          | 4         | 43       | 0.6%       |    |
| 行 田 〃                 |         | 115    |          |            | 1          | 4          | 10         | 28         | 33         | 39        | 151    | 1        | 1          | 6          | 15         | 26         | 37         | 36         | 29        | 266      | 3.9%       |    |
| 加 須 〃                 |         | 82     |          | 2          | 3          | 4          | 11         | 20         | 19         | 23        | 132    |          | 1          | 5          | 9          | 27         | 28         | 36         | 26        | 214      | 3.1%       |    |
| 春 日 部 〃               |         | 305    | 1        | 4          | 7          | 8          | 19         | 68         | 110        | 88        | 362    | 2        | 7          | 10         | 35         | 41         | 105        | 94         | 68        | 667      | 9.7%       |    |
| 越 谷 〃                 |         | 35     |          |            | 2          | 3          | 2          | 6          | 18         | 4         | 31     |          |            | 2          | 5          | 4          | 8          | 9          | 3         | 66       | 1.0%       |    |
| 幸 手 〃                 |         | 336    | 1        | 5          | 13         | 12         | 27         | 59         | 108        | 111       | 432    | 1        | 6          | 17         | 34         | 86         | 134        | 98         | 56        | 768      | 11.2%      |    |
| 吉 川 〃                 |         | 4      |          |            |            |            |            | 3          | 1          |           | 13     |          |            |            | 1          | 2          | 6          | 1          | 3         | 17       | 0.2%       |    |
| 狭 山 〃                 |         | 15     |          |            | 1          |            | 1          | 3          | 6          | 4         | 21     |          | 1          | 1          | 3          | 3          | 7          | 4          | 2         | 36       | 0.5%       |    |
| さいたま市保健所              |         | 588    |          | 4          | 14         | 30         | 41         | 104        | 190        | 205       | 683    | 3        | 8          | 39         | 70         | 109        | 146        | 166        | 142       | 1,271    | 18.5%      |    |
| 川 越 市 〃               |         | 76     | 1        | 2          |            | 2          | 7          | 19         | 27         | 18        | 94     |          | 1          | 5          | 10         | 15         | 28         | 24         | 11        | 170      | 2.5%       |    |
| 埼 玉 県 小 計             |         | 2,935  | 6        | 48         | 72         | 148        | 226        | 569        | 973        | 893       | 3,670  | 14       | 54         | 176        | 382        | 590        | 934        | 911        | 609       | 6,605    | 96.1%      |    |
| 北 海 道 ・ 東 北 地 方       |         | 13     |          | 1          |            |            | 1          | 1          | 3          | 7         | 20     |          | 1          | 1          | 1          | 3          | 4          | 2          | 8         | 33       | 0.5%       |    |
| 関 東 地 方 (埼 玉 県 を 除 く) |         | 81     | 1        | 1          | 2          | 7          | 10         | 26         | 16         | 18        | 112    |          |            | 10         | 21         | 19         | 26         | 20         | 16        | 193      | 2.8%       |    |
| 中 部 地 方               |         | 9      |          |            |            | 1          |            | 2          | 2          | 4         | 16     |          |            |            | 1          | 1          | 7          | 3          | 4         | 25       | 0.4%       |    |
| 近 畿 地 方               |         | 2      |          |            |            |            |            |            |            | 2         | 4      |          | 1          | 1          | 1          |            |            |            | 1         | 6        | 0.1%       |    |
| 中 国 ・ 四 国 ・ 九 州 地 方   |         | 6      |          |            |            | 1          | 1          |            |            | 4         | 6      |          |            | 1          |            |            | 1          | 1          | 3         | 12       | 0.2%       |    |
| 計                     |         | 3,046  | 7        | 50         | 74         | 157        | 238        | 598        | 994        | 928       | 3,828  | 14       | 56         | 189        | 406        | 613        | 972        | 937        | 641       | 6,874    | 100.0%     |    |
| 年齢階級別 比 率             |         | 100.0% | 0.2%     | 1.6%       | 2.4%       | 5.2%       | 7.8%       | 19.6%      | 32.6%      | 30.5%     | 100.0% | 0.4%     | 1.5%       | 4.9%       | 10.6%      | 16.0%      | 25.4%      | 24.5%      | 16.7%     | —        | —          |    |

#### 4 診療科別病態統計

##### 1) 血液科

| 区 分                  | 入院患者数 | 延べ数 |
|----------------------|-------|-----|
| 腫瘍性疾患 白血病            |       |     |
| 急性骨髄性白血病             | 32    | 78  |
| 急性リンパ性白血病            | 11    | 35  |
| 慢性骨髄性白血病             | 3     | 4   |
| 骨髄異形性症候群             | 4     | 7   |
| 悪性リンパ腫 ホジキン病         | 1     | 4   |
| 非ホジキンリンパ腫            | 140   | 293 |
| 慢性リンパ性白血病            | 1     | 3   |
| 成人T細胞性白血病            | 5     | 12  |
| 多発性骨髄腫               | 19    | 51  |
| 造血器以外の腫瘍 癌腫          | 1     | 1   |
| 非腫瘍性疾患 造血器疾患 再生不良性貧血 | 2     | 2   |
| その他                  | 2     | 2   |
| 骨髄提供者                | 16    | 16  |
| 計                    | 237   | 508 |

##### 2) 呼吸器科

| 区 分       | 新規登録 | 入院患者延べ数 | 実数  |
|-----------|------|---------|-----|
| 肺癌        | 199  | 620     | 380 |
| 小細胞癌      | 31   | 156     | 80  |
| 腺癌        | 92   | 290     | 180 |
| 扁平上皮癌     | 55   | 118     | 89  |
| 大細胞癌      | 2    | 5       | 3   |
| 非小細胞癌、その他 | 19   | 51      | 28  |
| 肺癌以外の悪性腫瘍 | 13   | 34      | 22  |
| 良性腫瘍、その他  | 39   | 40      | 39  |
| 検査入院      | —    | 7       | 7   |
| 計         | 251  | 701     | 448 |

##### 3) 消化器外科

| 臓器      | 悪性腫瘍<br>切除例数 | 術 式                                                                                                 | 例数                                            |
|---------|--------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------|
| 食道      | 65           | 右開胸下切除【うち胸腔鏡・腹腔鏡併施】<br>胸骨正中切開下切除<br>左開胸開腹下切除<br>その他切除<br>その他（非切除バイパスなど）                             | 54【52・24】<br>7<br>2<br>2<br>10                |
| 胃       | 188          | 胃全摘<br>幽門側胃切除<br>噴門側胃切除<br>幽門保存胃切除<br>その他切除<br>試験的開腹【うち腹腔鏡】<br>その他（吻合など）                            | 56<br>91<br>15<br>14<br>12<br>16【10】<br>10    |
| 小腸      | 5            | 小腸切除<br>試験的開腹【うち腹腔鏡】                                                                                | 5<br>1【1】                                     |
| 大腸      | 208          | 結腸切除【うち腹腔鏡下】<br>直腸切除【うち腹腔鏡下】<br>その他（造瘻など）<br>試験的開腹【うち腹腔鏡】                                           | 89【7】<br>119【2】<br>21<br>0【0】                 |
| 肝臓・胆道   | 99           | 系統的肝切除<br>肝部分切除<br>胆嚢悪性腫瘍切除手術<br>膵頭十二指腸切除【うち幽門保存】<br>その他切除<br>その他（吻合など）                             | 46<br>33<br>9<br>11【1】<br>4<br>4              |
| 膵臓・十二指腸 | 27           | 膵頭十二指腸切除【うち幽門保存】<br>膵体尾部切除<br>その他（吻合など）                                                             | 17【4】<br>10<br>6                              |
| その他     | 13           | 脾摘【うち腹腔鏡下】<br>副腎悪性腫瘍切除<br>その他の腹部悪性腫瘍切除<br>開腹生検【うち腹腔鏡】<br>鼠径・腹壁・横隔膜ヘルニア手術<br>イレウス解除<br>遊離空腸採取<br>その他 | 5【0】<br>0<br>13<br>7【0】<br>5<br>11<br>20<br>7 |
| 計       | 605          |                                                                                                     | 732                                           |

#### 4) 乳腺外科

| 手術件数                       | ( ) は外来手術件数 (生検例を含む) |          |
|----------------------------|----------------------|----------|
| 原発性乳癌                      | 0期                   | 29 (2)   |
|                            | I期                   | 135 (1)  |
|                            | IIA期                 | 209 (0)  |
|                            | IIB期                 | 35 (0)   |
|                            | IIIA期                | 13 (0)   |
|                            | IIIB期                | 14 (0)   |
|                            | IIIC期                | 14 (0)   |
|                            | IV期                  | 5 (0)    |
| 計                          |                      | 450 (3)  |
| 左側230例, 右側220例             |                      |          |
| 同時両側30例 (左右15例ずつ), 異時両側10例 |                      |          |
| 再発乳癌                       |                      | 14 (5)   |
| 良性乳腺疾患                     |                      | 20 (10)  |
| その他 (肉腫)                   |                      | 2 (0)    |
| 計                          |                      | 36 (15)  |
| 総計                         |                      | 486 (18) |

#### 5) 脳神経外科

| 区 分             | 入 院 患 者   |
|-----------------|-----------|
| 脳腫瘍             | 110 (141) |
| 原 発 性           | 37 (55)   |
| 転 移 性           | 73 (86)   |
| がん性髄膜炎          | 16 (17)   |
| 脊椎・脊髄腫瘍 (主に転移性) | 6 (6)     |
| 頭痛 (がんによるもの)    | 0 (0)     |
| 脳血管障害           | 6 (6)     |
| 外傷および後遺症        | 2 (3)     |
| そ の 他           | 9 (9)     |
| 合 計             | 149 (182) |

重複あり, ( ) 内は延入院患者数

#### 6) 皮膚科

| 区 分       | 入院患者 | 入院患者延べ数 |
|-----------|------|---------|
| 悪性黒色腫     | 18   | 25      |
| 有棘細胞がん    | 28   | 36      |
| 外陰部パジェット病 | 6    | 10      |
| 基底細胞がん    | 14   | 15      |
| 汗腺がん      | 0    | 0       |
| 血管肉腫      | 1    | 1       |
| ボーエン病     | 5    | 5       |
| その他       | 18   | 27      |
| 計         | 90   | 119     |

#### 7) 婦人科

| 区 分        |     |
|------------|-----|
| 子 宮 頸 癌    | 21  |
| 上皮内癌       | 67  |
| 境界悪性腫瘍     | 5   |
| 子 宮 体 癌    | 55  |
| 子 宮 肉 腫    | 2   |
| 卵 巢 癌      | 24  |
| 卵 管 癌      | 2   |
| 外 陰 癌      | 4   |
| 絨 毛 癌      | 1   |
| 腹 膜 癌      | 1   |
| 原 発 不 明 癌  | 2   |
| 悪 性 合 計    | 184 |
| 子宮頸部高度異型上皮 | 1   |
| 子宮内膜増殖症    | 1   |
| 子宮良性腫瘍     | 4   |
| 子 宮 脱      | 2   |
| 卵巣良性腫瘍     | 8   |
| 非悪性合計      | 16  |
| 総 計        | 200 |

#### 8) 泌尿器科

| 区 分         | 入 院 患 者 数 |        |     |
|-------------|-----------|--------|-----|
|             | 初回治療      | 再 治 療* | 計   |
| 悪性腫瘍        |           |        |     |
| 腎           | 30        | 17     | 47  |
| 尿路上皮        | 35        | 98     | 133 |
| 精巣          | 11        | 14     | 25  |
| 前立腺         | 29        | 17     | 46  |
| 後腹膜・他       | 2         | 2      | 4   |
| 小 計         | 107       | 148    | 255 |
| 良性疾患        | 25        | 13     | 38  |
| 他科疾患による尿路障害 | 2         | 8      | 10  |
| 合 計         | 134       | 169    | 303 |

\*: 延入院患者数

9) 口腔外科

| 区 分    | 入院患者数 (延べ)  |      |     |     |
|--------|-------------|------|-----|-----|
| 舌癌     | 74例 (124例)  |      |     |     |
|        | 手術          | 44例  | 放射線 | 32例 |
| 下顎骨肉癌  | 27例 (43例)   |      |     |     |
|        | 手術          | 28例  | 放射線 | 11例 |
| 頬粘膜癌   | 17例 (32例)   |      |     |     |
|        | 手術          | 16例  | 放射線 | 9例  |
| 上顎骨肉癌  | 13例 (23例)   |      |     |     |
|        | 手術          | 16例  | 放射線 | 8例  |
| 唾液腺癌   | 12例 (23例)   |      |     |     |
|        | 手術          | 9例   | 放射線 | 9例  |
| その他癌   | 18例 (30例)   |      |     |     |
|        | 手術          | 8例   | 放射線 | 12例 |
| 良性腫瘍   | 16例         |      |     |     |
|        | 手術          | 15例  |     |     |
| 非腫瘍性病変 | 43例         |      |     |     |
|        | 手術          | 41例  |     |     |
| 計      |             |      |     |     |
| 悪性腫瘍   | 161例 (275例) |      |     |     |
|        | 手術          | 121例 | 放射線 | 81例 |
| 良性腫瘍   | 16例         |      |     |     |
|        | 手術          | 15例  |     |     |
| 非腫瘍性病変 | 43例         |      |     |     |
|        | 手術          | 41例  |     |     |
| 総計     | 220例 (334例) |      |     |     |
|        | 手術          | 177例 | 放射線 | 81例 |
|        |             |      | 化療  | 21例 |

10) 放射線科

| 区 分                   | 新 患 者 数 | 延べ患者数             |
|-----------------------|---------|-------------------|
| 1) 放射線治療 (外来)         |         |                   |
| 1 脳腫瘍 (原発不明の転移性腫瘍を含む) | 22      | 29                |
| 2 頭頸部腫瘍 (悪性リンパ腫は除く)   | 246     | 292<br>(脳定位照射 1)  |
| 上咽頭癌                  | 13      |                   |
| 中咽頭癌                  | 24      |                   |
| 下咽頭癌                  | 30      |                   |
| 喉頭癌                   | 62      |                   |
| 舌癌                    | 26      |                   |
| 鼻、副鼻腔腫瘍 (上顎骨肉癌を含む)    | 37      |                   |
| その他                   | 54      |                   |
| 3 肺癌                  | 178     | 259<br>(脳定位照射 33) |
| 4 縦隔腫瘍 (悪性リンパ腫は除く)    | 2       | 3                 |
| 5 食道癌                 | 71      | 80<br>(肺定位照射 1)   |
| 6 乳癌                  | 369     | 437<br>(脳定位照射 3)  |
| 7 血液、造血器腫瘍            | 63      | 69                |
| 悪性リンパ腫                | 48      |                   |
| その他                   | 15      |                   |
| 8 肝、胆、膵腫瘍             | 30      | 32                |
| 9 消化器癌 (悪性リンパ腫はのぞく)   | 50      | 64<br>(脳定位照射 5)   |

|                                  |      |                  |
|----------------------------------|------|------------------|
| 10 泌尿生殖器系腫瘍                      | 100  | 102<br>(脳定位照射 1) |
| 前立腺癌                             | 76   |                  |
| 膀胱癌 (腎盂、尿管癌を含む)                  | 17   |                  |
| その他                              | 7    |                  |
| 11 婦人科系腫瘍                        | 43   | 63               |
| 子宮頸癌                             | 36   |                  |
| その他                              | 7    |                  |
| 12 骨、軟部腫瘍 (皮膚腫瘍、原発不明の転移性腫瘍のみを含む) | 25   | 33               |
| 13 リンパ節転移 (原発不明)                 | 7    | 8                |
| 総 計                              | 1206 | 1471             |
| 2) <sup>131</sup> I (ヨード) 治療     |      |                  |
| 甲状腺癌                             | 8    | 8                |
| 甲状腺機能亢進症                         | 2    | 2                |
| 総 計                              | 10   | 10               |
| 入院患者                             | 実人数  | 延べ人数             |
| 疾患名                              |      |                  |
| 甲状腺癌                             | 8    | 8                |
| 上咽頭癌                             | 16   | 28               |
| 中・下咽頭癌                           | 7    | 7                |
| 鼻腔腫瘍                             | 1    | 1                |
| 喉頭癌                              | 6    | 6                |
| 口腔癌                              | 4    | 4                |
| 食道癌                              | 6    | 9                |
| 肺・縦隔腫瘍                           | 1    | 1                |
| 乳癌                               | 2    | 4                |
| 大腸癌                              | 2    | 2                |
| 肝癌                               | 15   | 44               |
| 胆嚢および膵癌                          | 0    | 0                |
| 子宮癌                              | 0    | 0                |
| 腎癌                               | 0    | 0                |
| 前立腺癌                             | 1    | 1                |
| 良性疾患 (肝嚢胞、静脈血栓症)                 | 0    | 0                |
| 悪性リンパ腫 (骨髄腫)                     | 2    | 2                |
| 総 計                              | 71   | 117              |

11) 消化器内科

| 区 分        |    | 入 院 患 者 数 |        |
|------------|----|-----------|--------|
| 食道         | 悪性 | 86        | (155)  |
|            | 良性 | 1         | (1)    |
| 胃          | 悪性 | 314       | (630)  |
|            | 良性 | 2         | (2)    |
| 十二指腸・小腸・空腸 | 悪性 | 44        | (50)   |
|            | 良性 | 2         | (2)    |
| 大腸         | 悪性 | 110       | (554)  |
|            | 良性 | 12        | (12)   |
| 肝          | 悪性 | 117       | (268)  |
|            | 良性 | 0         | (0)    |
| 胆嚢・胆道      | 悪性 | 30        | (119)  |
|            | 良性 | 0         | (0)    |
| 膵          | 悪性 | 63        | (116)  |
|            | 良性 | 0         | (0)    |
| その他        | 悪性 | 18        | (46)   |
|            | 良性 | 0         | (0)    |
| 小計         | 悪性 | 782       | (1938) |
|            | 良性 | 17        | (17)   |
| 合 計        |    | 799       | (1955) |

( )内は述べ患者数

## 5 リハビリテーション

### 1) リハビリテーション内容表

|           | 4月    | 5月  | 6月    | 7月    | 8月    | 9月    | 10月   | 11月   | 12月 | 1月  | 2月  | 3月    | 16年度総計 |
|-----------|-------|-----|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 患者数：入院    | 594   | 401 | 558   | 588   | 634   | 447   | 531   | 540   | 478 | 411 | 429 | 475   | 6,086  |
| 外来        | 603   | 463 | 574   | 612   | 576   | 566   | 613   | 485   | 512 | 557 | 504 | 611   | 6,676  |
| 計         | 1,197 | 864 | 1,132 | 1,200 | 1,210 | 1,013 | 1,144 | 1,025 | 990 | 968 | 933 | 1,086 | 12,762 |
| 実施単位数：個別  | 485   | 374 | 440   | 403   | 411   | 341   | 383   | 328   | 252 | 307 | 294 | 333   | 4,351  |
| 集団        | 712   | 490 | 692   | 797   | 799   | 672   | 685   | 625   | 664 | 588 | 574 | 654   | 7,952  |
| 消炎鎮痛処置    | 0     | 0   | 0     | 0     | 0     | 0     | 76    | 72    | 74  | 73  | 65  | 99    | 459    |
| 計         | 1,197 | 864 | 1,132 | 1,200 | 1,210 | 1,013 | 1,144 | 1,025 | 990 | 968 | 933 | 1,086 | 12,762 |
| 退院時リハビリ指導 | 22    | 12  | 24    | 27    | 28    | 26    | 21    | 18    | 29  | 30  | 40  | 33    | 310    |
| 早期加算      | 2     | 3   | 5     | 7     | 2     | 7     | 3     | 7     | 5   | 7   | 3   | 6     | 57     |
| 治療装具処方    | 5     | 2   | 6     | 4     | 6     | 3     | 2     | 5     | 3   | 3   | 4   | 5     | 48     |

### 2) 疾患別所属診療科

| 診療科<br>依頼内容  | 消化器<br>外科 | 乳腺<br>外科 | 胸部<br>外科 | 整形<br>外科 | 脳神経<br>外科 | 婦人科 | 内分<br>泌科 | 口腔<br>外科 | 泌尿<br>器科 | 皮膚科 | 頭頸部<br>外科 | 放射<br>線科 | 呼吸<br>器科 | 消化器<br>内科 | 血液科 | 緩和<br>ケア科 | 依頼総数 |
|--------------|-----------|----------|----------|----------|-----------|-----|----------|----------|----------|-----|-----------|----------|----------|-----------|-----|-----------|------|
| 術前術後の理学療法    | 20        | 327      | 6        |          |           |     |          | 80       |          | 2   | 15        |          |          |           |     |           | 450  |
| 術前術後肺理学療法    | 8         |          |          |          |           |     |          |          |          |     |           |          |          |           |     |           | 8    |
| 骨軟部腫瘍（転移性含）  |           |          |          | 38       |           |     |          |          |          |     |           |          |          |           |     |           | 38   |
| 痛みのリハビリ      |           | 20       |          |          |           |     |          |          |          |     |           |          |          |           |     |           | 20   |
| 骨折           |           |          |          | 5        |           |     |          |          |          |     |           |          |          |           |     |           | 5    |
| 大脳半球病変の片麻痺   |           |          |          |          | 28        |     |          |          | 3        |     |           |          |          |           |     |           | 31   |
| 四肢・対麻痺       |           |          |          |          | 3         |     |          |          |          |     |           | 1        |          |           |     |           | 4    |
| 廃用性症候群       |           |          |          |          |           | 3   |          |          |          |     |           |          | 13       | 3         | 19  |           | 38   |
| 切断           |           |          |          | 2        |           |     |          |          |          | 1   |           |          |          |           |     |           | 3    |
| 重症ハイリスクADL訓練 |           |          |          |          |           |     | 6        |          |          |     |           |          |          |           |     | 8         | 14   |
| 二次性リンパ浮腫     |           | 62       |          | 4        |           | 136 | 13       |          | 8        | 2   |           |          |          | 21        |     | 9         | 255  |
| 末梢神経障害       |           |          |          |          |           |     |          |          |          |     |           |          |          |           |     |           | 0    |
| その他（外傷・筋炎等）  |           |          |          |          |           |     |          |          |          |     |           |          |          |           |     |           | 0    |
| 総症例数         | 28        | 409      | 6        | 49       | 31        | 139 | 19       | 80       | 11       | 5   | 15        | 1        | 13       | 24        | 19  | 17        | 866  |

## 6 手術件数統計

### 1) 科別月別手術件数

| 科       | 4月  | 5月  | 6月  | 7月  | 8月  | 9月  | 10月 | 11月 | 12月 | 1月  | 2月  | 3月  | 合計    |
|---------|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-------|
| 消化器外科   | 65  | 43  | 63  | 60  | 58  | 58  | 51  | 54  | 53  | 56  | 55  | 64  | 680   |
| 頭頸部外科   | 39  | 25  | 35  | 37  | 42  | 36  | 41  | 42  | 41  | 36  | 36  | 38  | 448   |
| 乳 腺 外 科 | 30  | 39  | 34  | 41  | 43  | 38  | 33  | 47  | 42  | 38  | 48  | 47  | 480   |
| 婦 人 科   | 10  | 9   | 20  | 15  | 16  | 18  | 19  | 15  | 20  | 21  | 21  | 23  | 207   |
| 胸 部 外 科 | 24  | 17  | 23  | 23  | 22  | 20  | 15  | 21  | 18  | 20  | 19  | 25  | 247   |
| 泌 尿 器 科 | 15  | 14  | 14  | 16  | 10  | 15  | 14  | 8   | 11  | 11  | 18  | 16  | 162   |
| 口 腔 外 科 | 17  | 17  | 16  | 20  | 15  | 16  | 13  | 24  | 18  | 16  | 17  | 18  | 207   |
| 整 形 外 科 | 13  | 8   | 8   | 7   | 4   | 4   | 11  | 13  | 9   | 13  | 12  | 10  | 112   |
| 皮 膚 科   | 9   | 5   | 10  | 5   | 9   | 8   | 8   | 8   | 11  | 7   | 10  | 6   | 96    |
| 脳 外 科   | 4   | 5   | 7   | 10  | 10  | 2   | 5   | 5   | 4   | 7   | 8   | 4   | 71    |
| 血 液 科   | 2   | 1   | 3   | 1   | 2   |     | 1   |     | 1   | 1   |     | 1   | 13    |
| 放 射 線 科 |     |     |     |     |     |     |     |     |     | 1   |     |     | 1     |
| 形 成 外 科 |     |     |     |     |     |     |     |     |     | 1   | 3   | 1   | 5     |
| 合 計     | 228 | 183 | 233 | 235 | 231 | 215 | 211 | 237 | 228 | 228 | 247 | 253 | 2,729 |

### 2) 麻酔種類別手術件数

| 麻 酔 種 類 | 4月  | 5月  | 6月  | 7月  | 8月  | 9月  | 10月 | 11月 | 12月 | 1月  | 2月  | 3月  | 合計    |
|---------|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-------|
| 局 所 麻 酔 | 27  | 24  | 11  | 33  | 25  | 20  | 25  | 27  | 24  | 20  | 20  | 23  | 279   |
| 伝 達 麻 酔 | 9   | 8   | 6   | 9   | 5   | 8   | 7   | 4   | 4   | 5   | 13  | 11  | 89    |
| 全 身 麻 酔 | 192 | 151 | 216 | 193 | 201 | 187 | 179 | 206 | 200 | 203 | 214 | 219 | 2,361 |
| 合 計     | 228 | 183 | 233 | 235 | 231 | 215 | 211 | 237 | 228 | 228 | 247 | 253 | 2,729 |

### 3) 手術件数の前年度との比較

|         | 4月   | 5月   | 6月   | 7月   | 8月   | 9月   | 10月  | 11月  | 12月  | 1月   | 2月   | 3月   | 合計    |
|---------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|-------|
| 平成15年度  | 214  | 192  | 199  | 224  | 216  | 213  | 222  | 192  | 215  | 199  | 210  | 245  | 2,541 |
| 平成16年度  | 228  | 183  | 233  | 235  | 231  | 215  | 211  | 237  | 228  | 228  | 247  | 253  | 2,729 |
| 前 年 度 比 | 1.07 | 0.95 | 1.17 | 1.05 | 1.07 | 1.01 | 0.95 | 1.23 | 1.06 | 1.14 | 1.17 | 1.03 | 1.07  |

### 4) 年齢別手術件数

| 区分 | ～9 | 10～19 | 20～29 | 30～39 | 40～49 | 50～59 | 60～69 | 70～79 | 80～ | 合計    |
|----|----|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-----|-------|
| 件数 | 3  | 23    | 49    | 171   | 307   | 666   | 859   | 522   | 129 | 2,729 |

## 7 特定集中治療室（ICU）統計

### 1) 科別、月別患者入室状況

| 区 分     | 4 月 | 5 月  | 6 月  | 7 月  | 8 月  | 9 月  | 10月  | 11月  | 12月  | 1 月  | 2 月  | 3 月  | 合 計    |
|---------|-----|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|--------|
| 消化器外科   | 32  | 27   | 33   | 35   | 38   | 35   | 29   | 33   | 28   | 28   | 34   | 39   | 391    |
| 胸 部 外 科 | 24  | 14   | 21   | 22   | 18   | 19   | 14   | 20   | 18   | 16   | 17   | 23   | 226    |
| 脳 外 科   | 3   | 2    | 6    | 6    | 6    | 2    | 5    | 4    | 2    | 5    | 7    | 4    | 52     |
| 婦 人 科   | 0   | 2    | 7    | 4    | 3    | 2    | 3    | 0    | 2    | 5    | 5    | 8    | 41     |
| 泌 尿 器 科 | 1   | 1    | 2    | 2    | 3    | 2    | 1    | 2    | 2    | 2    | 0    | 1    | 22     |
| 口 腔 外 科 | 2   | 2    | 4    | 3    |      | 1    | 3    | 2    |      | 1    | 4    | 1    | 23     |
| 頭頸部外科   | 9   | 10   | 9    | 5    | 11   | 8    | 10   | 11   | 11   | 8    | 11   | 13   | 116    |
| 整 形 外 科 | 1   |      | 1    |      |      | 1    |      |      |      |      | 1    |      | 4      |
| 皮 膚 科   |     |      |      |      |      | 1    |      |      |      |      |      |      | 1      |
| 内 分 泌 科 |     |      |      |      | 1    |      |      |      |      |      |      |      | 1      |
| 乳 腺 外 科 |     |      |      |      |      |      |      |      |      |      | 1    |      | 1      |
| 呼吸器内科   |     |      |      |      |      |      |      |      | 1    |      | 1    |      | 2      |
| 入室患者数   | 72  | 58   | 83   | 77   | 80   | 71   | 65   | 72   | 64   | 65   | 81   | 89   | 877    |
| 月別利用率   | 83  | 73.8 | 89.2 | 89.9 | 84.3 | 76.3 | 76.2 | 72.9 | 82.7 | 81.5 | 83.5 | 69.8 | 80.30% |

### 2) 入室期間別患者数

| 日 数   | 1 日 | 2 日 | 3 日 | 4 日 | 5 日 | 6 日 | 7 日 | 8 日 | 9 日 | 10日 | 11日 | 12日 | 13日 | 14日以上 | 計   |
|-------|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-------|-----|
| 患 者 数 | 1   | 569 | 91  | 60  | 41  | 16  | 16  | 53  | 10  | 2   | 1   | 2   | 1   | 14    | 877 |

## 8 臨床検査業務統計

### 1) 臨床検査件数

| 区 分   | 4 月     | 5 月    | 6 月     | 7 月     | 8 月     | 9 月     | 10月     | 11月     | 12月     | 1 月     | 2 月     | 3 月     | 総 数       |
|-------|---------|--------|---------|---------|---------|---------|---------|---------|---------|---------|---------|---------|-----------|
| 生 化 学 | 71,626  | 65,486 | 78,237  | 74,394  | 76,735  | 73,050  | 72,432  | 83,217  | 72,561  | 75,716  | 73,073  | 81,647  | 898,174   |
| 一 般   | 2,497   | 3,074  | 3,983   | 3,483   | 3,566   | 3,526   | 3,495   | 4,199   | 3,441   | 3,483   | 3,343   | 3,731   | 41,821    |
| 血 液   | 13,443  | 12,095 | 14,743  | 13,886  | 14,384  | 13,514  | 13,493  | 14,766  | 13,621  | 13,998  | 13,465  | 15,113  | 166,521   |
| 血 清   | 9,971   | 9,484  | 12,139  | 10,542  | 10,872  | 10,508  | 10,791  | 12,720  | 10,859  | 11,224  | 10,944  | 11,894  | 131,948   |
| 細 菌   | 859     | 779    | 876     | 849     | 935     | 737     | 721     | 761     | 778     | 725     | 695     | 818     | 9,533     |
| 輸 血   | 1,874   | 1,603  | 2,003   | 1,750   | 1,836   | 1,490   | 1,473   | 1,621   | 1,748   | 1,803   | 1,652   | 1,933   | 20,786    |
| 生 理   | 2,535   | 2,349  | 2,909   | 2,901   | 2,785   | 2,617   | 2,593   | 2,703   | 2,651   | 2,850   | 2,696   | 2,938   | 32,527    |
| 電 顕   | 23      | 31     | 27      | 21      | 24      | 23      | 32      | 43      | 30      | 26      | 28      | 31      | 339       |
| 合 計   | 102,828 | 94,901 | 114,917 | 107,826 | 111,137 | 105,465 | 105,030 | 120,030 | 105,689 | 109,825 | 105,896 | 118,105 | 1,301,649 |

2) 内視鏡検査室

|                | 4月    | 5月    | 6月    | 7月    | 8月    | 9月    | 10月   | 11月   | 12月   | 1月    | 2月    | 3月    | 合計     |
|----------------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|--------|
| 上部消化管          | 434   | 386   | 564   | 490   | 486   | 481   | 501   | 513   | 447   | 468   | 479   | 511   | 5,760  |
| EMR            | 3     | 2     | 4     | 0     | 3     | 4     | 4     | 1     | 2     | 2     | 2     | 1     | 28     |
| ストリップバイオプシー    | 6     | 6     | 26    | 16    | 9     | 21    | 15    | 10    | 28    | 17    | 23    | 14    | 191    |
| 生検             | 179   | 149   | 224   | 193   | 210   | 195   | 197   | 202   | 211   | 198   | 174   | 222   | 2,354  |
| 食道ブジー          | 11    | 17    | 15    | 19    | 10    | 9     | 8     | 12    | 8     | 7     | 6     | 12    | 134    |
| ステント           | 0     | 0     | 0     | 1     | 0     | 0     | 0     | 0     | 0     | 0     | 0     | 0     | 1      |
| 硬化療法           | 0     | 0     | 0     | 0     | 0     | 1     | 0     | 1     | 0     | 0     | 0     | 0     | 2      |
| EVL/EIS        | 0     | 2     | 1     | 2     | 2     | 1     | 1     | 2     | 0     | 3     | 6     | 1     | 21     |
| ERCP           | 7     | 4     | 2     | 6     | 5     | 1     | 11    | 5     | 1     | 6     | 7     | 6     | 61     |
| 生検             | 1     | 0     | 0     | 1     | 1     | 0     | 0     | 1     | 0     | 0     | 0     | 0     | 4      |
| 下部消化管          | 182   | 187   | 229   | 196   | 183   | 180   | 187   | 234   | 228   | 209   | 210   | 229   | 2,454  |
| ポリペクトミー        | 0     | 0     | 0     | 0     | 0     | 0     | 0     | 0     | 0     | 0     | 0     | 0     | 0      |
| EMR            | 47    | 38    | 45    | 36    | 43    | 37    | 52    | 60    | 43    | 57    | 46    | 50    | 554    |
| ホットバイオプシー      | 9     | 10    | 4     | 9     | 7     | 10    | 11    | 11    | 11    | 13    | 4     | 12    | 111    |
| 生検             | 46    | 57    | 79    | 64    | 69    | 52    | 42    | 61    | 72    | 51    | 72    | 61    | 726    |
| 気管支鏡           | 30    | 11    | 33    | 21    | 25    | 26    | 27    | 27    | 35    | 26    | 32    | 38    | 331    |
| 細菌             | 4     | 0     | 0     | 0     | 0     | 0     | 0     | 0     | 0     | 5     | 0     | 7     | 16     |
| 細胞診            | 0     | 0     | 0     | 0     | 0     | 0     | 0     | 0     | 0     | 25    | 0     | 38    | 63     |
| 生検             | 0     | 3     | 6     | 5     | 4     | 7     | 3     | 8     | 4     | 5     | 8     | 6     | 59     |
| EUS (上部)       | 30    | 27    | 21    | 36    | 38    | 29    | 25    | 31    | 23    | 26    | 36    | 31    | 353    |
| EUS (下部)       | 1     | 4     | 4     | 1     | 1     | 11    | 3     | 0     | 1     | 1     | 9     | 0     | 36     |
| その他(APC、マーキング) | 11    | 13    | 28    | 32    | 9     | 9     | 22    | 21    | 21    | 33    | 28    | 24    | 251    |
| 合計             | 1,001 | 916   | 1,285 | 1,128 | 1,105 | 1,074 | 1,109 | 1,200 | 1,135 | 1,152 | 1,142 | 1,263 | 13,510 |
| 稼働日数           | 21    | 18    | 22    | 20    | 22    | 20    | 20    | 20    | 19    | 19    | 19    | 22    | 242    |
| 1日平均           | 47.7  | 50.89 | 58.41 | 56.40 | 50.23 | 53.70 | 55.45 | 60.00 | 59.74 | 60.63 | 60.11 | 57.41 | 55.83  |

## 9 放射線診断部業務統計

### 1) X線検査

| 区 分               |       | 平成16年度<br>総 件 数 |         |        |         |        |         |         |         |         |         |         |         |         |       |
|-------------------|-------|-----------------|---------|--------|---------|--------|---------|---------|---------|---------|---------|---------|---------|---------|-------|
|                   |       |                 | 4 月     | 5 月    | 6 月     | 7 月    | 8 月     | 9 月     | 10月     | 11月     | 12月     | 1 月     | 2 月     | 3 月     |       |
| 透 視               | 総 数   | 3,980           | 343     | 286    | 357     | 339    | 346     | 316     | 312     | 343     | 331     | 314     | 336     | 357     |       |
|                   | 呼 吸 器 | 76              | 9       | 4      | 3       | 9      | 2       | 4       | 7       | 6       | 7       | 12      | 4       | 9       |       |
|                   | 消 化 器 | 2,269           | 222     | 156    | 208     | 193    | 187     | 188     | 180     | 194     | 186     | 177     | 181     | 197     |       |
|                   | そ の 他 | 1,635           | 112     | 126    | 146     | 137    | 157     | 124     | 125     | 143     | 138     | 125     | 151     | 151     |       |
| X 線<br>直 接<br>撮 影 | 部 位 別 | 総 数             | 58,137  | 4,793  | 4,433   | 5,062  | 5,032   | 5,064   | 4,723   | 4,537   | 4,935   | 4,839   | 4,867   | 4,802   | 5,050 |
|                   |       | 頭 部             | 5,935   | 525    | 449     | 502    | 518     | 509     | 527     | 368     | 541     | 488     | 472     | 473     | 563   |
|                   |       | 脊 柱             | 231     | 18     | 14      | 18     | 15      | 13      | 19      | 26      | 22      | 20      | 18      | 17      | 31    |
|                   |       | 四 肢             | 1,129   | 67     | 74      | 69     | 61      | 63      | 64      | 113     | 150     | 100     | 121     | 112     | 135   |
|                   |       | 胸 部             | 37,858  | 3,113  | 2,968   | 3,313  | 3,271   | 3,264   | 3,063   | 2,985   | 3,087   | 3,111   | 3,165   | 3,122   | 3,396 |
|                   |       | 消 化 器           | 2,269   | 222    | 156     | 208    | 193     | 187     | 188     | 180     | 194     | 186     | 177     | 181     | 197   |
|                   | 方 法 別 | 腹部・泌尿生殖器        | 10,715  | 848    | 772     | 952    | 974     | 1,028   | 862     | 865     | 941     | 934     | 914     | 897     | 728   |
|                   |       | 総 数             | 58,137  | 4,793  | 4,433   | 5,062  | 5,032   | 5,064   | 4,723   | 4,537   | 4,935   | 4,839   | 4,867   | 4,802   | 5,050 |
|                   |       | 単 純 撮 影         | 51,646  | 4,209  | 3,964   | 4,509  | 4,474   | 4,524   | 4,170   | 4,086   | 4,366   | 4,305   | 4,357   | 4,261   | 4,421 |
|                   |       | 断 層 撮 影         | 2       | 0      | 0       | 2      | 0       | 0       | 0       | 0       | 0       | 0       | 0       | 0       | 0     |
|                   |       | 造 影 撮 影         | 2,629   | 246    | 182     | 244    | 229     | 223     | 217     | 199     | 222     | 214     | 192     | 222     | 239   |
|                   |       | 血 管 造 影         | 773     | 60     | 55      | 67     | 61      | 68      | 61      | 68      | 55      | 62      | 71      | 73      | 72    |
|                   |       | 特 殊 検 査         | 11      | 1      | 0       | 1      | 3       | 1       | 0       | 3       | 0       | 1       | 1       | 0       | 0     |
|                   |       | 歯 科 撮 影         | 2,963   | 272    | 229     | 236    | 259     | 237     | 264     | 174     | 277     | 248     | 230     | 232     | 305   |
|                   |       | そ の 他           | 113     | 5      | 3       | 3      | 6       | 11      | 11      | 7       | 15      | 9       | 16      | 14      | 13    |
| 間接撮影              |       |                 |         |        |         |        |         |         |         |         |         |         |         |         |       |
| C T 検 査           | 部 位 別 | 総 数             | 13,909  | 1,089  | 1,041   | 1,180  | 1,163   | 1,158   | 1,159   | 1,117   | 1,144   | 1,143   | 1,202   | 1,179   | 1,334 |
|                   |       | 頭 部             | 1,732   | 142    | 121     | 119    | 171     | 156     | 152     | 115     | 121     | 122     | 164     | 170     | 179   |
|                   |       | 軀 幹             | 12,136  | 946    | 920     | 1,061  | 992     | 1,001   | 1,006   | 996     | 1,020   | 1,017   | 1,032   | 1,001   | 1,144 |
|                   |       | 四 肢             | 41      | 1      | 0       | 0      | 0       | 1       | 1       | 6       | 3       | 4       | 6       | 8       | 11    |
|                   | 方 法 別 | 総 数             | 13,909  | 1,089  | 1,041   | 1,180  | 1,163   | 1,158   | 1,159   | 1,117   | 1,144   | 1,143   | 1,202   | 1,179   | 1,334 |
|                   |       | 単 純             | 1,645   | 129    | 131     | 152    | 143     | 142     | 121     | 127     | 126     | 146     | 146     | 125     | 157   |
|                   |       | 造 影             | 12,264  | 960    | 910     | 1,028  | 1,020   | 1,016   | 1,038   | 990     | 1,018   | 997     | 1,056   | 1,054   | 1,177 |
| X線照射回数            |       | 1,274,877       | 100,742 | 92,441 | 109,185 | 98,906 | 103,778 | 105,029 | 101,527 | 107,610 | 107,914 | 109,649 | 112,460 | 125,637 |       |

## ２）ＭＲ検査

| 区 分  |     |       | 平成16年度<br>総 件 数 |           |         |         |         |         |         |         |         |         |         |         |         |
|------|-----|-------|-----------------|-----------|---------|---------|---------|---------|---------|---------|---------|---------|---------|---------|---------|
|      |     |       |                 | 4月        | 5月      | 6月      | 7月      | 8月      | 9月      | 10月     | 11月     | 12月     | 1月      | 2月      | 3月      |
| MR検査 | 部位別 | 総 数   | 3,635           | 300       | 260     | 332     | 302     | 326     | 282     | 298     | 321     | 286     | 304     | 295     | 329     |
|      |     | 頭 部   | 1,894           | 159       | 135     | 191     | 149     | 185     | 156     | 152     | 171     | 144     | 149     | 146     | 157     |
|      |     | 軀 幹   | 1,613           | 135       | 118     | 134     | 143     | 135     | 119     | 128     | 134     | 132     | 143     | 139     | 153     |
|      |     | 四 肢   | 128             | 6         | 7       | 7       | 10      | 6       | 7       | 18      | 16      | 10      | 12      | 10      | 19      |
|      | 方法別 | 総 数   | 3,635           | 300       | 260     | 332     | 302     | 326     | 282     | 298     | 321     | 286     | 304     | 295     | 329     |
|      |     | 単 純   | 736             | 62        | 49      | 69      | 68      | 70      | 53      | 58      | 61      | 58      | 56      | 63      | 69      |
|      |     | 造 影   | 2,899           | 238       | 211     | 263     | 234     | 256     | 229     | 240     | 260     | 228     | 248     | 232     | 260     |
|      |     | スライス数 |                 | 1,616,562 | 129,097 | 117,511 | 140,404 | 127,208 | 134,282 | 131,543 | 129,593 | 137,060 | 134,504 | 138,693 | 140,469 |

## ３）超音波検査

|         | 平成16年度<br>総 件 数 | 4 月 | 5 月 | 6 月 | 7 月 | 8 月 | 9 月 | 10月 | 11月 | 12月 | 1 月 | 2 月 | 3 月 |
|---------|-----------------|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|
| 超音波検査件数 | 4,480           | 314 | 287 | 397 | 370 | 413 | 391 | 359 | 372 | 360 | 406 | 373 | 438 |

## ４）ＲＩ検査件数

| 項 目            | 4 月   | 5 月 | 6 月 | 7 月 | 8 月 | 9 月 | 10月 | 11月 | 12月 | 1 月 | 2 月 | 3 月 | 総数    |
|----------------|-------|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-------|
| 体外計測<br>シンチグラム | 甲 状 腺 | 3   | 1   | 1   | 1   | 1   | 0   | 1   | 1   | 2   | 2   | 0   | 14    |
|                | 肺     | 1   | 0   | 1   | 1   | 0   | 1   | 0   | 0   | 1   | 0   | 0   | 5     |
|                | 肝 ・ 脾 | 0   | 2   | 0   | 0   | 1   | 0   | 1   | 0   | 0   | 0   | 0   | 4     |
|                | 骨     | 258 | 222 | 260 | 244 | 266 | 234 | 253 | 242 | 234 | 230 | 247 | 2,975 |
|                | 腫 瘍   | 22  | 15  | 21  | 20  | 19  | 24  | 11  | 11  | 13  | 21  | 11  | 205   |
|                | E C T | 27  | 18  | 22  | 20  | 20  | 25  | 13  | 15  | 18  | 24  | 13  | 235   |
|                | 腎 動 態 | 2   | 0   | 2   | 1   | 0   | 0   | 1   | 1   | 0   | 0   | 0   | 7     |
|                | そ の 他 | 28  | 35  | 32  | 43  | 47  | 35  | 25  | 42  | 40  | 35  | 43  | 449   |
| 計              |       | 341 | 293 | 339 | 330 | 354 | 319 | 304 | 313 | 306 | 313 | 316 | 3,894 |

## ５）放射線治療件数

| 項 目           | 4 月          | 5 月   | 6 月   | 7 月   | 8 月   | 9 月   | 10月   | 11月   | 12月   | 1 月   | 2 月   | 3 月   | 総計     |
|---------------|--------------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|--------|
| 外 照 射         | 脳            | 262   | 215   | 182   | 234   | 282   | 217   | 268   | 133   | 188   | 177   | 206   | 2,555  |
|               | 頭 頸 部        | 1,493 | 1,120 | 1,041 | 1,111 | 1,042 | 1,110 | 1,296 | 1,282 | 1,603 | 1,655 | 1,676 | 16,027 |
|               | 胸 部          | 517   | 458   | 497   | 545   | 536   | 499   | 531   | 508   | 346   | 455   | 511   | 5,922  |
|               | 乳 房          | 861   | 713   | 148   | 953   | 889   | 768   | 838   | 995   | 1,181 | 1,041 | 1,149 | 10,662 |
|               | 骨 盤          | 361   | 427   | 622   | 602   | 590   | 558   | 606   | 470   | 447   | 432   | 517   | 6,129  |
|               | 腹 部          | 137   | 231   | 122   | 103   | 81    | 79    | 94    | 117   | 163   | 163   | 128   | 1,517  |
|               | 脊 椎          | 102   | 194   | 205   | 182   | 311   | 223   | 160   | 145   | 146   | 86    | 210   | 2,457  |
|               | 四 肢          | 37    | 16    | 68    | 96    | 52    | 14    | 48    | 58    | 47    | 2     | 11    | 471    |
|               | 小 計          | 3,770 | 3,374 | 2,885 | 3,826 | 3,783 | 3,468 | 3,841 | 3,708 | 4,121 | 4,011 | 4,408 | 45,740 |
| 全 身 照 射       |              | 0     | 4     | 0     | 6     | 2     | 0     | 0     | 4     | 1     | 0     | 0     | 21     |
| 術 中 照 射       |              | 0     | 0     | 1     | 0     | 0     | 0     | 0     | 1     | 1     | 0     | 0     | 5      |
| 定 位 照 射       |              | 18    | 14    | 9     | 17    | 20    | 28    | 21    | 7     | 5     | 10    | 11    | 168    |
| 線源照射          | 腔内組織内照射(Ir)  | 10    | 3     | 5     | 16    | 7     | 9     | 8     | 25    | 11    | 5     | 13    | 117    |
|               | 組織内照射(Cs.Au) | 1     | 1     | 1     | 0     | 0     | 0     | 1     | 2     | 1     | 1     | 1     | 9      |
|               | 非密封RI照射      | 0     | 0     | 1     | 2     | 2     | 0     | 1     | 1     | 0     | 1     | 1     | 9      |
|               | 小 計          | 11    | 4     | 7     | 18    | 9     | 9     | 10    | 28    | 12    | 7     | 15    | 135    |
| 治 療 計 画 ( 人 ) |              | 102   | 83    | 93    | 104   | 83    | 92    | 75    | 94    | 81    | 72    | 70    | 1,027  |
| 温 熱 療 法       |              | 0     | 0     | 0     | 0     | 0     | 0     | 0     | 0     | 0     | 0     | 0     | 0      |
| 照 準 写 真 撮 影   |              | 191   | 181   | 186   | 210   | 203   | 179   | 187   | 192   | 177   | 201   | 197   | 2,327  |
| 内 視 鏡 検 査     |              | 48    | 49    | 63    | 88    | 63    | 74    | 93    | 66    | 92    | 83    | 70    | 885    |
| 治療患者フォローアップ   |              | 239   | 201   | 206   | 216   | 138   | 232   | 207   | 197   | 224   | 229   | 203   | 2,565  |
| 総 計           |              | 4,379 | 3,910 | 3,450 | 4,485 | 4,301 | 4,082 | 4,434 | 4,297 | 4,714 | 4,613 | 4,974 | 52,873 |

## 6) 放射線診断看護師介助件数

平成16年4月～平成17年3月

| 実働日数                              | 4月    | 5月    | 6月    | 7月    | 8月    | 9月    | 10月   | 11月   | 12月   | 1月    | 2月    | 3月    | 合計     |
|-----------------------------------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|--------|
| 検査項目                              | 21    | 18    | 22    | 21    | 22    | 20    | 20    | 20    | 19    | 19    | 20    | 22    | 244    |
| CAG.VAG (総頸動脈、椎骨動脈造影)             | 1     | 2     | 1     | 0     | 0     | 1     | 1     | 0     | 1     | 1     | 0     | 0     | 8      |
| BAG (気管支動脈造影)                     | 1     | 0     | 0     | 0     | 1     | 1     | 3     | 0     | 0     | 1     | 0     | 1     | 8      |
| BAI (気管支動脈注射)                     | 1     | 0     | 0     | 0     | 0     | 1     | 2     | 0     | 0     | 1     | 1     | 0     | 6      |
| 腹部骨盤AG (腹部骨盤動脈造影)                 | 24    | 37    | 35    | 29    | 40    | 39    | 27    | 32    | 35    | 35    | 32    | 32    | 397    |
| TAE, TAI (経カテーテル動脈塞栓術、経カテーテル動脈注射) | 13    | 17    | 24    | 15    | 20    | 20    | 14    | 16    | 13    | 12    | 15    | 12    | 191    |
| PAG (肺血管造影)                       | 0     | 0     | 0     | 0     | 0     | 0     | 0     | 0     | 0     | 0     | 1     | 0     | 1      |
| その他AG (動脈造影)                      | 0     | 1     | 0     | 0     | 1     | 0     | 1     | 0     | 2     | 2     | 2     | 2     | 11     |
| IVDSA (経静脈性動脈造影)                  | 0     | 0     | 0     | 0     | 0     | 0     | 0     | 0     | 0     | 0     | 0     | 0     | 0      |
| 静脈造影                              | 0     | 0     | 0     | 0     | 0     | 0     | 0     | 1     | 1     | 0     | 1     | 1     | 4      |
| その他血管に対する処置 (リザーバー埋め込み等)          | 1     | 4     | 6     | 2     | 2     | 2     | 4     | 1     | 3     | 2     | 2     | 0     | 29     |
| PTCD (経皮経肝胆管造影ドレナージ)              | 23    | 18    | 28    | 17    | 18    | 10    | 14    | 8     | 12    | 18    | 13    | 13    | 192    |
| 新規PTCD造設                          | 8     | 5     | 9     | 2     | 4     | 4     | 3     | 4     | 5     | 6     | 7     | 2     | 59     |
| 超音波ガイド下処置                         | 74    | 77    | 101   | 79    | 102   | 75    | 91    | 98    | 70    | 109   | 92    | 101   | 1,069  |
| 生検                                | 46    | 43    | 65    | 62    | 77    | 61    | 65    | 69    | 57    | 88    | 81    | 90    | 804    |
| 穿刺、ドレナージ、IVH挿入等                   | 1     | 5     | 14    | 4     | 3     | 1     | 8     | 4     | 5     | 3     | 6     | 3     | 57     |
| PEIT (経皮エタノール注入)                  | 27    | 28    | 24    | 13    | 22    | 12    | 18    | 25    | 8     | 19    | 5     | 8     | 209    |
| AP (順行性腎盂造影)                      | 8     | 6     | 11    | 12    | 12    | 14    | 12    | 15    | 14    | 11    | 11    | 15    | 141    |
| 新規腎瘻造設                            | 3     | 1     | 3     | 4     | 0     | 1     | 3     | 1     | 2     | 0     | 0     | 3     | 21     |
| RP (逆行性腎盂造影)                      | 7     | 5     | 8     | 7     | 11    | 5     | 8     | 10    | 5     | 10    | 10    | 7     | 93     |
| PCG, UG (膀胱尿道造影)                  | 4     | 2     | 5     | 6     | 5     | 2     | 2     | 2     | 3     | 3     | 7     | 7     | 48     |
| 乳管造影                              | 0     | 0     | 0     | 0     | 8     | 0     | 0     | 0     | 0     | 0     | 0     | 0     | 8      |
| 胃透視                               | 57    | 51    | 73    | 69    | 62    | 73    | 67    | 77    | 69    | 49    | 52    | 59    | 758    |
| 注腸透視                              | 61    | 43    | 52    | 44    | 36    | 47    | 34    | 53    | 52    | 51    | 45    | 44    | 562    |
| DIP (点滴静注腎盂造影)                    | 12    | 12    | 15    | 14    | 12    | 12    | 13    | 18    | 12    | 4     | 11    | 14    | 149    |
| CT (コンピューター断層撮影)                  | 956   | 934   | 1042  | 1027  | 1022  | 1056  | 1011  | 1067  | 1040  | 1075  | 1073  | 1206  | 12,509 |
| MR (磁気共鳴撮影)                       | 268   | 242   | 293   | 270   | 292   | 264   | 279   | 281   | 266   | 279   | 278   | 311   | 3,323  |
| IVHリザーバー埋め込み                      | 8     | 8     | 12    | 18    | 8     | 15    | 11    | 7     | 17    | 16    | 24    | 30    | 174    |
| その他                               | 31    | 29    | 27    | 30    | 45    | 31    | 30    | 32    | 39    | 32    | 27    | 29    | 382    |
| 合計                                | 1,536 | 1,471 | 1,709 | 1,624 | 1,677 | 1,647 | 1,608 | 1,702 | 1,641 | 1,698 | 1,681 | 1,872 | 19,866 |
| 一日平均                              | 73.1  | 81.7  | 77.7  | 77.3  | 76.2  | 82.4  | 80.4  | 85.1  | 86.4  | 89.4  | 84.1  | 85.1  | 81.4   |

 内の検査数は上記してある検査項目内の件数に含まれる

## 編集後記

最初にお詫びしなければならない。本誌の発刊が例年より大幅に遅れてしまった。集まった原稿を少し校正すれば自動的に年報が出来上がるという考えが甘かったと反省している。ただ、少し言い訳をさせていただくと、今年は原稿の集まりが悪かった。当方の依頼のしかたに不備があったかもしれないが、一つには当センターの職員が多忙になっていることが挙げられよう。

まず、外来患者数は昭和50年の開院以来30年間ひたすら増加し続けている。また、平成9年度まではずっと30日以上だった平均在院日数は平成16年度には15.9日まで短縮、逆に病床利用率は400床に増床となった平成10年度の84.4%から、平成16年度には90.3%に増加した。患者数の増加に見合ったスタッフの増員はなく、施設も老朽化し、手術室や放射線治療部などの基幹部門はフル稼働してもなお需要に追いつかない。さらに、医療事故防止、患者の知る権利の尊重、個人情報保護などに伴う日常業務の煩雑化が多忙に拍車をかけ、ついには、長時間の残業者の中から体調を崩す者が出始めている。こういう状況下にあって年報の原稿が後回しにされてもやむをえないのかもしれない。

それでも何とか年度内に発刊できる見通しがたってホッとしている。多忙な中で原稿を作成し編集にご協力いただいた関係の方々に深謝する。

なお、平成17年11月19日に当センター30周年記念式典が開催され、その際に記念誌が発刊されたので、30周年を祝賀する記事は本誌では割愛した。

(米田修一 記)

## 年 報 編 集 委 員

|     |         |          |
|-----|---------|----------|
| 委員長 | 米 田 修 一 | 呼吸器科長兼部長 |
| 委 員 | 黒 住 昌 史 | 病理科長兼部長  |
| 委 員 | 東 四 雄   | 泌尿器科長兼部長 |
| 委 員 | 富 田 幹 夫 | 研究室主幹    |
| 委 員 | 松 島 芳 文 | 研究室専門研究員 |
| 委 員 | 小長谷 政 利 | 管理部長     |
| 委 員 | 藤 波 孝 良 | 業務部長     |
| 委 員 | 成 田 俊 行 | 図書館主査    |
| 編集員 | 田 川 英 昭 | 医事経営担当   |